

心を耕す積極的な生徒指導を
推進する特別活動の取組事例

平成28年3月
広島県教育委員会

はじめに

近年、核家族化や都市化の進行といった社会の変化の影響や、家庭や地域の教育力の低下、規範意識や人間関係の希薄化などを背景として、子供たちをめぐる様々な課題が生じています。そのような中、望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養うことを目的とした特別活動のより一層の充実が求められています。

今年度、生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校の実施要項に、各教科や特別活動等において、体験活動を充実させることで、社会性をはぐくみ、児童生徒間の絆を強め、望ましい集団を育成することを明記し、指導にあたっては、ねらいを明確にし、他の教育活動との関連を十分に図り、組織的、計画的に実施すると決めました。この実施要項を踏まえ、各校において、児童生徒自らが課題を発見、解決するといった主体的な活動を推進するとともに社会奉仕活動や異年齢交流等を通じて児童生徒の自己肯定感を育成する取組を実施しました。

この度、各校での取組を「心を耕す積極的な生徒指導を推進する特別活動の取組事例」としてまとめました。取組事例をまとめるにあたり、学習指導要領の特別活動にある、学級活動、児童会・生徒会活動及び学校行事の内容でカテゴリーに分け、掲載いたしました。

本取組事例を参考にいただき、今後の特別活動のより一層の充実に役立つことを願っています。

平成28年3月

広島県教育委員会

目 次

学級活動

○学級や学校の生活づくり	頁
広島市立向洋新町小学校	2
広島市立落合東小学校	4
広島市立八幡東小学校	6
広島市立上温品小学校	8
広島市立上安小学校	10
呉市立本通小学校	12
廿日市市立平良小学校	14
三原市立田野浦小学校	16
三原市立沼田東小学校	18
尾道市立因北小学校	20
三次市立十日市小学校	22
広島市立五日市中学校	24
安芸高田市立甲田中学校	26

○適応と成長及び健康安全	
広島市立真亀小学校	29
大竹市立大竹小学校	31
尾道市立因島南小学校	33
庄原市立庄原小学校	35
竹原市立竹原中学校	36

児童会・生徒会活動

○児童会・生徒会の計画や運営	
広島市立福木小学校	39
広島市立草津小学校	41
広島市立観音小学校	43
広島市立八木小学校	45
東広島市立寺西小学校	47
東広島市立高美が丘小学校	49
東広島市立郷田小学校	51
廿日市市立大野東小学校	53
尾道市立久保小学校	55
府中市立府中小学校	57
広島市立三和中学校	59
広島市立戸坂中学校	61
東広島市立高美が丘中学校	63
尾道市立久保中学校	65
尾道市立高西中学校	67
三次市立八次中学校	69
県立安西高等学校	71

○異年齢集団による交流	頁
広島市立吉島東小学校	74
広島市立吉島小学校	77
広島市立温品小学校	79
広島市立天満小学校	81
広島市立亀崎小学校	83
広島市立三入小学校	85
広島市立五日市中央小学校	87
広島市立五日市小学校	89
広島市立竹屋小学校	91
広島市立字品小学校	93
広島市立井口台小学校	95
広島市立梅林小学校	97
呉市立仁方小学校	99
竹原市立竹原西小学校	101
廿日市市立廿日市小学校	103
廿日市市立友和小学校	105
府中町立府中小学校	107
熊野町立熊野第三小学校	109
安芸高田市立吉田小学校	111
安芸高田市立小田東小学校	113
尾道市立栗原小学校	115
尾道市立吉和小学校	117
広島市立大州中学校	119
福山市立培遠中学校	120
東広島市立中央中学校	122
廿日市市立阿品台中学校	124
廿日市市立佐伯中学校	126

○ボランティア活動などの社会参加	
呉市立阿賀小学校	129
呉市立和庄小学校	130
広島市立可部中学校	132
広島市立亀崎中学校	134
福山市立神辺中学校	136
呉市立仁方中学校	138
三次市立十日市中学校	140
県立黒瀬高等学校	142
県立神辺高等学校	144

学校行事

○文化的行事	
広島市立中山小学校	147
福山市立東中学校	149
呉市立和庄中学校	151
呉市立昭和中学校	153
大竹市立大竹中学校	155
廿日市市立廿日市中学校	157
府中町立府中中学校	159
三原市立第二中学校	161
尾道市立栗原中学校	162
尾道市立吉和中学校	164
庄原市立庄原中学校	165
県立沼南高等学校	167
県立河内高等学校	169

○健康安全・体育的行事	頁
広島市立庚午小学校	172
北広島町立壬生小学校	174
北広島町立八重小学校	176
尾道市立栗原北小学校	178
広島市立吉島中学校	180
広島市立福木中学校	182
広島市立庚午中学校	184
広島市立観音中学校	186
広島市立亀山中学校	188
広島市立三入中学校	189
広島市立五日市南中学校	190
福山市立新市中央中学校	192
福山市立松永中学校	194
福山市立誠之中学校	196
呉市立阿賀中学校	198
廿日市市立野坂中学校	200
廿日市市立廿日市中学校 (再掲)	
尾道市立栗原中学校 (再掲)	
府中市立府中中学校	206
県立沼南高等学校 (再掲)	
県立府中東高等学校	210

○旅行・集団宿泊の行事	
広島市立己斐小学校	213
広島市立亀山小学校	215
府中町立府中中央小学校	216
安芸太田町立加計小学校	217
尾道市立高須小学校	219
三次市立八次小学校	221
広島市立温品中学校	223
広島市立己斐中学校	225
県立松永高等学校	227

○勤労生産・奉仕の行事	
広島市立可部南小学校	230
広島市立江波小学校	232
広島市立尾長小学校	234
廿日市市立阿品台西小学校	236
三原市立本郷小学校	238
広島市立落合中学校	240
広島市立江波中学校	242
府中町立府中緑ヶ丘中学校	244
安芸高田市立吉田中学校	245
三原市立本郷中学校	247
県立福山商業高等学校	249

学級活動

学級や学校の生活づくり

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立向洋新町小学校	校長氏名	藤川 太恵子	生徒指導主事氏名	宝沢 均
取組事例名 『学校に来にくい児童を野外活動に参加させる。』					
取組のねらい 『キーワード 野活にいこう』					
<p>不登校ではないが、起立性調節障害、心因性の胃腸障害のため（それぞれ 1 人ずつ。医師からの診断あり。）学校に来にくい児童を野外活動に参加させるためのよい機会ととらえて取り組んだ。この取組により、児童は自信をもって行動できるようになる。</p>					
取組の具体的内容 『キーワード 安心できる野外活動』					
<p>家庭訪問し、準備物や活動内容など保護者と連絡を密に取る。</p> <p>調子が悪くて休んでいるときにも、できるだけ家庭訪問し、活動内容を知らせるなどして本人を安心させるようにする。（そのとき、学校に無理やり誘うことはしなかった。）</p> <p>体の調子がよく、学校に来ることができたときも、本人が立てたスケジュールで準備を整える。学校が安心できる場所だと印象づける。</p> <p>野外活動当日の動きを想定して、臨機応変に対応できるようにし、まわりの子どもにも声かけをさせ、活動に参加させた。</p>					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 病気を跳ね返す声かけ』					
<p>胃腸炎の児童は、現在、毎日登校することができるようになっている。</p> <p>取組当時は、自分の教室に入ると何か言われるのではないかという恐れがあり、それをだんだん慣らしていくためにふれあいひろばを利用する。そこで野外活動の楽しさを伝える。</p> <p>起立性障害をもつ児童は、朝起きるのが困難であるため、時々、調子の良いときに学校に誘った。登校した日は、教室で過ごしたが、とても疲れている様子だった。それでも、友達の声かけにより、体はしんどいがそれを上回るやる気が湧いたようであった。</p> <p>その他、教育委員会生徒指導課に相談し SSW の申請を行った。</p>					
取組の成果（効果） 『キーワード 野活への参加、成功体験』					
<p>【野活での成功体験の後】</p> <p>胃腸炎の児童は安心感を増し、本当に症状が悪いとき以外は、学校に休まず来るようになった。</p> <p>勉強も、少しずつ始めている。また、時々自分のクラスで友達と話しをしたり、給食を一緒に食べることが出来るようになってきたりしてきている。</p> <p>起立性障害の子どもは、SSW とも連携し、朝が辛いようなら、昼前に迎えに行つて給食を一緒に食べて帰れるよう取り組んでいる。週 1 回は学校に来ることができるようになったのでこの回数を増やすように話をしている。</p> <p>クラスの子どもたちも、友達のための行動により、よい結果がでたので満足した様子であった。</p>					

今後の展開『キーワード 今後へ』

やればできる。という体験は自信につながったようである。

体調が悪くても頑張れば何とかできるという体験が得られた。今後、行事などに参加するときもこのような形でアドバイスしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 魔法の薬 生徒指導の3機能』

問題を抱えた児童に、「話を傾聴する。」「共感的な人間関係が作れるように仕組む。」「自己決定の場を与える。」という場面を増やしていけば、自己有用感を持てるようになる。その結果はやる気となってよい循環を生む。

特別活動に限らず、活動が本当に楽しいと思えれば、困難（今回は病気）を乗り越える原動力となると思われる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合東小学校	校長氏名	宅見 政子	生徒指導主事氏名	樋山 和也
-----	------------	------	-------	----------	-------

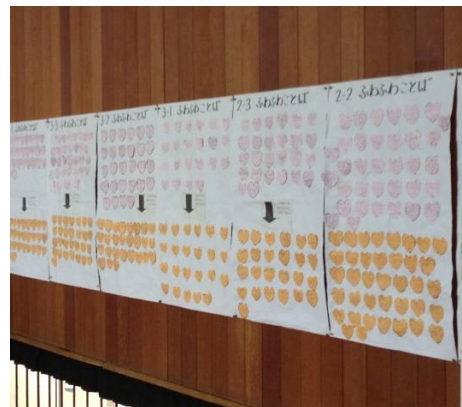
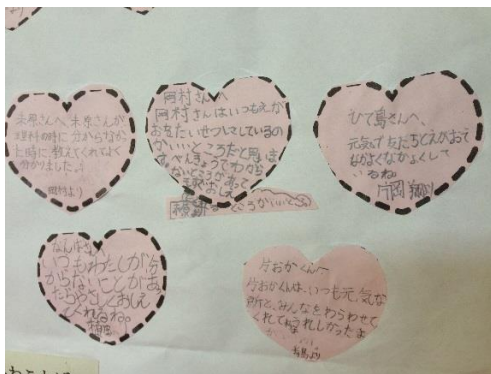
取組事例名 『平和集会』

取組のねらい『キーワード 自分たちができること』

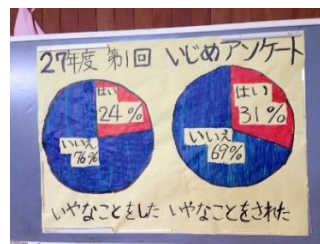
8月6日の原爆投下についての正しい認識をもつとともに、平和な世の中をつくるために自分たちができることを考える。

取組の具体的内容『キーワード ふわふわキャンペーンといじめアンケート』

- ・ 6月10日代表委員会
- ・ 6月10日～19日「ふわふわキャンペーン」友達や自分のよいところをハートの用紙に書き込み、学級ごとに模造紙に貼り廊下等に掲示する。



- ・ 6月22日～26日「いじめアンケート」無記名。内容は、いやなことを言われたりされたりしたこと、いやなことを言ったりしたこと、落合東小学校をどのような学校にしたいかの3点。学級担任が目を通した後、児童会担当でまとめ、それを平和集会の中で発表する。
- ・ 7月15日の平和集会当日までに、「けんかをやめて仲良くしよう」など、各クラスの平和の誓いを作り当日全校の前で発表する。平和な世の中を作るために自分たちができることを、いじめ撲滅の視点も入れながら作っていく。また、「ふわふわキャンペーン」を通して温かい人間関係をつくる雰囲気を作る。



- ・ 7月15日平和集会当日。「一人ひとりを大切にする気持ちを持つ。みんなで命の大切さや平和について考える。」のねらいで実施する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 温かい人間関係を育む』

- ・ 全体的には学校が落ち着いてきてはいるけれど、トラブルがなくなっていない。
- ・ 「いじめアンケート」を児童会で2回、生活部で1～2回行っている。これで児童の実態を十分に把握できるかどうかは課題が残る。
- ・ 「ふわふわキャンペーン」では、友達や自分の良いところを書いた用紙のいくつかをお昼の放送で児童会運営委員会が紹介した。廊下への掲示も含め、学校内に温かい人間関係を育む素地をつくった。
- ・ 「いじめアンケート」や「平和の誓い」作りを通して、学級内で温かい人間関係を育む大切さなどについて話し合う。

取組の成果（効果）『キーワード 落ち着いた学校の雰囲気』

- ・ 児童会のこの取組は数年続いており、本校に定着してきている。毎年創意工夫は加えながらも大筋はこの流れである。児童も先が見え安心して取り組んでいる。
- ・ 学校全体が落ち着いた雰囲気になってきている一因と考えられる。

今後の展開『キーワード 自分たちで決めたキャンペーン』

- ・ 児童会運営委員を中心に代表委員会で、「あいさつキャンペーン」「時間を守ろうキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」を決めて実施していった。自主的・実践的な取組を行う中で児童が成長していくことが重要と考えている。

他校へのアドバイス『キーワード 児童へのフィードバック』

- ・ 「ふわふわキャンペーン」では、掲示等でフィードバックすることにより、全校に温かい雰囲気をつくることができた。
- ・ 「あいさつキャンペーン」「時間を守ろうキャンペーン」「身だしなみキャンペーン」ではお昼の放送を通して、取組内容やキャンペーンの結果など、具体的にフィードバックした。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八幡東小学校	校長氏名	河野 博一	生徒指導主事氏名	岩谷 恵美
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ふわふわ言葉を使おう』

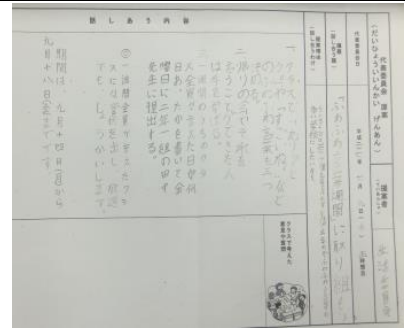
取組のねらい 『キーワードふわふわ言葉』

普段何気なく用いている言葉について考えさせ、相手が受け取って心地よい言葉（ふわふわ言葉）を進んで使い、お互いの学校生活を楽しいものにしていこうとする態度を育てる。

取組の具体的内容 『キーワードふわふわ言葉週間』

まず、各クラスの代表が集まる「代表委員会」で、生活委員会からの提案という形で話し合いの場を設定した。そこで決まったことは、以下の通りである。

- ・ 各クラスでどんな言葉かけが嬉しいか話し合う。
- ・ 毎月 1 週間「ふわふわ言葉週間」を設ける。
- ・ クラスで決めた「ふわふわ言葉」を全員が言えた日を記録する。
- ・ 週間全部○になったクラスは、給食放送で表彰し、賞状も渡す。



取組の課題・創意工夫 『キーワードふわふわ言葉週間』

児童朝会で、委員会の児童が寸劇を行い、言われると嫌な気持ちになる言葉を減らし、嬉しくなる言葉（ふわふわ言葉）を増やすよう呼びかけた。



また、後期に毎月行った「ふわふわ言葉週間」には、各クラスにチェックカードを配布し、全部○になったクラスは、給食放送で表彰したり、賞状を渡したりして意欲付けを図った。

各クラスともふわふわ言葉を掲示するなどして、評価するとともに翌月の「ふわふわ言葉週間」につなげるように工夫して取り組んでいた。

**ふわふわ言葉週間
年 組**

- クラスで決めたふわふわ言葉を1つ以上使うことができた、手を挙げます。
- クラス全員が手を挙げた、◎をします。
- 一週間のうち、クラス全員が言えた日が同日だったかを書きます。
- 金曜日に先生に提出してください。
- がんばったクラスには賞状を渡します。

第1回ふわふわ言葉週間

9/14月	9/15火	9/16水	9/17木	9/18金	○の歌

第2回ふわふわ言葉週間

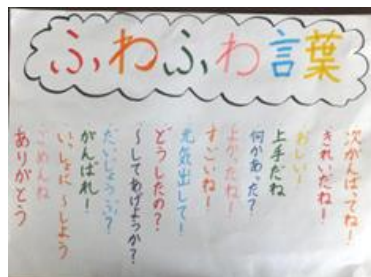
10/12月	10/13火	10/14水	10/15木	10/16金	○の歌

第3回ふわふわ言葉週間

11/9月	11/10火	11/11水	11/12木	11/13金	○の歌

第4回ふわふわ言葉週間

12/7月	12/8火	12/9水	12/10木	12/11金	○の歌



取組の成果（効果）『キーワードふわふわ言葉』

- ・ あいさつもふわふわ言葉であるという認識が高まり、あいさつを自分からする児童が増えた。
- ・ 言葉遣いをあまり意識していなかった児童が、友達に言われて自分もふわふわ言葉を使っているということに気がつくことができた。
- ・ 毎月「ふわふわ言葉週間」を設定することで前回は振り返ることができたり、次回はさらにふわふわ言葉を増やせるようにがんばろうという意欲が高まったりした。
- ・ マンネリ化してしまうクラスもあり、学校全体では、取り組み方に差が出てしまった。

今後の展開『キーワードふわふわ言葉をふやそう』

- ・ 取組が進んでいるクラスを参考に、ふわふわ言葉を増やす取組を考える。

他校へのアドバイス『キーワードふわふわ言葉週間』

「ふわふわ言葉月間」より、毎月1週間取り組むことによって、前の月の良くなかったところを直すなど、毎月、ふわふわ言葉について考える時間を取ることが良かった。しかし、同じ取組では、マンネリ化してしまうのが課題である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名

広島市立上温品小学校

校長氏名

山名 朋子

生徒指導主事氏名

木村 文美

取組事例名

『花束のこぼの推奨』

取組のねらい『キーワード望ましい人間関係』

・クラスで花束のこぼを考え、意欲的に使用することで、よりよい人間関係を作るようにする。また、あいさつ運動を通して学校生活が明るくなり、望ましい人間関係が作れるように、児童の意識を高める。

取組の具体的内容『花束のこぼを増やそう』

○ 花束のこぼについて

・9月から毎日使える花束のこぼをクラスで1つ決めて使用する。また、花束のこぼが使えているかを帰りの会や「心のブレーキふり返しカード」などでふり返る場を持つ。

○ あいさつ運動について

・9月から毎週木曜日（8：00～15）に、各クラス半分に分かれて、2つの門の前に並び「おはようございます。」と相手の顔を見てあいさつをする。活動後に、反省をしたり「心のブレーキふり返しカード」などでふり返ったりする場を持つ。

取組の課題・創意工夫『活動の見える化』

○ 花束のこぼについて

・花束のこぼ画用紙に書いて各クラスで掲示（写真①）したり全クラスの花束のこぼ（写真②）を校内掲示したりすることで意識して学校生活を過ごす児童が増えた。また、企画委員会の児童が、各クラスの花束のこぼを昼の放送で流したり、定期的に「心のブレーキふり返しカード」や帰りの会などで行動をふり返る場を持たせたりすることで児童に望ましい行動ができるように意識づけることができてきている。しかし、まだ、時々花束のこぼの反対の意味を持つこぼを使用する児童が数名見られるので、道徳や日々の学校生活においてこぼのつかい方を粘り強く指導している。



(写真①)



(写真②)

○ あいさつ運動について

・あいさつリーダーを決めたり、あいさつをよびかけるポスターを作成（写真③）したりして意欲的にあいさつができるようになってきている。また、活動の様子や反省を掲示（写真④）することで次の活動への意欲づけをしている。しかし、あいさつ運動の時に遅刻をしてきたり、恥ずかしくて大きな声が出せなかったりする児童が、高学年を中心に数名いるので、「あいさつ」の意味も含め道徳の時間や学校生活において、随時指導もしている。



(写真③)



(写真④)

取組の成果（効果）『心にブレーキをかける』

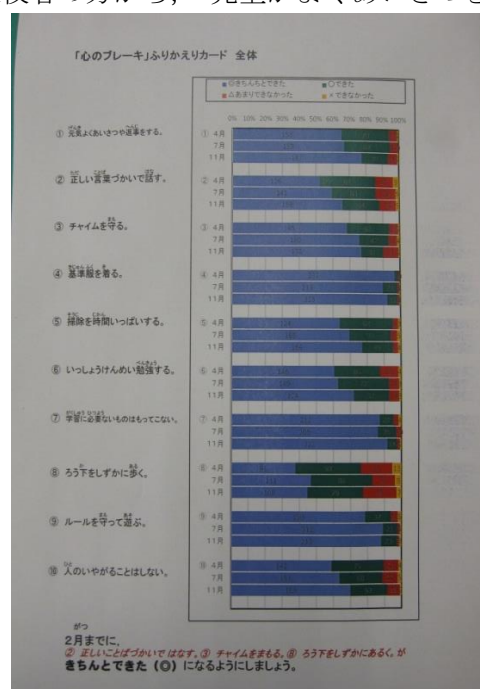
・1年間に4回、学校生活についてのふり返り「心のブレーキふり返りカード」（10項目）を実施し、クラスごとや学校全体の集計を掲示し、生活に生かせるようにすることで、「きちんとできた」と回答する児童が増加している。また、今年度は、地域の方や、来校者の方から、「児童がよくあいさつをしてくれる。」という声が学校に多く寄せられている。

○ 花束のことばについて

・「人の嫌がることをしない。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月59%→11月70%で11%向上した。

○ あいさつ運動について

・「元気よくあいさつをする。」という項目では、「きちんとできた。」と回答した児童が4月65%→11月77%で12%向上した。



今後の展開『達成率90%』

・上記の項目が「きちんとできた。」といえる児童が、90%を上回るように取組をすすめていく。

他校へのアドバイス『意識付け』

・児童を意欲的に活動させるには、計画、実行、ふり返りを意識づけることが大切だと感じている。また、日々の生活では、自分にも「心」があるように、他人にも「心」があるということを見童に伝えていくことや、「自分がされて嫌なことは人にしない。」「自分がされてうれしいことを人にしていこう。」という意識付けを図ることが望ましい人間関係の向上につながると考えている。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立上安小学校	校長氏名	山本 伸生	生徒指導主事氏名	朝日山 元
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『いじめのない学級にする取組』
-------	-----------------

取組のねらい	『支持的風土づくり』
--------	------------

各学級で、いじめ防止のための取組を1ヶ月間行い、学級に支持的風土を作る。

取組の具体的内容	『具体的なクラスの取組』
----------	--------------

- ①代表委員会で計画委員会が、趣旨や内容を提案する。
- ②各学級で取り組む。
例)「ふわふわ言葉」を増やすための取組、「ちくちく言葉」を使わない、グループ遊び、クラス遊び、帰りの会での「いいところ見つけ」など
- ③帰りの会や学活などで振り返る。
- ④担任が観察する。(子どもの様子、学級全体の様子)
- ⑤9月の終わりに各学級で取り組んだ内容と、子どもや学級の様子をまとめて計画委員に提出する。
- ⑥計画委員が、給食放送で取組や結果を知らせる。

取組の課題・創意工夫	『活動をすることで変える』
------------	---------------

- 1年1組 帰りの会で友達の「いいところ見つけ」をして、「いいところ見つけの木」にシールを貼り、学活の時間にクラス遊びをした。
- 1年2組 「ふわふわ言葉」を使って、「虹色の木」をシールでいっぱいにしてという取組をした。
- 2年生 学年全体で、いじめのない学級にするためにはどうしたらよいかを話し合い、決めたことを教室に掲示した。
- 3年1組 「全員遊び」に取り組んだ。
- 3年2組 帰りの会の「いいところ見つけ」のコーナーで、9月中に全員が「いいところ見つけ」で発表できるように取り組んだ。
- 4年1組 一日の振り返りをするとき、友達の良いところを一人一つは見つけて言えるようにすることに取り組んだ。
- 4年2組 週3回「全員遊び」をする事に取り組んだ。
- 5年1組 「全員遊び」と「いいところ見つけ」に取り組んだ。
- 5年2組 困っている人を助ける事と、「いいところ見つけ」をすることに取り組んだ。
- 6年1組 優しい言葉を使うことと、1ヶ月に1回「お楽しみ会」をすることに取り組んだ。
- 6年2組 「いいところ見つけ」と「全員遊び」に取り組んだ。

取組の成果（効果）	『信頼関係』
-----------	--------

【児童の振り返り】

- ・「いいところ見つけ」をしたことで、いいことをする人が増えた。例えば、帰りの支度の時に、水筒を進んで配ったり、掃除の時に机が倒れたら、進んで手伝ったりする人が増えた。また、クラス遊びをすることで、クラスの雰囲気良くなり、友達同士がますます仲良くなってきた。
- ・「ふわふわ言葉」が増えることで、クラスの雰囲気が良くなった。しかし、反省として、最後の頃

は、「ふわふわ言葉」を使うことが目的なのに、シールを集めることが目的になっていた。これからも、他の人からしてもらったら嬉しいことをしていきたい。

・掲示した言葉を見たり、帰りの会で振り返りをしたりすることで、一人一人がいじめをなくすように気を付けて生活できた。これからも、続けていきたい。

・全員で楽しく遊ぶことで、仲良くなることができた。これからも、全員遊びを続けて行い、もっと仲良くなりしたい。

・クラスに笑顔が増えて、みんながさらに仲良くなった。

・前よりも、友達の良さを見つけることが出来る人が増えた。これからも、小さな事でいいから、しっかり見つけていきたい。

・クラスみんなの「きずな」が深まり、いじめが少なくなった。

・クラス全体がまとまり、一人ひとりの良いところを改めて理解することができた。

・友達のことを考えて行動出来るようになり、自分の知らないことを友達に教えてもらうことが増えた。

・優しい言葉を使うことにより、クラスの雰囲気が良くなってきた。また、月に1回「お楽しみ会」を計画することで、みんなで協力したり、友達とのきずなを深めることができた。

・どんな場面でも、男女関係なく発表できるようになった。

今後の展開 『継続的に』

・今回の経験を生かして、今後も、各クラスで全員遊びや「いいところ見つけ」を継続的に行い、いじめのない学級（学校）をつくる。

他校へのアドバイス 『子どもの声から』

・児童会から提案する形をとること。

・最初は、1ヶ月間限定で行うこと。

・1ヶ月後に、各クラスの学級会で総括すること。

・給食放送で、各クラスの取組を紹介すること。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立本通小学校	校長氏名	吉貞 至誠	生徒指導主事氏名	下河原 しのぶ
-----	----------	------	-------	----------	---------

取組事例名 『なかよしサポーターを生かした全校いじめ撲滅運動』

取組のねらい『キーワード：児童主体のいじめ撲滅運動』

いじめ撲滅の意義を理解し、いじめ撲滅のためにできることを話し合ったり、取組内容を決めて活動したりしていく中で、自分達の学校は自分達の手でよくしていこうとする自主的、実践的な態度を育てる。

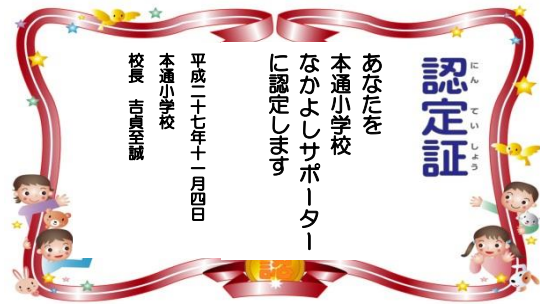
取組の具体的内容『キーワード：各学級の「なかよしサポーター」』

1 生活朝会

- ① 今月の生活目標「あったか言葉を広げよう」の紹介
- ② 「いじめ撲滅キャンペーン」についての説明
- ③ 「なかよしサポーター」の募集

2 各学級の「なかよしサポーター」認定講習（校長室）

- ① いじめの構造や「なかよしサポーター」に期待することについての話をする。
- ② 講習後に認定証を渡す。



〈なかよしサポーター認定証〉

3 「なかよしサポーター」の活動

- ① 活動内容についての話し合い及び生徒指導主事によるアドバイス
- ② 活動 あったか言葉を率先して使う
 あったか言葉を使っている人を見つけて褒める
 ちくちく言葉を使っている人を注意する
 帰りの会で学級全体で振り返り点検する
 帰りの会の後、今日の活動内容と状況を職員室に報告し、教員からアドバイスを受ける等
- ③ 教職員は、活動を見守り、報告時には適切にアドバイスし、目に見える評価（認定証にシールを貼る、職員室前の風船の絵に各学級での達成度に応じて色を塗る等）を行う。

4 生活朝会で取組の発表

取組全体の振り返りを各学級代表として、全校の前で発表させる。

5 留意点

- ① 学級担任は「なかよしサポーター」への肯定的評価と活動の価値付けをしっかりと行い、いじめ撲滅への意欲を広げられるようにする。
- ② 「なかよしサポーター」以外にも、委員会等を活用し、いじめ撲滅等のよりよい学校作りにつながる活動を奨励し、積極的に全校の前で取り上げていく。

取組の課題・創意工夫『キーワード：児童と共にPDCAサイクル』

ア 「いじめ撲滅キャンペーン」に合わせて、生活目標を「あったか言葉を広げよう」とすることで、「なかよしサポーター」の活動を、具体的に考えやすくした。（「あったか言葉を増やすこと」「ちくちく言葉を減らすこと」等）

イ 「目標→具体的な活動→日々の振り返り→報告→改善→取組の振り返り→発表→今後の目標→・・・」というPDCAサイクルを児童と共にまわすようにした。

ウ 計画の段階で、どのようなことが仕組みそうかもっと細かく吟味しておくことで、「なかよしサポーター」以外の児童にも主体的な活動の場を広げられる可能性がある。

取組の成果（効果）『キーワード：「児童の自主性」「組織的な生徒指導』』

ア 全校で取り組むことで、「あったか言葉を使おう」という気運が高まった。

イ 生活朝会の振り返りの場で「なかよしサポーター」が代表として発表したことで、自分達を感じた率直な感想も交えながら、各学級の振り返りを伝えることができた。そのことで、自分達の手で学校を良くしていこうとする意欲が全校にも広がり、「いじめ撲滅キャンペーン」が終わった後も、悩みを出せる機会として運営委員会が「あったかボックス」を設置する等の自主的な活動が続いた。

ウ 教職員の情報共有に係る意識の高まりも見られた。放課後の「なかよしサポーター」の報告を受けて、各学級のその日の様子や気になる事案について把握した生徒指導主事や管理職等が担任に声をかけることで、児童理解を深めたり、教職員同士で生徒指導上の気になる話が気軽にできるようになったりした。



〈「いじめ0」をよびかける子ども達〉

〈「あったかボックス」の紹介〉

今後の展開『キーワード：問題行動の未然防止のために児童主体の取組で積極的生徒指導を』

ア 「なかよしサポーター」の経験者と今後の希望者を交えた会議の場を設定し、児童が感じている学校の課題を吸い上げたり、学校をより良くするために何ができるかを考えさせたりする。

イ 学校の課題を教職員が把握していることはもちろん、いかに児童から引き出して問題解決に向けて児童自身がやり遂げた取組にしていくかが重要であるとする。問題行動の未然防止のためにも、児童主体になる取組を発表する場や仕掛けを考える必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード：情報交換を自校の取組に生かす』

今回の取組は、週に1回の中学校区生徒指導連絡会の情報交換の中で得たアイデアを生かして、自校で取り組んだものである。また、中学校区の小中一貫教育の中で共通して取り組んでいる「和（なごみ）キーワード」である「思いやり」を活用することで、自校だけでなく、中学校区全体で「思いやり」の育成に効果があった。中学校区で情報交換を活発に行い、成果が期待できると思うことは、自校でアレンジして積極的に取り入れていくことが大事だと感じた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立平良小学校	校長氏名	林 真由美	生徒指導主事氏名	外輪 親憲
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『見つけた みんなのいいところ ほめりんご』（第 1 学年）

取組のねらい『キーワード 相互理解』

友だちの良いところを見付けさせ、意識させることで進んでよいことや友達の為になることをする児童を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 視覚化』

この取組では、まず帰りの会で日直がその日に見つけた友達の良かったところをみんなに伝える。帰りの会の後に、日直が発表したことを教師がりんごの形をしたメモ用紙に書き、教室に掲示している木の形をした模造紙に 1 枚ずつ貼る。

1 年を通して、りんごの木が「よいことを書いたりんご」でいっぱいになるように頑張ろうと声かけをしてきた。

取組の課題・創意工夫『キーワード 模範』

この取組の課題としては、同じ子供の名前が何度も出てくることである。どの子供も自分からよいと思うことを進んで行えるようにしていきたい。また、良い行為を見ていても、どのように表現すればよいか分からない子供もいる。日ごろから教師が「〇〇くんの今の行動は良かったね。」と良い行為を価値づけしたり、事例を挙げたりすることが大切である。

取組の成果（効果）『キーワード 認め合う』

この取組を行うことで教師は、どんな行為が友達や他人の為になるかを子供たちに身近な例を挙げながら話をする事ができた。それは、子供たちも日頃目にする姿なので理解しやすい様子であった。

また、子供たちからも「先生、〇〇さんが本の整理をしていたよ。」などと友達の姿を意識し、認めている様子が見られた。その子供は友だちの良いところから学ぶことができていた。

また、あまり目立たない子供のよさをみんなに伝えることで、本人の自信にもつながっている様子が見られた。

りんごメモが沢山貼られた掲示物を見ることで、何がみんなのためになることなのかを理解し、自らが進んでよい行為ができるようになる。さらには個人及び学級がどのように成長したかを振り返ることができる。

児童が発表したりんごメモ

- ・ A ちゃんが、おちていたぞうきんをかけなおしてくれました。ありがとう。
- ・ B さんと C さんがトイレのスリッパをそろえてほめられました。
- ・ そうじでピカピカにしようの 2 ばんをとりました。
- ・ D ちゃん、きゅうしょくのかたづけをてつだってくれてありがとう。
- ・ おんがくにいくときにきちんとじゅんぴができました。
- ・ たしざんのけいさんカード、ぜんいんごうかくしました。
- ・ ようちえんとほいくえんのせんせいがしせいがいいとほめてくれました。
- ・ きゅうしょくをみんなでのこさずたべました。ごちそうさま。



今後の展開『キーワード 多様化』

事例がパターン化しているのでどんなことが他人や友達の為になる行為なのか教師から色々な良い事例を発信することが大切である。また、なぜそのことが良いのかも話していきたい。そして、子供たちが今までと違った視点、あるいは新しい事例を発見した際には、さらに評価をしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 継続』

どのように教室に掲示するか、教師がどのように日々の生活の中で声掛けをし取り上げるかによって子供たちが取り組む意欲と態度が違ってくる。そのため、継続的に行わせるためには、教師自らが子供たちの模範となるようなことを行い、認め合っていくことが大切だと考える。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立田野浦小学校	校長氏名	杉原 禎也	生徒指導主事氏名	梶本 明伸
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『レベル5のあいさつ』

取組のねらい『キーワード あいさつ三原一』

具体的なあいさつのしかたについて示し、評価することで、自分からきちんとしたあいさつができる児童を育成する。

取組の具体的内容『キーワード みんなで取り組む』

- ①あいさつのモデルを「レベル5のあいさつ」として具体的に児童に示し、教室や校内にも掲示する。
- ②1学期末の児童の姿をイメージし、PDCAサイクルにもとづいて目標を立て、計画、評価、取組の見直しを行う。
- ③毎月、全校児童の中から教員の投票で「あいさつ名人」を選出し、表彰する。
・「あいさつ名人」になった児童は、認定リボンを名札に付け、校内にも名前と顔写真を掲示する。
- ④「あいさつ名人」になった児童の有志が朝、正門であいさつ運動を行う。

レベル5のあいさつで めざせ 三原一

レベル
アップ

レベル	あいさつの仕方
5	立ちどまって おじぎして あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
4	おじぎして あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
3	あいての目を見て 大きな声で あいてより先に
2	大きな声で あいてより先に
1	あいてより先に

平成27年4月28日

『レベル5のあいさつ』のPDCAサイクル

- 1 ゴールイメージ（7月の児童の姿）
 - レベル5のあいさつができる児童の割合

全校児童	80 %以上	1年生	90 %以上
		2年生	90 %以上
		3年生	80 %以上
		4年生	80 %以上
		5年生	70 %以上
		6年生	70 %以上
- 2 長期・短期のC→A

段階	長期のC→A (3ヵ月)	短期のC→A (2週間)	C (アンケート調査)	A (具体的手立て)
1	4月の取組みのC→A	4月30日(木)	4月の取組みを振り返り目標値との差を確認する。	目標値との差を埋めるための具体的な手立てを考案実践する。
2	4月末～5月運動会終了後	5月22日(金)	前段階との票を分析する。	
3	5月運動会終了後～7月始	6月5日(金) 6月19日(金) 7月3日(金)		
- 3 C
 - ① 全校児童にアンケート調査を実施
 - ② 各学級・学年で結果を集計し、生徒指導主事に結果を報告
 - ③ 生徒指導主事を中心に「豊かな心部」で結果を分析
- 4 A
 - ① 生徒指導主事を中心に「豊かな心部」で目標値との差を埋めるための具体的な手立てを考え、取組の計画を立案する。
 - ② 生徒指導主事からの指示を受け、各学級・学年で目標達成に向けて具体的な取組を進める。

取組の課題・創意工夫『キーワード みんなで取り組む』

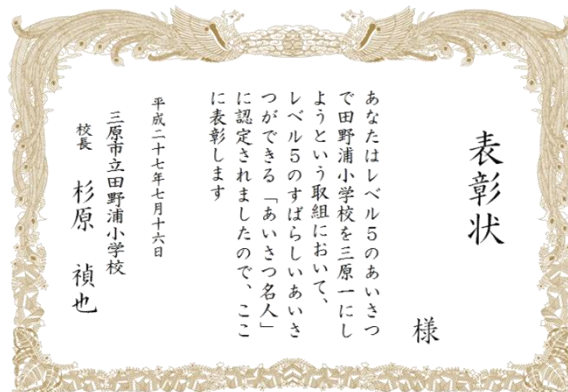
- 「レベル5のあいさつ」であいさつの具体的なモデルを示すことで、児童はわかりやすく、教員は指導しやすい。
- 「あいさつ名人」の取組を毎月行うことで定期的に児童に意欲づけと意識づけができる。
- 教員全員が毎月「あいさつ名人」の投票することで、教職員の意識づけにもなる。
- 学年、学級によって取組に温度差がある。
- 高学年になるほど意欲的にあいさつをしようとする児童が少なくなっている。

取組の成果（効果）『キーワード 評価とモデル化』

- 「あいさつ名人」を目指してあいさつを頑張っている児童が増えている（特に低学年）。
- あいさつについて、アンケートで肯定的な評価をしている児童が84%である。
- 保護者や地域の民生委員さん、来校者にあいさつがよくなったと言われることが増えている。



あいさつ名人の掲示



あいさつ名人の表彰状



あいさつ名人認定リボン

今後の展開『キーワード 意欲を持たせる』

- ・取組が次第にマンネリ化してくるので、「あいさつ名人」が正門であいさつ運動をする以外にも、「あいさつ名人」がよいモデルになり活躍するような場を考えていきたい。
- ・保護者や地域の方など外部の方からの肯定的な意見を積極的に児童に返していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 一点突破の取組』

- ・足りない部分や改善していきたい部分は多々あるが、ポイントをしばって一点突破の取組を進めていく。
- ・児童も教員もみんなで目標に向けて取り組んでいけるようにする。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立沼田東小学校	校長氏名	新庄 直子	生徒指導主事氏名	前花 真吾
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『スモールステップの目標づくり』

取組のねらい 『別室登校から、所属学級参加へ』

別室に登校できるようにし、次に落ち着いた学校生活が送れるようにし、さらに所属学級への参加授業を増やす。目の前の行事で学級に参加できるよう一つ一つ課題を克服していく。

取組の具体的内容 『一つの活動に全力参加』

別室に登校できるようにし、次に落ち着いた学校生活が送れるようにし、さらに所属学級への参加授業を増やす。目の前の活動で所属学級に参加できるよう一つ一つ課題を克服していく。(遠足→運動会→修学旅行→音楽発表会→持久走大会→卒業式) 一つの活動に全力参加、その繰り返しを行う。

(○遠足へ参加できた。→○運動会の組体操の練習に徐々に参加した。→○運動会へ参加できた。→○修学旅行の事前の話し合いに参加できた。→○修学旅行へ参加できた。→○音楽発表会の練習に参加できた。→○音楽発表会へ参加できた。→○持久走大会の練習に参加できた。→○持久走大会で完走することができた。)

一つの成功体験が次の活動意欲へとつながるよう取り組んできた。

運動会



音楽発表会



持久走大会



取組の課題・創意工夫『多くの教師の声掛けと専門機関との連携で』

一つ一つの活動でできるだけ多くの教師の声掛けをしていく。(タイミングよく。)

(〇励まし「よし、やってみよう。行こう。参加しよう。がんばれ。できるよ。さあ、次は、これだ。」)

〇賞賛、あたりまえのことを認める「すごい。良かったよ。良くやったー。頑張ったね。良くできた。よく来ました。できたね。良く聞いていました。書いたね。言えたね。)

専門機関との連携を継続し、教職員の話し合いを通してベクトルをそろえ、一つ一つの活動へ6年A君、B君、C君が参加できるよう取り組んでいった。

取組の成果(効果)『徐々に落ち着きを取り戻す』

一つ一つの活動での小さな成功体験を積み重ね、最終的に、荒れた行動から落ち着いた行動への変化を遂げさせることができた。

今後の展開『卒業式に向けて』

さらに落ち着いたあたり前の行動・活動ができるよう専門機関と連携し、教職員の話し合いを基にした取組を継続していく。最終目標は卒業式参加である。

他校へのアドバイス『キーワードできることからこつこつと』

6年3名が落ち着きを取り戻していったのは、やはり、教職員集団が協力し、ベクトルを常に微調整しながら、気長にあせらず、できることからこつこつと取り組んでいった為だと思われます。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因北小学校	校長氏名	早間 貴之	生徒指導主事氏名	脇本 賢一
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『そうじのプロ』

取組のねらい 『キーワード 達成感』

- ・黙って掃除をすることの意義を考えさせ、一生懸命掃除をしようとする態度を育てる。
- ・きれいになった喜びや達成感、集団としての協調や連帯を経験させる。

取組の具体的内容 『キーワード 評価』

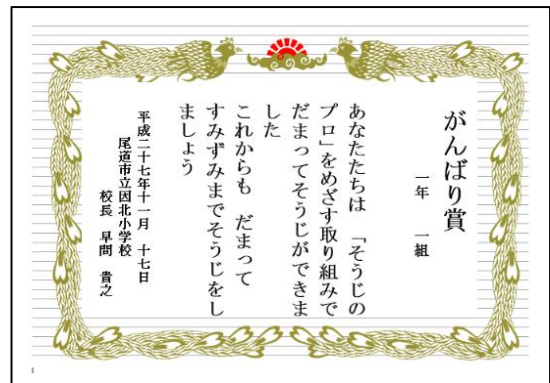
- ・担任は学級が担当する掃除場所を見回り、全員が黙って掃除しているグループに「そうじがんばりカード」を渡し、がんばり一覧表に貼らせる。また、児童の掃除の様子をよりの確に把握するために、「そうじがんばりカード」にがんばり具合でポイントを変えた（2点・1点）。
- ・学校長と教頭も評価をして回った（ポイントは3点とした）。
- ・黙って掃除をしているグループの様子を学級で紹介し、学級全体の意欲を高める。
- ・掃除後、相互評価で掃除の反省を行い、次の日につなげる。
- ・各学級から「そうじのプロ」を選出し、掃除のプロを見習わせる。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 意欲』

創意工夫

- ・がんばり具合によってポイントを変えることで、児童の意欲を高めることに繋がった。
- ・期間終了後、全員が掃除しているグループをそれぞれの学級で表彰した。また、全校朝会のときに、各学級から選出された「そうじのプロ」を紹介・表彰し、右図のような認定証を渡した。グループと個人の両方を表彰することで、児童の意欲を高めることに繋がった。



取組の課題

- ・「そうじのプロ」の取組以降、プロに認定された児童を模範とする場が不足していること。
- ・「黙ってそうじをする」ことを続けられるようにしたい。手立ての一つとして、掃除時間中に、職員がこまめに声をかけたり指導したりする。
- ・できていると感じている児童の自己肯定感を高めるとともに、できていないと感じている児童への指導を一層充実させること。

取組の成果（効果） 『キーワード 意識の向上』

- ・取組前よりも、黙って掃除をすることができる児童が増えてきた。
- ・職員への毎月のアンケート（児童は「無言掃除をしよう」ができているか）では、肯定的評価が4月の50%から、12月は74%へと向上した。
- ・児童アンケート（そうじをだまっしてしている）では、肯定的評価が1学期末は78.4%，2学期末は75.6%と推移している。取組を通して、自分たちの掃除は、まだレベルアップができると思う児童が増えてきているためだと考えられる。

今後の展開『キーワード 継続・応用』

- ・全校朝会や各学級で、掃除の仕方について肯定的に評価したり、「そうじのプロ」に認定された児童が意識をもつことができるような声かけをしたりする。
- ・掃除時間中に、職員がこまめに見回って指導を加えるようにする。
- ・来年度以降は、1学期の早いうちに行うことや各学期に1回行うなどの検討をする。
- ・「あいさつ名人」など、他の取組に応用して生かすことを考える。

他校へのアドバイス『キーワード 継続・応用』

「そうじのプロ」の取組は、児童の意欲を高めるためには非常に有効である。期間中は、一言もしゃべらず、全児童が静かに丁寧に取り組むことができている。一方で、取組の期間以降に児童の意欲を維持させることには課題がある。児童に対してこまめに声かけ・指導をすることで、意欲の維持を図ることができるので、各担任を中心として全職員で取り組めば効果は大きいものであると考える。

また、今年度、「そうじのプロ」を応用して本校で取り組んだ「あいさつ名人」も効果が大きかった。やり方は「そうじのプロ」と同じようにして取り組んだ。取組の結果、児童が廊下等ですれ違う際には、あいさつができるようになってきた。「よい態度をほめる」ことで、児童の意欲の高まりを継続できていると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長氏名	大原 俊哉	生徒指導主事氏名	丸山 信宏
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『あたたかい言葉がけ』 学級活動（２）望ましい人間関係の形成

取組のねらい 『キーワード 相手の立場を考える』

なぜ相手が嫌がることを言うてしまうのか原因を探り、それに対する解決策を話し合うことを通して、相手の立場を考えた言葉遣いについて考えることができる。

取組の具体的内容 『キーワード 自己決定』

- ・事前アンケート
「友達からうれしい言葉を言われたことがあるか」「友達から嫌な言葉を言われたことがあるか」を事前に調査する。
- ・学級活動の時間での授業 『あたたかい言葉がけ』

つかむ

事前アンケートの結果から、友達から言われた「うれしい言葉」や「嫌な言葉」にはどんなものがあるかを知る。

さぐる

どうして嫌な言葉を言うてしまうのか原因を考える。

見付ける

みんなで話し合い、相手に嫌な気持ちをさせないためにはどんな言葉がけをするとよいか考える。

決める

自分の課題に合った「努力するべきこと」を決める。
- ・事後指導
1週間毎日、自己目標をふり返り、がんばりカードに記入する。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 指導内容の絞り込み』

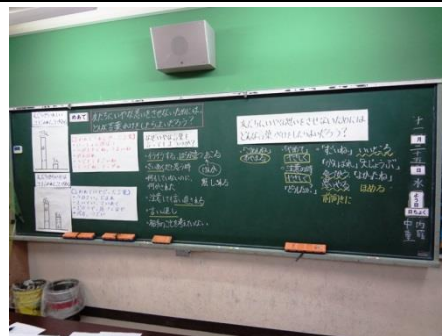
- ・教師主導で引張る展開となったため、子ども達自身に問題意識を持たせることが不十分だった。事前アンケートの結果を提示し、子ども達の実態を知らせ、本時の学習に入ったが、子ども達が「自分達の実態を知ってどう思うか」を考えさせることが不十分だった。
- ・問いが抽象的になってしまった。
「なぜ嫌な言葉を言うてしまうのか」「友達に嫌な思いをさせないためには、どんな言葉がけをしたらよいだろうか？」などの問いに対し、子ども達は何を考えればよいかがつかめきれていなかった。

取組の成果（効果） 『キーワード 見える化』

- ・具体的にどんな言葉がけをするかを決めさせたことで、子ども達がうれしい言葉がけを実行することができた。
 - 「1日に3回は友達に『すごいね』と言う」「友達が何かできた時に『よかったね』と言う」
 - 「1日に1回は友達のすごいところをほめてあげる」
- ・事後の振り返りを行ったことで、自分の目標を意識しながら生活することができた。
「今日は5回『すごいね』と言えた」「〇〇さんの絵が上手だったからほめることができた」

今後の展開『キーワード 主体性, 具体性』

- ・問題意識を子ども達から引き出す。
事前アンケートから自分達の実態を知ってどう思うかを問いかけ、何が問題なのかを考えさせる。そして、その課題を解決するためにどうすればよいかを考えさせる。
- ・あたたかい言葉がけをするための具体的な場面を設定してトレーニングを行う。



他校へのアドバイス『キーワード 自治能力の育成』

今回の授業は教師主導になってしまった。子ども達の中から「自分達の学級を何とかしよう」という気持ちを引き出すことができれば、学んだことがより自分のものになると思う。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市中学校	校長氏名	岩井 正徳	生徒指導主事氏名	角舎 宏治
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『コミュニケーションワークショップ』

取組のねらい『キーワード 人との関わり方』

4月中旬に、入学した新1年生を対象に体育館で様々なレクリエーションを通して、人間関係のトラブル防止の取組の一環として、「コミュニケーションワークショップ」を行う。明るく、活発に、ルールを守って様々なレクリエーションを行うことで、新しい友人関係、仲間との上手な関わり方を構築していく。



演台の方が「劇団あしぶえ」の方

取組の具体的内容『キーワード 交流』

「劇団あしぶえ」の方に来校していただき、劇団員主導で行う。体育館で3クラスずつ計3回（9クラス）行い、その中で6～7パターンのレクリエーションを行う。

事前に、身体的障害の有無、発達障害の有無について、分かっている範囲で伝え、可能なレクリエーションを準備していただいている。そのため、車椅子の生徒も楽しく参加している。



取組の課題・創意工夫『行動観察』

教員は、ワークショップの様子を観察しながら、小学校からの情報と照らし合わせ、生徒の性格、関わり合いの能力、行動など生徒の特性をしっかりと確認している。また、ただのレクリエーションにならないようにするため、ルールの存在を意識させている（規範意識を育む）。規律のある、しかも楽しいワークショップになるように、担任も学級の生徒と一緒に参加している。副担任は、生徒の行動を観察しながら、適切なサポートをしている。

仲間と関わるのが難しい生徒がおり、予想していなかった生徒に対応しなければいけないケースがあり、毎年課題となっている。この「コミュニケーションワークショップ」で、知らなかった生徒の特性を把握でき、生徒の行動観察としては、時期的にも大変貴重な取組となっている。情報が不十分な時期であるので、当日の生徒の動きを、担任、副担任でしっかり見取る必要がある。実際、毎年仲間と関わるのが特に難しい生徒が数名いるため、教員によるサポートが必要となるケースが多い。



* 足の不自由な生徒は、椅子を利用している（左上女子生徒）。その両横は担任とアシスタント。右上ではスクールカウンセラーと生徒指導主事が観察しながら話をしている。

取組の成果（効果）『キーワード 良好な人間関係のスタートとして』

仲間と一緒に活動する楽しさについての感想を述べさせるなど、振り返りをしっかりさせ、日頃の生活に必要なコミュニケーションは、どのようにしていくのが理想なのかを考えさせる。生徒は、楽しく安心できる学級をどのようにして作っていくのか意識するようになる。この「コミュニケーションワークショップ」のねらいをしっかりと理解させて実施することで、取組後、良質な交流が活発化するようになる。



4月、5月は一般的にいじめが心配な時期である。いじめ防止の観点においても有効であると思われる。

今後の展開『キーワード 野外活動、学級活動（班活動）、道徳へつなげる』

入学前の小中連携で、小学校との情報連携を進めてはいるが、結果的に生徒の実態がわからないケースが毎年ある。「コミュニケーションワークショップ」の取組では、生徒の気になる言動を新たに発見する事が実際多い。実施後すぐに、小学校との情報交換を行ったり、6月初旬に、小中連携会議（情報交換会）を行ったり、保護者連携を進めている。学年内で、こうした情報をしっかり共有し、適切な対応をしている。

良好な人間関係を作るために必要なスキルを身につけさせ、生徒の考え方を育てていく。今後の取組としては、どのような言葉かけが良いかを考えさせたり、アンガーマネジメントの取組を行い、怒りの感情をコントロールし、怒りの管理の方法を身に付けさせたりするとともに、道徳の授業で、心や考え方を育てたいと考えている。その上で、今後の学級活動や班活動、野外活動への取り組みにつなげて行きたい。

他校へのアドバイス『キーワード 継続性』

「コミュニケーションワークショップ」を終えると、学級内での人間関係がより深まり、新しい仲間と協力して今後の活動を行う雰囲気になる。人間関係のトラブルが始まる時期であるため、良好な人間関係を構築するためのスキルを、様々な活動を通して身に付けさせる必要がある。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立甲田中学校	校長氏名	宮本 直彦	生徒指導主事氏名	新谷 竜治
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『全校での取組が自己肯定感の向上を育むバースデーカードの取組』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感』

本校の生徒は、平成 26 年度「基礎・基本」定着状況調査（現第 3 学年）での生活と学習に関する調査項目において、自己実現力・自己効力感、「自分にはよいところがあります。」の問いには、肯定的回答が 59.5%、「自分のよさは、まわりの人から認められていると思います。」の問いには、肯定的回答が 56.8%であった。このことから、半数の生徒は「自分のよさを見いだしておらず、他者から十分に認められていない。」と感じていると分析した。また、コミュニケーション能力の不足により、日頃から生徒同士の小さなトラブルも多いことから、根底にある自己存在感や自己肯定感を高めることをねらいとした。

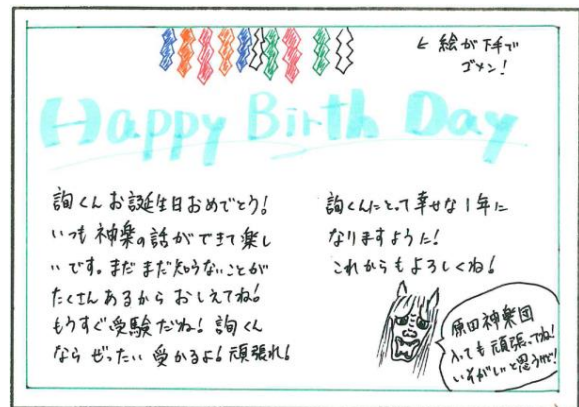
期待できる効果は、①自分自身のことを大切に思える、②友だちの優しさを感じることができる、③日頃から友達のことを大切にする等である。

取組の具体的内容 『キーワード 全校 バースデーカード 良さを見つける』

本取組は、昨年度から 2 年目の取組となる。取組の目的は、①誕生日をみんなで祝うこと、②お互いのよい点を見つけ伝えること、③日常的な場においても書く力を伸ばすことである。

まずは、バースデーカードに取り組む意義、生徒の意欲を喚起するために、4 月下旬に生徒指導主事による全校道徳において、思いやり「価値項目 2（2）」の道徳の授業を実施した。構成的グループエンカウンターを取り入れて、思いやる心を育むとともに、バースデーカードに込める思いの価値付けを行う。

バースデーカードは、A6 サイズの厚紙で主に特別活動の時間で作成する。一人一枚、誕生日を迎える生徒に対して、学級内の生徒が祝福のメッセージを記入する。最初の特別活動の時間では、書く見本を見せて、もらってうれしいカードとは、どの様なものかを各学年で考える。戸惑う生徒も多いが、ひとことではなく、イラストを入れたり、誕生日を迎える友だちが頑張っていることを文章にして伝える工夫をする



ようになった。相手を意識して記入したカードは、各学年会で全員作成しているか確認し、生徒指導部で内容等をさらに確認したうえでラッピングする。ラッピングしたバースデーカードは、誕生日の当日、給食準備中や昼休憩を利用して、校長より祝福の言葉とともに手渡される。その際、校長より学校生活の頑張りや誕生日に関わる質問等も行われ、学校全体で生徒の誕生日を祝福し存在を認め合っていることを伝える。

生徒は、照れながらも笑顔で受け取り、教室に戻る途中に開封し、読む生徒も多くいる。

生徒の声には、「こんなことを見てくれてるんだ。意外です。」といったものも多く聞かれた。



取組の課題・創意工夫『キーワード 趣旨説明 振り返り 』

バースデーカードを「書いてみよう！」だけでは、生徒は何をどうすればよいか、わからない。なぜ、バースデーカードに取り組むのか、そのことによりどうなるのか、どのようなカードを仕上げれば良いかを考えさせる趣旨説明を行ったり、考えさせることが大切である。また、単に作業ではなく、全体道徳を通して取り組みへの価値づけを行うことも有効である。

また、バースデーカードを書く時間を、年間を通してどの時期の特別活動に設定するのが適切であるのか、行事や各教科・領域との関連について、生徒の様子を見取る等を行い、検討することが課題である。

さらに、生活ノート等を利用する、あるいはまとまった振り返りの時間を取って、バースデーカードを作成し、受け取ることで生徒がどのように成長をしたか、自分自身を客観的に見つめる時間を取る時間を確保することも課題である。そのことで、生徒自身が自己肯定感や自己有用感を育み、自信になることと考える。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の向上 』

平成27年度全国学力・学習状況調査（現第3学年）の生徒質問紙における質問項目「自分には、よいところがあると思いますか」において、肯定的な回答は71.4%となった。本取組だけで、肯定的な回答が向上したとは言い切れないが、生徒指導上の問題行動の減少や大きなトラブルは本年度見られない。また、給食当番での片付けの順番も押し付けることもなく、グループ内で話し合っ決めて決めるといった光景も見られるようになった。授業中でも、良い意見や行動が取り上げられた場合、自然と拍手が起こる集団になってきた。

自己存在感の向上から自己肯定感の向上へと効果が上がっているものと捉えている。

今後の展開『キーワード 集団づくり 』

本取組を継続するにあたり、学級・学年の集団づくりで、生徒同士がお互いの良さを見つけていくことが必要である。お互いに認め合うからこそ、誰かのために、集団のために行動に移す生徒を育成したい。よりよい集団づくりのために、年間指導計画等を検討し、構成的グループエンカウンターや他教科・領域との関連付けを研究する。

他校へのアドバイス『キーワード 全体で 』

取組開始時には、教職員全体でバースデーカードの意義を共有し、校長を中心とした生徒指導部や学年会の連携が大切である。生徒指導部が取組を具体化して提案し、実践することで、生徒への付けたい力を共有することで、円滑に取組が行えると考えられる。

学級活動

適応と成長及び健康安全

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立真亀小学校	校長氏名	三吉 学	生徒指導主事氏名	長尾 圭一郎
-----	-----------	------	------	----------	--------

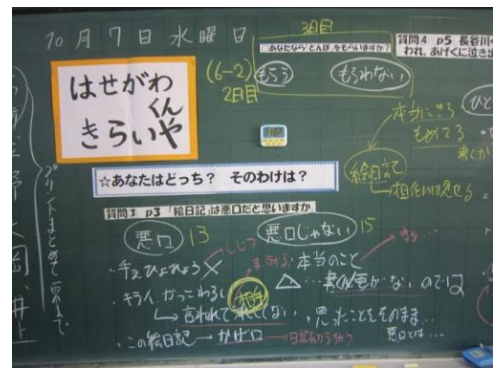
取組事例名 『倉田さんを迎えて～人と違っていることは恥ずかしくない～』（6年生）

取組のねらい 「キーワード『人と違っていることは恥ずかしくない』」

障害により手が使えないため、生活の全般を足で行う倉田さんとの出会いや倉田さん本人との身体を使ったふれ合い活動の中で、「心のバリアフリー」に繋がることを目指す。

取組の具体的内容 「キーワード『であい』『ふれあい』『わかりあい』」

- ① 「はせがわくんきらいや」（道徳オリジナル教材）を3～4時間学習し、人間とは何か、自分の中の「みんな」に障害をもった人は入っているのか、などを考える。また、クラスにもいる、いわゆる「しんどい」子、その子を無視しない、放っておかないことの「しんどさ」とともに、それを超えた「優しさ」、そして「優しさ」とは何か？を子どもたちと一緒に考える。
- ② 倉田さんを迎えるにあたって、どんなレクリエーションを行うか考え、子ども自身で企画・運営できるようにしておく。
- ③ 倉田さんを迎えて～大運動会～
・始めの言葉 ・ゲーム ・結果発表 ・終わりの言葉
- ④ 倉田さんの講演
～人と違っていることは恥ずかしくない～
- ⑤ 倉田さんと給食
- ⑥ 実際に倉田さんの改造車やその運転を見る
- ⑦ 倉田さんのドキュメンタリーDVDを見る
- ⑧ 資料「倉田さんを迎えて」（プロフィール・生き方・メッセージなど）を読んで、倉田さんに手紙を書く。
- ⑨ クラス実態に合わせて、必要と思える事後指導等を行う。



取組の課題・創意工夫 「キーワード『驚きを伴う感動体験』」

- ① この本（はせがわくんきらいや）は、「同情」「あわれみ」をきっぱりと否定し、「うわつらの優しさ」を描かず、きれいごとで収めていない。その「丸ごとの人間の本音」の出会いと関わりの中から、「人間の優しさ」とは何かを考えさせる。また、子どもたちは「あなたはどっち？」というめあての中で主題に迫っていき、モラルジレンマにより、葛藤し、自己矛盾する自分に気づいていく。
 - ② 倉田さんの写真やプロフィール、昨年の授業風景などから倉田さんの人物像に触れ、倉田さんも含めて、参加するみんなが楽しめるレクリエーションなどを考えて、企画・運営できるように準備を進めていく。その際、偏見や差別につながらないように配慮しつつ、子ども自身が持つ発想を大切にゲーム等を企画運営できるよう支援していく。
 - ③ とにかく、ふれ合える、話せる雰囲気作りに努める。また、少しでも、倉田さんと関わられるようにフォローを行う。
・「ルール」がしっかり分かるように、説明のボードなどを活用するなど工夫させる。
 - ④ 倉田さんの大切な言葉などを黒板に書き込みながら、子どもたちの思考が深まるよう心がける。
・子どもの率直な意見が出やすいように配慮する。
 - ⑤ 倉田さんにとって当たり前の「足」での食事を見て、感じながら、楽しく会食ができるようにする。
 - ⑥ 実際に足で運転する改造車を見たり、動く姿を見ることで驚きを伴う体験活動とする。
 - ⑦ 分かりにくい場面などは、補足しながらDVDを鑑賞し、倉田さんの生き方・メッセージに迫る。
 - ⑧ 倉田さんの「であい」「ふれあい」「わかりあい」の大切さ、そして、「どうせ〇〇を、せっかく〇〇に変える」というメッセージについて、考えを深める。
- ▲ ただし、クラスの中のしんどい児童や立場の弱い児童に対して、未だに傷つく発言や行動をしたり、全然そのことに気づかなかつたり、まだまだ、「倉田さんと学んできた思いやりの心」を理解しているとは思えない。引き続き、さまざまな教育活動の中で、人間理解をより深め、共感的理解能力を培っていきたい。また、生徒指導規程を改訂し修学旅行等で徹底してきた「みそあじ」（みだしなみ、そうじ、あいさつ、じかん）の指導により、服装の乱れはかなり改善されてきたが、まだ、一部の児童や親に徹底されてない部分もある。卒業式に向けてもう一歩、頑張らせていきたい。



取組の成果（効果） 「キーワード『どうせ〇〇 → せっかく〇〇へ』

自尊感情が低く、すぐに「どうせ、、、」と言う傾向の児童が多く、高学年になるにつれ、問題行動を起こしたり、無気力になつたりしている児童も少なくない。もともと倉田さん自身も自らの「障害」というものを受け入れきれず、「どうせ障害者だから、、、」と高等部くらいまでは、何でも諦めていたが、様々な「であい」「ふれあい」「わかりあい」の中で、少しずつ自分を受け入れていき、今では、「どうせ障害者だから」でなく、「せっかく障害者に生まれたのだから」と変わっていったと話される。そして、やたらと他人の目を気にする児童たちに「人と違うことを恥ずかしがらないで」と力強いメッセージを送ってくれ、そのことでとても勇気が出たとたくさんの児童が感想や手紙等で述べている。

また、児童自らで様々なコーナーを企画運営することで楽しみながら「ルール作りの大切さ」を知り、規範意識の向上に役立っていると考える。さらに、倉田さん（障害者）が入ることで「みんな」を考え直したり、「他の身体の不自由な人や妊婦のお母さんも参加できるようにするには」という発言が出るなど、発言やゲーム作り、ルール作りの中に「思いやりの心」が多々見られた。

今後の展開 「キーワード『あと一歩踏み出して卒業』

- ・道徳授業「思春期～大人へ 考えておきたいこと」・・・思春期とは？ 思春期で学ぶべきこと
「秘密の友だち（賞賛）」+アドラー心理学入門（他人でなく、自分を変える意味）

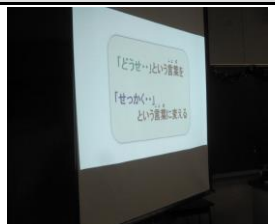
上記を通して、思春期で学ぶべきこと（仲間と仲良く+孤独を楽しむ）や自分を変えることで見えてくる景色や幸せなどを共に考えていく。

- ・縦割りドッチボール大会（縦割り班）、キラキラ大作戦（社会奉仕・清掃活動）、
落合中出前合唱（中学生への憧れ・尊敬ほか）、「6年生を送る会」（縦割り班・6年生への憧れ・感謝）

上記を通して、自分以外にも、憧れてくれている後輩やかっこいい先輩、地域の方々などにもう一度気づき、感謝をもち卒業できるようにさせていく。

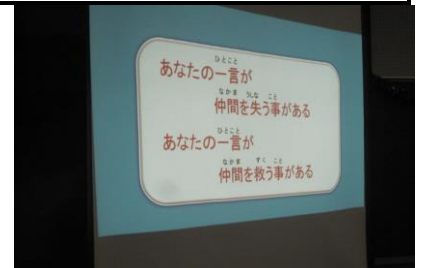
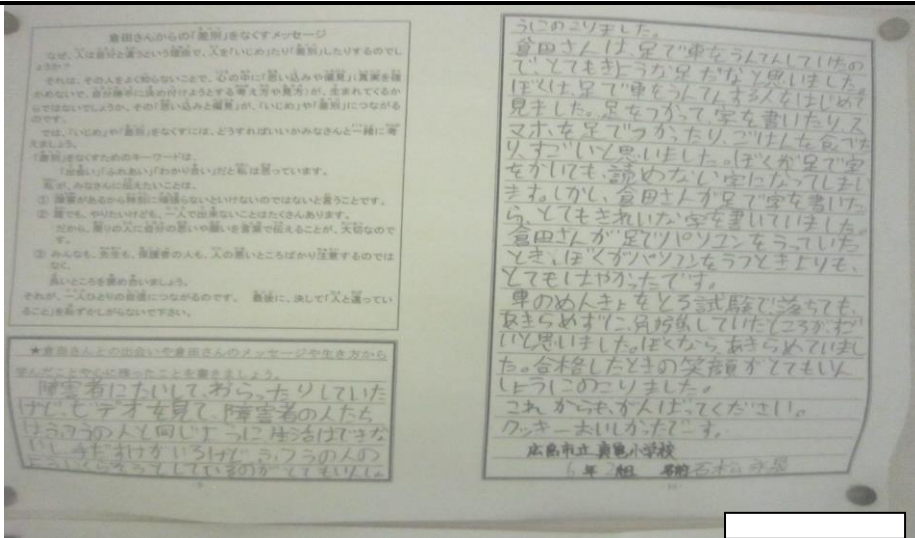
- ・卒業式（規範意識）

しっかり卒業式で「感謝」とともに「立派な6年生」を見せることにより、後輩の規範意識の向上に繋げていく。



他校へのアドバイス 「キーワード『たまにはルールを引きすぎない時間を』

現代の子ども達は、子ども同士で何かを企画したり、自由に発想したり、このような時間がない中で育っていると考えられるとともに、効率化や目に見える成果ばかりに視点がいきがちである。それ故、本校でも学級活動などの企画をさせると当初は、周りから見ると、とても手を差しのべたくなるような状況が起こる。しかし、その様な状況でも、子どもたち自身は楽しそうな笑顔であり、そこを乗り越え、様々な企画の会のレベルも少しずつ向上していく。子ども達に「感動を伴う体験活動」を保障し、「たまには、ルールを引きすぎない時間」を確保できる余裕をもって欲しいと願う。



平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹小学校	校長氏名	石井 憲幸	生徒指導主事氏名	箱田 知子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『スタートウィーク』

取組のねらい『キーワード 自己指導力の育成』

- ・ 学校生活のルールを確認し、気持ちよく集団生活ができるようにする。
- ・ レベルアップしながら達成感がもてるようにする。

取組の具体的内容『キーワード 当たり前のことが当たり前できるように』

- 学校全体で各学期初めや中間に取り組む。
 - ・ 気持ちのよい返事をする。
 - ・ 3つの「あ」に気をつけたあいさつをする。 … 明るい声で、相手を見て、頭を下げる
 - ・ 丁寧な言葉遣い
 - ・ 正しい姿勢「ピン・ペタ・グー」
 - ・ だまりんこタイムの設定
 - ・ 給食指導 … 時間を守って、残さず食べる。
 - ・ 靴箱の使い方
 - ・ 掃除の仕方 … 無言掃除、時間いっぱい、気づき掃除
 - ・ロッカーの使い方
 - ・ お道具箱、筆箱、下敷きの使い方
- 始業式後に生徒指導主事が話をする。
- 各学級、各児童が自己評価を行い、次の取組の目標の参考にする。

取組の課題・創意工夫『キーワード 新しい自分への挑戦』

〈課題〉

- 「できた」という基準が教職員間、児童間で共通のものになりきっていない。
- 目標を達成するための具体的な指導方法が確立されていない。
- マンネリ化してレベルアップできないまま取組期間が終わり、十分な達成感ややりきった感に至っていない。

〈創意工夫〉

- 目標に対する評価の基準を明確にし、重点目標を決めて取り組む。
- 具体的に目標の基準を視覚化して示す。
- 効果的な指導方法を交流する。
- 始業式や終業式の後には、必ず生徒指導に関する話の中でこれから取り組むことについて話したり、取り組んだことについて評価したりした。



お手本となる写真を、教室や児童玄関に掲示した。
低学年は「トン・スー」と言いながら揃えさせている。

ある学年は、学校の重点目標の1つの
挨拶を学年の重点目標とし、学年独自の取組
や評価方法を考え、取り組んだ。



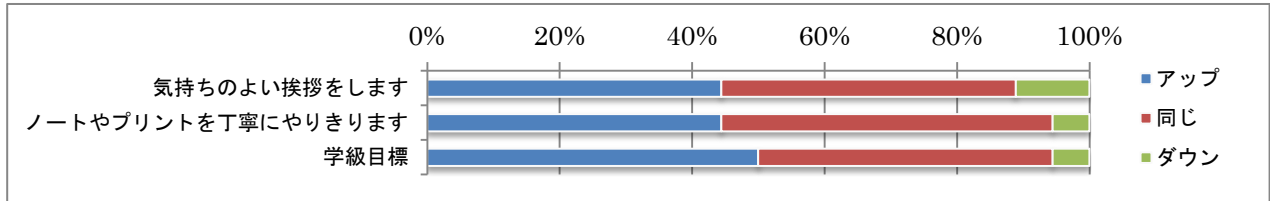
- 児童玄関に各学級の重点目標を掲示し、児童が登校したら意識をもって取り組めるようにした。また、他の学級の児童や担任以外からも評価しやすいようにした。
- 学級通信等で保護者に取り組んでいることを伝え、家での声かけなど協力を依頼した。



学校全体での重点目標も掲示

取組の成果（効果）『キーワード みんなで伸びる』

- ほとんどの学級で肯定的評価が多くなった。



- 重点目標や基準を明確に設定したことで、教師も指導しやすく児童も意欲を持って取り組むことができた。
- 重点目標に取り組むことで、その他のこともがんばろうという気持ちももてた。
- 評価をシールなどで「見える化」したり、数値を示したりした。
- どうすれば目標を達成できるか意見交流の場を設定した。
- 基準が明確になったため自己評価が厳しくなり、評価が下がったところもあったが、教師との評価が一致するようになった。以前は、教師と児童の評価に差があった。
- 学級通信等で取り組んだ結果や子どもたちの様子、今後の指導について伝え、保護者との連携を図った。
- 児童の感想（3学期のレベルアップウィーク）
 - ・ みんながちゃんとしていたので、自分もがんばろうと思って取り組みました。
 - ・ ろうかを走らずにしずかに歩けたけど、右側を歩いていませんでした。だから今度からはレベルアップしていきさを高めて、右をしっかりしずかに走らずに歩けたらいいなと思います。気をつけます。
 - ・ ぼくは、ろう下をしずかに右がわを歩くことができたので、これからもつづけていきたいです。
 - ・ ろう下をしずかに歩くもくひょうと、3つのあいさつはできていたけれど、そうじの時は、ちゃんとできなかったから、これからだまってそうじをがんばりたいと思います。
 - ・ あいさつやノートやプリントをやりきってきれいに書けていたけど、これからはもっと美しいノートにしたいです。
 - ・ ていねいな言葉づかいに気をつけました。◎になったときは、うれしかったです。
 - ・ 最後までやりきることは難しかったです。今度からは当たり前のようにできようになりたいです。

今後の展開『キーワード さらにみんなで伸びる』

- ウィーク期間中だけでなく、「いつでもどこでも何度でも」指導していく意識を全職員がもてるための方策を、生徒指導部会や企画運営委員会で話し合っていく。
- 目標の重点化、基準の明確化、視覚支援を取り入れていく。

他校へのアドバイス『キーワード いつでもどこでも何度でも』

- 率先垂範とどの職員も統一した指導ができるようにすれば、児童も戸惑うことなく、不満をもつことなく、学校生活を過ごせると思う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長氏名	村上 みどり	生徒指導主事氏名	兼田 和佳
取組事例名		『係活動と連動したはきもの揃えの取組』			
取組のねらい 『キーワード 伝統の創造』					
<ul style="list-style-type: none"> ・新設校として指導の基準を全職員で共通認識し、学校の伝統を創造する。 ・学級や学校の生活の充実と向上を図り、健全な生活態度を身に付けるために、身の回りの問題を他の児童と協力して問題を解決する。 					
取組の具体的内容 『キーワード 因島南小学校「4つのきまり」(「はきもの揃え」)の具現化』					
<ul style="list-style-type: none"> ・因島南小学校の「4つきまり」(「朝の100点」・「無言行動」・「体をとめて話を聞く」・「はきものを揃える」)を守らせることで、児童の安全を守ると共に、社会性を身に付けさせる。規範意識を醸成する。 ・基準(「因島南小のはきもの揃え」に則る)を明確にし、自己管理能力を育てる。 ・児童会と学級活動を連動させ、自治能力・自己指導力を育てる一助とする。 					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 児童の意識の高揚と評価』					
<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を把握し、克服課題を明確にする。また、課題解決のための取組の存在意義を共通認識する。 ・基準とゴールイメージを明確にする。(掲示物による「見える化」) ・児童会とタイアップし、児童と課題を共有する。各学級で課題解決のための方策を考えさせる。 ・「はきもの揃え係」を全学級に位置付け、点検(実態の把握)・報告・課題解決のための話し合い活動を展開する。 ・教職員(各担任及び生徒指導主事)が必ず点検し、校内放送で評価する。 					
取組の成果(効果) 『キーワード 「揃える心地よさ」の体感』					
<ul style="list-style-type: none"> ・はきものを揃える児童が増えた。 ・はきものを揃えることによって、「揃える心地よさ」を体感する児童が増えた。 ・一人一人の児童が活躍できる場を設定することによって、話し合いに進んで関わろうとする児童が増えた。また、実践においても創意工夫したり、協力したりする姿が見られるようになってきた。 					
今後の展開 『キーワード 指導と評価の一体化』					
<ul style="list-style-type: none"> ・教師による一層の共感的、受容的な評価の実施と評価と一体となった指導を継続し、成果を積み上げていく。 ・児童自らが創意工夫できるよう、指導が適切であったかを評価し、指導方法の工夫改善を図る。 					
他校へのアドバイス 『キーワード 共有化』					
<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による課題(取組の存在意義を含む)の共有化と児童との取組の方法の共通理解は取組を展開するうえで必要不可欠である。 					

いんのしまみましよう
「因島南小 4つのきまり」 (児童周知用)

因島南小学校には4つのきまりがあります。一人一人がきちんときまりを守ることに
 より、安全で生き生きと学び合える学校づくりを目指していきます。

「因島南小 4つのきまり」を守って楽しい学校生活

① 朝の100点

- 制服をかぶる。
- 名札をつける。
- 第一ボタンをとめる。
- はきものをきちんとはく。
- シャツを入れ、髪を整える。

② 無言行動をする。

- 無言で掃除をする。
- 教室を移動する時には無言で移動する。(無言移動)
- 集会等は無言で集まる。(無言集合)

③ 体をとめて話を聞く。

- 体をとめて聞く。
- 相手の方を見て聞く。
- 相手の話を最後まで聞く。

④ はきものをそろえる。

- 運動靴をそろえる。「因島南小のくつそろえ」を参考にする
- トイレのスリッパをそろえる。

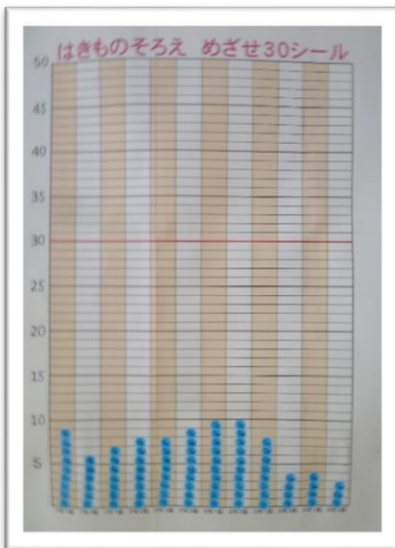
【先生たちががんばること】

みなさんが守ることができるようになるために先生たちは次のことをがんばります。

- ①「朝の100点」を朝の会で調べます。シャツが入っていない人がいたら、入れるまで待ちます。
- ②無言行動ができない時は、できるまで「やり直し」をします。
- ③休憩タイムを大切に、体をとめることができるようになります。
- ④トイレのスリッパをそろえている人を見つけたら、「ありがとう」とお礼を言います。



【目標の共有と評価】



【各学級の話し合い活動】



【はきもの揃えの現状】



【はきもの揃え係による点検・はきものを揃える児童】



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原小学校	校長氏名	廣澤 伸高	生徒指導主事氏名	坂田 雅則
取組事例名		『善く生きる認定』			
取組のねらい 『キーワード 規範意識・自己肯定感・努力』					
○規範意識を身に付けるとともに、人のために行動することで自己肯定感や自尊感情を高める。 ○目標や夢に向かって努力しようとする心情を養う。					
取組の具体的内容 『キーワード 善く生きる』					
○毎月、学級から 2 名程度「善く生きる認定者」を決定する。 ○認定の観点は「ルールやきまりを率先して守っている」「人のために行動している」「目標や夢に向かって努力している」の 3 つ。 ○認定者の決定は学級児童の話し合いで行う。 ○全校朝会で表彰を行う。 ○児童玄関前の掲示板に、写真と認定理由を掲示する。					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 選出人数』					
○毎月、各学級から 2 名程度選出しているので、認定されない児童も多くいる。 ○児童玄関前に認定理由を掲示することで、他学年の児童も、どのような行動が「善く生きる」ことなのか考えることができる。					
取組の成果（効果） 『キーワード 規範意識・自己肯定感』					
○各学級、学級活動の時間に、「善く生きている」と思う友達について話し合いを行っている。友達の頑張っていることを発表し合うことで、どのような行動が「善く生きる」ことなのか考えることができる。また、友達から認められることの喜びや、人の役に立っているという実感をもつことができる。 ○庄原小学校の 5 つの校風や月の児童会目標を意識して行動する児童が増えてきた。 ○学期に 1 度行っている生活アンケートの結果、「自分にはよいところがある」と回答した児童が、昨年度の 2 月が 76%、今年度の 7 月が 83%、11 月が 86% と向上している。					
今後の展開 『キーワード ピアサポート』					
○今後も継続して「善く生きる認定」を実施していく。 ○児童会執行部が、縦割り班による「ドッジボール大会」を計画している。高学年が下級生の世話をすることで自分に自信がついたり、低学年は高学年にあこがれや感謝の気持ちをもったりすることを期待している。 ○さまざまな場面で、高学年が下の学年へ良い形で関わりがもてるように、ピア・サポートの考え方を積極的に取り入れていく。そのような行動も「善く生きる」生き方につながってくると考える。					
他校へのアドバイス 『キーワード 評価』					
○認定の観点を「ルールやきまりを率先して守っている」「人のために行動している」「目標や夢に向かって努力している」としたことで、「やるべきことはやる、守るべきことは守る」児童が増えた。頑張りを認め、評価することが次の意欲へとつながっている。評価することの大切さを実感している。					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長氏名	亀井 伸幸	生徒指導主事氏名	島 博明
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『進路実現に向けた授業向上のルーブリック指標の作成』

取組のねらい 『キーワード：クラス全員でめざす姿をつくる』

- 1 年生の進路学習の一環として、授業を大切にすることが進路実現につながることを生徒に促し、生徒自身がルーブリックの作成を通して主体的によりよい授業をつくろうとする意欲を育成する。

取組の具体的内容 『キーワード：生徒が考える』

- 高校入試の調査書などの仕組みについて事前に学習を行い、1 年生の成績も大切であることを認識させた。そこで評価表をもとに成績はテストの点数だけではなく、提出物や授業態度なども評価の対象であることを認識させた。
- 個人、クラスで向上に向けて取組めることとして授業態度に焦点を絞り、「自分たちが考える望ましい授業とは」について生徒が発表した。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：成長 4 段階』

- 生徒が発表した望ましい授業について「SABC」の 4 段階に分類し、ルーブリックの作成に取り組んだ。
- 生徒自身が分類することで、より具体的に自分たちの姿を見つめさせ、またクラスとして授業に対する共通の価値観をもたせることをねらった。
- 各クラスで作成後に学年として統一したルーブリックを代表委員会を活用して作成した。また、作成したものを学年集会で代表委員が 1 年生に伝えた。

評価	重点チェック（話すについて）
S	立って相手を見て、大きな声ではっきりと、 人の意見と関連させ発表する。全員発表。
A	立って相手を見て、大きな声ではっきりと、 発表する。いろんな人が発表している。
B	立って、大きな声で、発表する。 一部の人が発表。
C	座ったまま、小さな声で、勝手に発表。 発表しない。

望ましい授業に向けての確認票(11月17日～)

取組の成果（効果） 『キーワード：客観的に』

- 授業態度の具体的な姿等を 4 段階に分類したルーブリックを作成したことで、生徒自身が自分やクラスの状況を自主的に客観的に評価できるようになった。また、ルーブリックをもとに、教員とともに授業を振り返ることができ、授業態度の向上に向けて課題や成果を共有して取り組むことができた。

【1Aの考える 授業を大切に「SABC」成長4段階】

S めっちゃ最高！！(^^)!

- 先生のほうをむいて話を聞く。
- 常に集中できる。
- 静かで、話をしっかり聞く。
- 切り替えができる!
- 職員室で「さすが1A!」といわれるようにする。
- 丁寧なノート
- みんなが発表する!
- 全員が真剣に授業を受ける。
- 授業がどんどん進む。
- 笑う時には笑うけど集中する時には集中!
- 手を挙げる人が多く静かで楽しい授業。
- 姿勢もイイ!
- 必要な時以外しゃべらない。
- 一つ一つの授業を大切にしている。



A すごいね!(*~*)

- 話はしていないし、ノートをとっている。
- 私語をしていない。
- 誰かが私語をしていたら注意する。
- 話は少しあるが、全員ではなく声かけがある。
- 切り替えができる。

授業は1日6時間
↓
週間で30時間
↓
か月に120時間
↓
1年は1年だったら?
1の前の1時間の授業を大切にすること。
これが進路実現の1歩の近道です。



B いいね!(。)

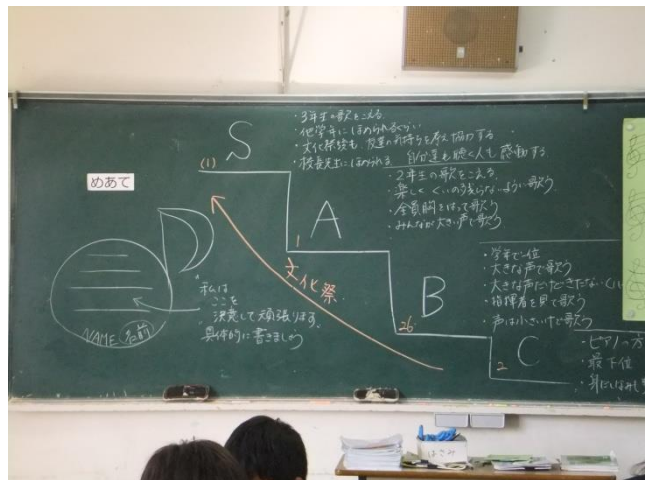
- 静かだが...イマイチ集中しきれていない。
- しゃべる人が少ない。少し私語が多くても切り替えはできる。
- 立ち歩きなし!

C よくない(;_ _)

- 私語が多い。
- 後ろを向いている。
- ノートをとらない。
- 人にちょっかいをだす。
- 先生の話を受けない。
- ペンで遊ぶ。
- 横座り。
- やる気なし。
- 注意されてもやめない。
- ふざける。
- 立ち歩く。
- うるさい
- 爆睡
- 先生やみんなから「1Aマジ授業態度悪い」といわれる。

今後の展開『キーワード：様々な場面で』

- ・ これまでも「文化祭での合唱コンクールに向けて」等、ループリックの作成に取り組んできた。今後は、さらに生徒が主体的に取り組めるように生徒会活動などでもループリックを作成し、生徒自身が学校をよりよくしようとする意識や行動を育成していきたい。
- ・ 2年生では、「時間を守る」について生活委員会、「挨拶」について代表委員会、「授業態度」について学習委員会が同様にループリックを作成していく予定である。



他校へのアドバイス『キーワード：自治的活動の充実』

- ・ 本校では、教員主導の指導から生徒の自治的活動による学校生活の向上に移行したいと取り組んでいます。本校生徒は、エネルギーがあることを生かし、生徒自らが考え、行動する場面を生徒とともに作り出して達成感、充実感を持たせていくことが学校の安定につながると考えています。

児童会・生徒会活動

児童会・生徒会の計画や運営

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木小学校	校長氏名	重田 小百合	生徒指導主事氏名	松島 秀平
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『自分たちの力によって進める活動』

取組のねらい 『望ましい集団づくり』

○よりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、予防的生徒指導の推進を図る。

取組の具体的内容 『自主的な委員会活動の取組』

- 執行委員会の取組「学級・学年によるあいさつ運動」「あいさつ標語の募集」「いじめ防止標語の募集」「キッズワールド（異学年交流）」
- 運動委員会の取組「長縄大会」
- 生活委員会「あいさつマイスター」「犬のふん禁止ポスター」
- 放送委員会「無言清掃の呼びかけ」
- 飼育委員会「動物愛護標語」
- 図書委員会「読書感想文の紹介」

「あいさつ運動」



「長縄大会」



「キッズワールド」



取組の課題・創意工夫 『自分たちの力で運営する力』

○児童の活動が主体的、自発的になるように、児童自らが工夫して、自分たちで運営していく活動内容を設定した。特に、「あいさつマイスター」「キッズワールド（異学年交流）」については、児童の主体的な考えや取組内容を重視した活動になった。また、「キッズワールド（異学年交流）」は、自分だけではなく、ペア学年にも楽しんでもらうように取り組んだり、自分たちのクラスの出し物が楽しめるようなものになるようによく考えたりしていた。「長縄大会」では、よりよい学級や人間関係を築こうとする仲間づくりが出来ていた。

取組の成果（効果） 『自発的な活動による成就感』

○今年度は、前年度までと違って、児童自らが活動内容を考え、代表委員会に提案して、活動に取り組んだものもある。その中でも、特に、「あいさつ運動」や「あいさつマイスター」の取組については、自主的な活動を行うことによって、自分たちで成功させたという成就感を味わわせることができた。また、今年で5回目になる「長縄大会」では、毎日練習することにより、各学級で望ましい集団づくりができ、成績も大きく向上したことで達成感も得た。

今 後 の 展 開『集団としての連帯意識を高める』

「キッズワールド（異学年交流）」は、各クラスや学年の枠を超えた取組である。他の活動もよりよい学校にするための活動であり、学校全体で取り組んでいるという意識をもたせるとともに、連帯感を養っていく必要があると思われる。

他校へのアドバイス『本校の委員会の取組』

「長縄大会」「あいさつマイスター」の取組は、児童の自主的な取組として、どの学校でも取り組みやすい活動である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立草津小学校	校長氏名	関本 宏	生徒指導主事氏名	志田 あすか
-----	-----------	------	------	----------	--------

取組事例名	『くさつピカピカプロジェクト』
取組のねらい『無言清掃』	掃除の方法を統一して、無言清掃に取り組むことで、中学校区の目標の一つである「責任を果たすことができる」児童を育成する。
取組の具体的内容『くさつピカピカプロジェクト』	<p>「くさつピカピカプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境美化委員会が中心となり、学級全体で取り組む。 ・毎月第3週に無言清掃ができた人数などを学級内で集計する。 ・学級の取組の結果を集計して、取組み結果が素晴らしい学級は、給食放送で発表して賞状を渡す。 ・環境美化委員会で無言清掃の方法を動画で撮り、学校全体で視聴する。
取り組みの課題・創意工夫『動画』	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除の方法を学校全体で視聴し、統一することで、教員全員で指導することができる。 ・動画は、低学年でも理解しやすい。 ・DVDを各学年に配布することで、担任がいつでも掃除指導に活用することができる。
取組の成果（効果）『トラブルの減少』	<ul style="list-style-type: none"> ・方法を統一することで、掃除道具の扱い方が上手になったり、掃除がスムーズに進むことで、けがやけんかなどのトラブルが減少した。 ・毎月3週目に、「くさつピカピカプロジェクト」を位置づけ、無言清掃ができた人数を集計することで、児童の意識を高めることができた。
今後の展開『当たり前』	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の掃除の様子を小学校でも伝え、卒業後の自分たちの姿を明確にさせる。 ・「中1ギャップ」を無くす一つの手立てとして、無言清掃が当たり前に行える児童を育成したい。 ・来年度、担任がかわっても、掃除指導がスムーズにできるようにするために、教員自身も統一した掃除の方法を理解して、学校全体で同じ指導が毎年できるようにする。
他校へのアドバイス『小中連携』	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の掃除方法を参考に、小学校の掃除方法を定めることで、9年間を見据えた取組になる。 <ul style="list-style-type: none"> →ぞうきんのかけ方やほうきの掃き方 →掃除の手順 ・動画を撮影して、全校一斉で取り組む。 ・委員会を活用する。

- 後ろ向きで「こ」をかくように拭いていく。



- 拭いたところから順番に机を運んでいく。



- 中学校の掃除風景（中学校区の3校が掃除を実際に見学するためお互い学校訪問をした）



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音小学校	校長氏名	三上 正浩	生徒指導主事氏名	別府 正己
取組事例名 『児童会活動（冬の集会）』					
取組のねらい 『キーワード：児童のかかわり』					
<p>○異学年交流を通して、児童がかかわりあいながらコミュニケーションをとったり、協力したりする。</p> <p>○高学年児童は計画やゲームなどの活動を通して、下学年に対しリーダーシップを取り、思いやりの心をもって接する。</p>					
取組の具体的内容 『キーワード：楽しむ』					
<p>冬が始まる時期に、計画委員会（児童会）が主催して、全校児童が寒さを吹き飛ばすための集会をする。具体的な内容は、縦割り集団のクイズ・ゲームラリーで、グループで工夫して多くのコーナーを回り、かかわりあいながらポイント集めを楽しむ。</p> <p>下学年は各学級がクラスに関連したクイズを 2 問考えて掲示する。</p> <p>上学年の各学級は簡単なゲームを計画し運営する。</p> <p>また、各委員会はそれぞれの活動に関するクイズを 2 問考えて掲示する。</p>					
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 60%;">  </div> <div style="width: 35%; text-align: right;"> <p>【下学年が考えたクイズ】</p> </div> </div>					
取組の課題・創意工夫 『キーワード：全員参加』					
<p>児童会活動は、児童が主体となって活動するものである。そこに、縦割り集団の活動を取り入れることで、児童相互の理解を深め、高学年の優しさやリーダーシップをより育てることができる。</p> <p>また、ゲームやクイズを考えるために学級や委員会で話し合いをすることで、全ての児童と教員が企画や運営面でも参加出来るように工夫する。</p> <p>クイズやゲームの内容も学年を指定しており、全員が参加できるように工夫する。</p>					
取組の成果（効果） 『キーワード：生徒指導の三機能』					
<p>この児童会活動を通して上学年児童はリーダーシップを発揮し活動をやりきることで達成感を味わうことができ、下学年児童と接することで優しさや責任感を育むことができた。下学年児童は上学年の態度や行いを見て学び、親近感をより深め、憧れを抱き、規範意識も育っている。これらの活動は生徒指導の三機能を高める活動である。</p> <p>活動は学校生活において異学年児童に親しく声をかける姿が見られたり、放課後一緒に遊ぶところを見かけたりすることができ、児童間の相互認知、相互理解は高まったといえる。</p>					
					
【リーダーを中心にクイズに取り組む】			【ゲームに挑戦中】		

今後の展開『キーワード：規範意識の広がり』

縦割り集団の活動では、児童会集会や全校清掃でも行っており、グループ内の仲間意識は児童の中に定着してきている。今後、リーダーとして活躍してくれた6年生に、在校生が「お別れ集会」でペンダントや歌、演奏のプレゼントする際にも心がこもると考えている。

また、校内にとどまらず地域でも、気軽に声をかけたり、お互いの存在を意識し合ったりすることで、お互いに刺激し合い、規範意識の高まりが期待できる。



【ゲームを運営する側も工夫して楽しそう】



【閉会式の様子(学校長のまとめ)】

他校へのアドバイス『キーワード：ペア』

縦割り集団は、全校一斉だけでなく、ペア学年も活用している。集団の中でも2重の構造をもっており、5・6年のリーダーだけでなく、4年生もサブリーダー的な役割を受けもち、集団をまとめていく力の育成へとつながっている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立八木小学校	校長氏名	宮田 稔	生徒指導主事氏名	原田 宏子
-----	-----------	------	------	----------	-------

取組事例名 『いじめ防止取組強化月間（9月）—児童会が中心となった取組』

取組のねらい 『キーワード 八木小学校をふわふわ言葉でいっぱいにして』

児童会の取組
この学校をやさしい言葉でいっぱいにして、いじめを未然に防ぐ。

取組の具体的内容 『キーワード 取組の見通しを持つ・優しさを具体的な言葉で表す』

児童会が主体となり三つの取組を行った。

①全校児童でやさしい言葉を見つける。（9月～10月初旬）

- ・各クラスで「ちくちく言葉」について考える。
- ・各クラスで「ふわふわ言葉」をたくさん見つける。
- ・クラスを超えて「ふわふわ言葉」を見つける。

②やさしい言葉いっぱいの八木小学校集会を行う。（10月中旬）

- ・「ちくちく言葉」と「ふわふわ言葉」について考えたことや、学校での様子を作文にして発表する。（各学年で1名）
- ・作文発表後、意見交換を行う。



③元気をもらえるようなキャラクターを募集する。（11月）

- ・みんなを和やかにしたり、勇気づけたりする言葉を参考に名前をつけたキャラクターを全校児童に考えてもらい募集する。



- ・応募作品を掲示し、全体で発表する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 全児童・全職員の意識統一』

取組に対する温度差が、クラスや学年により生じたように感じる。取組を提案する時、代表委員会を開くが代表委員が3年生以上のため、低学年に提案理由や活動内容が伝わりにくいことが考えられる。低学年にもしっかり提案理由や活動が伝わるよう代表委員会で工夫をする必要がある。また、全教職員が取組をしっかり把握するため、来年度は代表委員会に低学年の先生が参加するように検討していきたい。

取組の成果（効果）『キーワード 取組の共有』

いじめ未然防止の取組として、児童が主体となる取組を行っている。昨年度は、児童会が中心になって「いじめを防ぐ三つの勇気」を考え、全児童がその勇気について意識できるような取組を行った。今年度は、本校の課題でもあった「人を傷つける言葉の多さ」について児童会で考え、優しい言葉遣いがどのようにしたらできるかを児童会執行部を中心に取組んだ。各クラスの取組みを全体で発表後、意見交換を行った。学年なりに自分の思ったことを全校児童の中で伝え合うことができ、それを聞き合うことは、とても有意義だった。また、児童の発案である「優しさやふわふわ言葉キャラクター」募集は、全児童が一生懸命取り組む要素の一つになった。

今後の展開『キーワード 継続』

9月のいじめ防止月間から取組をスタートし、11月まで継続した。年度末まで活動を継続させるため、児童会行事の中に「ふわふわ言葉でいっぱい」の要素を取り込んでいきたい。1月には児童会行事「八木っ子まつり」があるが、その中でも学年を超え「ふわふわ言葉」を伝え合えるような取組を継続させたい。

他校へのアドバイス『キーワード 児童主体の取組』

児童が主体になった取組は、時間がかかる。しかしながら、児童の思いもよらない発案などにより活動の中で児童の心に残るものが増えてくるように思う。そして、児童自身が自分の言葉で思いを伝え合うことが、お互いの心に響くのだと感じる。一生懸命取り組む上級生の姿を見て、下級生が育っていくような取組を大切にしたい。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立寺西小学校	校長氏名	東田 宏昭	生徒指導主事氏名	植野 勝也
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『あいさつリレー』

取組のねらい『キーワード 自主的なあいさつ』

全校児童に、あいさつを自分からするという状況をつくり、体験させることで、自主的にあいさつをする児童を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 全校児童があいさつ運動にかかわる』

児童会の取組として、朝、校門に立ち、「あいさつ運動」を実施してきた。そこで、その輪を全校に広めていきたいと考え、全校 37 学級が日替わりで、あいさつをアピールするカードをもち、校門に立つという、「あいさつリレー」の取組を実施した。担当学級の児童は、登校してくるとすぐに校門に行き、カードを持って並び、登校してくる児童に声かけをする。担当は 6 年 1 組から始め、高学年から低学年へとリレーしていき、後期前半終了（12 月末）までに全学級が行った。



取組の課題・創意工夫『キーワード 先生方のアイデアで楽しく』

「あいさつリレー」の方法は、各学級で工夫、応用して行うように委ねた。ある学級では、校門で「あいさつリレー」の活動を行った後、「～人にあいさつできるように、校内で頑張りましょう。」と校舎内で声をかけて回ったり、校門まで出てくるのに時間がかかる 1 年生は、廊下で元気なあいさつを響かせたりといった工夫がみられた。また、それぞれの学級で工夫したことを全体で紹介することで、効果のある活動が他の学級へも広がっていった。

取組の成果（効果）『キーワード 相手の立場になる 抵抗がなくなる』

子どもたちがこの取組を通して、先にあいさつをする側に立つことで、「あいさつをすることは気持ちいいことだ。」「あいさつをかえしてくれないといやな気持ちになる。」などに気づき、校内でのあいさつがよく返ってくるようになった。あいさつをすることの抵抗をなくすという面でもたいへん効果のある取組だった。

（以下、児童の日記より）

○わたしは、いつも朝、みんなにあいさつをしていたので、はずかしがらずできました。でも、あいさつをしてもかえしてくれない人もいて、すごくいやな気持ちになったので、これからはあいさつをしようと思いました。

○「おはようございます」わたしは、あいさつリレーのとうばんでした。あいさつをするとあいさつをかえしてくれるのでいいし、さむくなくなってあたたかくなりました。いつもの朝よりもあたたかいので、あいさつリレーのとうばんじゃなくてもいつもやりたいです。（中略）きもちのよいあいさつをする

ことはマナーです。(中略) わたしは守りたいと思いました。わたしは、休みの日でもちいきの人に会ったらかならずあいさつをします。

今後の展開『キーワード より自主的な活動へ』

児童会から具体的なあいさつの姿を全校に提案し、進んであいさつをすることを通して児童同士や地域とのつながりを深めたり、相手を思いやる気持ちを育てたりする活動につなげていきたい。

また、自分たちのあいさつによる成長が実感できるように、地域の方からの話や児童会による全校朝会や掲示物による評価等を取り入れていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 工夫を広げ、評価をする場を』

全校児童が先にあいさつをする側に立つという体験は、自主的なあいさつにつながっていく。担任が学級活動の時間などを活用して、この活動にどのように取り組ませるか、工夫させ、考えさせていくことが、この活動をよりよいものとする鍵となると考える。学校組織としても、これらの工夫を全体に広げる場や、評価をしていく場を積極的に取り入れていきたい。

平成28年 1月18日 中国新聞で紹介されました

西条の寺西小学級ごとにリレー形式

校門あいさつ 地域を元気に

東広島市西条町、寺西小の全校児童がクラスごとの「あいさつリレー」を毎朝、正門前で続けている。昨年10月に始めた運動。氷点下の朝も元気な声が学校周辺に響く。

「おはようございます」。午前7時半、元気な声が次々と響き始めた。15日の当番は6年3組の約30人。白い息を吐き、学校の前を通る住民や中高校生のお兄さん、お姉さんに向かって「おはようございます」。登校して自発的にあいさつでき



きた下級生にあいさつしながらハイタッチする児童も。全学年計37クラス。首から下げた「あいさつリレー」と書いた紙をバトン代わりに翌日の担当クラスに引き継ぐ。児童が地域の人にあいさつでき

た。いずれも6年の金本涼佑君(12)と加登彩香さん(11)は「あいさつが返ってくるとうれしい。大きな声で呼び掛けられるようになった」と話していた。(森岡恭子)

登校する児童に並んであいさつする6年生

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立高美が丘小学校	校長氏名	澤田 直哉	生徒指導主事氏名	中山 佳代
-----	--------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『めざせ あいさつ レベル4』

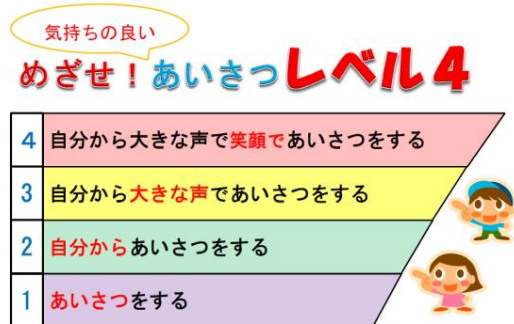
取組のねらい『児童全員の挨拶意識の向上』

より良い学校生活を送るために、「高美っ子めあて」の重点目標の一つである「あいさつ」についての取組を学校全体で行い挨拶が進んでできる児童を増やすことで、自主的・実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『呼びかけ合う挨拶運動』

○児童会による朝の挨拶運動

- ・児童会役員児童が毎朝校門と玄関前に立ち挨拶を行っている。
- ・登校してくる児童の顔を見て「自分から大きな声で笑顔で」の「あいさつレベル4」を意識して挨拶をしている。
- ・毎月、中学校の先生が児童会役員児童と一緒に挨拶を行い、中学校の先生の感想を聞き、お昼の放送で紹介している。



<あいさつレベルの指標>

○学年で工夫して行う「あいさつを広げようキャンペーン」

- ・学年が担当する月の中で1週間程、学年で挨拶を頑張れるような方法を考えて挨拶が増えていくように取組を行っている。

6 学年	6 月	最高のあいさつを!
5 学年	9 月	あいさつの花を咲かせよう。
4 学年	10 月	みんなにあいさつしよう。
3 学年	11 月	あいさつ名人見つけた!
2 学年	1 月	あいさつ名人大集合!
1 学年	2 月	パワフルあいさつ



○全校朝会「高美っ子めあて」～挨拶編～

- ・月初めに、学年や教師がその月の「高美っ子めあて」を紹介しみんなを守ろうと呼びかけている。「挨拶はなぜするのか」「どんな挨拶をめざすのか」話し合ったり、いろいろな挨拶を比較して練習し合ったりして全体で意識していくようにしている。

○生活アンケート

- ・年間3回の生活について14項目のアンケートを取り、児童の意識状況をとらえ、取組や指導に生かした。

挨拶項目と指標：「すすんであいさつはできていますか」（90%以上）
 「あなたのあいさつレベルは、何ですか」
 （レベル3以上90%以上）



取組の課題・創意工夫『相手に伝わる挨拶に』

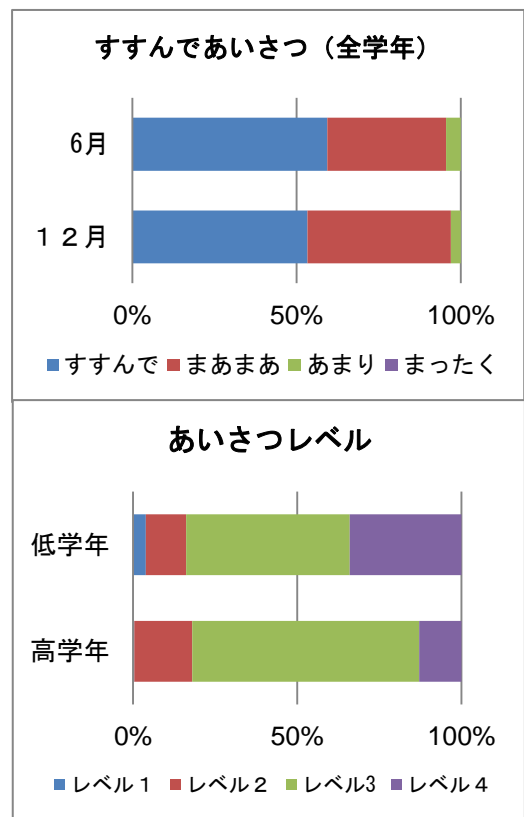
生活アンケートの結果から、ほとんどの児童が「進んで挨拶ができる」と答えている。しかし、日常の挨拶は教師や保護者・地域からの意見を聞くと、まだ十分できているとは言えない状況が見られる。挨拶をされたら挨拶を返すことはだいたいできるが、自分の挨拶の仕方に甘んじて、客観的に見る事ができていないことが課題である。そのために、児童同士での挨拶の機会を増やし意見を述べてもらうために「あいさつキャンペーン」等を取り入れた。お互いが気持ちのよい挨拶を意識し合うことをねらった。

取組の成果（効果）『笑顔で挨拶 上昇中』

生活アンケートの結果から、全校で挨拶に取り組むことで、「進んで挨拶ができる」と答える児童は96%に増えた。登校時に児童会役員が元気に挨拶をして呼びかける姿が全体の良い見本となり全学年に良い影響を与えている。また、中学校の先生方からの意見や感想は、児童全体の励みとなり、児童会役員児童の達成感にもなっている。さらに、各学年の挨拶の取組を学年で考えることで自主性が育ち、児童同士が挨拶をし合い、挨拶をした相手の返し方を見ることで自分の挨拶を意識し、より良い挨拶をしようとする向上心も育ってきていると考える。しかし、挨拶がでにくい児童が固定化している傾向があるので、個への取組が必要である。

学年別に見ると、学年が上がるにつれて「進んで挨拶することがまあまあできている」が増え、あいさつレベルでは「自分から大きな声で挨拶をするーあいさつレベル3」が増える傾向が見られる。つまり、学年が上がるにつれて、レベル4よりレベル3が増えている状況がある。

本校がめざす「あいさつレベル4」は、「笑顔で」がキーワードである。「笑顔で挨拶することは気持ちを込めること」を1月に全校に呼びかけて取組を進めている。



今後の展開『高美っ子の笑顔の挨拶』

本校がこれからめざす挨拶として、「レベル4」の挨拶の内容の中で、さらに「自然にできる挨拶」を目指したいと考える。気持ちのこもった挨拶が自然にできて、「笑顔の挨拶」が広がることが「高美っ子の挨拶」である。「笑顔の挨拶」が心からできるよう、日々人間性を育て、高美が丘小学校の挨拶がこれからもより学校から地域へと伝わっていくようにしていきたい。

他校へのアドバイス『挨拶が自分からできるように仕組む』

挨拶ができるということについて、つい態度面でできることにとらわれがちである。まず、教師や高学年や地域が模範を見せ、それができるように進めていくことはもちろんではあるが、自主性や実践を促す場を教師が仕組み評価をしていくことや、態度面だけでなく心理面を育てていくことが大切だと考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立郷田小学校	校長氏名	東 克則	生徒指導主事氏名	西宮 利三
-----	------------	------	------	----------	-------

取組事例名 『キラキラカード』

取組のねらい 『笑顔のあふれる学校』

- ・ 友達の良さを見つけてキラキラカードに書く活動を通じ、お互いを認め合い、学び合う人間関係を築く。
- ・ 自らもより良くなるうとする態度を育てる。
- ・ 「東広島いじめゼロ宣言」を具現化する。

取組の具体的内容 『全校児童 キラキラサイクル』 『児童会 やりきる』

- | | |
|---|---|
| ① 児童会
↓
② 児童会
③ 全校児童
④ 全校児童
⑤ 児童会
↓
⑥ 全校児童
⑦
○ 児童会 | 計画 ・年 2 回(6 月～7 月・1 月～2 月)「いじめ・体罰アンケート」とリンクさせて実施する。
・キラキラカードを書いてもらい、集約する。
・目標枚数を設定する。(前期 500 枚・後期 600 枚)
準備 ・学年カラーのキラキラカード・教室掲示用呼びかけ文・キラキラポストなど
② 児童会 全校放送で、全校児童に呼びかけた後、呼びかけ文を持って各教室を回り、直接呼びかける。
③ 全校児童 キラキラ(友達の良いところ・してもらってうれしかったこと・いいなと思う言葉)を見つける。
④ 全校児童 キラキラをカードに書いて「キラキラポスト」に入れる。
⑤ 児童会 給食準備時間に毎日枚数を数え、特設の掲示板に掲示する。(放送カード専用掲示板を用意)
その日に集まったカードの中から、望ましい内容のカードを数枚選んで給食時に放送する。
放送の最後に一言コメントをつける。
⑥ 全校児童 掲示してあるキラキラカードを読む。
⑦ ③に戻る。
○ 児童会 キラキラ月間終了後、全校朝会で集まった枚数を報告、自分達の感想や意見を発表する。 |
|---|---|

取組の課題・創意工夫 『多様性』 『横に縦に』 『数も質も』

- 『多様性』
- ・ 「良さ」が偏ることを防ぐために、できるだけ毎日違うキラキラが書いてあるカードを選んで放送し「良さ」の多様性に気付かせる。
- 『横に縦に』
- ・ 同じ学級・学年だけでなく、違う学年の友達のことを書くように、児童会が放送で呼びかけたり、教職員が直接アドバイスしたりすることで、異学年との交流を深める。
- 『数も質も』
- ・ キラキラをたくさん見つけたことも、内容の良さも、毎日の放送を通じて、両方を認める。

取組の成果(効果) 『キラキラの連鎖』 『一目瞭然』 『自主的に』

- 『キラキラの連鎖』
- ・ キラキラカードを書いている児童も、書いてもらった児童も笑顔である。
 - ・ 友達の「キラキラ」をまねようとするのが、思いやりのある行動につながっている。
 - ・ 「キラキラ」の種類が多様になり、さらに進化した「キラキラ」が見られるようになった。
- 『一目瞭然』
- ・ 掲示自体が評価になり、キラキラカードを書こうという意欲につながった。
 - ・ キラキラカードの色を学年ごとに変えたことが、学級や学年の連帯感をもつことにつながった。
- 『自主的に』
- ・ やるべきことがシンプルではっきりしているので、児童会をはじめ、全校児童も自主的に活動できた。

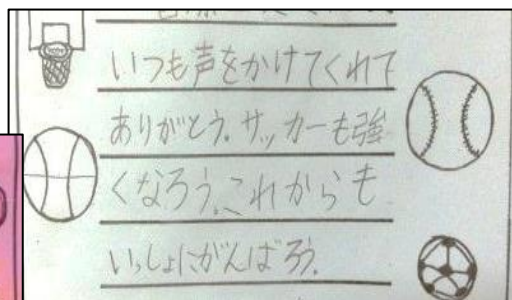
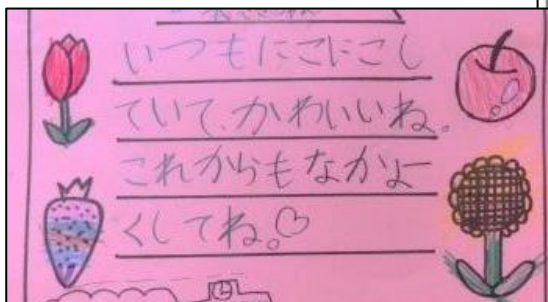
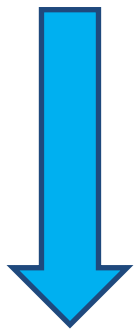
今後の展開 『笑顔を自信に』

- ・ 「良さを見つけられる自分」「良さを見つけてもらった自分」を自覚させ、自信につなげていく。
- ・ 友達の「キラキラ」を真似、友達とのつながりを意識した行動ができるように発展させる。

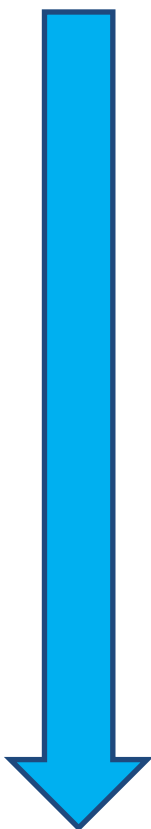
他校へのアドバイス 『シンプル』

- ・ 自分のやるべきことがはっきり分かっているシンプルな活動にする。
- ・ 児童が無理なく続けられる活動にする。
- ・ 誰もが「喜び」や「達成感」を感じることができ、「やってよかった」と思える活動にする。

キラキラカード
【〇〇さんへ・〇〇より】



キラキラカードの掲示・放送



全校への報告



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	校長氏名	松江 都志美	生徒指導主事氏名	永山 英治
-----	-------------	------	--------	----------	-------

取組事例名	『たて班掃除』
--------------	---------

取組のねらい『6年生の自己有用感を高める』

異年齢集団による「たて班掃除」の活動を通して、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。

とりわけ6年生が5年生以下の児童らを、「たて班掃除」の活動を通して評価し指導することで、6年生の自己有用感を高める。

取組の具体的内容『日常的な異年齢集団活動の設定』

生徒指導部で全校児童を80班にわけ、同じ組の担任で構成した組会を通して各班の構成員を吟味し、班構成を最適化し、校内に80箇所の掃除場所を設定した。

教職員が指導を担当する場所を適切に割り当て、問題行動をとることが予想される児童を担当する教職員を相性などに考慮し優先して決定した。

運営委員会（児童会）の主導により、たて班掃除のオリエンテーションの計画と運営を行った。

掃除の時間は、開始時に点呼し、10分間掃除を行った後、班毎に集合し、5分間で掃除の状況について自己評価する。各班の班長（6年生児童）が班員を指導し、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価する。毎週末に、班長はMVPを1名選定する。

美化委員会が主導し、毎月末に、各班の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、毎月児童朝会の時間に表彰する。

掃除場所は2ヶ月間固定する。

取組の課題・創意工夫『意図的な肯定的評価（適切に計画的に褒める）』
--

各班の構成員の自尊感情を高めるために、教職員が肯定的な評価を意図的に計画的に行う。まず、評価する児童を決め、よく観察し、具体的な好ましい言動に対して適切なタイミングで周囲に分かるように価値付けしたキーワードで褒める。

また、6年生の自己有用感を高めるために、5年生以下の児童が、6年生に憧れを抱いたり、尊敬したりすることができるように6年生や他の班員に対する肯定的な言葉のかけ方を工夫した。

取組の成果（効果）『異年齢集団活動（たて班掃除）で6年生の自己有用感が高まる。』

同じ組の担任で構成した組会を組織し、協議する体制をとることで、各班構成を最適化できた。また、今後の縦割り班による多様な活動を展開する素地ができた。

担当する学年以外の児童を指導する機会を持つことで、他学年の児童の様子を知ることができ、児童理解が深まった。また、教職員が協力して全児童を指導しようとする機運が醸成されつつある。

問題行動をとることが予想される児童を担当する教職員を児童と教職員との相性や信頼関係の深さなどを考慮し優先して決定することで、問題行動をある程度予防する体制を整えることができた。

運営委員会（児童会）のメンバーに、たて班掃除の意義と目標を理解させる時間を十分に確保することで、児童が自主的な指導・判断に基づく集団活動が展開できるように援助することができた。その結果たて班掃除の全児童に対するオリエンテーションの計画と運営を運営委員会が主導し、運営委員会のメンバーが運営に対して成就感・充実感・満足感を持つことができたと考える。

掃除の時間には、まず10分間掃除を行った後、班毎に集合し、残り5分間で各班の掃除の取組につ

いて自己評価した。各班の班長（6年生児童）が班員を指導したり、毎日の掃除に対する班の取組状況について評価したり、週末に、班長がMVPを1名選定したりすることで、班長の自己有用感を高める機会をつくることができた。

さらに、美化委員会が主導し、毎月末に、各班の評価とMVPの状況について集計を行い、優秀班とMVPを決定し、毎月児童朝会の時間に表彰することで、美化委員会のメンバーの自己有用感を高めることができた。また、表彰を通して、児童らの掃除に対する意欲を高め、所属するたて班における豊かな人間関係の構築につながったと考える。

【運営委員会によるオリエンテーション】



【たて班掃除に対する感想（6年生児童）】

わたしの思う、たて班の役割は、2つあります。
 1つ目は、下級生を育てることです。また自分も成長することです。例えば、1～5年生にたくさんおこるわりには、自分自身は、たくさんしゃべってたりそうじをしないようであれば、6年生らしくもないし、6年生がリーダーをする意味がないと思うからです。
 2つ目は、違う学年とも、交流を深めていくことです。同じ学年と話すだけでなく今のそうじのしかたでも問題はないと思います。たてわり班なりの交流のしかたがあると思います。
 この二つのことは、わたしは、とても大事なことで、これを心がけることにより、たて班の意味が変わってくるのではないのでしょうか。
 たて班掃除の意味が完璧に分かっていますね、とても楽しみです。

今後の展開『異年齢集団活動の多様化』

異年齢集団による「たて班」活動を多様に展開することで、さらに、異年齢の児童らが日常的にかかわり、導きあうことで、好ましい人間関係を育て、集団への所属感を深め、自主性と社会性を養い、異年齢集団による活動に対する意欲や態度を養う。6年生が5年生以下の児童を多様な「たて班」活動を通して評価し指導することで、6年生の自己有用感を日常的に高める機会を設定する。

他校へのアドバイス『活動を展開する際にはデメリットも丁寧に語る』

異年齢集団による掃除活動を計画し実施するまでに1学期間を費やした。既存の枠組が変化することに対して教職員に不安を与えたことが、その大きな要因と考える。

新規の活動を立ち上げるためには、デメリットについても丁寧に説明した上で、最終的にはメリットがデメリットを上回ることをしっかり語ることと、丁寧な根回しが大切だと改めて実感した。

○事後の取組

- ・児童会だよりを全教職員と各クラスに配布する。
- ・よかったことについては給食時間の放送で紹介する。
- ・気になっていることや困っていることは、児童会から各クラスに連絡し、解決をしていく。

◎縦割り班活動



○無言清掃

- ・全学年の縦割り班で、5つの約束（バンダナを付ける。無言で掃除をする。時間いっぱいまでする。自分の役割を果たす。片付けをする。）について、やり切ることを目標に掃除をする。
- ・6年生のリーダーを中心に毎日振り返り、そうじ点検表に記録し、次の日につなげる。

○リーダーによる絵本の読み聞かせ。（毎週水曜日）

取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底』

- ・生活目標を考えることはできたが、日々の生活の中で、全ての児童が、意識して行動できていない。
- ・縦割り班清掃で、肯定的評価は高かったが、リーダーが真面目に取り組まなかったり、リーダー以外の高学年が遊んだりしているグループがある。
- ・中学校とあいさつ運動の交流をすることにより、「先輩たちのあいさつは声が大きくてすごかった。」「礼がそろっていてよかった。」「先輩たちのまねをしたい。」という感想を持っていた。

取組の成果（効果）『キーワード 自覚と習慣化』

- ・毎月、学級委員会を開くことによって、学級会活動で話し合いを持ち、自分たちの生活を考えるようになってきた。
- ・縦割り班そうじで5つの約束を守れた児童の割合は、平均すると85%であった。児童の反省では肯定的評価をしている児童が85%いた。また、リーダーの自覚を持って行動する児童が増えてきた。

今後の展開『キーワード 継続と発展』

- ・学級会活動で自分たちの生活を見直すことができたり、縦割り班活動を取り入れることによってリーダーが育ってきたりしている。この取組を継続し、さらに学級会活動を活発にし、学校生活をより良くしたり、リーダーが主体的に活動したりするような取組をしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 主体性の育成』

- ・リーダーや児童会役員などと、どのような活動にしていくか話し合い、考えさせることによって主体性が育成される。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中小学校	校長氏名	池田 哲哉	生徒指導主事氏名	中國 達彬
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『児童会活動 スタート時期の指導 ～児童会役員への指導を中心に～』

取組のねらい『キーワード・・・教師主導から児童主導へ』

これまで本校の各児童会活動については、教師主導型の活動が多く、児童が主体的に動く機会（場、活動）を十分につくることができていなかった。その結果、全校児童（児童会役員を含めて）の児童会活動への関心は低く、各児童会活動を通して児童の「主体性」や「自治的活動への意欲」を十分に育てることができていなかった。そこで今年度は、「児童が主体的に活動できる場をつくること」を目標（ねらい）とし、教師がその目標を念頭に置きながら指導を継続することとした。

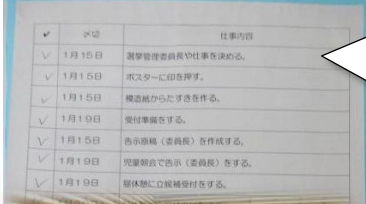
取組の具体的内容『キーワード・・・PDCAサイクル』

「児童が主体的に活動できる場をつくる」ことを目標に、児童会役員が選出された直後（2月中旬）から次のような手立てを講じた。特に児童の動きに「PDCAサイクル」が生まれるように留意した。

- ①スケジュール表（ホワイトボード）を制作する。【P】
- ②各取組について「担当者」「〆切」を決める（スケジュール表を使って各進捗状況を可視化する）。
また、すべきことの詳細は「ToDoリスト化」することで作業漏れを未然に防ぐことができた。【P】
- ③活動場面では極力教師からの介入を避ける。介入（助言）はできるだけ活動前後にまとめて行う。【D】
- ④活動ごとに“教師→児童”“児童→児童”の「評価する場（褒める場）」を設定する。【C】
- ⑤次の活動に向けた話し合いの際に、話し合い（議論）の具体的な方法について指導する。【A】



スケジュール表を使って行事や〆切、進捗状況を可視化しています。



スケジュール表と併せて「To Doリスト」を作成し、各活動の進捗状況を確認しています。



（特に初期段階は）各活動後に「肯定的に評価し合う場」を設定しました。

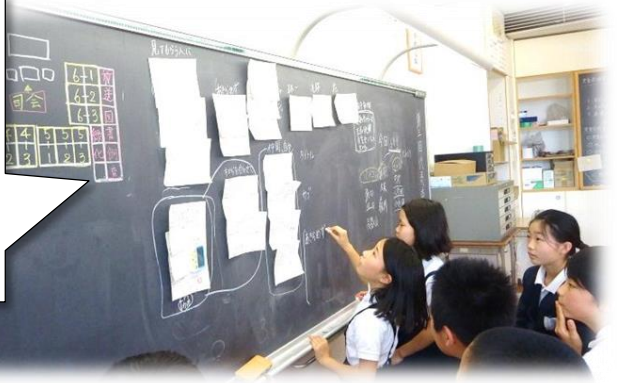
取組の課題・創意工夫『キーワード・・・教師の介入方法』

課題①「アイデアの出し方」や「意見のまとめ方」といった話し合いの形式自体に慣れていないため、どうしても教師が介入せざるを得ない状況が（頻繁に）生まれた。

創意工夫①

初期段階においては、積極的に介入することにした。司会原稿（手本）を提示したり、「ブレインストーミング」「KJ法」といった方法を教えたりと、技術的な側面は積極的に指導した。

※写真は「KJ法」を使って問題を解決している場面



課題②児童から意欲的にアイデアが出されることもあったが、校内体制の中で実現不可能になってしまうことが多く、「アイデアを出してもどうせ無駄なのは…」という雰囲気生まれた。

創意工夫②

校内体制を踏まえたうえであらかじめ条件（時間・期間、場所、使える物など）を提示しておく。



創意工夫②

方法論で行き詰まった場合には、常に目的（＝児童会目標）にかえらせる。

「そもそもあなたたちは〇〇がしたいわけではなく、■■な学校が作りたいたいわけですね。〇〇以外でできることを考えましょう。」

※写真は児童会目標が完成した後の場面

取組の成果（効果）『キーワード・・・主体的な活動→自信→さらなる意欲』

- ①児童が主体的・協働的に動く姿が増えた。「ゴール」とそれに対する「役割」「方法」が明確になることで、児童は一つひとつ教師から助言や確認を得なくても自分たちの判断で物事を動かすことができるようになった。
- ②活動ごとに「評価する場」を設定したことで、児童に児童会役員としての手応えや自信をもたせることができた。そして、こうした手応えや自信が、次の活動へのさらなる意欲にもつながった。



2学期になると、各活動も教師の介入なく進めることができるようになりました。



運動会では、児童会役員のアイデアにより、保護者・地域の方からのメッセージを掲示する「メッセージボード」を作成しました。

今後の展開『キーワード・・・スタート時期も児童主体の動きを』

- ①旧児童会役員と新児童会役員とがいっしょに活動する期間を約1ヶ月間（2月中旬～3月中旬）設け、その間に児童会役員としてのノウハウ（仕事や話し合いの技術など）を児童から児童へと直接引き継いでいけるようにする。
- ②旧児童会役員に対して、1年間の児童会活動を振り返っての「成果」「課題」をまとめさせておく。そして、児童にとっても、教員にとっても、より効率的で充実感・達成感を感じられるような児童会活動をめざす。

他校へのアドバイス『キーワード・・・教師の仕事は、「仕掛けること」と「評価すること』

「教師の主な仕事は仕掛けをつくること、そして評価すること」という意識で取り組みました。これまではPDCAサイクルの中でも、「D」や「A」に重点を置いて指導してきましたが、今年は（特に初期段階は）「P」と「C」を大切にしながら取組を進めてきました。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立三和中学校	校長氏名	出廣 久司	生徒指導主事氏名	江島 太士
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『自主性を育てる生徒会活動の取組』

取組のねらい『キーワード 自治的な活動 自発的な活動』

- ① 計画的な点検活動などの自治的な活動により、生徒が自分たちの力でまわりを守り、安心して生活できる環境づくりをすることができる。
- ② 様々なボランティア活動を仕組むことで、生徒が自発的に貢献しようとする意識を高める。
- ③ 点検活動やボランティア活動を通して、生徒が自分で考え、判断し、行動できるような自主的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード 計画的な点検活動、ボランティア活動、評価・表彰活動』

1年間を通じて計画的に各委員会が点検活動やボランティア活動を実施し、評価・表彰する。

- <点検活動>
- 学級委員会…着ベル点検（1、2）・発言点検（全員発言）・授業点検・号令点検・授業点検・朝会集合点検
 - 生活・保健委員会…健康観察簿点検・容儀点検・名札点検・遅刻点検・ロッカー点検・セーター袖だし点検・換気点検
 - 美化・図書委員会…早朝清掃ボランティアの実施・牛乳パックゴミ点検・ゴミ捨てマナー点検・机の落書き点検・ゴミの取り残し点検・朝読点検
 - 給食委員会…残食点検・12:55いただきます点検・ナフキン点検・エプロン点検
 - ① 各委員会が学級に呼びかけ、それぞれの優秀学級をペナントで表彰する。
 - ② 前期、後期を通じて優秀だったクラスをそれぞれの学期の最後に表彰する。

- <生徒会主体の主なボランティア活動>
- 挨拶運動・早朝清掃ボランティア…毎週1回早朝挨拶運動や早朝清掃を行う。
 - 地域清掃ボランティア…地域に出でいき、ゴミ拾いや清掃をする。
 - 緑化ボランティア…プランターに、花を植えて、校内を飾る。卒業式、入学式に飾れるように取り組む。
 - 校歌ボランティア…朝会するとき、校歌を執行部と一緒に歌う
 - その他…体育祭や文化祭などでもボランティアを募る。
 - ① ボランティアカードでの表彰をする。
 - ② 前期、後期の学期ごとにボランティアにもっともよく参加したクラスを表彰する。



早朝清掃ボランティア



挨拶運動ボランティア



点検結果の掲示



地域清掃ボランティア

取組の課題・創意工夫『キーワード 日常的な活動へ』

- <取組の創意工夫>
- ① サプライズの点検を取り入れる、長期的な期間の集計による表彰を行う。
取組がその時だけの単発的な活動に終わらないようにすることで日常的に取り組めるようにする。
 - ② 評価を工夫する。
評価は、できている生徒の姿や頑張っている姿を必ず評価し伝える。ペナント表彰をする。ペナントは原則絶対評価とし、各クラスがペナントを目標にできるようにする。(ペナント10枚で大ペナント1枚)



【ペナント】



【表彰の様子】

月ごとの集計を比較し校内掲示するとともに、朝会や集会で表彰することによって、単なる競争ではなく、全校で達成感を持つことができるようにする。

③ 発展的に点検活動を行う。

着ベル点検において点検項目を「全員が着ベルできる」から「全員が授業道具を机の上に準備して着ベルができる」に発展させることで、点検活動のレベルアップを図り、発展的な活動にしていく。

④ 各分掌と連携し、取組を行う。

あいさつ運動ボランティアにおいて、生徒指導部の登校指導と一緒にするなど、各分掌の取組と活動を相互的、総合的、計画的に組み込んでいくことで各活動がより効果的に行うことができるようにする。

<取組の課題>

① 点検の意味をはっきりさせずに活動を行うと点検の効果が少ない。

② 点検活動やボランティア活動を下ろすだけの委員会に終わらないようリーダーを育てる委員会として機能するよう指導の工夫が必要である。

取組の成果（効果）『キーワード 意識や意欲の向上』

① 点検活動を生徒自らが行うことで、違反者を減らすだけでなく、正義を生徒が生徒に伝えることができ、生徒の力で学校を良くしていこうという意識の向上につながった。

② 生徒が点検項目を発展させていくことで、クラスで意欲的に取り組む姿が見られるとともに、生徒自らが学校や生活の環境をさらに向上させていこうとする意識の向上につながった。

③ ただの点検にとどまらず、進歩率を表にし、全学年の掲示板に貼りだしたり、朝会や集会で点検結果やボランティア参加者を報告したりすることで、三和中学校の成長を生徒と教員が共有することができ、全体で成果を共有し、次の活動への意欲につながるるとともに、行事間のつながりや分掌間の連携など、その後の生徒指導や分掌の取組に活かすことができるようになった。

④ ボランティア活動に自主的に参加する生徒が増加するとともに、部活動や学級での参加が見られるようになり、生徒のボランティアに対する意識の高まりが見られるようになった。また、校内のゴミの減少や挨拶できる生徒が増加するなど、三和中学校のマナー向上が見られるようになった。

今後の展開『キーワード 主体的な取組へ』

① 今年度の活動や成果を引き継ぐとともに、点検活動やボランティア活動を見直し、各委員会で生徒の意見を取り入れ、点検活動をさらに発展させていく。

② 各委員会で生徒の意見を取り入れ、生徒自らが主体的に取り組んでいけるようにし、リーダーを育てる委員会として機能するよう指導を工夫していく。

③ 点検のときだけではなく、日常的に活動ができるようにしていく。

④ 各分掌間で連携し、計画的、組織的に行うことで、効果的な取組にしていく。

他校へのアドバイス『キーワード 組織的な取組』

① 「点検活動をなぜ行うのか」という活動の目的を生徒や教職員が確認し、取組を行う。

② 点検を通じて、生徒に「頑張ることによって成果が出た」「取り組むことによって学校が変わってきた」ということを実感させ、次への意欲づけをさせる。

③ 生徒の成果を子どもが実感できるよう、教職員で組織的に取組を行う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立戸坂中学校	校長氏名	丹 孝子	生徒指導主事氏名	奥村 聡
-----	-----------	------	------	----------	------

取組事例名 『生徒の主体的な活動を取り入れた合唱コンクール』

取組のねらい 『キーワード 文化祭を成功させよう』

落ち着いた雰囲気の中で文化祭に臨み、他学年や他クラスの発表を静かに聞くことができる鑑賞態度を身につけさせる。

取組の具体的内容 『キーワード グッドマナー・ベストマナー』

文化祭の行われる 1 週間（10/5～10/9）、着ベル・身だしなみの 2 点に関して生徒会が中心になってチェックを行う。

- 着ベル点検 - 代議員会（各クラスの代議員が点検する）
 点検時間… 1 時間目開始時～ 6 時間目開始時まで。文化祭のステージ発表の部においては、全 3 回の休憩終了後に行う。
 点検基準…ベルが鳴り始めた時点で席についていない人、授業道具を出していない人は違反とする。
 授業中に係の仕事（集配・黒板等）を行った場合も違反とする。
 集計方法…その日の着ベル点検結果は、その日の 6 時間目の終了直後に代議員が点検表（事務室前）に記入する。

- 身だしなみ点検 - 保健体育委員会（各クラスの保健体育委員が点検する）
 点検時間…朝学活。文化祭のステージ発表の日は、開会式の前に一斉に行う。
 点検基準…① 上靴（下靴）をきちんと履いている。
 ② 名札が付いている。
 ③ シャツが入っており、ボタンがとまっている。（夏服）
 上着・シャツのボタンがきちんととまっている。（冬服）
 ※ 移行期間のため、冬服・夏服の基準に従う。
 集計方法…その日の身だしなみ点検結果は、その日の 6 時間目の終了直後に保健体育委員が点検表（事務室前）に記入する。

- 表彰…文化祭を含めた 5 日間の合計で評価する。各点検において基準を設け、点検の結果基準値をクリアしたクラスを「グッドマナー賞」として表彰する。また、5 日間の中で、着ベル・身だしなみ違反が「0（ゼロ）」（最も少ない）のクラスを「ベストマナー賞」として表彰する。



表彰式



『グッドマナー賞・ベストマナー賞』表彰

取組の課題・創意工夫『キーワード すべての委員会で文化祭を』

各委員会が文化祭にそれぞれ主体的に取り組めるように、役割分担した。時間を守る意図の着ベルは代議員会、容儀を整える意図の身だしなみは保健体育委員会、文化祭会場を含めた美化整備は美化委員会、というようにそれぞれの委員会ごとに分けた。

点検活動においては、概ね委員会の生徒が判断したが、いくつかのケースで判断をできないことがあり、担任や教科担任の手助けが必要であった。また、身だしなみの点検においては、遅刻者の扱いの判断に迷う部分があったので、今後はあらかじめ明確にしておく必要がある。

取組の成果（効果）『キーワード 生徒同士の働きかけ』

合唱コンクール当日、休憩後の集合・着席が委員会を中心とした生徒の声かけにより比較的スムーズにできた。ほとんどのクラスで、代議員が中心となり生徒同士の積極的な働きかけができていた。時間を守ることについては、多くの生徒が意識し、努力していた。また、身だしなみを整えることについては、最初の呼びかけから最終目標をステージ発表のステージ上であることを意識させ、クラスの中の生徒同士がお互いを点検し合っていていけない生徒に声をかけるといった、生徒同士の働きかけができていた。

今後の展開『キーワード 全校が集合する場面を大切に』

学校生活における様々な集合の場面、特にPTCや犯罪防止教室、全校朝会等全校が集合する場面を大切に、取組が活かされるようにしていきたい。教員主導ではなく生徒からの呼びかけで今まで以上に、全体が意識して動いていけるようにしていきたい。また、学年集会など、学年ごとに集まる機会も同様に、身だしなみを正すことも含めて生徒による呼びかけを中心に、進めていけるようにしていきたい。

3年生は卒業式を、1・2年生は修了式を今年度のゴールととらえ、達成感を感じることができるようになりたい。

他校へのアドバイス『キーワード ゴールを意識した取り組み』

本校では「文化祭のステージ発表をいかに良いものにするか」という発想からこの取り組みが始まった。当日は学校を離れ、公共施設を借りての実施であるため、どうしても生徒の意識の中にお祭り気分が生じ、身だしなみや時間厳守については、当日だけでなく、1週間前からの意識付けが必要であると考えて取組を始めた。取組期間からすでにコンクールが始まっているという意識を持った生徒が多数おり、しっかりゴールを意識させたのは良かったと思っている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立高美が丘中学校	校長氏名	脇坂 治海	生徒指導主事氏名	佐藤 豊
-----	--------------	------	-------	----------	------

取組事例名 『生徒会の企画によるロッカー・机・椅子チェック』

取組のねらい『キーワード 自主的・自発的・自治的な活動・集団活動』

・生活三訓（挨拶・時間厳守・整理整頓）の整理整頓について、生徒会が企画立案し、生徒に提案し取り組むことで生徒一人一人が自主的・自発的に集団生活や生活環境の向上にむけて具体的な行動をすることができるようにする。

取組の具体的内容『キーワード 生徒会主体・ロッカー・机・椅子チェック』

- ・生徒会執行部が公約に基づいて企画立案する。
- ・生徒三訓の整理整頓に注目し、放課後のロッカー・机・椅子の整理整頓に取組をしぼって実施する。
- ・『美（be）・高美「物を探す時間」を「物を使う時間」に』をキャッチフレーズに決定し実施する。
- ・毎週火曜日と金曜日の放課後に、生徒会が各教室をまわってチェックを実施する。
- ・各クラスの意欲が高まるよう、チェックの結果は、生徒玄関に掲示するとともに生徒朝会で報告する。
- ・実施の前には、生徒朝会において生徒会長より取組の目的や概要、実施方法、具体的な整理整頓の方法について説明する。
- ・常に確認できるよう、整理整頓の方法について写真入で各クラスに掲示する。



美（be）・高美 「物を探す時間」を「物を使う時間」に

学校に置いて帰ってよいもの（1年）

国語	教科書、ノート、学習漢字、 二百字帳 以外すべて。
社会	ワークブック、資料集。
数学	ファイル、レスキューファイル。
理科	ファイル、資料集。
音楽	教科書、器楽の教科書、ファイル、合唱曲集、リコーダー（実技テストのときは持って帰って練習します）。
保健体育	図解体育、ファイル、帽子、 保健教科書、保健ワーク。
技術家庭	教科書、ノート、ファイル。
美術	教科書、資料集、ファイル。
英語	辞書。



『ロッカー』
①縦向きで整理整頓。
②「学校において帰ってよいもの」以外は持ち帰る。
『移動教室や放課後の教室』
①椅子は机に入れ、縦横をそろえる。
②机の上に教科書などを出さなければいけない。





取組の課題・創意工夫『キーワード 徹底・継続・評価』

- 【課題】
- ・3年生が生徒会活動から引退後の取組となった為、3年生は他の学年に比べて取組に対する意識を高めることができていない。結果として、特に3年生では徹底できていない。
 - ・生徒会としてはじめての取組であるが、今後、どのように取組を継続していくのか、またどのようにして生徒の整理整頓に対する意識を継続させ定着させるのかについて検討が必要である。
 - ・生徒会活動と各教科等とを関連づけて実施することはできていない。

【創意工夫】

- ・各クラスの評価としてチェックの結果が分かるように生徒玄関に掲示。また生徒朝会においても報告する。
- ・個別の指導に関しては、チェックの結果を各担任等に報告し、整理整頓ができにくい生徒に対して教職員も支援する。

年月日	机				椅子				ロッカー				ロッカー鍵			
	机	椅子	ロッカー	ロッカー鍵	机	椅子	ロッカー	ロッカー鍵	机	椅子	ロッカー	ロッカー鍵	机	椅子	ロッカー	ロッカー鍵
1-1	Δ	Δ	Δ	Δ												
1-2	Δ	Δ	Δ	Δ												
2-1	Δ	Δ	Δ	Δ												
2-2	Δ	Δ	Δ	Δ												
3-1	X	X	X	Δ												
3-2	X	X	X	Δ												

取組の成果（効果）『キーワード 主体的』

- ・生徒会が企画した生徒主体の取組となっていることで、生徒自身の意識が高まり、お互いに声をかけ注意しあうなどの変化が見られた。
- ・取組の様子を学年通信やPTA 総務委員会などを通して情報発信することで、家庭の理解や協力を得ることもできた。

今後の展開『キーワード 発展・自治的な活動・集団活動』

- ・生徒会執行部はもとより、生徒自身が学校生活を通して課題を見つけ、改善していくことができるよう生徒会活動を中心とした生徒が主体となった自治的な活動や学校行事などの集団活動を発展させ充実させていく。また、そういった活動を通して、生徒一人一人に、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てていく。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒会活動の充実』

- ・教職員の指導による取組だと、“やらされている感”の強くなりがちな取組も、生徒会が中心となって主体的に取り組むことでより多くの生徒の取組に対する意識を高めることができた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立久保中学校	校長氏名	利田 亨次	生徒指導主事氏名	得能 彩子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『縦割り掃除』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感の向上』

- ・生徒による自発的, 自治的な活動を通して, 達成感や自信をもたせる。
- ・主体的に学校づくりに参加し, 学校の一員としての意識や責任感を養う。

取組の具体的内容 『キーワード 自己決定の場を与える』

- ① リーダー会を開催し, 縦割り掃除の意義づけや, 班決めを行う。
1・2学期は3年生がリーダー, 3学期は2年生がリーダーとなる。班は10～12名とし, 16班作成する。
- ② 全校でオリエンテーションを実施する。リーダーからの決意表明や, 取組方法を確認する。その後, 各班に分かれてのミーティングを行う。
- ③ 掃除の初めと終わりには, リーダーを中心に必ず班でミーティングを行う。掃除方法や, 班員の掃除分担などは生徒同士で話し合いをさせて決定, 実施する。また, リーダーと担当教員が相談し, 掃除に遅刻してきた生徒への対応など班員が時間いっぱい掃除に取り組めるような工夫を考える。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 生徒に権限と責任を与える』

- ・アイディアや工夫に対する評価
美化委員会による, 表彰や各班の取組の紹介を実施した。表彰は, 美化委員会が掃除の様子を確認し, 表彰基準を設け, 「クリーンキーパー賞」の表彰を行った。各班の取組が分かるような紹介では, 各班の取組をポスターにして掲示したり, 独創的な取組を生徒会集会で紹介したりするなどした。
- ・予算を与える
各班に 2000 円の予算をつけ, それぞれの班で必要な掃除道具を購入した。例えば, 一人一本マイブラシを持てるようにしたり, 激落ちくんやたわし, 高い窓を拭けるようなワイパーなどを各班ごとに購入し, 班ごとに工夫しながら掃除に取り組むことができた。
- ・リーダー, 教職員アンケートの実施
時間の経過とともに, マンネリ化が課題となってきた。そのため, リーダーや教職員に定期的にアンケートを実施し, 啓発を行うことで, 縦割り掃除の意義づけを再認識させた。また, アンケート結果を生徒に提示し, 課題の発見とともに, 取組の改善点を考えさせた。

取組の成果 (効果) 『キーワード 自発性や自主性, 自律性の育成』

- ・生徒アンケートの結果

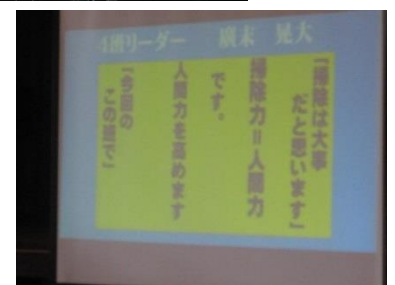
	昨年12月	5月	今回	昨年12月比
	肯定	肯定	肯定	
掃除を時間いっぱい真面目に取り組んでいる	71.9	85.6	86.9	↑ 15.0
係や委員会活動などの仕事に積極的に取り組んでいる	77.9	81.2	81.7	↑ 3.8
係や委員会活動などの仕事を通して, 自分はみんなの役に立っていると思う		54.5	61.1	↑ 6.6
学校やクラスの行事に参加することは楽しい	76.6	81.1	80.6	↑ 4.0
クラスや学校のいろいろな活動に貢献していると思う	55.8	65.4	65.1	↑ 9.3

今後の展開『キーワード 定着と徹底を基盤としたさらなる創造』

- ・今年度の取組を継続し、本校の伝統・文化へとつながるよう、全教職員で一つひとつの取組の意義を共通理解し、徹底して取り組んでいく。
- ・現状維持にとらわれるのではなく、『創造』する気持ちや雰囲気づくりを持ち続け、生徒が主体となった取組を継続させる。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒の実態に合った取組』

- ・生徒の実態を分析し、それに伴った取組をする必要がある。本校の生徒には、「生徒の自己肯定感が低い」という実態と、「仲間意識が強く、生徒同士のつながりを大切にする」という特徴がある。そのことを踏まえ、生徒同士が協同して取り組むことにより、自己肯定感を高め、主体性や自律性を育成するために縦割り掃除を実施した。全教職員で、今何をするべきか焦点を絞った取組を考え、実践していくことが何より重要だと考える。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長氏名	井上 一男	生徒指導主事氏名	金子 浩之
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『学校行事の改革』

取組のねらい 『キーワード 覇権の奪還』

これまで本校の縦割りの体育大会や鶴羽ヶ丘祭（文化祭）のような学校行事は、生徒の主体性を育むという理由のもとに、主導権が生徒に偏っていた。このことは学校生活全般にも言えることで、教師の指導が通らない場面が多くあるように感じた。そこで行事をいったん教師主導の運営に切り替えるとともに、生徒の主体性を育む取組を工夫することで、徐々に主体性を鍛えることをねらいとした。

取組の具体的内容 『キーワード ひたむきさ』

3年前、鶴羽ヶ丘祭への生徒の関心の多くは、学校や生徒会が企画する内容ではなく、有志で参加する歌や出し物が中心で、偏った内容を目的とする一部の生徒主導の文化祭であったが、生徒の正しい主体性を育てるために主導権を教師側に取り戻し、教師主導の鶴羽ヶ丘祭に変えてきた。

大学の応援団を迎え、自分のことは後に回し、声をからし、汗を流し、顔をゆがめながら、ただひたむきに人のために応援する姿から真のかけこよさや美しさを感じ取らせたいと考え企画した。



平成 25 年度 関西大学応援団



平成 26 年度 同志社大学応援団



平成 27 年度 吉中太鼓
(尾道市立吉和中学校 3 年生のみなさん)

取組の課題・創意工夫 『キーワード 自己の解放』

初年度から応援団のみなさんのひたむきに応援する姿から学ぶことは大きかったが、応援パフォーマンスに参加して自分を解放できる生徒は少なく、クラス対抗の合唱コンクールでもピアノばかり目立ち、声を出し切れない生徒やクラスも多くあった。しかし二年目から自己を解放し大きな声で応援パフォーマンスに参加したり、合唱コンクールでも声を出せないクラスはなくなりはじめた。

三年目は、尾道市立吉和中学校の3年生を迎えた。これまでの大学生から学んだひたむきな姿から、市内の同じ中学生に切り替え、一糸乱れず和太鼓に打ち込む同年代の中学生が魅せる演奏の姿からひたむきさを感じ取らせるようにした。またクラス合唱や学年合唱だけでなく、377名による全校合唱に取り組んだ。



平成 27 年度 全校合唱 「大地讃頌」・「ふるさと」

取組の成果（効果）『キーワード つながる』

応援団やチアリーディングの大学生の姿から本物のひたむきさを学ぶことからスタートした取組であったが、三年目には同じ中学生の姿から学ぶ場を設定した。本気の和太鼓演奏から受けとめたものは多く、応援のエール交換をした本校生徒の姿からは、「自分たちも...。」という気持ちを強く感じ、エールを返してくださった吉和中学校の生徒のみなさんをグラウンドで見送りながら互いに手を振り合う中学生同士の姿から「つながり」と次への意欲を感じ取ることが出来た。

今後の展開『キーワード 覇権の委譲』

これまで行事の主導権をいったん教師側に取り戻し、本来の主体性を育むよう取組を三年間進めてきたが、現在その3年生の後ろ姿を追いかけてきた2年生生徒会執行部が動き始めた。これからは少しずつ生徒主体の行事運営に戻せるように、いっそう生徒会を中心とした生徒の主体性を鍛えていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒会活動の活性化と生徒の主体性』

ひたむきに他人のために動く人の姿は、生徒の意識を変えることがわかる。本校の取組ではお迎えした本物のひたむきさから学ばせていただいたが、学校の中で人のために活動するという点では、生徒会活動がそうあるべきなのだと考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次中学校	校長氏名	迫田 隆範	生徒指導主事氏名	宮部 英巳
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『生徒会活動と連携した積極的生徒指導』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感の向上』

平成 26 年度の学校の状況は、暴力行為（1 件）触法行為（1 件）問題行動（30 件 *この内, 特別な指導 11 件）いじめの認知件数（2 件）不登校（2 名）であり、服装の乱れ、授業妨害、授業エスケープ、指導に従わない、暴言、携帯、等の不要物の持ち込み、自転車通学違反、地域の施設や登下校でのマナーの悪さ、生徒間トラブルなどが課題として挙げられる。問題行動を繰り返すのは一部の生徒であり、生徒同士の指摘がなかなかできない状況が、全体の落ち着きのなさにつながっている。現状の改善のためには、生徒自身の自己肯定感を向上させ、自分が学校や地域社会の一員として認められる場をつくり、生徒同士の結びつきを深め、自治活動を活性化させることで問題行動の減少につながると考えた。そのため、生徒会活動やボランティア活動等の、生徒の自治活動や主体的な活動の推進を行った。

取組の具体的内容 『キーワード 無理なく』

平成 27 年度の取組としては、生徒会と連携し、まずは不十分な掃除から見直すことから始めた。掃除中に全員掃除ができないことから、掃除の班自体を見直し、縦割りの掃除班をつくった。3 年執行部を中心に掃除リーダーが掃除に入り、集合から解散まで掃除リーダーが掃除を運営する形を実行した。（無言清掃の取組）平成 26 年度 3 学期より実験的にスタートし、少しずつ変更を加えながら現在に至っている。また、これと並行して生徒会活動の一環としてのボランティア活動の充実を意識させ、放課後 15 分間の自由参加のボランティア活動を計画し実行している。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 同時に』

年度途中でまったく新しいことを始めるよりも、現在の方法を改善し修正を加えることで、生徒に運営をまかせ、それを教職員が補助するといった意識の転換から、掃除をやりきる方向へスムーズな移行を目指した。また、実験的に年度途中から行うことにより、もう少しうまくいかなかったら方法は改善するというやり方で、生徒と教職員の負担感を軽減した。また、これと並行してボランティア活動を生徒会から計画し実行に移すことで、掃除と同じくボランティアの意識の向上を生徒に意識させた。

取組の成果（効果） 『キーワード 自分たちで』

縦割りの掃除班での掃除は、取組前と比べて確実に向上した。特に、掃除リーダーへの指導を事前に行うことで、教職員が掃除に関しての指導をする場面が少なくなった。また、新 1 年生には掃除の方法や、流れを全体で生徒会が指導し、実施前に指導する形をとったことも成果が出ている要因である。また、ボランティア活動もペットボトルキャップ分別、折り鶴制作など、計画して実行し、各回約 100 名程度の生徒が参加している。



今後の展開『キーワード 改善』

掃除を徹底させるためには、生徒のボランティア意識の向上にも同時に取り組むことが必要である。生徒自らの自治活動で実行するよう、促す方法をとろうとする取組であり、良い点も多く見られた。一方で、掃除場所の担当教職員の不足、掃除の点検表への記入、ボランティア意識等の課題もあり、少しずつ改善を行っている。また、掃除を無言で行うという部分では、まだ課題も多い。しかしながら、掃除の質は確実に以前よりもよくなっていることから、さらに目的意識をもたせ、自己肯定感の向上につながるよう取組の充実を図る予定である。

また、自治活動の活性化のため、各委員会ごとに活動を決め（各学級の掃除評価合計、各学級の日々の授業評価合計、各学級の本の貸し出し数合計等）、学級単位で評価をして、学期に1回表彰を行うYATSUGI PRIDE CUP（YPプロジェクト）という取組も今年度から導入している。これらの取組を通して、生徒のボランティア意識を向上させたいと考えている。



他校へのアドバイス『キーワード 教職員の意識向上』

生徒の意識変革の前に、指導する教職員の意識変革が不可欠である。この部分では、まだ十分といえる段階ではない。今後も教職員を含めて意識の向上を図り、生徒会への働きかけにより自治活動の活性化につなげていきたい。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立安西高等学校	校長氏名	澄川 利之	生徒指導主事氏名	北野 和則
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『第 40 回全国高等学校総合文化祭「2016 ひろしま総文」平成 27 年度国際交流事業』への参加

取組のねらい『キーワード グローバル事業（国際交流事業）の活用』

第 40 回全国高等学校総合文化祭広島大会のプレ行事の一環として、大韓民国よりソウル国際高等学校の生徒の訪問を受け入れ（7 月 23 日）、日韓の相互交流を図る。

取組の具体的内容『キーワード 生徒会執行部と実行委員会を中心とした主体的活動』

- ソウル国際高等学校受け入れに際して、生徒会執行部が有志を募り、生徒実行委員会を立ち上げた。
- 実行委員会については、生徒会執行部の生徒、姉妹校ルーズベルト高校への派遣生徒、韓国語を独学している生徒等の計 9 名の生徒で構成した。実行委員会の指導、助言のために特別活動部 1 名、教務部 1 名、生徒指導部 1 名の計 3 名の教職員を配置した。
- 実行委員会（2 学年生徒 4 名、3 学年生徒 5 名）を中心に歓迎のための企画を考え、準備を進めた。

【本校の催しの内容】

- ・校歌合唱（太鼓付）
- ・パワーポイント、英語による本校の紹介
- ・書道部による大書揮毫（吹奏楽部の演奏付）



- ・記念品交換
- ・食文化履修生による調理接待、実行委員とソウル国際高等学校生徒との意見交換
- ・歓迎の様子



取組の課題・創意工夫『キーワード 交流を通じた校内諸活動の活性化』

○創意工夫

- ・交流を通して、平成 27 年度から始めた校歌合唱、ハワイ姉妹校への派遣生徒の事後研修、部活動などの活性化を図った。
- ・校内の委員会を積極的に活用した ～ 会場設営及び片づけは各クラスの学級委員、特別活動委員が担当した。



○取組の課題

①事前準備等にかかる活動の時間の確保

実行委員会を開催しても、該当生徒の中には進路関係の用事や補習と重なって、全員が集まることが難しいこともあった。事前準備の期間が限られていたこともあるが、生徒会執行部、各部活動所属部員、実行委員生徒などの連携を日頃から強化しておくなどの取組も必要であると考えた。

②交流事業に向けた校内全体の雰囲気づくり

おもてなしの意識について、全校生徒への連絡（宣伝）をもう少し早めにして、全校生徒が関われるおもてなし（折鶴を準備する・手紙や色紙・歌？）を用意したり、韓国語を学んだりして気持ちを高める取組をすると更によかった。また、時間が確保できれば、エンターテイメント性のある発表（歌やダンス？）等も双方の緊張が早くほぐれるのではないかと考える。

③ひやま館（校内研修施設）での意見公開会で工夫

韓国の生徒は本校の実行委員や食文化の生徒に個々にお土産を用意されていたので、本校の生徒にも個々にお土産（本校のゆるキャラ、「コノちゃん」をモチーフにしたグッズなど）を用意するなどの工夫も必要であった。韓国語の日常会話を書いた紙を1テーブルに1枚ずつ事前に準備したことは役に立った。

取組の成果（効果）『キーワード 自主的な態度の育成』

①事前の準備を通して、自ら進んで物事を行おうとする態度が育ったこと

全校生徒で見送りをしようという案を実現させるために、実行委員の生徒が見送り計画案を練り、校長に提案した。また、当日のレセプション会場までのバスでの移動時間を楽しんでもらうためのアイデアを出し合うなかで、高校生の興味・関心から出るアイデアは教員では思いつかないもので、生徒のおもてなしの心が感じられるものであった。

②積極的に他者と交流する態度が育ったこと

意見交換会の場面では、普段は英語に苦手意識を感じている生徒も、英語と事前に準備した韓国語を交えて積極的にコミュニケーションを図ろうとしていた。また、実行委員のメンバーだけでなく、同席した食文化選択者も一緒になって、みんなで交流を深めようとする態度が見受けられた。

③世界を見る視野が広がったこと

ひやま館での意見交換会や翌日（7月24日）の国際交流コンサート会場においても、本校の生徒たちが韓国訪問団の生徒たちと積極的に会話しようとする態度が見られた。意見交換会は限られた生徒しか出席できなかったため、他の生徒の中にも「ぜひ自分も出席したい」という発言もあったと事後に聞いた。学校全体での交流会という大きな行事を通じ、生徒の異文化への関心が高まったと思われる。



今後の展開『キーワード 県の事業の積極的活用』

グローバル化をすすめるための取組として県の事業を活用した。管理職、学校がこのような事業を活用することによって本校生徒が普段では考えられない貴重な経験ができた。他国の高校生と関わり異文化に関心をもったり、感じたりする機会をこの年代で多く持つことは有効であると感じた。また、国は違えど、同年代の感覚を身近に感じ、生徒はたくましく成長した。

他校へのアドバイス『キーワード 校内での取組を校外で発信する機会の促進』

今回の事業への参加を通して、本校での取組を校外で披露する機会をつくることの重要性を感じた。地域や他校との交流を含め、今回のような事業を積極的に活用して生徒の自主性とコミュニケーション能力の育成を促進する取組があるとよいのではないかと考える。

児童会・生徒会活動

異年齢集団による交流

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島東小学校	校長氏名	中居 芳樹	生徒指導主事氏名	見渡 英治
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『たてわり班活動』

取組のねらい 『キーワード 集団の中の一員としての意識』

- ・異学年交流での出会いを通して、人とつながる力を育む。
- ・集団の一員として活動することの楽しさを味わう。
- ・リーダーとしての自覚を持たせ、活躍の場とする。

取組の具体的内容 『キーワード 年間を通じて』

- ・ 4月 1年生を迎える会……………1年間、さまざまな活動を共にしていく1年生と6年生のペアを作る。6年生には学校の中のリーダーとしての責任感をもたせ、1年生には6年生と過ごすことで小学校での生活に慣れるための安心感をもたせる。



- 遠足……………1年生と6年生のペアで一緒に活動する。一緒に弁当を食べたり、遊んだり常に自分のペアの児童を意識させることでお互いを深く知り合い、信頼関係をきずかせる。



- ・ 6月 たてわり班顔合わせ会…1年間、さまざまな活動を共にする1年生から6年生で形成する班を作る。自己紹介と簡単なゲーム、たてわり班の旗の作成を行う。



- 7月 おりづる集会……………碑前祭に供える千羽鶴をたてわり班で集まって折る。自分だけで折るのではなく、折り方を高学年が低学年を教えるなど、班という集団を意識して活動する。



- 12月 校内ウォークラリー……………たてわり班で協力し、ゲームをしたり課題を解決したりしながら、異学年での交流をする。リーダーである6年生を中心に回るコースを班員の意見を取り入れながら決めたり、みんなが楽しめるという目標が達成できるように班をまとめたりしながら活動する。



- 3月 6年生を送る会……………1年間、リーダーとして班をまとめてくれた6年生に感謝の気持ちを込めて卒業を祝う。1年生から5年生は会場の飾りつけや準備をしたり、自分の班の6年生にプレゼントを作ったりする。

- 6月から3月まで……………1年間を通じて縄跳び運動や東っこ体操などの業前運動や昔遊びや転がしドッジボールなどのグループ遊びなどをたてわり班で行う。



取組の課題・創意工夫『キーワード 機会の保障と安心感』

・限られた授業時数の中から児童の活動時間を確保することの難しさは感じるが、たてわり班を使った活動を取り入れることにより得られる成果をより効果的にするためには、たてわり班と一緒に活動する機会の保障が不可欠となると考えた。そこで児童会活動を計画する生活部だけではなく、遠足や業前運動を計画する保体部など各校務部で計画する行事に意識的にたてわり班を活用するようにしてきた。その結果、たてわり班の児童が顔を合わせることが多くなり親近感を感じられるようになった。また様々な活動に協力させて取り組ませることで連帯感が生まれた。

・リーダーシップを発揮しやすいように、各行事の前に6年生児童にオリエンテーションを行った。きちんと見通しをもたせることで6年児童も安心感を感じ、自信をもって下学年に接することができるようにさせた。行事が終わるごとに振り返りをさせ、見つけた改善すべき点を次の活動に生かすことが

できるようにした。

・異年齢、異性で構成するグループで活動することによって多様な考え方にふれさせることができるようにすることをねらって、たてわり班を組む時には、どの班も男女の比をできるだけ均等となるように組むようにした。

取組の成果（効果）『キーワード 学年を越えたつながり』

・1年間を通じて様々な活動を共に行ってきたことで、学年を越えて良好な人間関係を築こうとする意識は高まった。特に6年生はリーダーとしての自覚をもち、自分のことだけではなく、グループ全体のことを考えて声かけをしたり、行動したりすることができるようになってきた。また5年生は、来年度、自分たちがリーダーとなった時に、果たすべき役割やグループをまとめる方法を6年生の姿を見ることで学び、明確にイメージすることができた。たてわり班活動を行っていない時でも、校内で出会えば声をかけたり、自ら率先して遊びに誘ったり、困っていたら助けたりとすることができるようになってきている。自分のことだけではなく、周りに意識を向けることができる児童が増えてきたように感じる。

今後の展開『キーワード 反省と改善』

・今年度取り組んできたたてわり班活動は、高学年のリーダー性の育成や、学年の壁を越えての良好な人間関係づくりの確立というねらいを達成するために非常に有効であったと感じる。今年度の取組の反省を活かしながら来年度もたてわり班活動を仕組んでいきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 計画と見通し』

・行事の精選、またその内容の見直しをしていくことの必要性にせまられている中で、年間を通じてたてわり班を使った活動を行事の中に取り入れていくことの難しさを感じる。またリーダーとしての自信をもって取り組ませるためには、事前にリーダーとしての心構えや活動の流れなどが分かるようにオリエンテーションを行うことが欠かせない。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島小学校	校長氏名	尼子 博崇	生徒指導主事氏名	西本 由美
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『ともだちさんかまつり』
-------	--------------

取組のねらい『キーワード 関わり合う』

- ・吉島小学校と広島南特別支援学校の児童，また地域の人たちとふれあい仲良くなることで，相手を思いやる心を育てる。
- ・お店の計画等を通して児童が主体的に活動できるようにする。
- ・集会にみんなで参加し，楽しさを分かち合う。

取組の具体的内容『キーワード 満たされる』

・児童会が主となり計画運営をしていく広島南特別支援学校との交流行事。開会式では，参加者全員が歌う「手話による歌」や2校の低学年が合同で取り組む「おみこし」で会を盛り上げる。その後「まつりの広場」で3年生から6年生は自分の学級のお店を開き，店番で自分の役割を果たしたり，お店を回ったりすることで自己存在感を感じたり，友だちと協力する楽しさを味わったりする。また，自分が開いたお店に参加してくれた人たちが喜び，楽しむ姿を見ることで自己肯定感を味わったり，相手の立場を考える思いやりが育ったりする。当日までの活動を通して自分が必要とされていることを実感し，児童の心が満たされる。



取組の課題・創意工夫『キーワード 時間』

・まつりの時期には、修学旅行や野外活動等が重なるため、十分な時間をとって準備することができない。また、児童会運営委員会が抱える仕事もたくさんあり、限られた時間の中で準備等を行っていくので、児童会運営委員がゆっくりアイデアを出し合い練り上げる機会が十分持てない。したがって教師主導で行いがちになることがある。

取組の成果（効果）『キーワード 主体性』

・児童が主体的にお店の運営にあたり、児童同士が相談・試行錯誤しながらやりたいものへと仕上げていったりする過程で、生き生きとした児童の姿が多く見られた。また、休みがちであった児童がまつりの計画や準備のために継続して登校し続けたり、不登校傾向の児童がまつりをきっかけに登校できたりしたことも大きな成果である。



今後の展開『キーワード 広がり』

・まつりを通して身についた「主体的に考え実行していく力」が他教科や生活の場面に広がっていくことが期待される。特別活動にとどまらず、普段の授業の中でも児童が思考を組み立てられるよう教師が意識して授業を構成していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 信じる』

・児童の力を信じて任せてみるのが1番であると考えている。「できないだろう」と最初から決めつけ教師主導で進めていくと、児童は考えることをやめ指示通り動くだけになってしまう。失敗することも想定し、それを修正していくことができる時間を十分与えられるよう計画性を持って、児童を信じ任せてみるのが大切である。

や。ばり、振り返るべきことは、南特別支援学校の事だと思います。その人たちに、耳が聞こえないので、自分ばハンドサインを送って説明しました。OKは丸をつく。首をかしたり、三回落とすよはさしほうを三回下に持てい。たりしました。じ。さい、用意してな。だから、アドリブでした。店けいえいは何回もや。てきたんですが、こんな重大なやくはや。たことかないので、さんちようしながらも、いい経験の一つです。

ても、とてもよろこんでくれた人ば、たのしみでくれた人がいたのでよか、たです。

るために、
てまりがとう。
と声がけしたり、質問を伝えやすいようにしました。そして、他人との押し方の仕方を学びました。
この友達参加祭りで学んだ他人との押し方は今後役に立つと思います。なので今のよ
うな時に、それを身につけたいと思います。
いよいよ友達参加祭りが開催されました。最初、ぼくはお客さんが来てくれるか心配になりました。けれど、すぐにお客さんが来てくれました。なのでぼくはお客さんを喜ばせ

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立温品小学校	校長氏名	上田 盛之	生徒指導主事氏名	中尾 恵美子
-----	-----------	------	-------	----------	--------

取組事例名	『温品なかよしオリエンテーリング』
-------	-------------------

取組のねらい『キーワード 縦割り活動』

- ・縦割り班で活動を通して、学年や学級の異なる友達や地域の方々、教職員と共に楽しく触れ合って交流を図ることにより、望ましい人間関係を深めるとともに、感謝の気持ちを持つ。
- ・集団の一員として、自分の役割を果たし、協力して解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容『キーワード リーダーシップ』

(事前)

- ・簡単なゲームをしたり、平和集会で折り鶴を一緒に折ったりするなど縦割り班活動を定期的に行う。
- ・「温品なかよしオリエンテーリング」前には、朝会の時間を使って、縦割り班で集まり、どのような順番で回っていくかや、班の決め事など、6年生が中心となって作戦会議をする。

(当日)

ゲーム…地域の方々がお世話してくださる「ふれあいゲーム」コーナーと、教職員が担当するゲームコーナーを数箇所ずつ設け、縦割り班で相談しながら、6年生のリーダーシップのもと、児童だけで回っていく。



クイズ…学年や先生たちからのクイズを解きながら回っていく。

(事後)

- ・なかよしオリエンテーリングでお世話になった地域の方々に、6年生が感謝の手紙を書く。
- ・運営委員会の児童が、縦割り班ごとの得点を計算し、児童朝会で上位3チームの表彰を行う。

取組の課題・創意工夫『キーワード 創意工夫』

児童会が主催している行事とはいえ、用意されているゲームやクイズに参加すればよいという状態になっており、縦割り班のリーダーである6年生が自主的に考え行動する場面は少ない。自分たちが創意工夫できる程度の自由さをうまく取り入れていきたい。

取組の成果（効果）『キーワード 憧れ』

6年生は、オリエンテーリング中、自分の班の1～5年生の面倒をよくみていた。その姿を下級生たちはよく見ており、振り返りの日記などには、「あんな6年生になりたい」と書く児童も多かった。それを6年生にも返している。他学年も6年生の優しい姿を見て、低学年への接し方が良い方へ変わってきた。



今後の展開『キーワード 継続』

縦割り班でスーパー昼休憩に遊ぶ、卒業する6年生に向けての取組をするといったことを考えている。なかよしオリエンテーリングで終わるのではなく、縦割りのつながりが継続できるようにしていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 計画的』

年度初めから一年間の長期的な計画を立て、6年生が自覚して動けるような声かけや取組を計画的に入れていくと、最高学年としての自覚が年間を通じて育っていくと考えられる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立天満小学校	校長氏名	岸保 仁司	生徒指導主事氏名	高垣 恵一
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『たてわり班活動』
-------	-----------

取組のねらい
『キーワード』 一人ひとりの居場所づくり～新しい自分探し、見つけ～
異学年交流だからこそ発揮できる個の力を支え、児童の良さを見つける指導

- ・上級生と下級生が交流する中で、力を合わせて一つのものをつくりだすことの楽しさや喜びを味わわせ、同時に異年齢集団で連帯することの大切さを学ばせる。
- ・班長指導を通して、高学年児童にリーダーとしての自覚や力量を身につけさせる。

取組の具体的内容
『キーワード』 ・年齢の違う人たちとかかわることで自分のよさを見つける
 ・楽しいことを一緒に作ることで友達の良さを見つける
 ・一つ一つをていねいに取り組むことで達成感を味わう

4月に新年度のたてわり班を結成する。その際には、児童の特性などを考えながら、全職員で話し合い決定する。そして、異学年集団を活用した活動を年間を通じて行っていく。主なたてわり活動としては、春の歓迎遠足、たてわり班運動、夏季運動会、たてわり班仲間作り、新体力テスト、あいさつ運動、おりづる集会、なわとび検定、プラタナス集会こどもの日、たてわり班感謝会などを企画していく。

各たてわり班で活動する際、事前に5・6年生だけが集まってリーダー会議を行い、一つ一つの活動をどのようなものにしていきたいか、目標を設定する。また、一人ひとりにとって充実した活動となるように役割分担を考えたり、計画表を作成したりする。そうした活動を通して児童一人ひとりが自分のめあてをもって主体的に活動ができるようにしている。卒業式前にたてわり班感謝祭を行い、一年間、先頭に立って各班を引っばってきた6年生に対して、5年生を中心に感謝の気持ちを示す。その会を通して、5年生は、次年度のリーダーとしての自覚を持つようにする。

取組の課題・創意工夫
『キーワード』 年間を見据えた指導

それぞれの取組の前後には、①目的②めあて③ふりかえりの時間を設け、やりっぱなしの活動にならないようにする。全校共通のふりかえりカードをもとに、活動のめあて「自分のよさを見つけた」「協力して活動した」の評価と、自分の感想などを書くようにしている。活動に参加する前にめあてを考え、活動が終わってからふりかえる事前と事後の時間を必ず設けるようにしている。そのふりかえりをもとに、次回の取組や学級での生活に繋げるなど、行事ありきではなく、各行事をきっかけとして、年間を通して継続的に児童を育てていく。

課題としては、リーダー学年の中に、指示待ちの姿勢が多く見られ、主体的に活動できていない児童がみうけられるため、今後も継続して主体的に行動することができるリーダーを育成していく必要がある。

取組の成果（効果）

『キーワード』 学校全体で全校児童を見守る

ふりかえりカードの記述から、「自分のよさを見つけた」や「友達のいいところを見つけた」など、肯定的に自分や他の児童の行動をふりかえっている様子が見えられた。また、異年齢集団で年間を通して様々なことに取り組んできた結果、相手の気持ちを考えて行動しようとする姿がみられた。また、日々の生活面では、他の児童を自然と助ける姿が見られるようになってきた。そうする中で、上学年への憧れや「自分たちもやりたい」という思いを抱くことができるようになってきた。クラスの中ではあまり自分の思いを出しにくい児童も、異学年集団の中では自分の役割と活躍の場があり、活動を通して自己肯定感を高められるようになってきている。

また、活動中の児童の様子を教職員間で共有することで、学校全体で児童を見守り、一人ひとりの成長が促進されるような雰囲気をつくれるようにする。

今後の展開

『キーワード』 つけた力を今後につなげる

12月の、「プラタナス集会子どもの日」でのたてわり班活動を通して、身に付けた力（企画すること、やり切ること、友達と協力すること、みんなが楽しめるようにすること）を自分たちのクラスの中で生かしていこうという思いを大事にし、自分たちに何ができるかを考え、学級活動に取り入れていく。

児童が主体となってクラスの行事を計画したり、運営したりすることで、自分たちでやり切る力をさらに伸ばしていくようにする。

他校へのアドバイス

『キーワード』 見通し・つながり

これまで述べたように一つの行事、一つの活動ではなく、あらゆるものを関連付けて、年間を通して児童を育てていくという長期的な視点をもつことを大事にしたい。授業だけでなく、様々な場面でめあてをもって取り組み、ふりかえりながら次の活動につなげていくようにする。そのためには、教師自身が児童にどんな力をつけたいのか、何のためにその取組を行うのかという意図や目的をしっかりとっておかなければいけない。一年間の中で、いつどんなことを行うのか、どんな行事があるのかをしっかりと持ち、見通しをもって取り組む必要がある。そうすることで、いろいろなことを関連付け、その経験を次に生かそうと考える児童や、自分なりのめあてをもって主体的に行動する児童が育っていくと思う。子ども達は必ず変化し、成長していく存在としてとらえ、その過程を評価していきたい。



平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎小学校	校長氏名	和田 麻里子	生徒指導主事氏名	石田 葉子
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『かめっこデー』

取組のねらい『キーワード … 誰とでも なかよく 』

1学年1クラスの小規模校で、児童はクラス替えもなく、よく知っている決まった人間関係の中で生活している。普段と違う環境になると必要以上に構える児童も少なくない。縦割りの活動を仕組むことで、児童は人間関係を広げ、誰とでも楽しめるような良質なコミュニケーション活動が体験できる場になることをねらっている。『かめっこデー』では、毎回児童に以下のことを伝えるようにした。

- ほかの学年の友達ともなかよく活動しよう。
- みんなで楽しむために、(学年に応じた)自分の役割を考えて行動しよう。

取組の具体的内容『キーワード … なかよく 協力』

○縦割りチーム(7～8名)を編成し、一年間を見通して、活動を計画する。

1. 5月 児童朝会…顔合わせ。
2. 5月 『なかよく 協力 スタンプラリー1』
3. 6月 『おりづるの会』
4. 7月 『防犯教室…きまりを守って安全に暮らそう』
5. 10月 『なかよく 協力 スタンプラリー2』
6. 1月 『なかよく 遊ぼう 』
7. 3月 6年生を送る会…お礼の手紙を送ろう

* 6年生のお兄ちゃんがおんぶしてくれました。まほうのじゅうたんに、みんながのれてよかったです。(2年男子)



『なかよく 協力 スタンプラリー1』



* 万引きは絶対にいけないということを話し合いました。ぼくは、記録で6年生をサポートしました。みんなが意見を言ってくれたのでよかったです。(5年男子)

7月 『防犯教室』

* 6年生のお姉ちゃんが折り鶴の折り方をやさしく教えてくれました。ぼくは折り鶴を2羽折ることができました。(1年男子)



6月 『おりづるの会』

* 今日の『スタンプラリー2』は初めてで、わたしも楽しかったです。低学年の人も楽しかったと言ったのでほっとしました(6年女子)



10月 『なかよく 協力 スタンプラリー2』

取組の課題・創意工夫『キーワード… みんなでたのしむために 』

○「みんなでやると楽しかった」と感じる活動をまず仕組んだ。「スタンプラリーⅠ」は数年行っている児童会行事で、どの学年の児童も活躍できるクイズ問題やゲームを仕組むと同時に、事前指導では、6年生がリーダーシップを発揮して、グループがなかよく活動できるように、それぞれの学年に応じた役割や行動を考えさせている。

○「簡単に準備できる、単純なルール」を意識して、児童も教員も気軽に「かめっこデー」に参加できることを意識して計画する。

〈課題〉教員の目が届ききらないこと。→まだ、児童だけでは対応が難しい場面もあり、その支援が十分にでききらず、目が届かないところで児童間のトラブルが起きた時、対応が遅れることがある。6年生がリーダーシップを発揮できるようなフォローができないことがある。

取組の成果（効果）『キーワード… しっとり感 自分のやくわり』

○6年生のリードを聞いて、順番を待ったりゆずったりしながら、しっとりと穏やかな雰囲気の中で活動できるグループが増えている。グループ内での役割を考えた行動（5年…リーダーのサポート。中学年…自分のことは自分で、低学年をリード。1・2年…わがままを言わない。など）がとれる雰囲気ができてきた。

○顔見知りの友達が増えている。

○児童の振り返りから、下学年の児童が、上学年の児童を慕う表現が増えてきた。特に6年生がリードする姿は、下学年の児童にプラスの影響を与え、それを6年生に伝えることで、6年生の自信につながっている。（5年…来年は自分たちだ 1・2年…やさしかった、話をきいてくれた）

今後の展開『キーワード…日常生活へ』

○遊びの自立 または ○活動の広がり（清掃活動、安全マップ作りなど）・・・今年度の活動を振り返って、次年度は、本校の縦割り活動をどちらの方向に進めるか、検討しているところである。

○日常生活の中でも、「顔見知りのお兄ちゃんとあいさつした 声をかけてもらった 遊んだ」など、ちょっとしたコミュニケーションが気軽にできる関係になる姿を目指したい。

他校へのアドバイス『キーワード 関係をつなぐ』

・年間を見通して活動を計画し、必ず教員がグループについて、支援する。

→児童に「楽しかった」の貯金を。

・「準備は簡単、ルールは単純」→縦割りで、「一緒に活動しながら、関係をつなぐ」という気持ちで、簡単なことを積み重ねる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組例」

学校名	広島市立三入小学校	校長氏名	西岡 恵美子	生徒指導主事氏名	池永 亮二
取組事例名		『みんなでファイト 2015』			
取組のねらい『心をつに 思い出作り』					
○1年生から6年生まで新しい友達をつくって仲良くなるよう。 ○クイズに挑戦し、みんなで楽しい時間を過ごそう。					
取組の具体的内容『みんな仲良し 縦割り班活動』					
○内容：校内にクイズやゲームの場所を設定し、縦割りグループで回る。 ○グループ作り：1年生から6年生まで10人程度のグループを作る。 ○集会に向けての実施計画					
1次 教室で顔合わせをし、自己紹介。次回の長縄練習計画をし、簡単なゲームをする。(1時間)					
<ul style="list-style-type: none"> ・6年生は1年生を迎えに行く。 ・リーダー、副リーダーを決める。グループ遊びの時は、副リーダーは1年生を迎えに行くこと、リーダーは先に集合場所で待つことを確認。リーダーは持ってきたバインダーに解答用紙をはさんでおく。リーダーは、うちわとバインダーを持って帰る。5分前に終了し、教室へ戻る。6年生は1年生を送る。 					
2次 長縄跳び練習タイム(グループ遊び)：拡大昼休憩を使って(約30分)					
<ul style="list-style-type: none"> ・運動場に全員集合する。 ・リーダーはうちわを持って並ぶ。副リーダーは1年生を迎えに行く。 					
3次 長縄跳び記録会(グループ遊び)					
4次 児童集会(2時間)					
[先生の役割分担]					
<ul style="list-style-type: none"> ・フロア担当はきちんと班で行動している班へ得点を与える。 ・各クラスは教室前に、担任外は所定の位置に3択クイズを考えて掲示する。 ・クイズの回答欄やゲームの内容と場所を書いたワークシートを使って全館を回る。 					
[運営委員会が考えたゲーム]					
<ul style="list-style-type: none"> ・チョークしりとり・ジェスチャー・キャラあて・運だめし ・ストラックアウト・パズル・オセロ 					
[児童の感想]					
<ul style="list-style-type: none"> ・お兄ちゃんやお姉ちゃん達とゲームができて楽しかった。 ・困っている時、やさしく声をかけてくれてうれしかった。 ・みんなが暴れたり文句をいったりしてとても大変だった。でも、みんなが喜んでくれてやりがいがあった。 ・みんながしっかり楽しめる内容のゲームを考えたので、よかった。 ・集会は大成功だと思った。準備を手伝ってくれたり真剣に説明を聞いてくれたりしてやりやすかった。 					
5次 児童朝会で高得点のグループを表彰する。					
6次 グループ遊び「長縄跳び」：12月2回、1月1回の計3回					

取組の課題・創意工夫『みんなが楽しめ,たくさん回れるように』

- 限られた時間内でたくさん回れるように運営委員会は,短時間に班の全員が協力して楽しめる内容のゲームを考えた。
- 活動中は BGM を流し,楽しい雰囲気にするようにした。
- 同じ場所にグループが集まらないように,スタート場所を指定した。
- 空いている場所を校内放送で伝えた。
- グループで持ち歩く解答用紙(得点用紙)には,班の活動を振り返り,書く箇所を設けた。
 - ① 仲良くできましたか。②こまったとがあったら書いてください。③楽しかったゲームを書いてください。

取組の成果(効果)『笑顔の花が咲いた』

- 年に一度の児童会行事。長年やっているだけに楽しみにしている児童も多い。本校での異学年交流は,登校班,児童集会,生活科(1年と2年),1年生の給食配膳や掃除の手伝い,歓迎遠足(1年と6年),運動会での表現運動(3年と4年,5年と6年)等である。
- いろいろな人と繋がる喜びを味わう体験活動となっている。友達と分かり合える楽しさが実感できる体験活動と相互交流の工夫を行うことで,コミュニケーション力を育むことができる。

今後の展開『異学年交流で自尊感情を育む』

- 地域の子ども会がなくなってきている現状からこの異学年交流は継続していきたい。
- 異学年交流をする中で高学年は,リーダーシップを発揮しながら自分への気づきが増え,自分のよい所を伸ばすことができる。
- 多様な人との関わりを通して,自分が周りの人に役に立っていることや周りの人の存在の大きさに気づくようになる。高学年として自尊感情を育むことができる貴重な場であると考えている。

他校へのアドバイス『時間をかけずに仲間づくり』

- クラスや学校に関するクイズを解いて回るクイズラリーが主体であるので準備に時間がかからず,クラスや学校のことを学べるよさがある。
- 運営委員会がゲーム担当をするので,指導がいきとどきやすい。
- 児童集会での縦割り班を活用して冬場の長縄跳び遊びができる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市中央小学校	校長氏名	山本 敏之	生徒指導主事氏名	高橋 直美
-----	--------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『校内ウォークラリー』

取組のねらい『みんなでつながる』

- ・ 進んであいさつができるようにする。
- ・ 縦割りグループ（1年生から6年生）のつながりを生かしながら、思いやりの心や規範意識を育成する。
- ・ 集団の一員としてより良い学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。

取組の具体的内容『みんなで楽しむ』

- 事前学習** 4月に縦割りグループを決め、縦割り遊びや縦割り草抜きなどの活動をする。（年間12回）
- ・ 企画委員がゲーム内容をVTRで紹介する。児童はゲーム内容を把握する。
 - ・ 中央タイムの時間に6年生はリーダーとしてウォークラリーのねらいや流れを把握し、役割やゲームの挑戦者を決めるなどグループで活動する計画を立てる。
 - ・ 児童朝会でグループごとに、決まりを守って安全に歩く練習をする。

- ウォークラリー当日**
- ・ 体育館に全校が縦割りグループで集合し、校長先生の話や企画委員の説明を聞く。
 - ・ 校内の12のゲームポイントと6つのクイズポイントを縦割りグループで回る。
 - ・ 移動のルールを守り、ポイントを回る。
 - ・ ポイントでは先生にあいさつ（大きな声・語先後礼）をして、決められたルールを守り、協力してゲームやクイズに挑戦する。
 - ・ すべてのポイントを回ったグループは運動場で、グループごとに計画していた遊びをして待つ。
 - ・ 時間になったら、ゲームを終了し、教室に戻る。



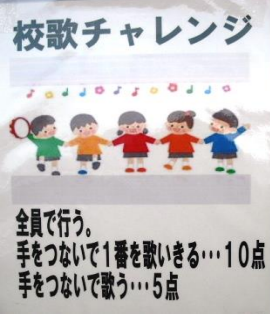
開会式



グループの移動



ボール運びのゲーム



輪になって手をつなぎ校歌を歌う



ポイントのクイズ（5年生問題）を解く

ゲームコーナーの看板



お手玉いれゲームをグループで楽しむ



探検シートを確認する

事後指導

- ・ 企画委員が集計をし、給食放送で結果を伝え、グループを表彰する。
- ・ 振り返りをする。

児童の感想より

○みんなであいさつとお礼が言えた。 ○みんなでボウリングのピンを直した。 ○低学年が言うことを聞いてくれた。 ○5年生があいさつをしようと声をかけてくれた。 ○6年生は1年生から5年生まで世話をするんだ。 ○6年生になったらみんなのお世話ができるかな。 ○疲れてしまっても6年生が優しく連れて行ってくれた。 ○みんなでなかよくゲームや歩くことができてよかった。みんなでやると楽しいな。 ○6年生がゲームで答えるのがかっこよかった。

取組の課題・創意工夫『みんなが活動できる』

- 創意工夫・ 1年～6年までの児童が活躍できるゲーム（簡単～難しい）を取り入れる。
- ・ クイズは学年の先生が学年ならではのクイズを作る。（学年の児童が活躍できる）
- 課題・ 待ち時間が多くなってしまったので、ゲームやクイズを工夫する必要がある。
- ・ 1・2時間目に行ったが、遅刻児童の途中からの参加が難しかった。2・3時間目にするとうちからの参加がしやすい。
 - ・ 児童の主体性がはぐくまれる場面と時間の設定を工夫する。

取組の成果（効果）『かかわりが増える』

- ・ グループでのつながりが深まった。
- ・ 6年生はリーダーとして思いやりの心を持ち、責任をもって役割を果たすことができた。
- ・ みんなであいさつとお礼が言えた。
- ・ お互いに声をかけルールを守ろうとしていた。
- ・ グループ内でゲームを応援したり、アドバイスしたり、みんなで喜んだり、一生懸命な姿が見られた。

今後の展開『引き継ぐ』

- ・ 縦割り集会でグループ遊びをする。
- ・ 縦割りグループの6年生にお礼の手紙を書いて、お別れ集会で渡す。
- ・ 5年生にリーダーを引き継ぎ、5年生リーダーによる縦割りグループ遊びをする。

他校へのアドバイス『縦割り活動』

- ・ 地域の中での縦のつながりが薄くなってきている本校では、高学年は、思いやりの心と責任感を育てること、低学年は高学年を慕い、高学年の姿から学ぶことを目標とし、縦割りでの活動に取り組んできています。昨年までは、校外ウォークラリーで「子ども110番の家」を確かめながら、ポイントでのクイズやゲームに挑戦するという設定でした。目標が達成できたこと、少しマンネリ化してきたこと、6年の負担が大きいということなどから、今年は校内でのウォークラリーに変えて、試行錯誤しながら取り組んでいるところです。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市小学校	校長氏名	高田 伸	生徒指導主事氏名	高尾 徹
-----	------------	------	------	----------	------

取組事例名 『児童集会～ウォークラリー～』

取組のねらい 『異学年交流』

- ・ 縦割り班活動を通して、異学年の交流を深め、楽しく活動できるようにする。
- ・ グループで協力して問題を解決することで、よりよい人間関係を形成する。

取組の具体的内容 『全員参加』

- ・ 代表委員会で、計画委員から提案される内容を踏まえ、各クラスで問題づくりを行い、後日画用紙に書いた問題を集め問題の重複がないか計画委員会で調整する。
(例) イントロ当てクイズ、ブラックボックス、○×クイズ、まちがいはどこだ、豆つまみ、ペットボトルボーリング、みんなでそろってレッツゴー、シルエットクイズ、連続勝利ジャンケン
- ・ 1分程度の間に全員参加できる活動内容にする。
- ・ 60グループで25か所のポイントを回り、クイズに答えたり、指示を聞いたりする。合格したらポイントにいる先生にカードへ判を押してもらい、決められた言葉を書いてもらう。25文字にどんな意味が隠されているかグループで協力して考える。
- ・ 各グループのスタートのポイントをあらかじめ決めておき、混乱を避ける。
- ・ 縦割りグループ内の学年の問題の時は、その学年がカードを渡し、言葉を書いてもらい、参加感を味わわせる。
- ・ 自分たちのクラスには、必ず立ち寄るようにする。
- ・ グループ全員で行動するルールが守られているか、問題を出す前にそろっているか各教室で確認する。
- ・ 6年生は1年生と手をつなぐ。
- ・ 室内歩行のマナーを守る。
- ・ 待っている間に教室をのぞいて問題を見たり、他のグループに答えを教えたりしない。
- ・ グループからはぐれたら「出会いの広場」で落ち合う。
- ・ グループ全員がそろっているかリーダーは確認しながら移動するようにする。
- ・ グループから離れるような勝手な行動をしない。

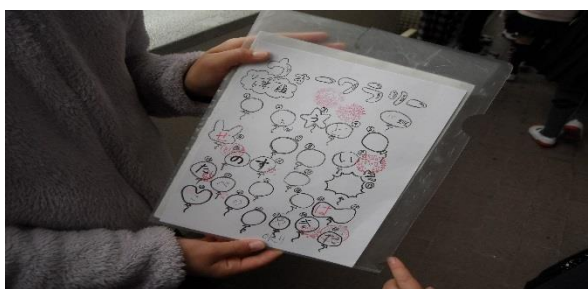


取組の課題・創意工夫『リーダーシップ、フォロアーシップの育成』

- ・ たてわり朝会、たてわり集会を年間活動計画に位置づけ、児童に見通しを持たせるとともに、児童相互の関わりやつながりを生かした児童活動として支援する。
- ・ 児童朝会や児童集会などで、1年生から6年生までの児童がいっしょに遊んだり、活動したりすることにより、思いやりの心や態度を育てる。
- ・ 6年生は、下学年の世話をしたり、リーダーとしての役割を果たしたりすることを通して最高学年としての自覚を持たせる。
- ・ 60グループに担当教員を決め、朝会、集会ごとの6年生の企画の相談・評価を行う。
- ・ 縦割りグループ活動により、「誰の」「何を」育てるために「どのように」支援をしていくのか、ねらいを明確に持ち、振り返り、評価に生かしていくようにする必要がある。

取組の成果（効果）『リーダーシップの育み』

- ・ 「できたことは、縦割り班で計画したことをスムーズに進めることができたことです。ポイントの半分くらいしか回れませんでした。1年生の手を引いてあわてず歩きました。グループで協力してポイントをクリアし、みんなが笑顔で楽しく過ごすことができました。」＜6年生児童の感想＞
- ・ 1グループ15名程度の中に2名のリーダーが活動している。これまで5～6回のたてわり朝会を重ねてきた。下学年の世話をすることを通して、下学年から慕われ、頼りにされることでリーダーシップが着実に育っていくように思われる。



今後の展開『卒業おめでとう集会にむけて』

- ・ 1月のたてわり朝会では、3回目の自由遊びに向けたグループ活動を行う。
- ・ 2月末、「卒業おめでとう集会」では、9月末に続き、1～5年生が6年生にむけてお礼の手紙を書くことにしている。年間を通して活動してきたリーダーに対して、下学年が感謝の気持ちを手紙に託す。
6年生は下学年からの手紙を受け取り、これまでの振り返りを行い、最高学年としての自覚をさらに高めていく。

他校へのアドバイス『主目的は何か』

- ・ 他者から認められ、他者の役に立っているという児童の「自己有用感」を育みたいとの思いで異年齢交流を行っている。5年生と近隣幼稚園・保育園の年長組、1、2年生と年長組との交流等、校内のみならず幼・保・小連携推進計画にも位置づけて取組を行ってきた。「何をした（させた）のか」のみならず「何を」育てるために取組を行ったか。交流のみが主目的になってはいないか常に振り返りを行う必要がある。
- ・ 縦割りグループ編成の際に、配慮を要する児童については職員間で情報を共有し、担当教員、リーダーを決める際の参考にするようにする。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立竹屋小学校	校長氏名	尾形 慎治	生徒指導主事氏名	里本 孝文
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『竹屋っ子グループ』を用いた集会活動

取組のねらい 『異年齢グループ活動』（異学年交流）

児童が自分たちの学校生活をより良く、そして楽しく向上させようとする意図のもとに、自主性と社会性を養うために、児童相互の関わりの場として、異年齢グループを積極的に活用する。

取組の具体的内容 『年間を通して』

<竹屋っ子グループ>（縦割りグループ）

- ・全児童を人数や男女比が等しくなるように24のグループに分ける。
- ・年間を通して様々な場面で活用する。

- 6月・・・折り鶴集会
- 7月・・・夏の集会
- 9月・・・クリーン活動
- 12月・・・冬の集会
- 随時・・・体育的集会



<異学年交流>

- ・1・2年の校内探検，おもちゃ祭り
- ・2・3年，4・5年，5・6年の学習紹介引き継ぎ
- ・すずかけ交流会（1・2年，3・4年，5・6年）
 ※「すずかけ」とは毎年作成する全校文集のこと
- ・運動会や遠足



取組の課題・創意工夫『グループ作り』

- ・年度当初のグループ作りに手間がかかる。
(児童の実態把握, グループの均等性, 要配慮児童の所属グループ) 等
- ・グループ数に対して担当者(職員)の不足。

取組の成果(効果)『思いやり』

- ・全校児童が顔見知りになった。
- ・上の学年にとっては, 自尊感情が揺さぶられ, 自主性やリーダー性が育った。
- ・下の学年にとっては, 上の学年に憧れ, 今後の見通しや, 学習意欲の向上につながった。
- ・互いを意識し, 尊重し, 思いやる気持ちが養われた。

今後の展開『継続と見直し』

- ・活動が定着していくために, 職員が意識統一して継続していくことが大切。
- ・マナー化を防ぐために活動内容や場面について見直すことも必要だと思う。

他校へのアドバイス『異学年交流』

・異学年での活動は, 上学年児童にとっても下学年児童にとっても効果が大きい活動である。
また, 学校の伝統や風土を引き継いでいくことにおいても, 大きな役割を果たしている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立宇品小学校	校長氏名	森川 康男	生徒指導主事氏名	原 幸子
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名	『宇品っ子集会』
-------	----------

取組のねらい

- ・上学年と下学年がペアでグループになり、交流を深め、よりよい人間関係を形成する。
- ・集団の一員として自分の役割を果たし、協力してよりよい学校づくりに取り組む自主的・実践的な態度を育成する。

取組の具体的内容 『自主・実践』

- 日時 平成 27 年 11 月 18 日 (水) 宇品タイムと第 5・6 校時
- 場所 各教室及び体育館
- 内容
 - 学年で統一したテーマのものを準備する。
 - 学年が同じ内容にならないように、学年間で相談しておく。
 - 教育活動に合った創造的なものを考える。
 - 事前準備で、学習内容に合うものは、国語、生活、総合、図画工作科などの、シラバスにある時数でカウントをする。

学年	テーマ	具体例(内容)【当日までの時数例】
1・2 年生	「おもちゃであそぼう」	やまのぼりかめさん、ぶんぶんゴマ、ほか手持ちおもちゃを作って紹介する。【時数：生活科、図画工作科、国語科、学級活動など】
3・4 年生	「チャレンジランキングゲーム」	空き缶積み、傘バランス、漢字パズル、ほか、タイムを計って競うゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動、国語科など】
5・6 年生	「スポーツゲーム」	ストラックアウト、ボーリングなど、体を使って取り組めるゲーム。ルールを工夫する。【時数：学級活動、図画工作科など】
わかば学級	学級児童の実態に応じて	担任で相談する

- 混雑しないように、1 グループ(6・7 人)が一斉に楽しめて、5 分以内で次の学級へ行けるように内容を考慮する。
- 教室ごとの準備・片付け・運営は、学級児童ですばやくできるように役割分担を細かく考えておく。
- 開始の放送までに学級でお店の準備をしておく。
- ごみを出さないことを前提とし、リサイクルできるものを利用するなど、材料を集める。学校で処分できるものは各教室ダンボール 2 個までとし、持ってきた材料や作成したものは、各自持ち帰る。
- 学級でスタンプを用意しておく、スタンプ係も決めておく。
- 役割分担
 - 全体の司会進行は、児童運営委員会が行う。
 - 各学級のお店は、どの学年の人も楽しめる内容で、学年で話し合った上、学年の実態に応じたものを決定する。担任がお店の内容を児童運営委員会へ知らせる。(10 月 23 日(金)まで)
 - 学級担任は学級内と担当場所(付近の廊下階段)の安全指導を行う。
- 進め方
 - 開会式を自分の教室で行う。
 - 開会式終了後、スタート放送で移動を開始する。
 - 各教室でスタンプをもらって、地図を見ながら次の教室に進む。
 - 放送を聞いて、前半・後半でお店の当番の人と回る人を替える。
 - 放送は児童運営委員会児童が行う。
- ルール
 - グループで行動する。
 - 他のグループと合体したり混じったりしない。
 - 校舎内では右側を歩き、走らない。体育館周りは一方通行にする。
 - 移動は、順路を守り逆走しない。
 - 放送をよく聞いて行動する。
 - 前半 45 分後半 45 分とし、前半後半の間 5 分で交代をする。(放送の合図で開始、終了)
 - 終了 10 分前に学級の受付を終了する。
 - 準備・片付けは児童全員で協力して行う。

(9) 出入り口は全学年で揃えて、混乱を少なくする。

7 「字品っ子集会」当日の教員の役割

- (1) 教室移動のタイミング、前後半の移動の呼びかけをする。
- (2) 各学級担任は、定刻に終了できるように、10分前には受付を終了することを指導する。
- (3) 教室内や付近廊下の児童管理・安全指導をする。
- (4) 放送・進行は、児童運営委員会担当職員が指導する。
- (5) 担任外教員は、体育館周りや北校舎西出入り口周りを巡視する。
- (6) 各学級担任は、5分以内で次の学級へ行けるように指導する。(渋滞すると全て回れないグループ出る。)



取組の課題・創意工夫 『ピア・サポート的交流活動』

【仲よく交流できるように】

事前指導

(1) グループ作り

○遠足のペアを活用してグループを作る。

①ペア学年で仲よく回ることができるようにメンバーを確認しておく。

※わかば学級は個別の支援に応じて交流学級に入る。

②各学級の児童を、前半に回るグループと後半に回るグループの2つに分けておく。(上学年)

③2つか3つのペアと一緒に回るメンバー(6・7人)を決め、メンバー表を作成する。

④4・5・6年生と一緒に回るグループ毎に、事前打ち合わせ会までに班長と副班長を決めておく。

(2) 事前打ち合わせ会

○ペア学年毎に担任間で相談して 10 / 17(月)～ 11 / 4(金)の間で、期日を決めて行う。

①グループの自己紹介をする。

②スタンプカードにメンバー全員の名前を書く。

③行くコースを確認する。(混雑を考慮し、同じ学級数字の教室を回るようにする。児童運営委員が順路を指定する。「例 6-1→1-1→3-1→4-1→2-1→5-1の順番で行く」など)

事後指導

○集会後もグループ同士で仲よく交流できるように指導する。

取組の成果(効果) 『よりよいつながり』

- ・他の児童とコミュニケーションを取ることが苦手な児童が、興味・関心のある活動を実践することによって、学級の中での存在感や連帯感を持つことができた。
- ・上級生が下級生を思いやる気持ちを持つことができた。

今後の展開 『人間関係づくり』

- ・「子どもの人間関係づくり推進プログラム」について教職員が連携し、計画的な取組の推進を図る。
- ・共同学習の取り入れ方や方法を学年で研修し、実践内容を深める。
- ・行事取組の場面においてグループコミュニケーション活動を実施する。

他校へのアドバイス 『全校的指針』

- ・ピア・サポートを活性化するためには、協力の価値を一人一人が認めて実践するといった全校的指針を持ち、相互性・信頼性に基づく人間関係を築くことが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立井口台小学校	校長氏名	中島 孝子	生徒指導主事氏名	梶川 恵理
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『 ふれあい広場 』

取組のねらい『キーワード 児童・教員・保護者・地域の連携』

- 生活科・総合的な学習の時間を中心とした学習の成果を発表する。
- 企画に参加することにより，児童，教員，保護者，地域の方々がお互いにふれあえる時間を設ける。

取組の具体的内容『キーワード 学習発表』

○ねらいに即した学習活動の工夫

①行事の企画・運営について

- 1 学年…生活科の学習で作った作品や体験をまとめた掲示物を展示する。
- 2 学年…図画工作科で作ったおもちゃを展示し，「おもちゃランド」として発表した。
- 3 学年…理科「風の力」「昆虫調べ」をゲーム形式で発表
- 4 学年…地域の伝統や町の成り立ちについて，総合的な学習の時間で調べたことを発表する。
- 5 学年…野外活動の内容をクイズ形式やオリエンテーリング形式で企画し，他学年児童の参加型発表の場とする。
- 6 学年…ひろしま型カリキュラム「英語」を体験できる場を設定し，他学年に理解してもらう。

②他学年の企画への参加について

全学年とも他学年の企画を見学したり，参加したりすることにより，井口台小学校の学習内容や伝統について理解すると共に，次年度以降のふれあい広場の企画を計画することを学ぶ。



← 3年生

『いけいけドンドン風の力』

取組の課題・創意工夫『キーワード 交流』

- 企画・製作・運営を子どもたちが中心となっていく。
- 運営に関しては、大別して前半と後半（担当でない場合は他の学年企画への参加）に分かれて担当を決め実施する。

取組の成果（効果）『キーワード 交流・主体性』

- 子どもたちが仲間と目を輝かせて取り組み、感動を生む行事の創造
 - ①企画・製作・運営を子どもたちが中心となっていくことで主体的な行動が生まれ、創意工夫する力も育まれた。
 - ②運営に関しては、大別して前半と後半（担当でない場合は他の学年企画への参加）に分かれ、担当を決め実施することで責任感と協調性が生まれた。
 - ③同じ目標に向かって取り組むことで連帯感を身に付けることができた。
 - ④保護者や地域の方に発表することで、緊張感と達成感を味わうことができた。



← 6年生

『世界一受けたい6年の授業』

今後の展開『キーワード 学級自治の力』

- 児童自身が学級生活の主人公となる。
子どもたちは、ふれあい広場での計画・準備・実施の学習を通して自分達で考え行動する力を身に付けている。そこで、この学習で培った力をその後の学級での生活に生かし、子どもたちの自治の力を育てていく。

他校へのアドバイス『キーワード 主体性・交流』

- 子どもたちに企画・製作・運営を子どもたちが中心となっていくことで主体的な行動が生まれ、創意工夫する力も育まれるので、非常に良い学習活動になると考えられる。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立梅林小学校	校長氏名	中西 浩二	生徒指導主事氏名	通地 正博
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『梅林祭』

取組のねらい『楽しい学校生活を送ろう』

- ・2年生から6年生までは、梅林祭の取組を通して、クラスが協力し、一つのことを成しとげることで、新しいクラスの結びつきを深め、学校生活の楽しさを味わう。
- ・1年生は、お客さんになっていろいろなクラスを回る活動を通して、小学校生活の楽しさを味わい、新しい友達と仲良くなる。
- ・たてわり班でお店を回ること、異学年交流を図る。

取組の具体的内容『みんなで活動し、楽しもう』

1. 日時 6月19日(金) 1～3校時
2. 場所 開閉会式 体育館 活動 各クラス
3. 内容
 - ・たてわり班で回る(1グループ 5～7人)
 - ・2年生～6年生・・・お店を出す *店番・お客さんを前後半で交代
 - ・1年生・・・お客さんとして、各クラスを回る
 - ・たんぼぼ学級・・・交流学級で店番に参加 お客さんとして回る



取組の課題・創意工夫『みんなで力を合わせ、仲良くなるう』

課題

- ・まわる班（5～6人）を作る時に、縦割り班（11～12人）を各学年の人数及び男女比率が均等になるように、二班に分けることが難しかった。回る班の人数が多く、たくさんの店が回れなかった。

工夫

- ・各クラス、自分達で話し合っ何の店を出すのかを決めた。また、店の名前書きからポスター作り、店の準備、当日の店番などをクラス全員で、分担して行うように工夫した。
- ・1年生は、いろいろなクラスの店を回ることで、楽しい経験を味わい、友達との出会いの場を広げられるようにした。
- ・1年生～6年生までが含まれた縦割り班でお店を回ること、異学年交流を充実させた。

取組の成果（効果）『みんなで楽しく』

児童の感想より

- ・みんなといっしょに必死で考えて完成した出し物は、当日、たくさんのお客さんが来てくれて、うれしかったし、楽しかった。
- ・みんなで声をかけあい、協力し合っ、店番をすることができた。失敗しても、助け合っできたので、うれしかった。
- ・みんな、一致団結してがんばった。
- ・縦割り班で、あまり話したことのない人たちといっばい話せて、仲良くなった。
- ・いつも仲良くしている人とではなく、縦割り班でまわるのは、違う楽しみがあっよよかった。
- ・縦割り班の班長が、下の学年の行きたい所を優先して連れて行って来て、楽しかった。
- ・初めてたくさんのお店をまわることができ、楽しかった。まわる時もお兄ちゃん、お姉ちゃんがやさしくしてくれたので、うれしかった。
- ・6年生として、責任を果たせたことに満足した。

以上のように「楽しかった」、「うれしかった」、「協力」、「責任」ということばを多くの児童が使っっており、ねらいを達成できたように思われる。

今後の展開『継続した取り組み』

- ・「梅林祭」だけではなく、休憩時間を利用してのクラス対抗の綱引き大会や長縄跳び大会があるので、当日だけではなく、練習からクラス全員で取り組んでいき、クラスの一体感を味わわせる活動をさせていく。
- ・登校班で登校する時や、児童朝会での縦割り班で活動する場面で、他の学年の児童に対して、思いやりのあることば使いをするように指導していく。

他校へのアドバイス『継続させていく』

- ・縦割り班をつくり、児童に班を覚えさせるのは、大変であるが、異学年交流を仕組み、継続することによって、下の学年に対しての思いやりの心は育っくと思われる。
- ・クラスの結びつきを深める活動を、単発ではなく計画的に取り入れていくと、子ども達が目的意識をもちながら活動していくことができる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立仁方小学校	校長氏名	西田 洋子	生徒指導主事氏名	玉田 文男
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『縦割り班顔合わせ会』

取組のねらい『キーワード：リーダー育成』

ア 「縦割り班顔合わせ会」を実施し、1年間の縦割り班のスタートをスムーズにすることで、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。

イ 「縦割り班顔合わせ会」の中で、防災の歌を歌ったり、防災カルタをしたりすることで、学級活動の内容である「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」と関連を図りながら、防災意識を高める。

取組の具体的内容『キーワード：リーダーとの顔合わせ』

- 1 日時 日曜参観日の学級懇談会の時間
- 2 指導者 学級担任以外の職員が指導（担任は学級懇談会に参加）
- 3 進行 児童委員会
※6年生がリーダーとなるスタートの活動となるので、職員が巡回して助言した。
- 4 内容
 - ①始めの言葉
 - ②1年生お迎えの言葉
 - ③1年生のお迎え（1年生を縦割り班に招き入れる）
 - ④自己紹介
 - ⑤防災の歌（3年前に「夢配達人プロジェクト」において、仁方の地名が入った防災カルタを作りたい、歌も作り広めたいと言う願いが当選し、作成したもの）
 - ⑥防災カルタ
 - ⑦中学校校歌（小中合同運動会で中学校校歌も斉唱するため）
 - ⑧先生のお話
 - ⑨終わりの言葉



④自己紹介
リーダーから、学年と名前を発表していく。



⑥防災カルタ
各班1つずつ防災カルタをもち、リーダーが読み手となって始めている。

取組の課題・創意工夫『キーワード：所属意識の向上』

○ 自己紹介の他に、防災の歌、防災カルタ、仁方中学校校歌を歌うことで、仁方地域への所属意識を高めている。

- ・防災の歌、防災カルタは、防災意識を高めるために行っている。この日までに各学級でも防災の歌を練習している。この歌やカルタの中には、仁方地域の地名などが入り、地域のことをよりくわしく知ることにもつながっている。
- ・仁方中学校校歌については、3週間後に小中合同運動会で歌う必要があり、この日に全校で初めて全体練習をすることができた。

取組の成果（効果）『キーワード：自己肯定感、自己有用感の向上』

○ 「縦割り班顔合わせ会」を行うことによって、6年生がリーダーとしての自覚を持ち、その後の縦割り掃除をスムーズに開始することができた。縦割り班活動を通して、低学年が高学年を目標としたり、感謝の気持ちをもったりし、高学年は低学年に優しく接することができている。また、高学年は低学年に慕われることで、自己肯定感や自己有用感が向上してきている。

【縦割り班掃除の内容】

ア 週4回実施し、掃除場所は、2ヶ月に1度替わる。

イ 縦割り掃除の1回目に、6年生がリーダーとなって、掃除場所の確認と、自分が何を分担するか話し合う。

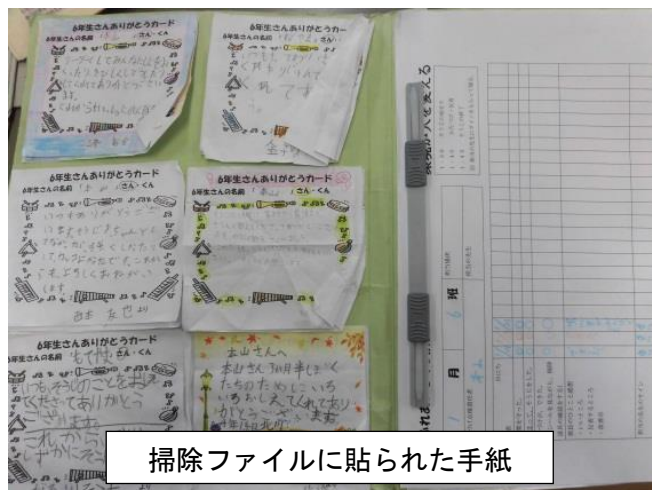
ウ 集合→リーダーが班員を確認して掃除開始（約10分間）→片付け→集合して反省

【縦割り班掃除のポイント】

ア 6年生がリーダーとして、時間の流れに沿って声をかけたり、下級生に掃除の仕方を教えたりしている。

イ 掃除の反省をする時に、リーダーが本日の掃除の評価をする。がんばっているところを評価していくように、最初の2週間は先生ががんばっているところを評価して、リーダーにお手本を示し、指導している。この評価の場を設定することで、6年生はリーダーとして班全体に目を向け、良さを褒め班も互いに認め合うようになってきた。

ウ 縦割り班の掃除場所を変更する2ヶ月毎に、班員が6年生に対し、感謝の気持ちをこめてお礼の手紙を書いている。6年生はうれしそうに手紙をもらい、中には掃除ファイルに貼り付けている児童もいる。この毎日の掃除の他に、学期2回は朝会や学校行事で縦割り班で遊ぶ異学年交流を行っている。



【下級生から6年生への手紙の内容】

いつもそうじのことをおしえてくださってありがとうございます。これから、ぼくは、しずかにそうじをします。

たてわりそうじのとき、いつも、やさしくおしえてくれて、ありがとうございます。

今後の展開『キーワード：リーダーの引き継ぎ』

ア 縦割り班でのその後の活動

→児童朝会（月1回）、「わくわくオリエンテーリング」（6月：特別教室や体育館で委員会毎にクイズやゲームを企画運営し、縦割り班で体験してまわる活動）、「ドッジビー集会」（10月：ドッジボールを柔らかいフリスビーに代えて行う）

イ 「6年生ありがとう集会」（3月）

→お世話になった縦割り班の6年生に感謝の言葉を発表したり、縦割り班の6年生に感謝のコメントを書いてプレゼントしたりする。

→今まで6年生がしてきた学校の仕事（交通安全推進隊：学期始めに正門であいさつ運動をする。縦割り班掃除のリーダー）を5年生に引き継ぐ簡単な式も行う。

ウ 「6年生ありがとう集会」の次の日から、卒業式までは、集団登校、次年度の委員会の仕事（次年度の委員会は3月に決定）、縦割り班掃除は、次年度の最高学年となる5年生へ引き継ぐ。委員会活動では、毎日の当番活動に6年生が1人入り、やり方を教え、新5・6年は、次年度の委員会の当番活動を開始する。また、集団登校や縦割り班掃除などでも、リーダーとしてどのようにしていけばよいか教えていく。

他校へのアドバイス『キーワード：縦割り班掃除』

異学年交流は、上の学年は自己有用感や自尊感情の向上、下の学年は高学年を目標とすることができたり、感謝の気持ちをもつことができたりして有効な手段である。縦割り掃除を組み入れると、常時、異学年での交流があるのでさらに有効である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原西小学校	校長氏名	北村 由美子	生徒指導主事氏名	平野 知子
-----	------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『1年生と仲良くなる会』

取組のねらい『異学年交流による心の居場所づくり』

- ① 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員として自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ② 1年生と楽しく活動することで、互いに認め合い、喜びを実感できる「心の居場所づくり」をめざす。
- ③ 「あいさつをしたり楽しくお話をしたりする」(1年生)・「1年生にあいさつをしたり、声かけをしたりする」(他学年) という目標を決めて取り組む。

取組の具体的内容『ゲームを通じた絆づくり』

内容 (司会進行・・・平成27年度 前期児童会役員)

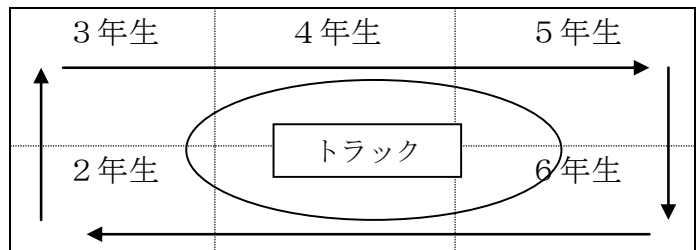
- ①はじめの言葉 (児童会役員)
- ②校長先生のお話
- ③児童会あいさつ (児童会役員)
- ④学年ごとのゲーム

※ 学年ごとに1年生を迎え、全校で同時にゲームをする。
(各学年でゲームを考え、準備しておく。)

※ 1年生は5グループに分かれ、各学年を約10分ごとにローテーションする。

※ 1年生はグループごとに最初に自己紹介をさせる。

※ 1年生の5グループに担当の職員を配置する。



- ⑤1年生へのプレゼント渡し

※プレゼントは6年生が用意し、1人1人に手渡す。

- ⑥1年生のお礼の言葉
- ⑦終わりの言葉 (児童会役員)
- ⑧1年生退場

★実施後、1年生と活動したことを川柳に書かせる。

★川柳を昼の給食放送で紹介する。



取組の課題・創意工夫『点の取組から線の取組へ』

課題

- 1年生と他学年との交流が、行事の時以外の日常的なものにはなっていない。たてわり班での遊び・読み語りなど、異学年交流を工夫していく必要がある。

○高学年に「下級生のお手本」ということを意識させ、下級生が「なりたい自分」として上級生を尊敬できるようにすることで、高学年がお手本となる、よりよい伝統をつくっていく。

取組の成果（効果）『自己存在感と共感的人間関係の育成』

○全体としては児童会が、学年ごとのゲームの場面では、各学年が中心となって企画・立案・準備・進行することを通して、主体性や自主性を育成することができ、協力して取り組むことができた。

○6年生は、プレゼントを作って直接1人1人に手渡すことを通して、1年生を思いやる心が育つとともに、最上級生としての自覚をもつことができた。

○1年生は、上級生に声をかけてもらったり、一緒にゲームを楽しんだりすることを通して、上級生や学校に親しむことができた。

○児童会役員は、1人1人が役割を分担し、協力して取り組むことを通して、自己存在感を与えることができた。

○行事全体を通して、児童相互の共感的人間関係を育成することができた。

今後の展開『心のバトンをつなぐ』

『6年生を送る会』

○5年生の児童会役員にとって、初めての児童会行事の企画・立案・準備・進行となる。学校のリーダーとしての自覚を持ち、協力しながら、それぞれの役割を果たすことで自己存在感・自己肯定感の充実を図る。

○1年生から5年生は、お世話になった6年生にメッセージを用意することを通して、感謝の気持ちをもつとともに、一緒にゲームなどを楽しみ、共感的人間関係を深める。

他校へのアドバイス『児童もミドルリーダーの育成を』

○各学年がゲームを準備することで、全校で同じゲームを楽しむよりも、1年生以外の学年が、主体的に活動することができる。

【 振り返りの川柳 】

これからも
心をつないで
遊ぼうね

仲良くね
そして お手本に
ならなくちゃ

目を合わせ
「よろしく」と言ったら
笑ってた

顔見ると
笑顔がたくさん
あふれてた

あの笑顔
見ると こっちも
ニコニコに

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市小学校	校長氏名	沖野 稔則	生徒指導主事氏名	瀬尾 啓子
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『異学年読み聞かせ活動』

取組のねらい 『キーワード：自己有用感を高める』

- ・ 低学年に読み聞かせを行うために、本選び・練習など責任をもってやりきらせることで、高学年児童の自己有用感を高める。
- ・ 読み聞かせを通して異学年の交流を深める。

取組の具体的内容 『キーワード：関わり合い』

- ・ 6年生→1年生，5年生→3年生，4年生→2年生に，読み聞かせを行う。
- ・ 高学年は，学級内で4人程度ずつのグループをつくって活動する。
- ・ 高学年は，グループで事前に本を選び，読み聞かせの練習をする。（各学級で記録をとり，同じ絵本にならないように留意する。）
- ・ 毎月1回（原則第3金曜日）の朝読の時間に，高学年の各学級から1グループずつが，指定している低学年の教室に向いて実施。（1回10分以内）・ 低学年は，聴く態度に気をつける。



取組の課題・創意工夫 『キーワード：(高)達成感 (低)感謝』

- ・ 他の活動（入学式，年度当初の掃除や給食準備の手伝い，春の遠足，体力テストなど）で交流することの多い6年生・1年生をペア学年にし，さらに交流を深めるようにしている。
- ・ 高学年は，グループで話し合って本を選ぶ時間や練習する時間を確保する。練習は，朝読や休憩の時間を活用し，役割分担や読み方の工夫をお互いにアドバイスしながら仕上げさせていく。
- ・ 低学年は，読み聞かせが終わったら，高学年に拍手したり，感想やお礼を言ったりすることで感謝の気持ちを伝えるようにする。

< 6年生の日記より >

ぼくは，読み聞かせをして思ったことが2つあります。

1つ目は，グループのみんなと練習したことについてです。

最初は，いやだなと思っていましたが，どの本がいいかなあと思っているうちに楽しくなってきたので，やろうという気持ちになりました。みんなと一生懸命練習して本番にのぞんだことで，読み聞かせが終わると，前よりも仲良くなれたかなあと思いました。

2つ目は，1年生に喜んでもらったことです。

グループのみんなが本を読んでいるときは，すごく静かに聞いてくれて，それだけでもうれしかったのに，さらにお礼も言ってもらったので，とってもうれしかったです。

取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- ・ 高学年は、相手意識をもって、本選びや役割読みの練習をしている。練習の際は、どのように読んだら低学年に分かりやすいかを考え、互いにアドバイスをし合っている。
- ・ 低学年は、読み聞かせのとき、一生懸命聴いている。また、高学年の読み聞かせの姿を見て、あこがれの気持ちを抱く児童もいる。

<1年生の感想より>

いままでいろいろな本をよんでくれてありがとうございました。おもしろい本もあったし、すこしふしぎな本もありました。

わたしは、よみきかせがある日をたのしみにしています。わくわくします。その日のあさは、れんらくちょうをかくのをはやくおわらせます。

6年生が本をよんでくれたとき、ほんわかします。わたしも、はやく6年生になりたいです。

- ・ 4年生は、総合的な学習の時間の取組でも、自主的に「絵本読み聞かせ隊」をつくり、読み聞かせを行っていた。
- ・ 他の取組とも合わせ、特に、高学年の自己有用感が高まった。

（6年生児童アンケート：9月58%→1月73%）

<6年生の日記より>

私たちのグループは、10月16日に、1年1組に行きました。

私が気をつけたのは、1年生に聞こえる声でゆっくり読むことと、1年生の顔を見ながら読むことです。特に、私は、よく早口だと言われるので、ゆっくり読むことを意識しました。

1年生の教室に入る前は、少し緊張していました。失敗したり、焦って早口になったりしないか、不安になりました。でも、読み始めると1年生のみんなが真剣に本の絵を見て話を聞いてくれるのが分かって嬉しかったし、少し安心しました。

読み終わってから、1年生が嬉しそうにお礼を言ってくれたのを見て、とても嬉しかったです。

異学年読み聞かせが始まって、本当に良かったな、と思いました。

今後の展開『キーワード：継続・創意工夫』

- ・ 2月の最後の異学年読み聞かせが終わった後、低学年全員がお礼の言葉などをミニカードに書き、高学年に渡して感謝の気持ちを伝える。
- ・ 3月のあいさつ運動では、異学年読み聞かせの学級がペアとなり、一緒に行く。

<6年生の日記より>

ぼくは、読み聞かせをして心に残っているのは、1年生がすごく真剣に本を聞いてくれたことです。ぼくは、始めはすごく緊張していて、言葉などをまちがえるかもしれないなど、いろいろなことを思っていたけど、1年生は、ぼくたちが読んでいるのをすごく真剣に聞いてくれたので、少し緊張がなくなりました。

今度は、本を通してではなく、他のことでも交流ができればいいなと思いました。

他校へのアドバイス『キーワード：点から線へ』

- ・ 読み聞かせを行う学年や学級のペアは、その場限りではなく、様々な他の活動とも連動させていくと、さらに交流が深められると思われる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立友和小学校	校長氏名	熊谷 裕之	生徒指導主事氏名	田邊 由貴子
-----	------------	------	-------	----------	--------

取組事例名	『つながりを深めるデー』
取組のねらい	『キーワード 人間関係を深める』
	小学生と中学生が交流することで児童生徒同士の人間関係を深めるとともに、6年生児童の中1ギャップを解消し、中学校へのスムーズな移行につなげる。
取組の具体的内容	『キーワード 中学校への展望を持つ』
	1時間目に「つながりを深めるデー」のはじめの会をして、あいさつや班編成、自己紹介、集団ゲームなどをした。中学生と一緒に集団ゲームをすることにより、中学生と仲良くなることができた。2時間目に中学生が小学生の授業のサポートをした。中学生に学習のサポートをしてもらうことで、中学生に対してあこがれの気持ちをもつことができた。3時間目に6年生と中学生と一緒に小学校の校内を掃除した。(雨天のため、校外を掃除する予定が、校内を清掃することに変更になった。)一緒に掃除をすることでつながりを深めることができた。5時間目に中学校への展望を持つということ、中学生が中学校生活について説明をした後、6年生の質問に答えた。中学校生活について知ることができ、中学生になるのが楽しみになったという児童もたくさんいた。
取組の課題・創意工夫	『キーワード はなまる』
	取組の課題は、ちょうど梅雨時期のため、雨が降り、外での掃除をすることができなかつたことがあげられる。創意工夫は、中学生にサポートをしてもらえる授業内容を工夫したことがあげられる。算数では、たし算やひき算のひっ算を中学生が一人一人に指導してくれた。赤鉛筆をもって、はなまるなどもしてくれて、中学生と小学生の良好な関係を作ることができた。
取組の成果(効果)	『キーワード 良好な関係』
	中学校3年生の生徒が、先輩として出身小学校の児童の活動をサポートすることを通して、思いやりの気持ちと態度を育てることができた。また小学生は、中学生に学習をサポートしてもらうことで、中学生に対して尊敬の気持ちをもつことができ、中学生と良好な関係を作ることができた。
今後の展開	『キーワード 小中連携』
	今後も電話や合同部会の会議で、こまめに情報交換をしていき小中連携を密にしていく。児童や生徒の遅刻や早退、欠席の状況などを共有し、6年生がスムーズに中学校へ行けるようにしていきたい。また入学説明会での体験授業や部活動の体験活動も大切にしていきたい。
他校へのアドバイス	『キーワード 自己有用感を育てる場』
	中学生が出身小学校を訪れる機会があると、教職員が成長した姿を見ることができる。また、中学生にとっても出身小学校を訪れる機会があると、小学生に学習を指導したりして、自己有用感を感じることができる。中学生と小学生の自己有用感を育てる場として、「つながりを深めるデー」のような企画を計画することをお勧めします。

「つながりを深めるデー」写真



「つながりを深めるデー」児童の感想

・「つながりを深めるデー」の1日は、中学生の人からいろいろな事を学びました。たとえば、中学生になると勉強が難しくなることが分かりました。中学生が来てくれたことで、中学校に行くことが楽しみになりました。ぼくが中学生になる時は、三年生の人はいなくなるけれど、ぼくたちが三年生になったら、今日中学生がしてくれたみたいに優しくしてあげたいと思いました。

・「つながりを深めるデー」は、中学生といっしょに「来い来い」ゲームをしたり、給食を食べたり、佐伯中学校について学んだりしました。そのおかげで、中学校三年生と仲良くなることができました。ぼくが一番心に残ったことは、教科により先生がかわることや、制服のイメージは、自然の森ということです。佐伯中学校も楽しそうだなと思いました。

・今日は、佐伯中学校の三年生のみさんから佐伯中学校の事についてたくさんの事を学びました。給食の事や下校時刻の事など、わたしの知らない事をていねいに教えてくださいました。そうじの時間では、みんなのリーダーとなり、そうじの指導をしっかりしてくださいました。授業で分からない所があったら分かるまで教えてくれたので、よく分かりました。分かった時はとてもうれしかったです。今日学んだ事は、これからの小学校生活と中学校生活に活かしていきたいです。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中小学校	校長氏名	奥 金実	生徒指導主事氏名	林 寛
-----	-----------	------	------	----------	-----

取組事例名 『縦割り活動』

取組のねらい 『互いに支え合う活動』

- ・縦割りグループの仲間が、一緒に掃除したり食事をしたり遊んだりすることを通して、学級や学年の枠を超えたかわりを深める。
- ・下級生は、集団生活におけるルールやマナーについて上級生から学び、上級生は下級生のケアをする中で責任感を身につける。
- ・グループの担当者は、清掃活動等の時間を共に過ごすことで児童のいろいろな面を知り、後の生徒指導にいかす。

取組の具体的内容 『いろいろな場面で』

1 縦割り掃除

赤・青・黄・緑それぞれ 1～15 の縦割り班を作り、掃除を分担して行う。縦割り班の人数は、それぞれ 15 人程度とする。前期（4～10 月）と後期（11～3 月）で編成替えをして、より多くの児童との触れ合いの機会が得られるようにする。清掃後の反省会の司会は、6 年生のリーダーが担う。

2 1 年生歓迎遠足

縦割り班を活用して、全校で同じ場所に遠足に行く。出発式から解散式までを児童会執行部の 6 年生が取り仕切る。全行程を縦割り班で並んで歩く。6 年生は 1 年生と、5 年生は 2 年生と、4 年生は 3 年生と手をつないで歩く。食事やレクも縦割り班で活動する。



① 6 年生の「いただきます」でいっせいに弁当を開く。② 新聞紙に何人乗れるか。上級生は下級生をおんぶして。

3 仲良し給食・仲良し遊び

前後期それぞれ 1 度ずつ実施する。お弁当給食に切り替えて、校内のいろいろな場所で食べる。昼休憩も引き続きグループで活動する。あらかじめリーダーが中心になって相談し決めていたレクや遊びを実施する。

4 マラソン週間

冬季に実施している。3 分間を異学年の児童と一緒に走る。全校で走るには人数が多すぎるため、「本日は赤・青グループの日」といったように、縦割り班を基準にした実施スケジュールを組む。

取組の課題・創意工夫『自主性』

掃除については、なかなか主体的に動けていない実態もある。1・2年生があまり活動していなかったり、3・4年生がリーダーの指示に従わなかったりしている場面もないわけではない。また5・6年生の中にも、面倒そうな素振りを見せる児童もいる。

いろいろな取組を決定するのは児童自身であり、話し合いも重要となる。仲良し遊びの決定などでは、わがままな気持ちを抑え、みんなの意見を聞きながら決定していくプロセスを大切にしたい。

取組の成果（効果）『責任感』

いろいろな場面で縦割り活動を取り入れている本校では、特にリーダーの6年生は重い責任を負っている。リーダーの行動は、そのすべてが下級生の目に映っており、尊敬の念を抱かせる振る舞いをしなくてはならない。一部のリーダーには、そこまでの自覚をもてていない児童もいた。それでも、担当教職員の声かけや担任からのアプローチにより、徐々に責任感のある態度へと変容してきた。また、学級では素直に自分を表現できていない6年生が、縦割り班の中では、良きリーダーとして、下級生に対して優しい一面を見せている例もある。

今後の展開『感謝』

6年生を送る会に向けたプレゼントづくり

3月1日の6年生を送る会は、各学年からの出し物を中心とした心温まるイベントである。その中の重要なプログラムに「1～5年生からのプレゼント渡し」がある。特別活動の時間を1時間使い、縦割り班の1年生から5年生が集まってメッセージ集を作る。次期リーダーとなる5年生が中心となって作業を行い、協力して6年生への感謝の気持ちをつづったメッセージ集を完成させる。表紙には、グループのみんなが集めた笑顔の写りが使われる。

他校へのアドバイス『楽しんで取り組む』

日常的には触れ合うことの少ない担当学年以外の児童の顔と性格がよくわかり、指導者としても楽しい出会いがある。このような児童理解の形も有意義なものだと思う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名 熊野町立熊野第三小学校 校長氏名 小田原 かおり 生徒指導主事氏名 上田中 泰子

取組事例名 『V・S(ボランティア・サービス)朝会』

取組のねらい『異学年交流・協力・責任感』

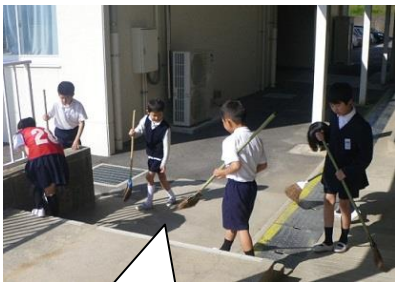
- ・ともに働いたり，かかわったりする活動を通して，他学年との交流を大切にする。
- ・協力することの大切さを学ぶ。
- ・高学年としての自覚や責任感をもつ。

取組の具体的内容『学校のため・みんなのため』

毎月第3木曜日 8：15～8：25

その月の担当者（6年生・委員会）が考えた活動を縦割り班で行う。

5月「掃除」



普段の掃除ではできにくい所を見つけて，きれいにしました。

6月「読み聞かせ」



梅雨の時期なので，教室で読書が楽しめるように，絵本の紹介をしました。

7月「草ぬき」



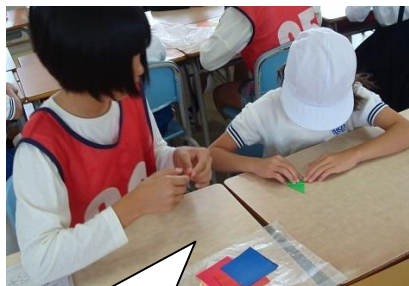
運動場の草がのびてきたので，環境委員会の提案で草ぬきをしました。

9月「石ひろい」



運動委員会の提案で，運動会のために石ひろいをしました。

10月「折鶴づくり」



6年生が社会見学で平和公園へ行くので，みんなで折鶴をおりました。

11月「落ち葉ひろい」



学習発表会が近づきました。落ち葉ひろいをして学校をきれいにしました。

12月「大掃除」



年末なのでみんなで特別教室の大掃除をしました。

1月「正月遊び」



1月といえばお正月。かるたやすごろくをして遊びました。

取組の課題・創意工夫『気づき、考え、実行する』

- ・毎年新しい縦割り班を形成する際、配慮を要する児童に関してしっかり情報交換する必要がある。
→初めての縦割り班活動を5月にした。
- ・活動内容は、昨年度の活動例を参考に6年生が考える。学校のため、みんなのためにどんなことをしたらよいか気づき、考え、実行できるようにする。→話し合いの時間を確保できるようにした。
- ・6年生が達成感を味わうことができるようにする。→毎回、振り返りカードを書き、そこに担当者がひとことコメントを入れて、ほめるようにした。

取組の成果（効果）『みんな笑顔で、達成感』

- ・6年生は、リーダーとしての責任感が育ち、達成感も感じることができる。
- ・異学年で交流することで、下学年に優しく接する児童が増えた。上学年に優しくされて教室とはちがう表情を見せる児童もいる。
- ・協力することの大切さを感じることができる。

縦割り班の班長をやってくれしかったことは、みんなの笑顔が見られたことです。活動や反省のときに「楽しかったよ。」「そうじががんばったよ。」と言って笑ってくれたときは、班長をやってよかったなとおもいました。(6年女子)

6年生としてのぼくの目標は「みんなの手本になる」でした。特に、V・S朝会では下学年に手本を見せようと、はりきって活動しました。初めは、あまり話さなかった班の人と、だんだん仲良くなって、ぼくについてきてくれるようになりました。がんばってよかったなと思いました。(6年男子)

はん長のお兄さんがいつも教室にむかえにきてくれてうれしいです。やさしいです。ありがとうございます。(1年女子)

今後の展開『伝統の引継ぎ』

V・S朝会は5年間続いた取組です。毎年2月と3月に、6年生から5年生へ引継ぎが行われます。自分の班の5年生に方法を教え、近くでアドバイスしながら見守ります。5年生は「伝統」を引き継ぐことになり、6年生としての自覚につながります。伝統を大切にすることをつないでいきたいと思います。

他校へのアドバイス『縦割り班の活用』

縦割り班での活動は、V・S朝会だけではありません。本校では、縦割り昼食会や縦割り遊びもしています。1年間の活動を通して、交流が深まっていき、よりよい活動になっていくと思います。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田小学校	校長氏名	平川 博秀	生徒指導主事氏名	本田 光洋
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『吉田小学校フェスティバル～夏～』

取組のねらい 『キーワード：6年生の活躍，異年齢交流』

自治的な活動を仕組んでいくことで6年生児童の活躍の場を設け，自己有用感・自己肯定感を高める。また，縦割り班活動で異年齢交流を行い，望ましい人間関係を深める。

取組の具体的内容 『キーワード：6年生，縦割り班』

遠足，運動会の取組の中で協力してくれた1～5年生に，6年生が感謝の気持ちを表す会を開く。17の遊びのブースを6年生が企画・準備・運営する。そのブースを，1～5年生が縦割り班で回って，レクリエーションを楽しむ。



取組の課題・創意工夫 『キーワード：共通理解，時間，空間』

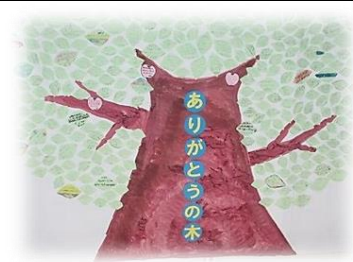
6年生に新たな目標となる活動を設定し，歓迎遠足や運動会の中で身に付けた力を発揮させることで，児童の中に主体的に学校をよりよくしていこうという動きをつくっていくことをねらった。工夫としては，児童が主体となる動きになるように，事前に児童会・学年会などで会の目的や意義について共通理解を図った。課題としては，1学期末に行ったため，準備の時間が十分取れなかった。しかし，時間がないうえに休憩時間，放課後などを利用して自主的に児童が活動する姿が見られた。また，遊びの空間として各教室をブースにしたため，事前の準備や，事後の片づけの時間も十分とれなかった。児童会を中心に提案していきながら，縦割り班活動が継続的な取組となるように，時間を確保していく必要がある。

取組の成果（効果） 『キーワード：感謝（ありがとう）』

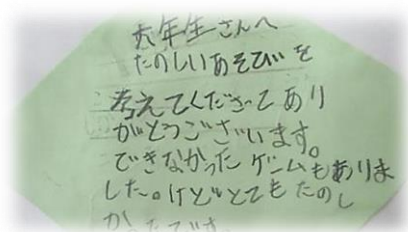
6年生の自己有用感・自己肯定感を高めるねらいで，「ありがとうの木」の取組とつなげていった。ありがとうの気持ちを葉っぱに書いて掲示していく取組であるため，各学年のありがとうの気持ちが形になり，6年生に「やってよかった。」という思いを実感させることができた。

また，各縦割り班に担当の教員がついており，当日，担当の班と共にブースを回り，6年生の活躍にふれることができたため，各教員が6年生を評価することができた。これにより，6年生と各職員との関係がより近くなった。

また，活動を通して，6年生の中に自信が生まれ，「学校をよりよくしていこう」「新しい取組に挑戦していこう」という意欲が高まった。



さらに、6年生はブースを複数で担当していたので、この活動を通して、6年生児童の中の望ましい人間関係が深まった。また、縦割り班で楽しいゲームに取り組んだことで、1～5年生の間の望ましい人間関係も深まった。



【ありがとうの木の葉】

<児童の感想から（4年生）>

6年生のみなさんが、ゲームのお店をひらいてくれて、吉小フェスティバルをしました。私が一番心にのこったのは、「中身あてゲーム」と「ビンゴゲーム」です。6年生は、1年生から5年生ができるゲームをたくさん考えていて、「6年生の人はそこまで考えているのだな。」と思ったし、「今日はとっても楽しい一日だったな。」と思いました。

6年生がわたしたちのために、吉小フェスティバルをひらいてくれました。わたしたちによるこんでもらいたいという思いで、今日まで休み時間やほうか後に、じゅんぴをいっぱいしてくれたことが、6年生のえがおからわかりました。わたしは、とてもうれしくてたまりませんでした。6年生にはかんしゃしています。

1学期は、運動会、入学式、まだまだいっぱいとてもすてきなことがありました。わたしだけではなく、みんなもそうだと思います。1学期は、ありがとうございましたとみんなに言いたいです。

今後の活動『キーワード：新しい伝統』

学校行事は、教師側が意図的、計画的に実施していくが、これに児童の発意・発想を効果的に取り入れていくことにより、児童の自主性を育むことができると考える。そうしてできたことを、新しい伝統として残し、つないでいくようにすることが大切だと考える。この活動も、第2回吉田小フェスティバル、そして5年生が中心となる「6年生を送る会」へとつないでいく予定である。行事をすること自体が伝統ではなく、児童の発意・発想を効果的に取り入れることを伝統としてつないでいき、児童が主体的に学校をよりよくしていこうという意欲を高めていきたい。



【昨年度6年生を送る会】

他校へのアドバイス『キーワード：自治的な活動』

生徒指導のねらいである「自己指導能力の育成」は、実践的な集団活動を通して体験的に学ぶことが必要とされている。つまり、望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを主たる目標とする特別活動は、生徒指導の中核的な役割を果たす。学級会や代表委員会などの自治的な活動のシステムを構築し、話し合いによる自治的な活動を地道に続けていくことが、児童の中の主体的に学校をよりよくしていこうという意欲を高める効果的な生徒指導であった。まわり道のように感じるかもしれないが、「困っていることは話し合いで解決する」「よりよい学校・学級になるように話し合う」ということが学校文化として定着していけば、より効果的な生徒指導の取組が行えると考えられる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立小田東小学校	校長氏名	信末 実智則	生徒指導主事氏名	御影 英夫
-----	--------------	------	--------	----------	-------

取組事例名	『一年生歓迎遠足，縦割り掃除，地域ボランティア掃除，縦割り班駅伝大会』
--------------	-------------------------------------

取組のねらい『キーワード つながり・自覚』

- ・学校や地域の美化活動を通して，これからよりよい学校生活を共につくっていかうとする意欲を持たせる。
- ・縦割り班でルールを守りつながりを深める活動を通して，上級生としての自覚や下級生として協力していく態度を養う。
- ・お互いの体力や体調に気づかいながら，みんなの力でゴールすることにより，お互いのよさや協働して目標を達成することの喜びを味わわせる。

取組の具体的内容『キーワード ミッションクリア』

- ・縦割り班ごとに校区内の全 7 ポイントをフィールドワークしながら歩き，協力して各ポイントで示された指令（ミッション）をクリアして回る。回る順番は，次の班と重ならないように，班ごとにローテーションさせる。
- ・掃除の仕方を教え，学び，共同でやり遂げる活動を日々進める。
- ・自主的に地域美化活動に参加する機会を設ける。
- ・一本のたすきをつないで走る場を設ける。

取組の課題・創意工夫『キーワード チャレンジ』

- ・今年度，新たに地域ボランティア掃除を企画し，ボランティア精神の高揚を図ることにした。教員が企画したものであるが，その運営は児童会（企画委員会）に委ねた。
- ・縦割り班駅伝大会を，今年度初めて企画したものである。高学年の走りに学び，また，高学年のリードによる順番決めや配慮などから，新たなことにチャレンジする喜びを共有した。

取組の成果（効果）『キーワード 達成感・喜び』

- ・縦割り班で新入生を迎えて遠足をするという目的に沿って，安心で安全にかつ楽しいを視点に，高学年が 1 年生の手を引いたり荷物を持ったりするなどほほえましい姿が，それぞれの班でたくさん見られた。
- ・6 年生にとっては，1～5 年のすべての学年の児童を 1～2 人でリードしていくことをとおして，その難しさやできた時の喜びを味わうことができた。
- ・地域を美化する活動を通して，地域の良さを知り，地域の自然や環境を大切にしていこうとする心情をもたせることができた。
- ・今年度初めて「縦割り班駅伝大会」を実施し，走順や 2 回走る人を自分たちで考えるなど，縦割り班で実施することで学年を超えたつながりを強くしながら運動に取り組ませることができた。

今後の展開『キーワード モアチャレンジ』

- ・みんなで協力しながら環境を大切にしていこうとする心情をさらに高めるために、クリーン作戦（ゴミ拾い）を計画的に取り入れたい。
- ・縦割り班活動の充実とともに、今年度から、「誕生日カード」の取組を進めている。これは、誕生日を迎えた同じ班の児童に、班全員が書いたメッセージカードを渡すものである。これによって、児童が更に班員としての所属感や満足感を高めている。

他校へのアドバイス『キーワード モアチャレンジが新たな主人公を生む』

- ・今年度、新たに「地域ボランティア清掃」「縦割り班駅伝大会」等に取り組んだ。この時に、いつもと違った一面が発揮され、それを認め合う場ともなる。更に、それを地域の方が認めてくださる場ともなり、自己存在感を高めていくことができる。

「一年生歓迎集会」



「地域ボランティア」



「縦割り班駅伝大会」



「誕生日メッセージカード渡し」



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原小学校	校長氏名	河野 真由美	生徒指導主事氏名	藤田 光洋
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名	『縦割り班活動』
-------	----------

取組のねらい『キーワード 栗原しぐさで』

- 他学年との交流を通して、望ましい人間関係をつくる。
- 教え・教えられる関係や、助け・助けられる関係を体験しながら、栗原しぐさの実践を広げる。
 <栗原しぐさ>①立ち止まり、相手の目を見てあいさつをする。
 ②ゆずる気持ちを大事にする。
 ③気持ちの良い学びの場をつくる。

取組の具体的内容『キーワード 児童自らの力で』

1. 縦割り班づくり (全校児童 4色×6班 24班 約25名ずつ 通年)
 ○自己紹介 ○仲間づくりゲーム ○「1年生を迎える会」



2. 第1回縦割り班遊び(班対抗戦 4色班長会にて種目決定)
 ○折り返しリレー ○綱引き など



3. 第2回縦割り班遊び(班ごとの遊び 班長・副班長にて決定)
 ○長縄跳び ○おにごっこ ○ボールゲーム など



4. 卒業に向けて
 ○卒業記念品づくり(手づくりのプレゼント) ○「6年生を送る会」

取組の課題・創意工夫『キーワード 他学年を尊重』

○「楽しい」から「やってよかった」に

この活動の意義を考え、単に自分を中心に「楽しい」というだけではなく、他学年の思いや気持ちに気を配り、「相手が喜んでくれた。」「やって良かった。」というやりがいを高学年には求めたい。その意味では、一つ一つの活動後に丁寧な振り返りをさせ、その点での反省・評価が重要となるが、時間的な余裕がなく振り返りの交流などに課題が残った。

取組の成果（効果）『キーワード 6年生の思い出づくり』

○6年生が班長となり、1年生から6年生までをまとめて、活動をリードしてきた。不慣れな児童も何回か経験するうちに、普段学級では見せない上級生としての姿を見せるようになった。低学年から慕われる児童もあり、6年生にとっては自己肯定感を強めていく機会となった。また、その班の集団から卒業のプレゼントや手紙をもらったりすることで、貴重な小学校の思い出を多くの6年生が共有できた。

今後の展開『キーワード 感謝して学校をきれいにしよう』

○2月の生活目標を「感謝して学校をきれいにしよう」と設定し、児童会と6年生を中心としながら、全校で学校をきれいにしていく取組を展開する。その中に、縦割り班も活用しながら、清掃の仕方や工夫を助言し合うような活動にしていき、より密接で豊かな人間関係を築いていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード ○○しぐさで オッケー!』

○本校では、9年前に「栗原しぐさ」を生み出し、現在も児童のすべての行動目標になっている。基本があるので、最低限の指導の統一と共通性が保たれている。具体的な「○○しぐさ」があると、高学年になれば、自分の行動をしぐさに照らし合わせて反省することも、自発的にできるようになる。月ごと、年度ごとの目標も大事にしていくが、本校独自の不動の目標があることは、生徒指導を進めていく上では強みとなると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和小学校	校長氏名	津田 秀司	生徒指導主事氏名	高岡 和也
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『児童会活動（チャレンジランキング大会）』

取組のねらい『キーワード 認め合う』

- 異学年児童と一緒に活動することで、互いに思いやる心や協力して活動しようとする意欲を育てる。また、異学年集団のよさに気づく。
- 力を合わせて活動する中で、一人一人のよさを認め合う。

取組の具体的内容『キーワード 縦割り班活動』

○縦割り班（全20班）ごとに校内オリエンテーリングを行う。

- ①班ごとに体育館に集合
- ②児童会はじめの言葉
- ③ルール説明



〈5年生を中心に、ルールを守り静かに待つ〉

- ⑤班ごとに体育館に集合
- ⑥児童会おわりの言葉



④オリエンテーリング

10種類（魚釣り・じゃんけん・宝探し・ボーリング・イントロドン・聖徳太子・缶タワー・ジェスチャーゲーム・どれだけのれるかな・バランスゲーム）のゲームが用意されている教室を回り、得点を積み重ねる。

○翌日の児童集会で、結果発表と表彰を行う。

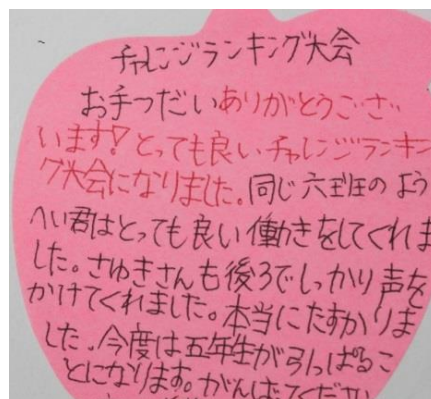
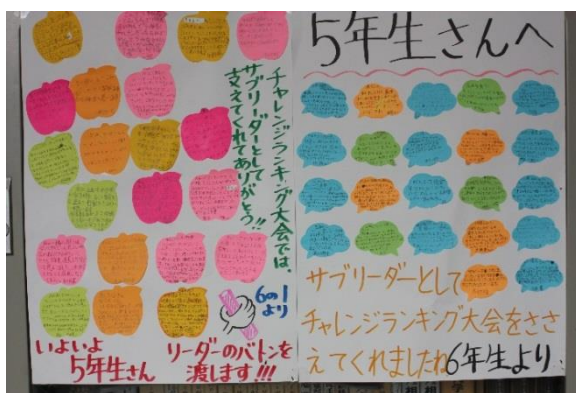


取組の課題・創意工夫 『キーワード 自主性』

- 児童会・6年生が中心になって、企画運営させる等自主性を大切にさせた。
 - ①児童会役員から「チャレンジランキング大会」について提案した。(代表委員会)
 - ※児童会通信「ふれあいニュース」発行
 - ②児童会役員が6年生全員に提起した。
 - ・係、役割分担の決定をした。
 - ・ルールを決め、全児童に周知し、自分たちで守らせた。
 - ・準備物作りをした。
- 5年生がオリエンテーリング時のサポートをした。
- 児童自身が活動の評価をし、各班に手作りの賞状を渡した。

取組の成果(効果) 『キーワード 6年生がお手本』

- 高学年(6年生・5年生)一人一人が役割を分担し協力して活動することができた。
- 一人一人の思いや願いを大切にしてい取り組んだことで、自己存在感を与えることができた。
- 協力し助け合っ取り組んだり、互いのよさを認め合ったりすることで共感的な人間関係を育てることができた。
- 内容や役割分担、ルール作りなど自己決定の場や機会を多く設定することができた。
- 上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生をよいお手本にしながら楽しい活動することができた。
- 自分たちで決めたルールを守ることで規範意識が高まった。
- 高学年としての責任や自覚、リーダーシップ等を、6年生から5年生に引き継ぐことができた。



大会後の6年生から5年生へのメッセージ

今後の展開 『キーワード 引き継ぐ』

- 児童会月間生活目標に生かす。例：(1月の生活目標)「他の学年にやさしく声をかけ、元気なあいさつをしよう」
- 3学期、5年生中心の児童会活動(1月：いじめ0キャンペーン月間の取組、2月18日：28年度前期児童会役員選挙 2月10日：選挙運動開始、3月10日：6年生を送る会)につなげる。

他校へのアドバイス 『キーワード 年間を通した取組』

- 特別活動が、年間を通して生徒指導の三機能を意図した取組になっていることが大切である。
 - 遠足(1年生を迎える会)、運動会(応援合戦)、学習発表会(全校合唱)、社会貢献活動(地区児童会)、チャレンジランキング大会(オリエンテーション)、6年生を送る会(各学年の発表)など

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立大州中学校	校長氏名	大下 恵子	生徒指導主事氏名	山田 久司
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『体育祭や文化祭を通じて』
取組のねらい 『キーワード 上級生から下級生へ』	縦割りブロックによる、上級生から下級生への指導を通じて、上級生のリーダー性や自尊感情の育成・向上を図る。
取組の具体的内容 『キーワード 生徒自身の自主性』	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭では、応援団を通じて上級生が応援を行う内容や取り組み方を考え計画を立てる。そして、下級生への指導を行う。また、応援歌の歌唱指導やかけ声指導も団長や副団長を中心に指導していく。 ○ 文化祭では、縦割りのクラスが集まり各クラスの課題曲や自由曲を相互に鑑賞し、上級生のパートリーダーや伴奏者・指揮者を中心に、下級生に指導・アドバイスを行う。 ○ MSV (みんなで しょう ボランティア) は、生徒会を中心とした呼びかけを行った。
取組の課題・創意工夫 『キーワード 上級生の意識向上』	<ul style="list-style-type: none"> ○ 上級生のみ、あるいは決まった生徒のみで行う場面があり、下級生への指導が十分に徹底できていない場面があった。 ○ 応援団長やパートリーダーへの具体的な声かけ・指導（昨年度のビデオ鑑賞や音楽科からの専門的なアドバイス）を行うことで、生徒自ら具体的な取り組み方が理解でき、下級生への指導・支援が出来るようになっていった。 ○ MSV では、学校朝会や代議員会での呼びかけを行った。
取組の成果（効果） 『キーワード 数値の結果から』	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国学力学習状況調査の結果では、自尊感情（自分には良いところがある 85.6%・学校に行くのが楽しい 85.6%）を抱いて学校生活を送っている 3 年生の割合は約 86%である。 ○ 学校評価アンケートにある自尊感情「学校に行くのが楽しい」の 1 回目の結果は 88%、2 回目の結果は 91%であった。ほとんどの生徒が自尊感情を持って生活が出来ている。 ○ 学校評価アンケートでのボランティア活動に参加している生徒の割合は、1 年生 80%→84%、2 年生 71%→73%、3 年生 59%→72%であり、生徒会を中心とした呼びかけにより参加人数が増えた。
今後の展開 『キーワード 行事のみならず』	行事のみでの活動になっているので、生徒会を中心にあいさつ運動や登下校指導、上級生のリーダー性が発揮できる取組方法（開始準備から終わりの片付けまで）を生徒会中心に考えていく。
他校へのアドバイス 『キーワード 年間を通して』	学校行事（新生を迎える会、体育祭、文化祭）を年間通して（連続する）行うことで、上級生のリーダーとしての意識が向上し、生徒全体で行事が盛り上がるようになり、伝統が引き継がれていくと思います。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立培遠中学校	校長氏名	高橋 正明	生徒指導主事氏名	上代 隆志
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『地域に認められる学校から、地域に頼られる学校へ』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感』

- 諸活動を通じて望ましい人間関係を形成することで、問題行動を減少させる。
- 集団づくりを推進し、中間層の生徒を鍛え、集団の質を向上させる。
- 保護者、地域と協働して活動することで地域への所属感、連帯感を深める。
- 生徒会を中心としたリーダー層を鍛えて自治活動を盛んにする。

取組の具体的内容 『キーワード 地域に開かれた学校』

○体育大会

- ・異学年交流を意図して色別で縦割り活動を実施した。3年生をリーダーとして事前指導を行い、自治活動推進の場とした。
- ・特に応援合戦練習、ソーラン演舞では3年生のリーダーを中心に取り組んだ。

体育大会でリーダーから全校生徒への呼びかけ



○地域清掃

- ・校内、あるいは校外に出て保護者、地域の人と一緒に美化活動、バラの植栽をした。
- ・校区内小学校とも連携し、小中の円滑な接続をめざして6年と中2の合同で地域の美化活動をした。

○文化祭

- ・学年、部活単位などで、地域にむけて発信していく。(劇・取組の報告・作品・演奏)
- ・全校合唱の練習では生徒会を中心としたリーダーが活躍する。

文化祭での全校合唱



○校内駅伝大会



タイムトライアル風景

- ・事前に駅伝リーダーを中心に一斉ランニング、タイムトライアルを繰り返して意欲を高めた。
- ・PTAの協力で、走路監視や競技後の豚汁の提供ができた。

PTA豚汁炊き出し



○ボランティア活動

- ・地域行事の運営ボランティア。パフォーマンス発表での貢献。公園のトイレリニューアル。地域に出て災害地域への募金活動。



学校前の公園トイレリニューアル



地域の役員と意見交流



地域文化祭に小学生と合同でソーラン演舞

○短学活交流

- ・各クラスの班長が他学年の短学活を見学し、意見交流することでリーダー育成に取り組んだ。

取組の課題・創意工夫『キーワード 協同・連携・発信』

- 地域と協同して取り組む伝統をどのように継承していくのか。
- 取組がマンネリ化し、アイデア、発想が枯渇していく可能性。
- 意欲的に参加できない生徒層をどのようにまきこむことができるか。
- 地域の各種団体協議会等での積極的な発信を続ける。
- 地域からのさまざまな要請を積極的に受け入れて地域に還元する。
- マスコミ等を積極的に利用して、PRしていくことで広く認知してもらう。

取組の成果（効果）『キーワード 自信・誇り』

- 諸活動に対して、市教委より「学校元気大賞」を受賞したり、「県知事とのチャレンジトーク」に推薦を受けたりして広く活動が認められたことで、特にリーダー層の自信と自己肯定感が高まった。
- 暴力行為、地域からの苦情数は減少している。

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
暴力行為の発生数	14	3	4	7	3
地域からの苦情件数	148	84	70	64	38

○地域清掃活動の生徒の振り返り

清掃活動で一番うれしかった事は、地域の人と協力できたことです。地域の人が、集めたゴミをゴミ袋に入れてくれたり、一緒に掃除をしたりしてくれました。それで、私が「ありがとうございます」と言うと、地域の人たちは、笑顔で返してくれたり、「頑張ってるね」と声をかけてくれました。その時、私はとてもうれしかったです。

○地域清掃活動の参加者の感想

子ども達と直接ふれあう機会が少ない中、絆や連帯感を持つために一緒に汗水を流せてよかった。

- 校区小学校から本校への進学希望者数が増えてきている。
- 地域から肯定的な評価をもらう場面が多くなった。地域からの評価を生徒に伝え続けていくことで、生徒は自信を持ち、学校に誇りを持ち出してきていると感じる。

今後の展開『キーワード 認められるから頼られるへ』

- 各取組の質を高め、小学生から憧れられ、地域から必要とされる学校をめざす。
- 組織的な体制を機能させ、人が代わっても伝統の継承ができる。
- 小中一貫をさらにすすめ、取組につながりを持たせる。

他校へのアドバイス『キーワード 組織的な生徒指導体制』

- 取組には中心となるリーダーが必要である。取組の意図を明確に伝え、納得させる説得力をもつこと。
- 各役割においては、各々が自分の役割だけでなく、少し範囲を広げて仕事に臨むことで、職員同士の重なりしろが生まれる。これは、他の役割に介入することではなく、理解し、気づくことである。組織的な体制はこの重なりしろが重要である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立中央中学校	校長氏名	左田 和幸	生徒指導主事氏名	岡 真吾
-----	------------	------	-------	----------	------

取組事例名 『生徒の自主性を育てる特別活動』

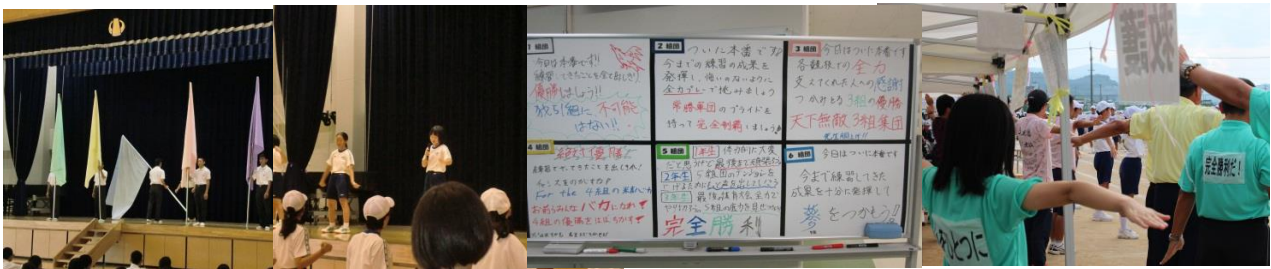
取組のねらい『キーワード 主体的な取り組み』

◎体育大会を本年度から縦割り集団の組団に分けて行った。競技内容や演技内容を1年から3年までが一緒に行うことで、異年齢の集団の中で互いに切磋琢磨し、生徒の主体的な活動にしていく。

◎日ごろからお世話になっている地域の方に、感謝の思いを伝えていく取組である。部活動ごとに、学校周辺の地域でボランティア活動ができる場所や行事を探し参加する。ボランティア活動をすることで、地域の方から信頼されるとともに、認められることにより、自己肯定感や自尊感情を高めることにつながる。

取組の具体的内容『キーワード 主体的に取り組む』

- 体育大会を縦割り集団対抗で行う。
- 縦割り集団で練習や練習計画を立てさせて取り組ませる。
- 毎朝団長に、今日の練習内容をホワイトボードに記入させるとともに、肯定的な評価をさせる。
- 各団で団結力を高めるよう生徒主体で結団式を行わせた。
- 体育大会の練習の集合時間や集合状態について生徒がチェックし評価させた。



結団式の様子 先輩がリーダーに ホワイトボードの記入 教師も各団のポロシャツで

- 地域に必要とされるボランティア活動を部活動ごとに行う。
- 地域の廃品回収や粗大ごみの回収の手伝いを行う。
- 校区内の小学校の環境整備に参加し、小学生、保護者とともに清掃活動を行う。
- 校区内の小学校のスポーツ少年団の大会運営の手伝いや交流を行う。
- 学校周辺のゴミ拾いや草抜きを行う。
- 地域の文化祭やまつりに参加する。



小学校の手伝い 地域の資源回収 通学路のゴミ拾い 地域の敬老会へ出演

取組の課題・創意工夫『キーワード 話し合い・連携』

○生徒会を中心に、各団の団長・副団長が毎日放課後に集まって、本日の反省や次回の練習内容や練習場所の割振りを考えさせ、日に日に生徒の取り組む姿勢が意欲的になった。

課題としては、生徒が進めるようとする練習内容と教師側がやらせようとする練習内容を合わせることに時間がかかった。

○長期休業前に部長会を開き、学校周辺でどんなボランティア活動ができるか考えるとともに、地域からあった依頼についても紹介し、活動できる部活動で振り分けを行った。4月のスタート当初から、中学校区の小学校との連携の中で、中学生が役に立てる活動はないだろうかと相談したことで小学校の環境整備に参加することができた。

課題としては、生徒がやりがいを感じられるような、取組内容を準備しなければならない。また、生徒が見つめてきた取組内容の中には、安全面や時間帯で取り組めない内容もあった。

取組の成果（効果）『キーワード 自己肯定感の高まり』

自主的に体育大会の運営や各団での教え合いを行うことで、自分達でやりきったという自信につながり、自己肯定感が高まった。また、実際にボランティア活動を行うことで、地域の方にあたたかい言葉をかけていただき、達成感や自己肯定感を高めることにつながった。特に、校区内の小学校での取組では、小学校6年生と一緒に取り組むことで、小学生は中1ギャップの解消になった。また、中学生は小学生や保護者の方から感謝の言葉を頂き達成感を感じた。日頃、自分たちだけでやりきることや、ほめられないことがない生徒も頑張っていることを評価してもらい、ほめてもらえる、認めてもらえる場面を作ることができた。取り組み後の生徒の感想を見ても「やりきった」「仲間意識が高まった」「自分たちの住んでいる地域に貢献できた」ことに誇りに思っている生徒が数多くいた。

今後の展開『キーワード 中央中の伝統へ』

今年度から始めた取組ですが、今後も続けていき中央中の伝統にしていくことが目標である。

体育大会の取組を中心に、生徒が主体的に活動する取組を増やしていきたい。また、ボランティア活動は、校区内の小学校などとしか連携がないので、校区内の施設や住民代表などとも連携し、地域貢献できる場所を増やしていきたいと思っている。また、生徒自身も地域の役に立つために何ができるか考え、主体的に取り組み、地域に貢献できる生徒を育てていく。

他校へのアドバイス『キーワード 連携』

地域ボランティアを考えていくときに、校区内の他校種の学校と連携をとって、事前に準備しておくことが大切である。また、地域の方や保護者にもこの地域ボランティア活動の取組を知らせるとともに理解してもらい、学校に協力していただく体制を作っておく。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台中学校	校長氏名	田浦 由紀夫	生徒指導主事氏名	秋本 豪
-----	-------------	------	--------	----------	------

取組事例名 『出前掃除』

取組のねらい『キーワード 掃除を通じたかかわり』

- ・掃除を通して、**親睦**を図る。
- ・小学生が、**掃除のやり方**を学び、今後の生活に活かす。
- ・中学生が、小学生から認められることを通して、**自己有用感**を抱く。

取組の具体的内容『キーワード 掃除の伝統の継承』

- ・小中学生指導主事が連携し、各小学校における掃除の**役割分担**を作成する（原則出身小学校に戻る）。
- ・中学生が各出身小学校体育館に移動し、小学校管理職より**歓迎の挨拶**を受ける。
- ・中学生が、各**掃除担当場所に移動**する。
- ・**自己紹介**を行い、お互いに顔と名前を覚える。
- ・中学生が掃除リーダーとなり、**掃除開始の挨拶**をする。
- ・中学生が**掃除実践（※ 阿中掃除の五箇条）**をしながら、小学生に掃除を教える。
- ・掃除終了後、掃除ミーティングで**掃除の反省**を行い、お別れをする。
- ・中学生が体育館に戻り、小学校管理職より**お礼の挨拶**を受ける。
- ・小学校管理職に対して、**中学生代表が挨拶**をする。
- ・中学生に対して、**小学生が礼状**を書く。
- ・中学生が、小学生の**礼状を受け取る**。



小学校校長より歓迎挨拶



掃除実践の様子

※ 阿中掃除の五箇条

- ①無言掃除 ②阿中拭き ③気づき掃除 ④チャイムtoチャイム ⑤スピード感

取組の課題・創意工夫『キーワード 教職員による適切な支援と中学生リーダーの育成』

・教職員による支援

中学生がリーダーシップをとりながら小学生と一緒に掃除実践をしているときに、教職員がいかに支援するかが課題である。具体的には、小学生が動きを理解できていない場合には小学校教職員による適切な支援、中学生が小学生の動かし方に苦慮している場合には中学校教職員による適切な支援が必要である。



教職員による支援

・中学生のリーダー育成

普段の掃除から「掃除リーダー」として育成をしておくことで、小学校へ行ってもいつもの姿勢で掃除に取り組ませるようにする。

また、小中の生徒指導主事が小学生・中学生の特性を配慮しながら役割分担することにより、中学生がリーダーシップを発揮して小学生・中学生がともに全力で掃除に取り組める環境づくりをする。



中学生による率先垂範

取組の成果（効果）『キーワード 憧れと自己有用感』

- ・小学生が中学生の掃除する姿に**憧れ**を抱く。

【小学生の感想より】

- ・「阿中拭き」をしている姿を見て、素敵だなと思いました。自分もそうなりたいと思いました。
- ・私が一番すごいなと思ったことは、便器をきれいに磨いていたことです。理由は、すみずみまできれいにやっていたからです。

- ・小学生の頃から、掃除に対する**価値観**を醸成する。

【小学生の感想より】

- ・僕はあまり掃除が好きではなかったけど、おかげで少し掃除が好きになりました。
- ・正しい掃除のやり方を知ることができました。これからは、隅々まで丁寧に掃除ができるように心がけます。

- ・中学生が小学生からの感謝状を受け取り、**自己有用感**を感じる。

【中学生の感想より】

- ・小学校の経験により、阿中拭きを中学校に入学してもためらわずすることができ、今でも役立っている。
- ・小学生に教えることで、自分の成長や伝統としての掃除の大切さを再確認することができた。
- ・「阿中拭き」や「気づき掃除」を教えることで、自ら伝統を繋いだことや、さらに受け継いでほしいと感じた。

今後の展開『キーワード 掃除の効果の活用』

- ・掃除をすることに対する全体的なムードは醸成することはできているものの、一人一人にとって主体的な取組になっているとはいいがたい。主体的な取組により、生徒一人一人の心をきれいにしたり広くしたりできるように導きたい。
- ・掃除を通して得られる充実感や達成感が、学ぶ姿勢や主体的な活動につながっていくようにしたい。

他校へのアドバイス『キーワード どこでも だれでも いつまでも』

・どこでも

本校にしかできない取組ではなく、やろうと思えばどの学校でもできるシンプルな取組である。

・だれでも

教職員が異動で不在になっても、つながろうと思えば続けることができるシンプルな取組である。

・いつまでも

特別なイベントとして単発で終わる実践ではなく、小中9年間を見据えて長く継続させることで掃除が当該中学校のみならず、当該中学校区の「校風」や「文化」となる。それが当該中学校区における「見えない生徒指導力」として効果を発揮するだけでなく、地域連携へと波及していくものと思われる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長氏名	砂田 雅志	生徒指導主事氏名	三輪 範弘
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『 つながりを深めるデー 』

取組のねらい 『キーワード：つながり』

- 小学生と中学生の交流を通して、児童生徒相互の人間関係を深め、小学校 6 年生児童の中学校へのスムーズな移行につなげる。
- 佐伯中学校 3 年生が、先輩として出身小学校の児童の活動等をサポートすることを通して、思いやりの気持ちと態度を育てる。
- 「はつかいち縦断みやじま国際トライアスロン大会」に来られる人を気持ちよく迎えるために、地域の清掃を行うことを通して、ボランティア精神と地域を大切に思う気持ちや地域への感謝の気持ちを育てる。

取組の具体的内容 『キーワード：自己有用感と感謝』

- 中学 3 年生が出身小学校を訪問し、授業の支援（ピア・サポート）やクリーン活動（地域一斉清掃）、中学校オリエンテーションなどを行い、小学生と 1 日を共に過ごす活動。
- 1 はじめの会（構成的グループエンカウンター）
 - 2 授業の支援（ピア・サポート）
 - ・中学生にとっては「自分のアドバイスから小学生の役に立っている。」という自己有用感につながっている。
 - 3 クリーン活動（地域一斉清掃）
 - ・小中学校ともに地域に貢献しているという自己有用感の高揚となっている。
 - 4 給食・校内清掃
 - 5 交流会（中学校オリエンテーション）
 - 6 終わりの会
 - ・小学生、中学生相互に感謝の意をことばであらわす。
 - 7 振り返り（中学生のみ）



取組の課題・創意工夫 『キーワード：自己決定と自己有用感』

- プログラムの中に、中学校の生徒が自分で考え、判断して、決めて実行できる場面を意図的に設定する。自分が小学生の時のことを思い出しながら、「出身小学校の児童たちが、どのように接すればうれしいと思うか、不安な気持ちが解消されるか。」など、意見を出し合いながら考え、自己紹介の方法や中学校のオリエンテーションなどの内容を決めていく。このことが、生徒の「自分たちが主体的に自分で決めて実行しているんだ。」という気持ち（自己決定感）を育てることにつながる。また、小学生の笑顔を見て、「来てよかった」と自己有用感を感じることもつながる。



取組の成果（効果）『キーワード：自己存在感・自己有用感の向上』

- 自己存在感の高まり
- 共感的人間関係の育成
- 自己有用感の向上

<児童・生徒の感想より>



・中学生は僕たちに勉強をわかりやすく教えてくれたり、休憩時間には自分の友達のように遊んでくれたりしました。ケンカをしていると止めに入って仲直りさせたり、中学生のどの人にもとても尊敬できる場所があって、どんどんまねをして次に中学生として小学校に来るときは、



尊敬してもらえる先輩として来たいです。（小学生）

・小学生にいろいろなことを教え、人のために何かすることができて、本当に充実していました。そして、小学生から「ありがとう」と言われたことがとてもうれしかったです。（中学生）



今後の展開『キーワード：自己有用感・感謝』

- 本年度から、小中連携協議会の目標の副題を「自己有用感を育てる取組を通して」とし、その取組として、学校の行事などで「感謝を伝える場」を設定した。本年度は、各校が独自で取り組んだが、来年度からは小中が連携し、計画的に取組を進めていく。



他校へのアドバイス『キーワード：小中連携』

- 佐伯中学校区では、小中連携協議会の合同部会に教務部会と生徒指導部会を位置づけ、小中学校が積極的に情報交換し、意見交流を図る中で、課題を明らか



にし、9年間を見据えた共通の取組を進めるという「行動連携」を行い、児童の小学校から中学校へのスムーズな移行を推し進



めている。また、生徒指導部会では、毎月1回、生徒指導主事が集まり、児童・生徒の様子や取組の状況等を交流し、計画的・継続的な取組を進めている。

児童会・生徒会活動

ボランティア活動などの社会参加

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀小学校	校長氏名	山下 伸一	生徒指導主事氏名	堀江 大志
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『もちつき大会』

取組のねらい『キーワード：地域との一体感』

- ア 餅をつく、丸める、食べる活動を通して、保護者や地域の方、近隣の学校との交流を深め、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- イ 5年生の児童のリーダーシップを育て、学校集団としての活力を高め、楽しく豊かな学校生活をつくるようにする。
- ウ 全校児童で稲を育て、収穫した米でもちつき大会を開き、収穫を祝う気持ちや勤労の尊さを実感できるようにする。

取組の具体的内容『キーワード：地域との協働』

- 1 準備、運営等（児童、PTA、地域、職員が一体となっていく）
- ア 5年生が中心となり「スローガン」の策定、「ありがとうカード」（地域への感謝のメッセージを書き、配布用のもちに添付）の作成をする。
- イ 地域の方、近隣の学校等（呉南特別支援学校、呉特別支援学校、呉市立呉高校、呉工業高等専門学校、呉高等技術専門学校）に案内を出す。
- 2 もちつき大会（全校児童が育ててきたもち米でもちを作り、一緒に食べる）
- ア 5年生が中心となり、当日の進行、受付、味付けの補助などの仕事を行う。
- イ PTAの方は、米を炊く、かまどの管理、もちつきの補助、味付けなどの仕事を行う。
- ウ 一緒にもちつきをしながら、地域の方や近隣の学校等と交流する。呉南特別支援学校の児童によるあいさつも行う。
- エ 校区内の交番やまちづくりセンターにも、もちを配る。

取組の課題・創意工夫『キーワード：伝統の継承』

- ア 伝統的に、5年生にリーダーとしての自覚をもたせる取組として位置付けている。6年生に代わり、全校を動かす経験をさせることで、来年度への見通しや、リーダーとしての責務を受け継ぐ気構えをもたせている。
- イ もちつき大会は33年の歴史をもっており、5年生は、歴史あるもちつき大会において、中心的な役割を担うことができるため、仕事に対し誇りをもっている。また、目的意識がはっきりとしているため、米作りも大変意欲的である。
- ウ 阿賀中学校でも、小学6年生にソーランを教えていくことが伝統となっており、中学校区を通し、集団の一員としての望ましい態度を育てる取組が位置付けられている。

取組の成果（効果）『キーワード：自己存在感』

- ア 5年生は、一人一人が役割を分担し協力して取り組んだことから、自分のよさや、協力することのよさに気づくことにつながった。また、自分たちがリーダーとして活動できた体験を通し、自らの行動に自信を深め、リーダーとして学校を引っ張って行こうとする意欲を高めることができた。
- イ 地域の方ともちつきを通し、交流したことで、地域の一員としての意識を高めることができた。

今後の展開『キーワード：自己決定の場を増やす』

もちつき大会がより充実した取組になるように、どのような工夫や改善が必要か、児童の意見や考えを参考にし、来年度の計画を立てていきたい。このことで、児童の自己決定の場や機会を増やし、自己実現の喜びをこれまで以上に味わわせていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード：行事を生かす』

生徒指導を充実させるために、新たな取組をしていくことも必要であるが、これまで続けてきた行事を社会性の育成といった視点で捉え直し、活動を組み立てていくことも大切であると思う。行事の精選が求められる昨今、これまでの行事を生かしながら、児童にとって中身のある活動を仕組んでいきたい。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立和庄小学校	校長氏名	徳本ひとみ	生徒指導主事氏名	寺田 茂雄
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『子どもボランティア活動』

取組のねらい 『キーワード：自尊感情の向上』

- ア ボランティア精神を養う体験的な活動を通して、学校や地域社会に貢献し、自らを豊かにし、進んで他に奉仕しようとする態度を育てる。
- イ 児童が諸課題を見だし、協力して解決していく中で、望ましい人間関係を形成し、よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ウ 児童の行動面や態度面を肯定的に評価する機会を工夫し、児童の自尊感情を向上させる。

取組の具体的内容 『キーワード：シンプル』

- 本校にはこれまでも、運動会や学習発表会の準備など、行事の準備等で4年生以上の児童が活動する場が多くあった。これらの活動が中学校区の「育てたい児童生徒像」として示した「和庄中学校区スピリット」の「人を助け、学校や地域社会に貢献する児童生徒」につながることを意識した取組を計画した。
- 日々の清掃や委員会の活動では、時間や人手に限りがあるため、十分な清掃や整頓ができていない実態があった。これまでは不足分を一部の児童が負担していたが、これを全校児童で分担し、解決することを計画した。
- 全校で落ち葉拾いに取り組み、それを中学校区で行う「クリーン活動」につなげた。

【取組の流れ】

- ①ボランティア活動の内容、日時を決定
- ②児童に①を周知し募集を始める。(活動該当の学級に児童会児童が活動内容を説明)
- ③参加者名簿に児童が記名する。
- ④活動実施
- ⑤評価 (児童一人一人の活動の回数や様子を記録)

【これまでの活動】

全校 秋の落ち葉拾い・クリーン活動

1年 落ち葉拾い

2年 図書室の本の整理

3年 落ち葉拾い・外階段の清掃

4年 落ち葉拾い

5年 階段の清掃

6年 落ち葉拾い・図書室の清掃・ストーブの運搬



4年生 落ち葉拾い



5年生 階段の清掃

【児童の様子】

- ア 活動の周知を楽しみにしている児童が多い。職員室前に次回のボランティア活動が掲示されるとこぞって参加名簿に記名している。友達に誘われて参加する児童や、当日になって参加する児童も受け入れている。
- イ 児童は、教職員から褒めてもらったり、「ありがとう」と感謝されたりすることが嬉しいようだ。
- ウ 5年生の階段の清掃では、時間内にきれいにできなかつたので、自主的に清掃したいと提案する児童がいた。また、その提案に賛同する児童もいた。児童は「これが本当のボランティアです。」と言っていた。

取組の課題・創意工夫『キーワード：継続』

1 課題

- ア 「子どもボランティア活動」は一時期に集中して行うのは適切ではない。入学から卒業までの6年間を通して、継続していくことが望ましい。
- イ 活動を評価することは児童の自尊感情や意欲を向上させるが、児童が評価されることを目的に活動を行うことはふさわしくない。

2 創意工夫

- ア 「子どもボランティア活動」を「和庄中学校区スピリット」と連動させている。
- イ 多様な評価方法を設けている。(口頭評価, なごみ賞など)



取組の成果（効果）『キーワード：浸透』

- ア 児童が活動している姿を他の児童が見ることで、お互いがよい手本になっている。
- イ 取組が児童に浸透し、広がりつつある。
- ウ 児童が自主的に清掃活動等に取り組むことができた。
- エ 友達と協力することができた。
- オ 教職員から肯定的評価を受けることで、よりよい関係が築けている。

今後の展開『キーワード：広げる』

- ア 期待すること
- ・児童が自主的にボランティア活動を計画し、継続的に活動する姿。
 - ・ボランティア活動が全ての児童にさらに浸透すること。
- イ 改善すること
- ・ボランティア活動の年間計画をつくる。
 - ・校務分掌の位置づけ、組織的に取り組む。

他校へのアドバイス『キーワード：相乗効果』

- ア 児童の活動状況を掲示物にしたり、具体的にほめたりしながら、肯定的に評価する機会を充実させることで、自尊感情の向上を図りましょう。
- イ 特別活動として取り寄せたことをきっかけに、自主的な参加を呼びかけていくことも大切です。
- ウ 取組が継続できるように、見通しを持って組織的に取り組むことが大切です。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立可部中学校	校長氏名	重森 雅徳	生徒指導主事氏名	益田 幸始
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ケアハウス かんべ村 訪問』

取組のねらい『地域との交流を深める』『入居者の方々との交流を深める』

- ・ 地域で生徒が活動し、認められることによって自己肯定感をもつことができる。
- ・ 地域の方々に生徒と接してもらい、知っていただくことで防犯活動にもなる。
- ・ 高齢者との交流をし、相手を気遣うという体験は生徒たちにとって学校生活では体験できない貴重な時間とする。
- ・ 高齢者との接し方（コミュニケーション能力）や学校外でのルール・マナーについて実践をする場とする。

取組の具体的内容『高齢者・施設の方との交流』

- ・ 生徒会執行部が中心となり、「司会・進行」を行う。また、自己紹介も行う。そして、代議員会より各クラスに知らせ、ボランティアを募り、約120人で施設を訪問する。
- ・ 吹奏楽部の演奏発表や合唱伴奏を行う。
- ・ 執行部による劇を行う。
- ・ ゲームを考えて、入居者の方々と生徒が一緒になって交流する。
- ・ 参加生徒全員で歌を歌う。



- ・ 自己紹介カードを各個人で作成し、利用者の方々に手渡した。

取組の課題・創意工夫『出し物の工夫』と『生徒が利用者への対応』

- ・ 利用者との交流を行うため、自己紹介カードの作成や話をする話題について考えた。
- ・ パンフレットの文字の大きさを工夫した。
- ・ 劇で使う小道具やシナリオを自分たちで考えた。

取組の成果（効果）『ボランティア』と『思いやり』

- ・ 利用者の方との接し方、話すときの姿勢など利用者に合わせて姿勢で接していた。
- ・ 新しく参加する生徒も多く、ボランティア参加への思いが出てきた。



今後の展開『定期的に多くの参加を募る』

- ・ 年2回の訪問開催以外にも様々な交流を行い、訪問への参加者を増やしていく。
- ・ 交流内容を参加者、利用者が楽しめるものにする。

他校へのアドバイス『挑戦』

- ・ 生徒が自分たちで交流内容を工夫できるようにアドバイスを行う。
- ・ 交流事業所との打ち合わせを入念に行う。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀崎中学校	校長氏名	松脇 守弥	生徒指導主事氏名	山縣 雅樹
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『訪問ボランティア活動』

取組のねらい 『豊かな人間性の育成』

- ・ 勤労への意欲をもたせ、自主性・協調性・ボランティア精神を培う。
- ・ 他人に対するやさしさ、他人の立場で考える思いやりの心、他人の人権を尊重し共感する温かい心情を育てる。
- ・ 社会に目を向け、社会の中で自分を自覚し、身近なところから始められるボランティア活動を通じて自治能力を高める。

取組の具体的内容 『生徒会活動の一環として』

- ① 生徒会の代議員会を通じて訪問ボランティア参加希望者を募る
- ② 生徒会執行部と参加希望生徒に対して 2 回の事前打ち合わせや指導を行ない、訪問先で行う内容・当日の役割分担などを考え、動きの確認を行う
- ③ 地域にある 2 つの施設（広島原爆養護ホーム倉掛のぞみ園、老人保健施設さんさん高陽）を訪問し、レクリエーションなどを施設利用者の方々で行う



取組の課題・創意工夫 『生徒の自主的な活動』

生徒から発信をすることにより、生徒の自主的な活動として取組を進めていくことができている。訪問先の活動内容も、前年までの内容を参考にしながら生徒自身が考えている。そのことにより、各学年約 3 分の 1 の生徒は毎年このボランティアに参加している。



取組の成果（効果）『思いやりの心』

当日の活動が終わった後には、高齢者に対する思いやりの心が育っている。また、活動に対する達成感も大いに味わい、参加生徒からは「また行きたい」という言葉が多く聞くことができる。



今後の展開『地域の中の子ども』

地域が高齢化した団地であることから、生徒たちは普段から高齢者と接することが多い。これまでの取組による、良い雰囲気を継続して取り組んでいきたい。

他校へのアドバイス『地域の特色』

地域の特色を活かして活動に取り組めると、無理なく有意義なものになると考えます。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立神辺中学校	校長氏名	金田 耕治	生徒指導主事氏名	山口 義哉
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ボランティア活動』

取組のねらい キーワード『自己肯定感』

・ボランティア活動により他者から「認められる」「誉められる」ことを通して、自己肯定感を高め、暴力行為の問題行動の減少につなげる。 → 望ましい人間関係を形成する。

取組の具体的内容 キーワード『活動をルーティーンに』

- ・月に1回程度、ボランティア活動を計画、実施する（ボランティアをお知らせに申し込み用紙をつけ、事前に人数を把握（当日参加も可））。
- ・ボランティアカードに感想などを記入し、参加生徒にはシールを貼る。
- ・ボランティア中に写真撮影する。
- ・ボランティア通信を定期的に発行する。

生徒のみならず
2015年(平成27年)12月14日
福山市立神辺中学校生徒会

12月の校内ボランティアについて

先月は、PTA 一斉清掃を行いました。普段掃除が行き届かないところを、清掃し、清々しい気持ちになりました。今月は、2日間実施します。多くの人数が参加してくれることを楽しみにしています。

日時 2015年(平成27年)12月16日(水)、17日(木) 12:45～

集合場所 体育館前

清掃場所 校舎周り、グラウンド

清掃内容 石拾い、ゴミ拾い、落ち葉拾い
※分組は、当日指示があります。

服装 神辺中体操服もしくは、部活動でそろえた運動着

持参物 作業服、ボランティアカード、シャープペン1本、筆手

三名部活動中に行います。自分の部活動時間を確認して参加してください。

12月校内ボランティア参加申し込み票

()年()組()番 名前()

いずれかに○をしてくだい。

16日(水)のみ参加	○
17日(木)のみ参加	○
16・17日両日参加	○

申し込み締め切り 12月15日(水)

※各クラスの担任の先生に提出してください。

ボランティアカード

学年	組	番	名前
1年			
2年			
3年			

年	月日	ボランティア名	活動場所	感想等	活動印
平成27	5/11	校舎ボランティア	ばら園	みんなのボランティアで、たのびる楽しさを味わった。みんなの笑顔が、とてもうれしかった。	Good Job!
2015	7/10	明後校舎ボランティア	ばら園	思いやりを思い、緑色で大地の隅に、景色が見えた時、少しの笑顔が、とてもうれしかった。	Good Job!
2015	8/27	8月校内ボランティア	ばら園	秋の収穫に、たのびる楽しさを味わった。みんなの笑顔が、とてもうれしかった。	Good Job!
2015	10/22	10月校内ボランティア	ばら園	みんなの笑顔が、とてもうれしかった。みんなの笑顔が、とてもうれしかった。	Good Job!
2015	11/16	12月校内ボランティア	校舎周り	みんなの笑顔が、とてもうれしかった。みんなの笑顔が、とてもうれしかった。	Good Job!
平成28	2/2	2月校内ボランティア	坂	朝から気持ちのいい、あいさつをしっかりと、みんなの笑顔が、とてもうれしかった。	Good Job!



2015年(平成27年)12月21日
神辺中学校 美化委員会

ボランティア通信

No.5

12月のボランティアは、16日、17日の2日間行いました。落ち葉拾い、石拾い、ゴミ拾いを行いました。2日間合わせて、96名の参加がありました。ありがとうございました。来年も行いますので、また参加することをお待ちしています。

生徒の感想

- ・たくさんゴミが落ちてきれいになって良かった(1年男子)
- ・ゴミをたくさん拾って嬉しかったです(1年女子)
- ・たくさんゴミを拾うことができた！初めてのボランティアだったけど楽しかった(1年女子)

生徒の感想

- ・バカっぽい感じがなくなって、みんなも笑顔になって良かった(2年男子)
- ・きれいになったのが良かった、明日も頑張りたい(2年男子)
- ・たくさんゴミを拾ったことにより、みんなも笑顔になって良かった(2年女子)

取組の課題・創意工夫 キーワード『多方面から誉める』

課題

- ・ 計画的に実施できていないこともあり、参加人数に伸び悩みがあった。
- ・ 部活動単位で、参加を促していくこと。
- ・ 教員主導になっている。

創意工夫

- ・ 参加した生徒を教員が誉める。 →参加教員・担任・校長が誉める。
- ・ 地域住民が誉める。 →神中バラ会の活動日とリンクさせ、地域住民に誉めてもらう。
- ・ 保護者が誉める。 →ボランティア通信をきっかけに保護者に誉めてもらう。
- ・ 生徒指導主事が教員を誉める。 →参加教員をタイミングを見て誉める。第3者を経由して誉める。

取組の成果（効果） キーワード『道徳的価値の醸成』

- ・ 参加生徒の感想で 「バラ園の草抜きをした。大変だったけど、学校の為に動くことができた。」「トイレ掃除をした。きれいになって良かった。これからはきれいに使いたい。」というような感想があった。
- ・ 生徒会や部活動の部長、神中リーダー以外の生徒が輝く場面があった。

今後の展開 キーワード『任せる』

- ・ 生徒会執行部（本校では本部）の活動の一部として、位置づけ、生徒が企画・運営できるようにする。
- ・ 生徒指導主事が携わるのではなく、他の教員が生徒の運営補助ができるようにバトンパスしていく。
- ・ 校内だけでなく、地域に出ていき、公園清掃や祭りの手伝い等、地域ボランティアを活性化させる。



他校へのアドバイス キーワード『取組を楽しむ』

- ・ 「面倒くさい」というような姿勢でなく、教員が、ボランティア活動のねらいを共有し、楽しみながら同じベクトルで活動に参加する。



平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立仁方中学校	校長氏名	御堂岡 健	生徒指導主事氏名	釜山 郁美
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『一部活一貢献から一人一貢献へ』

取組のねらい 『キーワード：自己有用感の醸成』

生徒一人一人が自信と誇りをもち、自分も地域や社会の役に立つ人間であることを自覚して、自己有用感をもてるようにするため、生徒会活動の中に「貢献活動」を位置付け、自主的、実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容 『キーワード：貢献』

生徒会活動の一環として位置づけ、生徒会担当教諭の指導の下、執行部が提案し、活動する。

【一部活一貢献の取組】

- ①部長会で、趣旨と内容について連絡する。
- ②各部で活動の内容について話し合う。
- ③各部で、継続して定期的実施する。

※各部活の取組内容

- [陸上部] 公園の草抜きとゴミ拾い (月1回)
- [ソフトテニス部] 駅周辺の掃除 (週1回)
- [野球部 ソフトボール部] グランドの草抜き (週1回)
- [サッカー部] 先生から依頼のあった内容
- [バスケットボール部 剣道部] 体育館の掃除 (週1回)
- [吹奏楽部] 教室・トイレ等の掃除 (土曜日)
- [図書部] 石庭周辺の草抜き (週1回)
- [仁方KFB] 花壇の整備, トイレに花を飾る。



ソフトテニス部による掃除



取組をまとめた掲示物



仁方KFBによる花壇整備



野球部による草抜き

【一人一貢献の取組】

- ①「一人でもできる」ことを目標に、ボランティア活動を企画
- ②代議員会を通じて各学級に連絡
- ③ポスター掲示でボランティアの募集
- ④清掃ボランティアに参加

※具体的な取組内容

- 第1回 10月4日(日) 7:30~8:00 (体育館落成式の朝)
 - [掃除場所] 体育館のエントランスやトイレ, 下足場, 廊下, 正門付近等
 - [参加人数] 39名
- 第2回 12月13日(日) 8:00~11:30 (トイレ掃除ボランティア時)
 - [掃除内容] 「呉掃除に学ぶ会」の皆さんと共に、一人1つの便器を受け持ち磨く。
 - [参加人数] 61名
 - (日曜日にもかかわらず、全校生徒の3分の1以上が参加)
- 第3回 1月13日(水) 7:30~8:00 (教育長来校時の朝)
 - [掃除場所] 下足場, 廊下, 階段, 来賓用トイレ, 正門付近等
 - [参加人数] 27名



募集ポスター



清掃ボランティア



トイレ掃除ボランティア



取組の課題・創意工夫『キーワード：ボランティア精神』

- ア 「一部活一貢献」は部活単位で実施するため、部活動に所属している生徒は必然的に活動に参加することとなるため、生徒の自主性・自発性を尊重するために、「一人一貢献」へとステップアップさせていった。
- イ 上級生ほど参加人数が多く、これまで3回とも、1年生の参加者数が上級生に比べて少なかった。道徳の時間の学習とも関連づけながら、参加を促していきたい。
- ウ これまで、教員側からの発案を受け、生徒会が動くという形で取り組んできた。清掃活動以外にも何かできないか、学校外（小学校や地域で）でも、できることはないか等、広く生徒からの意見を取り入れることにより、より主体性のある取組にしていきたい。

取組の成果（効果）『キーワード：評価』

- ボランティアは、本来、評価や見返りを求めるものではないかもしれないが、褒められ、認められることにより「自分が役に立った」と感じ、自己有用感につながっていくと考える。
- ア 「一人一貢献」は、自分から手を挙げて参加するため、参加した全ての生徒が、ひたむきに一生懸命に活動した。学校長は、学校朝会でその様子を讃え、学校だよりや生徒指導だより、ホームページでも、その都度紹介した。
- イ 「呉掃除に学ぶ会」の代表者の方は、閉会式で「これまで161回実施したが、今日のみなさんは、3本の指に入るくらい一生懸命、そして気持ちよく最後まで取り組んでくれました。」と褒めて下さった。
- ウ 来校した方も、早朝の清掃ボランティアに対してお礼を述べられ、それを生徒に伝えた。

今後の展開『キーワード：地域へ』

現在、地域とのつながりという点では、地域行事への参加の他、月1回の仁方駅での小中合同あいさつ運動を行っている。今後は、まちづくりセンターや各団体とも連携しながら、中学生ができる貢献活動を設定して参加を募り、「自己有用感の醸成」とともに「地域の一員としての自覚」を育てていきたい。



あいさつ運動

他校へのアドバイス『キーワード：生徒会活動の活性化』

勉強に部活動にと生徒は忙しい。しかしながら本校では、各クラスにおいて、委員に立候補する生徒が多い上に、生徒会役員にはここ数年、6名の定員に対して十数名の立候補がある。各委員会は、当番活動と学期に1回の委員会独自の取組の他、行事においては分担して仕事を受け持っている。生徒会執行部は、行事等において、ともに働く同級生と一緒に様々な経験を積んで力をつけており、下級生は上級生のそんな姿に憧れ、お手本となる上級生を目指す自分を重ねる。

生徒会活動は、自主性や責任感を育て達成感を味わうことができるため、部活動と同様に「積極的生徒指導」の場であると捉えながら取組を充実させていくことがポイントである。



登校時の選挙運動

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市中学校	校長氏名	今井 敏雄	生徒指導主事氏名	日野 真里
------------	------------	-------------	-------	-----------------	-------

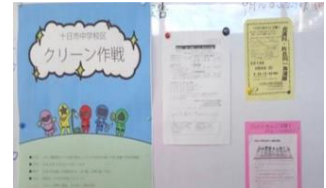
取組事例名 『人と人をつなぐボランティアで自己肯定感を高める』

取組のねらい 『キーワード 学校から地域へ飛び出そう、やらされるから進んでやる』

- 校内・地域のボランティア活動で自己肯定感を高める。
- 各種ボランティア活動の中から自分で選択し、取り組んでいく。

取組の具体的内容 『キーワード 気軽にできるボランティア』

- 年間通じて校内・校外を問わない幅広いボランティアを紹介（教頭窓口）。
- ボランティア募集（ボランティア黒板・学級掲示）。
- 各種のボランティアから自己選択し、申し込む。
- 時間・場所を確認し、各自でボランティア手帳をもって参加。
- ボランティア手帳に感想を記入する（ボランティアの足跡を残す）。確認シールを張る。
- 校内ボランティア（ボランティアを募集する生徒会委員会・小中生徒指導主事・教頭が企画、グループ分け作業内容を検討し実施）。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 地域とのパイプを太く』

（課題）

- 地域との連携パイプをいかにつないでいけるか。
 - ・教頭中心に地域の自治会と連携を取る。生徒会の委員会が中心になりきれていない。
- 校内ボランティアを行うための段取りをどこで行うか。



（創意工夫）

- ボランティア黒板の設置
 - ・校内・校外でボランティアが必要であるとの募集ポスターを掲示した。
- ボランティア手帳の作成
 - ・自分の参加したボランティア活動を記録に残す。学校マスコットのシールを張り、自分の足跡と達成感を持たせる。
- 各委員会で工夫したボランティア
 - ・自転車小屋のペンキ塗り、図書館の本の整頓など生徒の目線での活動内容にする。
- 「朝ボラ」と称した短時間のボランティアの企画
 - ・部活動に入っている生徒も気軽にできる。（登校前 30 分）
 - ・花の植え替え、通学路の清掃を行う。



取組の成果（効果）『キーワード やってよかったと思えるボランティア』

○多くの生徒が達成感を持つことができた。

- (生徒感想)・自転車置き場の錆が取れてすごくうれしかった。また達成感がすごかったです。
- ・みんなで協力して掃除でき、小学生も一生懸命ごみを見つけられました。すごくきれいになったのでうれしいです。
 - ・民生委員さんがやさしく対応してくださいました。これからもいろんなボランティアに参加しようと思います。疲れたけどやりがいがあった。
- (教師)・職員室から見える自転車小屋がきれいになりました。ありがとう。

○ボランティア活動に自主的に多くの生徒が参加するようになった。

- ・4月から、のべ611人余りの生徒が参加できた。

○与えられたボランティアから委員会でいろいろなボランティアの形を考えるようになった。

○自分にあまり自信をもてなかった生徒が、地域ボランティアを通して、積極的に活動を行うようになり、生徒会執行部に立候補をした。

○地域ボランティアから発展し、行政と一緒に里山づくりプランに中学生として参加することができた。

今後の展開『キーワード 教師主導型から生徒主導型に』

○生徒の目線で必要なボランティアを考え、企画運営ができるようにする。そのための教師主導型の運営組織を生徒主導型の組織に変えていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード 継続して…』

○ボランティアを単発に終わらせないよう計画的に行い、継続することが大切である。生徒が達成感をもち、かつ地域の人に喜ばれることで意欲の向上につながる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立黒瀬高等学校	校長氏名	田中 清裕	生徒指導主事氏名	三村 勝彦
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『黒高レンジャー』

取組のねらい『キーワード 主体性の育成』

黒瀬高等学校が、どうすれば明るく、雰囲気の良い学校になるのか。地域の方々の信頼を獲得するためには何が必要なのか。これらのことを生徒が主体となって考える機会を作り動機づけを行った。

取組の具体的内容『キーワード 明るい学校づくり』

取り組み内容を挨拶・美化・掲示・地域・花・旗掲揚などで区分化し、参加者を募りグループを結成した。参加者は全校生徒の 3 割にあたる述べ 100 名の生徒が手を挙げてくれた。

そして結成されたグループ別に行動アイデアを練り、準備、実践、振り返りの PDCA サイクルを回しながら、学校や地域の活性化に貢献した。



☆話し合いや準備の光景

取組の課題・創意工夫『キーワード 継続』

どのような取り組みにしても言えることだが、主体的な取り組みを、継続させることが非常に難しい。そのような状況において、ボランティアを通じて知り合った地域の方々や PTA 活動などで交流を持った保護者の方の掛け声は生徒の継続の原動力となった。

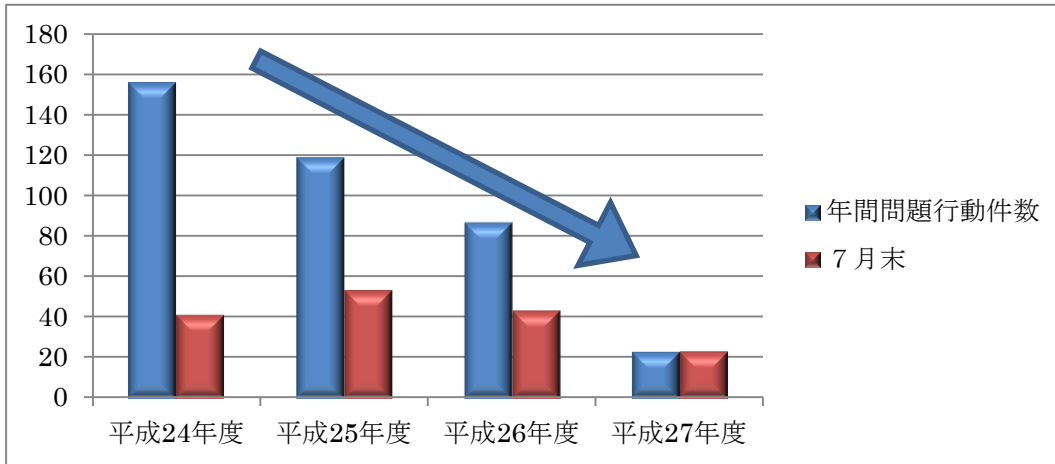


☆地域の方々とボランティアを通じて触れ合う。

取組の成果（効果）『キーワード 自己存在感の獲得』

生徒の表情が明るくなった。「褒められる」「必要とされる」といった肯定的な体験を通じて、自己存在感が芽生え、社会の中での自身の必要性を生徒なりに感じ取れた結果であろう。

また、生徒の会話にも変化が現れ、学校生活を律し、明るく信頼される学校になりたい。といった趣旨の会話が聞こえてくるようになった。更に成果は数字にもハッキリと表れ、問題行動数が激減した。



今後の展開『キーワード 拡大』

黒高レンジャーという取り組みを通じて、生徒の自己存在感や肯定感が向上した。今後はレンジャーのみならず、部活動や勉強といった分野で、主体的に目標を設定し準備、実行する生徒を育成することが重要である。そうすることで、様々な場面で自己存在感や肯定感を得られる生徒が増えると考えられる。



☆活動風景 挨拶レンジャー



☆活動風景 花レンジャー

他校へのアドバイス『キーワード 信じてやらせる』

実際は生徒が動かない場面も多々あるが、「失敗しても良い」くらいの余裕をもって待つことも必要である。褒めることも重要であるが、すぐに褒めるのではなく、努力してチャレンジした姿勢が見られた時に褒めることが大切です。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立神辺高等学校	校長氏名	井出 和雄	生徒指導主事氏名	吉岡 史裕
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『奉仕活動』

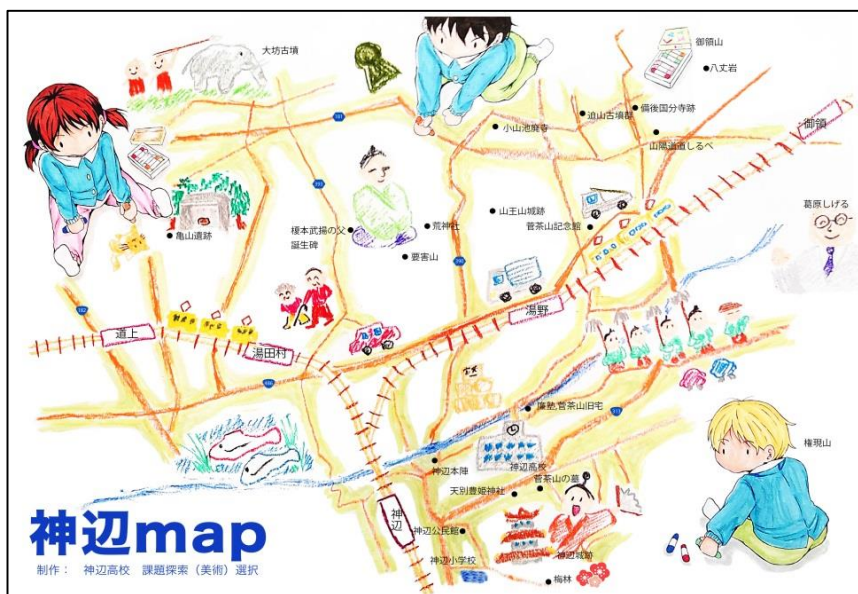
取組のねらい『気づく→考える→行動する→変わる』

奉仕活動は手段であって目的ではない。奉仕活動を通じて特色のある町「神辺」に気づき、そこに暮らす住民、歴史的遺産建造物について考えさせる。また町内の環境面についても考え、少しずつ自分と神辺のつながりを意識して行動し、3年間の中で神高生として、地域に根差す学校の一員として自覚を持つ人間に変容させる。

取組の具体的内容『神辺』

神辺高校は神辺町内の住宅地内、旧商店街や天別豊姫神社、簾塾、本陣、神辺城跡などの歴史的建造物の近くに位置しており、地域住民との距離も近い。地域に根差した学校であるとともに、生徒にその自覚を持たすため奉仕活動を行っている。各HR毎に分担場所を決め、神辺高校半径1.5キロ以内を清掃及びあいさつ活動。(年3回) 指導を受けている生徒、加えて過去に指導を受けた生徒はJR神辺駅、井原線神辺駅の清掃活動、神辺本陣や簾塾周辺等の清掃活動、町内清掃活動、地域店舗や民家の手伝い、及びあいさつ活動を行っている。

（毎日8:10～8:30または放課後、長期休業中は1日約2～3時間実施）



【神辺マップ①（制作：総合的な学習の時間「美術」）】

取組の課題・創意工夫『気づく』

奉仕活動を通して、神辺町内の良い環境、建造物等の歴史的価値、近隣住民の神辺高校生徒に対する見方（思った以上に見られている）に気づく。生徒が作成した神辺町マップを参考に通学路、路地、商店街、歴史的建造物などを把握する。生徒からは「こんなところに昔はお城があったんだ」「神辺は路地が多く狭いので通行が危ない」「自転車はこの辺は気をつけないといけない」「国道313号線沿いはゴミが多い」「井原鉄道の駅は無人駅だからゴミが目立つ」「店の人が声をかけてくれた」「お礼にお茶もらった」「お疲れ様と言われバラをもらった」「アルミ缶で作った鳥よけをもらった」「いつもきれいにしてくれてありがとう、とお礼を言われた」「神辺高校の生徒はよく挨拶をすると言われた」などの感想が寄せられた。また、近隣住民や地域ボランティアの方々から、清掃や神辺高生の元気の良いあいさつに対するお礼が生徒指導部に寄せられた。



取組の成果（効果）『考える』

- (1)自分たちがきれいにした場所が後日汚れていたら憤りを感じている。
「なんできれいなところを汚すの?」「自分たちが掃除した場所が汚されることが信じられないし、腹が立つ」など
- (2)神辺町地域住民や地域ボランティアの方々からよく連絡がある。挨拶をよくしてくれる、国道沿いがきれいになった等→集会で生徒に報告している。(いいところはとことんほめる)
- (3)地域商店や住民から工芸品の作り方を教わったり、歴史建造物の紹介を受けたり、休憩にお茶を出していただいたりと、神辺高生として地域社会とコミュニケーションの場がとれるようになった。また、お礼に育てたバラを頂いたりしている。
- (4)生徒が神辺高生としての自覚が芽生えた。(→登下校時に挨拶をさらに積極的にできるようになった。指導を受けた生徒が「やってよかった。地域の方の対応がうれしかった」など意義を感じていた)
- (5)地域の方々が苦情や意見も率直に学校に伝えることができるようになった。
- (6)地域の祭りや商店街行事に招かれることが増えた。(神辺公民館まつり、神辺夢フェスタなど)



【クリーン活動（平成27年）】

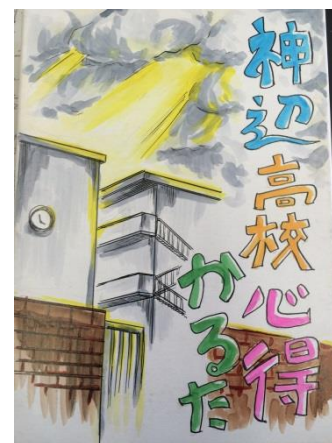
今後の展開『考えさせる→考える』

すべてを教員側で決めて指示しない。目的を与え、そのために手段を生徒達に考えさせて実践させる。自ら考えた行動は失敗しても決して否定しない。「気づく」「考える」「行動する」を自分達でできるようにする。(きっかけを与える「仕掛け」は行う)

特別な指導を受けたことがある生徒が変われば、周囲の生徒へ影響を与える。生徒が変われば教員が変わる。全員が変われば学校が変わる。それぞれが自分達の役割を認識して行動する。

他校へのアドバイス『地域の特色を把握する』

神辺高校周辺は新興住宅が少なく、昔から神辺に根差している住民が多い。また旧商店街や歴史的建造物も点在しており、その特色を活かした教育活動を取り入れている。具体的には、総合的な学習の時間等を用いて神辺町探索(各寺、神社、廉塾、旧街道等)、美術選択者による神辺マップ、神辺かるたの制作、食品選択者による神高まんじゅう作製など。各校、地域の特性や地理的状况を活かし、工夫を凝らした地域貢献を行うことが可能である。



【神辺高校心得かるた】

学校行事

文化的行事

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立中山小学校	校長氏名	竹中 むつみ	生徒指導主事氏名	古本 美智子
-----	-----------	------	--------	----------	--------

取組事例名 『平和集会』

取組のねらい 『キーワード みんなで作る平和集会』

- (1) 平和に関する歌を歌ったり、学習したことを発表したりして、平和を願う気持ちを育てる。
- (2) みんなが協力して、集会に向けて取り組むことを通して、集団への所属感や連帯感を深める。

取組の具体的内容 『キーワード 仲良く助け合う、中山小に！！』

- (1) 各学年が授業の中で学んだ平和学習について、発表をする。
- (2) 各クラスで作った千羽鶴と、そのときに各学級で考えた平和に関するテーマを書いた紙を紹介、掲示する。
- (3) 全校児童で平和の歌「折り鶴の飛ぶ日」を歌う。
- (4) 千羽鶴は8月4日に、企画委員の児童が平和公園に献納する。テーマは職員室前の廊下に掲示する。



取組の課題・創意工夫

- (1) 1年と6年は合同で鶴を折った。(6年生が1年生に教える。)
- (2) 取組方法については、児童会から保護者あてのプリントを配り折り鶴の制作に協力してもらった。一人1枚の折り紙を家庭に持ち帰り、家族で平和について話し合いながら折り鶴を折った。そして、家族で考えた平和への願いを鶴の裏に書いた。
- (3) 集会の準備・運営については、献納台の飾り付けを6年生、題字作成を5年生、司会・進行を企画委員の児童が行うなど、高学年の児童が中心になって準備を進めた。

取組の成果（効果）『キーワード 6年生は学校のリーダー』

- (1) 平和学習で学んだことを発表するので、自信を持って発表したり、興味を持って他学年の発表を聞いたりすることができた。
- (2) 春から繋がりを持っている6年生と1年生が、鶴の折り方を教えてもらいながら折ることで、更に繋がりを強く持つことができた。6年生に学校のリーダーとしての意識を持たせることができた。
- (3) 家族で平和を考えることができた。

今後の展開『キーワード 学んだことを日常生活に生かす』

- (1) 平和学習で学んだことをおりにつけて振り返り、日常生活に生かすようにする。

他校へのアドバイス『キーワード 年間の計画の中』

- (1) 平和学習を学級で、学年で、学校全体で、家庭で、様々な人たちの中で考えることができた。
- (2) 年間の取組の中で、他の行事と繋がるように、平和集会を位置付けている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東中学校	校長氏名	高橋 延昌	生徒指導主事氏名	山口 裕三
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『福山市立東中学校 文化祭 3 年ミュージカル・エルコスの祈り』

取組のねらい『キーワード； すばらしい行事と歌声のある学校』

東中学校には 4 つの特色があり、その 1 つに「すばらしい行事と歌声のある学校」があります。中学校の年間行事の中で体育大会と文化祭は特別活動の内容を計画的に取り組む大きな行事となります。特に 3 年生にとっては中学校生活最後の行事となり、今までの特別活動・学校行事等を通して集団行動を学び、身に付けた 3 学年集団の力を発揮する舞台となります。東中学校の文化祭では 3 年生のミュージカルが伝統になっています。それは体育科・音楽科・技術家庭科・美術科等で学び、総合的な学習で目標とする「課題を探索し主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる」ことや中学校 3 年間の特別活動（すばらしい行事と歌声）、その主たる目標の「望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養う」等を取組の柱とし、自己指導能力を身に付けるための積極的生徒指導の実践に向け、すべての教職員で取り組んでいます。



取組の具体的内容『キーワード； 一人一役全員主役』

特別活動（学校行事；文化祭）は生徒指導にとって重要な教育活動の場になっています。特別活動の指導において次の 3 点（生徒指導の三機能）を重視して取り組んでいます。まず 1 点目は「生徒に【自己決定】の場や機会をより多く用意し、生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする」ことです。次に「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」ことです。3 点目は「生徒と教職員の信頼関係及び生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」ことです。

東中学校、文化祭のテーマは「一人一役全員主役」というものです。特に、3 年生のミュージカルでは生徒一人一人が自らの判断で「役者・音響照明・大道具・小道具・背景・衣装」の中から役割を自己決定し、責任を持ち取組を進めていきます。この取組には「生徒に【自己決定】の場を与える」という要素があります。役者を希望した生徒は自分が演じたい役を選び、複数の生徒が希望した役に対してはオーディションを実施しました。オーディションでは実際に審査を行い、「セリフ・ダンス・歌声」を総合的に評価し、配役を決定しました。生徒は夏休みの間に練習を重ね、オーディションに挑みました。必死で努力したが、役者に選ばれなかった生徒は涙を流しながらも、次の目標（配役）に向け真剣に努力する姿と仲間から励まされ共に成長する姿がみられました。この活動には「生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」の要素があり、お互いを励まし合い、自分の役割に責任を持ち活動する姿は、特別活動の「望ましい集団の育成」に繋がっています。また、役者以外のパートでも生徒と教職員がミュージカルに向け課題を解決するため、真剣にお互いの考えや思いを伝え合い、取り組んでいる姿には「生徒と教職員の信頼関係を基に【共感的な人間関係】を育てる」という生徒指導の機能が活かされています。それぞれの役割に責任を持ちながら、各自の目標を達成することで、生徒一人ひとりがミュージカルの一員として主体的に参加し、自分らしさを発揮できたことが「生徒に【自己存在感】を与える」活動となりました。生徒会で話し合い、決定した文化祭のテーマ「一人一役全員主役」を実現できたことは生徒たちの自信となり、わずかながら自己指導能力の育成へ繋がりました。



取組の課題・創意工夫『キーワード； 自分の限界に挑戦』



特別活動「ミュージカル」を題材に取り組むとき、その学年集団・生徒実態を深く分析し、どのようなシナリオ・台本が適しているのか検討する必要があります。また、授業実数の問題もあるので、学校年間計画を立てる段階からどれくらいの期間で「ミュージカル」を完成させるかを検討します。本校では夏休み期間や土・日曜日を使い、限られた時間の中で生徒も教職員も自分たちの限界に挑戦する気持ちで取り組んでいます。しかし、授業時間確保のため限られた時間で集中して活動することが難しくなっています。特別活動は積極的生徒指導を効果的に実践するうえで重要な活動です。この特別活動「ミュージカル」の取組を継続できるように年間計画を工夫し、生徒と教職員の成就感、充足感、連帯感を高め続けることも課題となります。

取組の成果（効果）『キーワード； 夢・自信そして進路』

生徒の感想：「文化祭をするうえで、3年生は『一人一役全員主役』という言葉テーマをやってきた。私は道具係だったけど、道具あつての完璧な演技だと思うし、もちろん他の係の人達もいて、ミュージカルができるので、裏方の人がどれだけ大切なものなのかという事がわかりました。役者ばかりが主役じゃないと思えたので、私も自分の仕事をやり遂げることができました。今回のミュージカルを通して、自分の仕事に責任を持たないといけないこともわかりました。この経験を生かして、自信を持ち、これから先にあること、まずは受検に向けて、今自分がすべきことをしっかり考えが頑張って、後悔しないようにしていきたいです。」

3学年通信9月30日号 No11より



今後の展開『キーワード； 東中伝統の継承』



特別活動；「学校行事」で積極的生徒指導が効果的に実践されるためには中学校3年間の計画的な取組が必要となります。体育大会は学年を超えた異年齢の集団を望ましい集団へ高める活動に仕組み、特に3年生には最高学年の自覚を持たせ、主体的に活動できるものにしていきます。東中学校の特色「すばらしい行事と歌声のある学校」が東中学校の伝統で、文化祭では3年生が「ミュージカル」をすることになっています。1・2年生がその「ミュージカル」を観て、「自分たちが最高学年になったら先輩を超えられるようなミュージカルを自分たちがやり遂げるんだ」と思える文化祭になるように取り組んできました。東中学校では特別活動；「学校行事」を積極的生徒指導の柱として学校を立て直してきました。今後は「守破離」という言葉のように伝統を守り、生徒達と共にそれを超える特別活動を新しく創る努力を続ける必要があります。

他校へのアドバイス『キーワード； ステップアップする行事（体育大会・文化祭）：三年生のプライド』



本校は9年前、問題行動が同時多発的に起こる荒れた学校でした。その当時、教職員が「この学校を変える。」という同じ目標に向け、学校行事に取組んでいました。その活動の中で起こる様々な問題行動に対して丁寧に生徒指導（消極的生徒指導）を続けました。該当の生徒に対しても学校行事には主体的・協同的に参加するように指導しました。少なくとも3年間を見通し、3年生になった時の自分たちの姿がイメージできるように、ステップアップした特別活動を計画的に仕組んできました。3年生には最高学年としての自覚を持たせ、自己指導能力を身に着ける特別活動が自らの進路実現と自己実現に繋がると考えて取組を続けています。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立和庄中学校	校長氏名	上垣内 雄治	生徒指導主事氏名	新谷 企予子
-----	----------	------	--------	----------	--------

取組事例名 『エコキャップモザイクアート』

取組のねらい 『キーワード：全校が一つに、地域が元気に』

本校では、3年前から、全校が一つになる場として、体育大会でのマスケーム（1学期）、文化発表会でのモザイクアート（2学期）、卒業式（3学期）を設定し取り組んでいる。ねらいは次のとおりである。

ア 小さなエコキャップを並べ、全校生徒で一枚の絵を完成させることで、望ましい人間関係を築くとともに、責任感と所属感の向上を図る。

イ 実行委員を組織し運営させることで、実行委員の生徒がリーダー性を高める中で、自主的、実践的な態度を育てる。

ウ 完成したモザイクアートを地域からも鑑賞できるように校舎に掲示することで、学校の取組を発信するとともに、地域に活力を与える。

取組の具体的内容 『キーワード：地道な作業、各自の責任』

- 1 エコキャップの回収
 - (1) 1学期の文化委員会で、エコキャップの回収をスタートする。
 - (2) 多く回収できたクラスを終業式で表彰する。
- 2 実行委員の募集（9月初め、部活動を引退した3年生が対象）
 - ・生徒会執行部は文化発表会を企画運営するため、執行部が実行委員を募る。
- 3 実行委員会の準備
 - (1) デザイン決定

今年話題になった人物の中から、生徒も地域の方も見て元気が湧く人を選び、その人ならではの言葉を考える。
 - (2) 指示書づくり

フリーソフト「bigart」を用いて決まった写真（デザイン）をモザイク用に変更し、各クラスが担当する指示書を作成する。
 - (3) パワーポイント作成

全生徒が作業内容を正しく理解するために、作業の手順やコツを説明するためのパワーポイントを作成する。



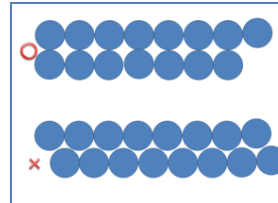
紙を貼り合わせる



色を塗る



指示書完成



パワーポイント例

- 4 ボランティア活動開始（9月～）

一学期から回収されていたエコキャップを色ごとに分ける。この作業は、完成するまで昼休みを使ってボランティア（2回で1つスタンプが貰える）で行う。



エコキャップの色分けボランティア

- 5 エコキャップ並べ

各学年1つの空き教室を使って並べる。また、各クラスに1名の実行委員がつき、エコキャップ並べの指導を行い、文化委員と共に進捗管理を行う。



指示書通りにキャップを並べます

段々全体像が見えてきました

- 6 テープ貼り
- 7 吊り下げ・完成（記念写真撮影）
- 8 実行委員による維持・管理

取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダーの育成とコミュニケーション能力』

1 リーダーの育成

- ・教師主導ではなく、主体的な活動にするため文化委員や実行委員会を組織した。

2 隙間時間の活用

- ・合唱や学年・部活動発表もあり、多くの時間が必要な時期のため、昼休憩を活用した。

3 作業の徹底

- ・全員が共通理解するための支援として、パワーポイントや教室の板書などを工夫した。

4 コミュニケーション能力の育成

小中一貫教育の一環として、「発達段階に応じたコミュニケーションモデル」を作成するとともに、計画的にコミュニケーションを重視した学習を仕組み、実践の場として活用した。

発達段階に応じたコミュニケーションモデル		
前期 (小1~小4)	中期 (小5~中1)	後期 (中2~中3)
1 はきはきと心をこめた挨拶ができる。	1 時と場をわきまえた挨拶や敬語を使うことができる。	1 時と場に応じて適切な言葉遣いや行動をすることができる。
2 思いの声をかけすることができる。 <例> 「FOOしよう！」	2 思いやりの声をかけすることができる。 <例> 「だいたいようぶ」「心配ないよ」	2 状況に応じて適切な声をかけすることができる。 <例> 「はめる」「助ます」「心配する」「感謝する」
3 構えができる。 <例> ・相手の目を見て話し聞く。 ・言葉と返答をはっきりと言う。	3 相手意識をもつことができる。 <例> ・反応しながら聞く。 ・理由を言う。	3 対話ができる。 <例> ・相手の顔に添って質問や感嘆を言う。
4 ことばの数を増やすことができる。 <例> ・「うれしい」「すごい」	4 同じ意味の言葉に言い換えることができる。 <例> ・「うれしかった」「OOのような」	4 時と場に応じた言葉を適切に選ぶことができる。 <例> ・「OOに感謝する」
5 自分の気持ちに気づき、出すことができる。	5 相手の気持ちに気づき、自分の気持ちを出すことができる。	5 相手の気持ちを察し、自分の気持ちを伝えることができる。

コミュニケーションを重視した学習

・自分も相手も大切にしようとする姿。
・自ら学んでみようとする姿。

取組の成果（効果）『キーワード：所属感、達成感』

- ア 所属感や達成感
- イ 先輩へのあこがれ
- ウ 地域への感謝
- エ 自己肯定感の向上



地域新聞の取材を受ける実行委員

－生徒の感想－

- ・並べるのは難しかったが、先輩がやさしく教えてくださってうれしかった。
- ・来年は実行委員がしたい。先輩や卒業した人たちにも受け継いでいることを知ってもらいたい。
- ・地域の人が声をかけてくれた。

－実行委員の感想－

- ・全員が参加しないと意味がないので、皆に声をかけやってもらうのが大変だった。
- ・地域の方や全生徒が協力して完成したこと、そして3年前からの伝統を受け継ぐことができうれしかった。
- ・今後は、さらに発展させてほしい。

今後の展開『キーワード：より主体的に』

- ア 教員が写真を撮ったり聞き取ったりした取組の様子を校内掲示し、活動の後押しをしている。
- イ アの広報活動を、パソコン部等の部活動と連動させたり、実行委員会の中に広報担当を作ったりするなど、より自主的、主体的な活動となるよう仕組んでいく。

他校へのアドバイス『キーワード：教職員の理解と協力』

- ア 新たな取組をしたり、全校で取り組んだりするためには、教職員の理解と協力が不可欠です。特に、教育的効果を事前に共有しておきましょう。
- イ 新しいものを作り出すことばかりにこだわるのではなく、すでにある行事を、いかに集団を意識させた取組にしていくかという視点をもつことだけでも大切です。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和中学校	校長氏名	三田 俊士	生徒指導主事氏名	梶山 篤
-----	----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『子ども読書の日の取組』

取組のねらい 『キーワード：豊かな情操，よりよい学校生活』

ア 「子ども読書の日」の意義を理解し，読書に親しむ中で，豊かな情操を養うとともに，生涯にわたり，文化や芸術に親しんでいく態度や能力を育てる。

イ 生徒会活動を通して，集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画しようとする自主的，実践的な態度を育てる。

ウ 読み聞かせで集中力を高めるとともに，本の世界に浸り，他者（本の中の人物）に共感する体験を通して，集団や社会の一員としてよりよい学校生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。

取組の具体的内容 『キーワード：本の世界に引き込まれて・・・《聴く姿勢・待つ姿勢》』

- 1 生徒会執行部を中心に「子ども読書の日」の取組（平成27年4月23日（木）1校時）
 - ①「子ども読書の日」の説明（担当教員）
 - ②お勧めの本紹介（生徒会執行部）
 - ③『千の風になって』読み聞かせ（教員・生徒会執行部）
 - ④『千の風になって』独唱（吹奏楽部）
- 2 地域の力を活用した読み聞かせ&ストーリーテリング（平成27年4月24日（金）1～3校時）

※内容：呉ストーリーテリング研究会のみなさんによる読み聞かせとストーリーテリング

※形態：各クラス1人～2人ずつ，呉ストーリーテリング研究会の方に入ってもらい，話を聞かせてもらう。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：継続』

ア 全体が集まって行う今年度のような取組を毎年継続することで，行事のたびに静かに集合し，集中して読み聞かせ（話）を聞く態度を醸成したい。

イ 生徒自らが，より主体的に立案・計画して実施する取組が行えるようにしていく必要がある。

取組の成果（効果） 『キーワード：心に響く・心を耕す』

ア 今年度初めての取組であったが，昨年度末から計画し，先を見通して取り組んだことで，落ち着いた雰囲気の中で本の世界に入り込ませることができた。

イ 母親を突然亡くし，母の死を受け止められずにいた生徒が，読み聞かせを聞いた後，涙があふれて止まらなくなったということもあった。これは，静粛な中で行われた読み聞かせや独唱で心の蓋が開いた瞬間だと考えられる。

ウ 取組後，全体集会のたびに，先に体育館に入った生徒から静かに待てたり，時間を守って集合しようとしたりする姿勢が見られるようになった。

今後の展開 『キーワード：生徒による主体的な読み聞かせ活動』

今年度は大人から読み聞かせをしてもらったが，来年度は自分たちが生徒に，あるいは小学生に対して選書し，練習して読み聞かせを行わせたい。そうすることで，自分たちが「昭和」をリードしていかなくてはならないという使命感が醸成され，自己肯定感が増し，地域の一員としての視野も広がると考える。

他校へのアドバイス『キーワード：地域公共機関との連携・人材活用』

今回の取組をするに当たり、呉市立図書館の方に読み聞かせボランティアのことを尋ねた。するとニーズにあった団体を紹介してくださり、つないでくださった。地域公共機関は専門的な知識や情報を持っており、教員だけではできないことも、可能になる。それをどのように活用し、取り組むかによって効果的な取組になる。

1日目



生徒会執行部による本の紹介



生徒による独唱『千の風になって』



きちんと整列 ワクワクしながら聴いています



『千の風になって』読み聞かせ



取組終了後、成功を祝って

2日目



食い入るような目・眼・瞳・・・
本の世界に浸りました。



読み聞かせの合間の指遊び—
童心に戻って笑顔がこぼれる



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	大竹市立大竹中学校	校長氏名	笹口 由美子	生徒指導主事氏名	北野 茂樹
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『文化祭』

取組のねらい 『共感的人間関係の育成』

○全校生徒が、クラスや学年、組集団や部活動などの様々な場において協力して取り組み、一つのものを創り上げる苦労や喜び、達成感を味わうことで、共感的人間関係を育成する。



取組の具体的内容 『集団の協力』

【大竹中学校文化祭「いのち 輝け～つながる想い 心ふるえる瞬間～】

○ステージ発表

- ・ 1, 2年生各クラスによる合唱コンクール
- ・ 3年生各クラスによる演劇発表
- ・ 学年合唱と全校合唱
- ・ 部活動の発表（吹奏楽部によるステージ発表）
- ・ 芸術鑑賞（今年度は、大竹一番太鼓：地域の和太鼓演奏グループ、本校生徒、卒業生が所属）



○展示発表

- ・ 各教科の発表（総合的な学習の時間、国語科、技術・家庭科等）
- ・ 部活動の発表（美術部・ものづくり部による展示発表）
- ・ 特別支援学級の作品展示

取組の課題・創意工夫 『縦割り集団の活用』

- 生徒会執行部、パートリーダー、監督（演劇）、部長等を中心とした主体的な活動になるように、年度当初からリーダー育成を意識した学年・学級づくり、部活指導を行っている。また、練習・準備の過程で、教員が声かけや援助、評価等を生徒の主体性を尊重しながら行っている。
- 練習・準備の過程で、クラス間、組集団同士の間接発表や教え合いを行い、互いを高め合ったり、先輩のアドバイスをその後の練習に生かしたりするようにしている。
- 各学年・学級のリーダーの育成が課題。



取組の成果（効果）『達成感、自己肯定感・存在感』

- リーダーを中心とした取組を進め、合唱や演劇等をやりきった達成感を味わうことができた。
- クラスの協力やクラス間、組集団の交流の成果が当日の発表に現れ、生徒の自己肯定感・存在感につながっている。
- 練習・準備過程の交流や文化祭終了後の組集団同士のメッセージプリントの交流により、共感的人間関係が育まれている。



今後の展開『発展』

- 大竹中のこれまでの伝統を守りつつ、さらなる発展をめざし、学級、学年、全校のリーダーの育成、リーダーを中心に全員が協力して取り組む体制づくりを進めていく。そのために、生徒たちに活躍の場を与え、その活動を教師が評価をすること、そして生徒にかかわり、やる気を喚起すること、サポートすることを意識する。



他校へのアドバイス 『教員の意識統一』

- 生徒指導（特別活動）を進めて行く上で、教員の意識統一が重要である。特別活動の取組のねらい（何のために）を明確にし、教員がそのねらいを常に意識し、同時に生徒にも意識させる。また、ねらいを達成するために、事前・事後の指導を充実させる。
- クラス間、縦割り集団の交流が有効である。
- 課題として、生徒が自分の頑張りを広く地域に情報発信するとともに、地域からのフィードバックがもらえるような工夫をすることが必要である。そうすることで、生徒の満足感や達成感、自己有用感も高まり、学校と地域の結びつきも深まると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長氏名	沼本 慎二	生徒指導主事氏名	吉岡 知美
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『リーダー指導を軸にした体育祭と文化祭に向けた取組』

取組のねらい『キーワード リーダー性の伸長』

本年度本校は耐震工事の関係で体育祭と文化祭の両方が2学期に実施となった。9月の体育祭から10月末の文化祭といった短い期間での開催となったが、反対にこの条件を生かすことを考え、体育祭でリーダーとしての動きを理解させ、文化祭で自主的に考え行動していく力をつけることをねらいとした。

取組の具体的内容『キーワード リーダーシップとフォロアーシップ』

今年度は体育祭で、昨年度まで全学年縦割り練習をしてきたソーランをあえてクラスでの取組に変更し、各クラスのリーダーの動きを前面に押し出させる方向で指導に入った。従って前年度まで組集団の演技であったものを各クラスでの発表という形に変更した。

まずは各クラスで4～5名のソーランリーダーを立候補で選出し、夏休み中に5クラス全体のリーダー会を実施し、全体リーダー会でリーダー長を選出した後、学年練習・クラス練習・リーダー練習・全校練習といった形で計画的に取り組ませた。学年やクラスで講師を迎えて、基本の踊り方の指導を受け、一人ひとりがしっかり踊りの形を覚えきるまで何回も練習を繰り返させた。各クラスのリーダーは事前にリーダーだけのソーラン練習会を持つことで、全体の前で踊れる力量を身につけ、クラスの一人ひとりがきちんと踊れるように助言し指導する立場でクラス練習にのぞませた。

基本の形を学年やクラス練習で覚えたのち各クラスで考えた隊形練習に入り完成後、学年内での交流・全校での交流をする流れで練習させ、体育祭での演技発表につなげていった。

この取組で、リーダーとしての動きを学び、次の文化祭の合唱コンクールでのパートリーダーを体育祭のときより高い位置づけのリーダーとしての意識と動きを持ってのぞませた。ソーラン指導でリーダー的な役割をした生徒がさらに向上心を持ち、合唱のパートリーダーになることもあったが、リーダー的な動きをした生徒たちをフォローする力を高めるような場の設定を仕組むことで生徒の主体性を育てる動きを作ることができた。



取組の課題・創意工夫『キーワード ねうちづけし、効果的に伝える 』

取組の過程では、取組内容に一生懸命にがんばりきる生徒もいれば、あまり参加する意欲が無く、リーダーの指示に従わず文句を言ったりする生徒も出てくる。リーダーとして、どのような言い方で声かけをしたり、全体や個に対する評価をしていくべきなのかを教師側が指導したり気づかせたりすることが課題となってくる。思ったように周囲の生徒が動いてくれない時が生徒の成長の大きなチャンスだと捉え、彼らを支えていくことは当然として、リーダーとして周囲の生徒に訴えたいことや伝えたいことをどのように表現させたらよいかを考えさせることが重要となる。(リーダー研修会の実施) 以上のような活動で得たことを基にして、効果的な練習途中の言葉かけや、終了後の評価などで全体の士気を高めたり、細かい点を観察させ、成長が見られる部分を評価し、生徒自身の言葉で全体に伝えさせる場を確保しながら、教師による小さな成長を見逃さない評価を、リーダー・全体生徒に対して行っていくことが大切である。

取組の成果（効果）『キーワード 共感とわかちあい 』

ソーラン・合唱コンクールの取組の過程で、リーダーが頑張るという意識以上に、リーダーの中から「クラスのみんなで一緒にがんばりたい」といった言葉が出てくるようになった。リーダー同士もクラスを超えていい意味での刺激になったことはもちろん、しんどい部分を分かち合えたり、リーダーとしてどのように行動すべきか、お互いの良き相談相手になった。体育祭で学んだことが、次の文化祭での合唱コンクールへの取組意欲の喚起にもつながり、前のリーダーが現リーダーを支える雰囲気が出来たり、平素の掃除や当番活動においても協力し合っていこうとする姿が増えていった。

今後の展開『キーワード 日々の生活の中に拡げる 』

今回の取組は、クラス集団をベースとして、人前に立ってリーダー性を発揮するための場をできるだけ多くの生徒に提供することをねらいとして取り組んだが、今後は生徒会メンバーを中心に学年のリーダーとして取組むだけでなく、来年度の廿日市中学校を担っていくため全校生徒を巻き込んだ取組を企画運営していく力をつけさせなければならない。あいさつをもっと活発にさせることと無言そうじの完全実施に向けて、具体的な取組を展開していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 子どもたちをしっかりと見つめ、いっしょに動く 』

我々は、日々、問題行動を繰り返す生徒指導に追われ、前向きにさまざまな取組に尽力してくれる生徒たちと高い目標に向かってじっくり取り組むことが困難となる状況があるかと思います。本校も以上のような状況ではありますが、苦しいときこそ、教員がベクトルをそろえて前進していくことはもちろん、生徒の力を信じて高い目標に向かって一緒に進んで行きたいものです。

生徒は教師が関わる以上に、他の生徒からの真剣な関わりがあれば、更により良い方向へ変容していくはずです。課題を抱えた生徒たちも周囲の生徒たちから認められることによって、自己有用感を高めていき、自分の本来進むべき道に向かっていけると考えます。我々はまず生徒同士が一生懸命に活動し、そして語り合える場を提供し、教員はその活動をよく観察し支援しながら、生徒一人ひとりの行動や言動を価値化し伝えていかなければと思っています。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中学校	校長氏名	木村 通幸	生徒指導主事氏名	濱野 綾子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『合唱コンクールを成功させよう～全校合唱に挑戦しよう～』

取組のねらい 『キーワード：歌声の響く学校』

昨年度の 2 学年は、生徒指導上課題をもっている生徒が多く、学校生活も落ち着かない状態だった。問題行動の約 65% をこの学年が起こしており、不登校率も 5% と極めて高かった。その反面、この学年の生徒は良い意味でもエネルギーに溢れ、学校行事に喜んで参加する姿があった。特に文化祭の合唱コンクールでは、学級が一丸となり合唱を創り上げることに情熱を注ぐことができていた。

今年度、本校のめざす学校像の一つに「歌声の響く学校」が加わった。特別活動の目標として、「集団や社会の一員として自主的・実践的態度を育てる。」とあるが、この目標を達成するため、合唱コンクールに、これまでになかった全校合唱を取り入れた。最上級生にリーダーとしての役割を担わせ、日頃の学校生活では体得できない充実感を味わわせることをねらいとした。

取組の具体的内容 『キーワード：先輩から学び、より団結』

- ・合唱コンクールは、中学校時代において思い出に残る行事である。1 年生にとって初めてとなる合唱コンクールの練習に入る前の学級活動の時間に、昨年度の 2・3 学年の合唱ビデオを視聴させ、合唱コンクールの位置づけを伝える。
- ・話し合い活動を通して、自分が合唱コンクールでできる役割は何かを考え、積極的に取り組む姿勢をもたせる。
- ・今年度は全校合唱を取り入れ、より互いに協力し、より団結することを目標としていることを伝える。また、上級生のクラスと合唱交流を行うことで、先輩から合唱の素晴らしさを学ぶ。

取組の課題・創意工夫 『キーワード：新たな試み』

学校全体が落ち着きを取り戻してきている中で、新たな試みを取り入れる時期としては適切であったが、全校合唱については、生徒主体で取組が進められなかったことが課題である。

取組の成果（効果） 『キーワード：全員が MVP』

- ・合唱コンクールを通じて、各々が学級や学校への帰属意識を高めることができた。
- ・合唱コンクールを終え、全員が振り返りを行ったが、一人一人の見える活躍、見えない活躍が大きな力になることを感じさせる評価をすることができた。

〔生徒の振り返り〕

- 3 学年男子：全校合唱では 1・2 年生の歌声に負けないよう、3 年生がしっかり歌わなければという気持ちをもって歌うことができた。この全体合唱を来年度も続けてほしい。
- 2 学年男子：僕はクラスの合唱で指揮をした。みんなが頑張ってくれたので、学年最優秀賞がとれた。3 年生になったら、ぜひ全校合唱の指揮をしたい。
- 1 学年女子：朝や放課後などにみんなでパートごとに分かれて練習をした。最初のほうは声が出ていたけれど、だんだん声が小さくなってしまった。けれど、一生懸命歌っている人がいるので、もっと一生懸命歌わないといけないと思った。本番では練習のときのように声は出せなかったけれど、がんばってくれる人もたくさんいたのでよかった。自分たちよりも、先輩の声がものすごく大きくて、ずっと感動していた。また、小学校のときは学年合唱しかしたことがなかったので、全校合唱はすごいと思った。また全校で歌いたい。

今後の展開『キーワード：来年度へつなげる』

- ・文化委員が合唱曲の歌詞を模造紙に書いたり，上級生のクラスとの合唱交流の調整を行ったり，委員としての仕事を全うできた。全校合唱についても，今後は文化委員会の取組に移行し，生徒が主体的に取り組む活動にしたい。また，文化委員を中心とするリーダーの育成を図り，今年度の反省を生かし，来年度も全校合唱を引き継いで実施したい。
- ・個人や学級で振り返りを行うことはできたが，先輩として後輩に何を残すことができたかを改めて振り返らせることが十分ではなかった。アドバイスやメッセージを何らかの形で残すことができればよかった。

他校へのアドバイス『キーワード：大規模校の強み』

本校は全校生徒632名の大規模校であるが，それ故，全体を詳細に把握することは非常に困難である。しかしながら，大規模校だからこそできる取組は何かを考え，今年度，迫力ある全校合唱を取り入れることができたことは，強みを生かした取組だといえる。



平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第二中学校	校長氏名	日名貞 秋典	生徒指導主事氏名	池田 義和
取組事例名		『合唱コンクール』			
取組のねらい 『キーワード：二中ルネッサンス』					
学級単位で競い合うことで、①学級の絆や団結力 ②達成感や成就感 ③真面目に頑張る事の素晴らしさを体感させる。					
取組の具体的内容 『キーワード：新たなる挑戦』					
<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに課題曲を1曲,学級ごとに自由曲を選曲。 ・伴奏,指揮,歌唱指導に至るまでリーダー役の生徒が行う。 					
取組の課題・創意工夫 『キーワード：待つ』					
<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度は音楽科教諭や担任,学年担当がルールを敷くが,あくまでも生徒が主体であることを外さず,生徒による生徒たちの活動を終始行わせる。 ・よって,学級によっては取り組みが上手くいかない事もあるが,「待つことも指導」と捉え,生徒がその気になるまで,ある程度待つ。 					
取組の成果（効果）					
<ul style="list-style-type: none"> ・結果的に3年生が上位を占めたが,どの学年・学級も本気で取り組んでいる姿や本気で喜んだり悔しがったりする姿に感動した。 ・特に3年生のパワーを感じさせられた行事にもなり,続く文化祭や生徒会役員選挙にも良い影響を与えた。 					
今後の展開 『キーワード：二中ルネッサンス第2弾』					
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動（主に委員会活動の取組を生徒指導的側面から活動していく）の活性化。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒『一委員会 一数値目標』 ・運動会の縦割りによるチーム編成。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒合唱コンクールで学んだように自治能力の育成。 ・部活動の更なる活性化。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒活気ある朝練・放課後 					
他校へのアドバイス 『キーワード：積土成山』					
<ul style="list-style-type: none"> ・今できることを焦らず・欲張らずやり続けていく。 					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長氏名	宮里 浩寧	生徒指導主事氏名	川井 和郎
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『行事における主体的な取組の場の設定』

取組のねらい 『キーワード 主体的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育て、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

取組の具体的内容 『キーワード 3年生のリーダーシップ』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピールの時間（応援合戦）を設定した。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を新たに設定した。
- ・ オリジナルマスコットキャラクターを作成した。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 条件の設定（教員の指導）』

課題

- ・ 取組に向けての時間の確保

創意工夫

- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
- ・ 文化祭のアピールタイムについては、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が考え、取組を進めた。

取組の成果（効果） 『キーワード 達成感』

- ・ 体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていかこうとする姿が見られた。また、体育大会後の1・2年生の感想には、3年生への感謝の言葉、賞賛の言葉、自分たちが3年生になった時の見通しが書かれていた。



- ・ 文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。これまでの学級の取組を振り返ったり、担任・クラスメート・保護者などへの感謝の気持ちを表したり、それぞれの学級のカラーを活かして表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。



今後の展開『キーワード 生徒会のさらなる活性化』

- ・今年度の体育大会と文化祭の取組のきっかけは、生徒会執行部の強い要望であった。これらの取組を通して、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を見てきた新生徒会執行部では、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わり』

- ・生徒の好きなようにさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。
- ・生徒任せにして、教員はノータッチではなく、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、ともに頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立吉和中学校	校長氏名	村田 聡之	生徒指導主事氏名	濱原 光伸
取組事例名	『吉中太鼓』				
取組のねらい	『キーワード 自己存在感を高める』				
<p>今から 29 年前、「荒れた生徒の立て直しと学校への定着」を念じて生まれたものである。当時の吉和中学校は、暴力行為も多発し、学校に位置付かない生徒たちを、どうやったら学校に位置付けることができるか、課題のある生徒の居場所づくりを目的として誕生した。その後、太鼓を通じて自己存在感を高めることを目的に、全生徒を対象として、「心で打つ太鼓」を目指している。</p>					
取組の具体的内容	『キーワード 主体的な学び』				
<p>総合的な学習の時間を利用し、毎週学年に応じた練習を行っている。文化祭・バチの受け渡し式ではそれぞれの学年が、練習してきた成果を発表している。また、3 年生は校内での発表にとどまらず、地域のイベントや、尾道市のイベントにも積極的に参加している。発表の場をいくつか設定することで、1・2 年生は、3 年生の太鼓を目標に、3 年生は今回よりは次回の演奏と、録画したビデオで自分たちの演奏を振り返り、曲を聴いてくれる方々をいかにして感動させるかを、自ら考え練習に励んでいる。</p>					
取組の課題・創意工夫	『キーワード 継承』				
<p>現在の 3 年生が 29 期生となり、練習は退職された吉中太鼓創始者の先生の協力のもと、本校職員で指導に当たっている。しかし、誰もが指導できるわけでは無く、メインで指導している職員も本校の在職期間が長く、次の指導の後継者に毎年悩んでいる。</p> <p>生徒については、毎年 3 月に「バチの受け渡し式」を通じ、儀式的に次の吉中太鼓のリーダーを育てる取組につながっている。</p>					
取組の成果（効果）	『キーワード 太鼓が人を変える』				
<p>3 年生になり、人前での発表が増える頃になると、3 年生の意識が変わり、ルールを守らなかった生徒も、リーダーや周りの生徒の声かけにより、次第に集団の中に入って行っている。</p> <p>更に太鼓の頭(リーダー)は、太鼓の練習を仕切るだけにとどまらず、吉和中学校を仕切っていくリーダーとして大きく成長し、吉和中学校に在籍する、すべての生徒のあこがれのリーダーへと成長している。</p>					
今後の展開	『キーワード 吉和中で学んで良かった』				
<p>ここ数年、本校への入学者が大きく減っている。吉中太鼓の取組を通して、主体的な学びを継承し、生徒の自己存在感を高め、吉和中で学んで良かったと言える生徒を多く輩出していきたい。</p>					
他校へのアドバイス	『キーワード オリジナル』				
<p>ひとつの行事を継続することの大切さと、自分の学校にしかできない学びを大切にしていって欲しい。</p>					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	庄原市立庄原中学校	校長氏名	曾利 晋三	生徒指導主事氏名	大前 浩昭
取組事例名		『縦割り学級合唱練習』			
取組のねらい 『異年齢交流』					
異年齢による合唱練習を通して、学年を超えてお互いの良さを認め合い望ましい人間関係を築くとともに、共に向上しようとする意欲と態度を育てる。					
取組の具体的内容 『縦割り学級合唱練習』					
各学年・学級ごとの縦割りをつくり、各学級で合唱祭に向けて練習してきた成果を発表し合い、その後、自己評価・相互評価する。					
取組の課題・創意工夫 『評価カードの活用』					
学年練習においても、縦割り練習においても「評価カード」を活用してお互いの良い点・改善点を「評価カード」に記入し、その結果を基に生徒一人一人が課題を見つけ改善に向けて取り組んだ。また、各学級の実行委員が課題を解決するためにどのようにすればよいか考え、練習内容に取り込んでいった。					
取組の成果（効果） 『達成感』					
<p>合唱曲の決定に向け、学級の中では意見が飛び交い1つに絞り込むことからスタートした。練習において色々なトラブルがある中で、それを乗り越え、合唱祭のステージに立ち、クラス全員の気持ちが1つになって歌った達成感は、これからの学級の大きな力になったと思われる。生徒自身が、創意工夫を行い、仲間と共に同じ目標に向かう努力をしたことは大きな成果であった。</p> <p>また、特に1年生は、2・3年生の迫力を目のあたりにして自分たちも頑張ろうと目標をもった。3年生は、1・2年生の模範になるよう意識して取り組んでいる。歌だけでなく、出入りや態度・服装・姿勢・指揮者の動きなども意識した。</p>					
今後の展開 『生徒会』					
合唱祭は、生徒会が中心となり多くの準備を行った。生徒会が自分たちの力で合唱祭をつくり上げようとする姿勢が、生徒一人一人の意欲を高めることにつながった。生徒の自治活動を高める上で、生徒会の果たす役割は大きい。今後も、生徒会が前面に全校生徒をリードしていく流れを作っていきたい。					
他校へのアドバイス 『環境づくり』					
本校は、学校外の公共施設を借りて保護者や地域の方を招いて行っている。歌う環境、発表の場としては校内と違い緊張した中にも、より達成感が増すように思われる。評価や表彰においても専門家の方にも参加していただき雰囲気をつくることでより効果が増したように思う。					

合唱祭の取組の様子



クラスでの練習風景①



クラスでの練習風景②



クラスでの練習風景③



合唱祭に向けてのメッセージ



クラスで団結



市民会館（会場）



審査員席



クラス目標の掲示



合唱祭の様子



表彰式



最優秀クラスの合唱



生徒会反省会

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長氏名	山垣内 俊行	生徒指導主事氏名	櫻田 隆紀
-----	------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『平成 27 年度 沼南祭・体育祭』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』

「沼南生」としての自覚を持ち、集団の中でのルールを守り、規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

取組の具体的内容『キーワード 自己存在感を確認する』

「とり戻せ！！プライド」

6月の沼南祭（文化祭）では、家政科は、3年間の集大成としてファッションショーを実施した。ファッションショーは家政科の下級生が憧れる。そうして、目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科3年生は4つの研究班がそれぞれステージ発表を行った。普通科は、1年生が「桃太郎」の劇を英語で発表した。普通科3年生がとても羨ましく見ていた。小・中学校の時に経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ、鍛え、達成感を味あわせ、力と自信をつけさせる指導を行った。



10月の体育祭は、昨年までは、生徒会行事であったものを、今年度から学校行事として位置づけ、教職員ともども学校全体で取り組んできた。生徒の日々の成長した姿、そして一生懸命がんばる姿を、保護者や地域の皆さんの是非見ていただきたいという思いで取り組んできた。そうした取り組みのなか、生徒は各競技で一生懸命体を動かし、持てる力を十分に発揮した。入場行進やソーラン節は、昨年度からの行事であるが、今年はさらに進化して充実したものになった。これから本校の体育祭の伝統となっていくものと確信している。



取組の課題・創意工夫『キーワード 声を出して自己アピールする，他者を承認する』

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。
各集会や授業の始まりで，心を一つにした挨拶を行っていく。

取組の成果（効果）『キーワード 自己の所属の確認と他者の承認』

体育祭で印象に残る場面があった。午前の競技が終わり，全校生徒がグラウンドに整列し，諸注意を聞いた後，全体での最後の号令があった。今年から，授業の開始と終わり，そして全校集会等で，「1，2，3，4，5」のタイミングで深く挨拶を行うことを徹底してきた。この場面でも，生徒は，いつものように号令の合図で，深々と整った挨拶を行うことができた。そのとき，保護者席から自然発生的に大きな拍手がわき上がった。保護者や地域の方々から，生徒のみならず教職員も大きな達成感をいただくことができた。



今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み，全学年で徹底していく。
授業はもちろん，教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

他校へのアドバイス『キーワード 自己達成感，成功体験の積み重ね』

生徒自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね，自己肯定感を高めていく。
これは「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。
ただ，個人ではなく，学校組織としてこれらの取組を進めていくためには，教職員が一つのチームとならなければその効果が望めない。生徒指導主事のリーダーシップのもと教職員間でしっかり議論して，指導に関するフロントをそろえていくことが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長氏名	西山 光人	生徒指導主事氏名	井上 健二
取組事例名		『文化祭における全校写真展』			
取組のねらい 『キーワード 感動の共有』					
文化祭のテーマである「笑喜泣感」に沿った写真を全校生徒から募集・展示することで、お互いの友情や愛情を認識するとともに、美しさに対する感性や感動する心を育てる。					
取組の具体的内容 『キーワード テーマから考える』					
<p>1 ①「笑顔にあふれる生活」②「喜びに満ちた生日々」③「泣ける河内高校」④「感動を誘う風景」をテーマとした写真を撮り、メディアを学校へ持参するかアドレスにデータを送る。</p> <p>2 生徒会執行部が生徒会 PC を使って印刷し、特設展示場で展示する。(写真のタイトルや説明のコメントを生徒に書かせたものを添える)</p> <p>3 校内選考会で優秀作品を選定し、表彰するとともに、文化祭終了後には、拡大したものを額に入れ、一定期間廊下に掲示する。</p>					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 伝える』					
<p>一番の課題は全校写真コンテストと題しながら、応募が約 6 割であったことである。周知の方法、応募期間、データの持ち込み方などの課題が残った。</p> <p>当初は、いたずらや肖像権、プライバシー侵害の問題を憂慮したが、応募された作品にそれらの問題は全くなかった。</p>					
取組の成果（効果） 『キーワード 他者理解』					
<p>花や海、夕焼けといった自然界の写真、犬や猫といった動物の写真、友達とのスナップ写真など応募された写真は様々であった。(裏面参照)</p> <p>文化祭の展示とあって、多くの生徒・来場者に作品を見てもらうことができた。そのことによる自己肯定感の高まりはもちろんであるが、他の生徒の意外な面や感性を知る良い機会になった。</p> <p>また、写真は単なる思い出の記録や記憶の補助でなく、見る者に感動や癒しを与えたり、相手に自分の気持ちを伝えたり、共有したりするコミュニケーションの媒体としての役割もある。そういう意味で今回のコンテストにおいて写真を撮る(被写体を探す)こと、見ることを通じて情操教育の一助となった。</p> <p>【生徒の感想】</p> <p>○空を見上げることが増えた。アルバイトで疲れているときに星空を見ると疲れがとれる。</p> <p>○人の写真を見て、自分と違って視点があると分かった。</p> <p>○笑顔の写真に癒された。</p> <p>○表彰されて嬉しかった。</p> <p>○自分が撮った写真が人を感動させられたいい。</p> <p>○テーマが絞られ過ぎ。もう少し自由に撮りたかった。</p>					
今後の展開 『キーワード 発展』					
<p>文章を書いたり、読んだりすることを苦手とする生徒が多い本校にとって、写真や映像は「伝える」手段、「考えさせる」手段として非常に有効であると考えている。今後は、写真を一つの教材として『一枚の写真から』と副題をつけて展開する授業や道徳教育も考えていきたい。</p>					

他校へのアドバイス『キーワード 評価と継続』

今回は優秀作品のみを表彰したが、出品した写真には生徒それぞれの思いがあるはずである。1行でもいいからコメントや講評を入れることで、生徒の自己肯定感はさらに高まると思う。

【受賞作品】

『感動を誘う風景』部門優秀賞



タイトル「夢につづく道」

コメント

透き通った青い空に未来に向かって虹が架かっている。私はこの虹のように夢に向かって進んでいきたい。

【表彰式の様子】



『笑顔にあふれる生活』部門優秀賞



タイトル「笑顔」

コメント 笑顔は世界を明るくする。

【クラス用案内文】

～全校写真展～

平成27年5月25日
総務部（生徒会）

☆ 文化祭で生徒一人一人が撮影した写真を展示します。

テーマ

- ①「笑顔あふれる生活」
- ②「喜びに満ちた日々」
- ③「泣ける！河内高校！」（河内高校に關わる写真でよくともよい）
- ④「感動を誘う風景」

※いづれかひとつのテーマに沿った写真を提出する。

☆ 撮った写真は、2L版の大きさに現像して学校へ持ってきてください。（担任へ）

☆ なお、個人で現像できない場合は次の①か②の方法でもOKです。

①撮影した写真のデータが入ったメディアを学校へ持ってくる。

②撮影した写真のデータを河内高校のアドレスへメール送信する。

アドレス：kouchi@hihoshima.s.ed.jp

件名：学年・クラス・氏名

データ名：学年・クラス・氏名

本文：なし

尚、撮影には十分注意しましょう。

☆ **必見：6月1日（月）**

※件名、データ名に忘れずに氏名を書かずに、誰の写真か分からなくするよ。

学校行事

健康安全・体育的行事

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午小学校	校長氏名	藤川 照彦	生徒指導主事氏名	大下 聡子
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『プロジェクトX 挑戦者たち 成功させよう!!組体操』 —創造, 挑戦, 協力, 最高の思い出を自分たちで—
取組のねらい『個人と集団の成長』	
<p>運動会での団体演技「組体操」への取組を、学年集団を育てる機会として活用した。1 学年 5 クラスを有する本校では、ともすると、各クラスで指導の違いや活動への温度差が生じ、児童への統一した指導が難しい点がある。学年集団を育てる中で、各クラスが切磋琢磨し、クラスに刺激を与える。それは、個人にとっても学びの場である学年の環境、クラスの環境がより改善されることになり、子どもたち個人としての学習を効果的に行うことにつながると考えた。</p> <p>本校では、毎年、6 年生が団体演技で組体操を行っている。児童は、運動会の最後に最高学年としての自分たちの姿を保護者や他学年児童に見せることを誇りにしている。「組体操」が特質上、児童にとって「自分」の体と心を意識すること。自分自身が挑戦する体験が可能であること。また、友達が挑戦する姿から友達への理解や共に息を合わせる体験が可能であること。土台になる児童は、みんなの為に「貢献」や「忍耐」が必要とされることから、「組体操」の取組により、児童個人の成長と共に他者と協力し、活動できる態度の伸長を図ることをねらいとし、この取組を行った。</p>	
取組の具体的内容『児童によるプロジェクト化』	
<p>取組期間 平成 27 年 6 月 5 日から 9 月 26 日まで</p> <p>① 6 月にプロジェクト化する意義を児童に理解させ、「心に残る運動会の演技を実行委員の行動力で成し遂げよう」と投げかけ、実行委員が中心となり、「計画」「練習」「評価」を繰り返し行った。</p> <p>② 6 月中旬に「組体操」に向けての学年集会を持った。『決起集会』と名付け、「目的のために決意を固め、行動を起こす」ことで、学年全体の結束力を高めた。実行委員が運営し、集会の中で、各クラスの 4 月から 6 月までの成長を伝え合う場を設け、自分自身やクラスを振り返るとともに、他のクラスのがんばりを知り、学び合った。その後、それぞれのクラスで、何に取り組むかを明確にした。</p> <p>③ 6 年生全員が、同じ気持ちで練習に取り組めるような「スローガン」を各クラスで考えた後、実行委員が学年で一つに決めた。児童の気持ちを高め、個人でも集団としても取組に対して意欲が継続するように廊下に掲示した。</p>	
取組の課題・創意工夫『指導の段階化』	
<p>指導方針、指導計画、指導する際の教師の態度やスタンスまで共通認識を図り、5 人の指導者がぶれない指導を行うための工夫を図った。特に、児童が課題に取り組む姿勢・態度に関して指導内容を段階的に決め、『人としての成長』『学年に求められる資質』の向上を図った。</p> <p>【第 1 段階：意欲の向上】技の出来、不出来の評価ではなく、そこに至るまでの過程を評価した。廊下にコーナーを設け、児童の頑張りを写真に取り、掲示した。写真を通して行動を価値づけ、前向きに取り組めるように支援した。</p> <p>【第 2 段階：自主性の向上】自主性を引きあげた。自主的な集合・整列。休憩時間の自主練習 朝練習も評価した。個人・パート・部分練習等、自主的に活動できるよう支援した。自分たちで解決する課題を感じ取らせ、行動に移させた。それぞれの努力や工夫を教師が紹介し価値づけた。</p> <p>【第 3 段階：粘り強さ・地道さの向上】慣れてきて、児童の気持ちが緩む時期に入る為、手抜き、ごまかし、不満で逃げる行為に対して、教員が立ちふさがり、子どもたちの心を揺さぶった。問題点や課題</p>	

を提示し、学年団として「ゆるぎない態度」で指導した。児童には、自分自身と向き合い、自分の言葉で自分の思いを言葉に出させ、共感させた。学年集会を開き、責任をもって子どもたちに現状を修正させた。実行委員を通して取り組み本来の目的やどんな気持ちで本番を迎えるか考えさせた。

【第4段階：努力したことを成果として求める】期日に間に合わせることも必要である。計画的に練習し、不足はクラスでの補充指導を行った。

【第5段階：仕上げ】運動会前日に5年生に見せ、力を出し切って演技をさせた。運動会当日、保護者や全校児童の前で「個人の成長」と6学年としての「集団の成長」を表現した。演技直前に、応援団長が中心となり、円陣を組んだ。子どもたちの掛け声が響き、最も気持ちが高まった状態で本番に臨めた。

課題としては、時間がかかることである。児童自身にとって、組体操は心と体が一体となった活動である。第5段階に至るまでには、話し合い、試行錯誤、挫折感なども経験をさせるため、子どもたちに十分な時間の確保が必要である。その分、児童自身で到達した成果と児童が実感できる。

取組の成果（効果）『人としての成長 仲間への信頼』

「組体操」の演題を「花鳥風月」とした。児童自身の成長を表現したものである。初めは幼かった花のように愛らしい子どもが鳥のように羽ばたき始め、風のごとく荒れることもあった。そして、月のように高見から、静かに落ち着いて様々なもの見て行動できるような成長を遂げていくという構成にした。児童は自分自身を表現することで、心をも表現しようとするところまで成長した。

プロジェクト化して「組体操」に児童を参画させたことで、児童が自ら課題に取り組み、目標を達成する体験をすることができた。個人としての、自主性や粘り強さの向上と共に、仲間への理解、連携・連帯意識を高めることができた。助けたり、助けられたりする体験により、友情の深まりが見られた。

【児童の作文より】「…私の中で、『この時』というのは、友達の大切さに気付けた時でした。…『自分が落とした』ということに責任を感じ、落ち込んでいた私ですが、周りの友達が助けてくれて、部屋で一人の時にも常に支え合えるような気がしました。この時、やっと、今から変わらなきゃいけないんだと実感しました。それから練習を重ね、変わった私を見てもらいたくて、本気になりました。私が本気になれたのは、友達がいたからです。」



今後の展開『プロジェクトの積み重ね』

10月の修学旅行でもプロジェクト化を図り、実行委員が6学年として旅行先でどう行動するか話し合い、クラスに提案し、実行した。旅行先でも、実行委員を中心に、主体的に行動した。3月の卒業式でもプロジェクト化を図り、実行委員が卒業式でどのような姿を保護者やお世話になった地域の方や先生に見せたいのかを話し合い、学年とクラスで取り組む。

他校へのアドバイス『プロジェクトの継続化』

毎年必ず行う行事を通して児童に「人としての成長」と「集団の一員としての成長」を促すことが可能である。プロジェクト化は児童が主体的に取り組み、意欲を継続させることが有効である。行事ごとに繰り返し行うことで、次の行事に向け、意欲を継続することができる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立壬生小学校	校長氏名	松島 尚志	生徒指導主事氏名	鈴木 久恵
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『自己指導力を高める取組～運動会、マラソン大会を通して～』

取組のねらい『自分を内省する力』

一人一人の児童が自らの課題を持ち、自己を振り返りながら学校行事（運動会やマラソン大会）へ取り組む中で、自分を内省する力を伸ばすとともに、自己指導力を高めていくことができるようにする。

取組の具体的内容『失敗を成功にする』『自分の成長をたしかめる』

【運動会】
○目標を設定し、それに対する振り返りをするためのワークシートを生徒指導部で作成し、全校統一して取組む。

(ワークシート活用の手順)

①運動会テーマ「輝け！壬生小魂～正々堂々 真向勝負～」を大きな目標として、自分はどんな運動会にしたいかを考える。
【自分の目標の設定】

②そのために自分は何を頑張るかを考える。
【具体的な行動目標の設定】

③本番までの間で、4回程度（週2回）振り返りをさせる。
【失敗を成功に】 【自分の成長】

具体的な行動目標ができたか、できなかったか、それはなぜか。その後、具体的な行動目標を変更したり、付け加えたりすることもする。

低学年については、実態に応じて「◎・○・△」などの記号を使うなどして評価させる。

④運動会が終わった後、これまでの振り返りシートを見ながら、運動会の中での自分の成長、がんばったことを作文にまとめる。
【自分の成長】



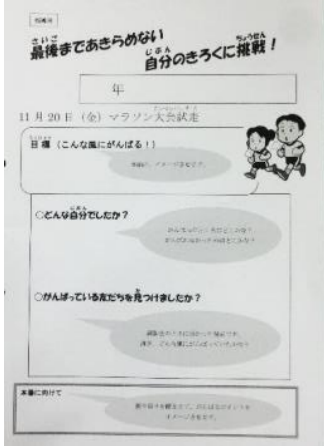
○ワークシートや行動観察を元に、児童の活動を評価し、個々の児童へ或いは学級全体へ指導・助言をする。

○運動会後、行事アンケートを実施し、評価を行う。(学校自己評価の評価項目とのリンク)

【マラソン大会】

○運動会の反省を受け、「友達との関わり」「友達のよさを見つける」ことについて意識して取り組めるよう、全職員で意識統一するとともに、児童にも目標を考える際の視点として示した。

○運動会と同様に取組途中（試走）で自己を見つめることができるようなワークシートを用意した。



マラソン大会ワークシート(指導者用)

取組の課題・創意工夫『繰り返し』

○ワークシートの工夫

- ・一枚のシートで取組の経過が見えるようにした。
- ・児童も担任も負担にならない程度のものになるように留意した。
実施後、週に2回で4回程度としていたが、記入のスペース等も考えて、3回くらいの振り返りが良いのではないかという反省もあった。



○不登校気味の児童に対する支援

- ・ワークシートをつかいながら、学校行事にどのくらい参加し、がんばれたかを毎日自分自身で確認をする活動を行った。
- ・1時間練習に参加するごとにシールを貼った。(運動会)

取組の成果(効果)『評価・支援につながる』

○児童実態の把握と評価

- ・ワークシートに書き出すことで、それぞれの児童がどこに課題を感じているのか、何をがんばろうとしているのかをつかむことができ、児童理解につながった。
- ・振り返りをする際、抽象的な言葉でしか表現していない児童に対して、「どんな場面のできたのか。(できなかったのか。)」 「目標に近づくためには、いつ、どのようなことをするのか。」など具体的な行動をイメージさせるような助言ができた。

○自分を内省する、具体的な行動目標をイメージ

「目標はだいたいできた。でも、マイナス発言をしてしまった時があった。」と自分の姿を思い返してみたり、「係の仕事がんばる。」とだけ目標としていた児童が「応援のときに低学年へ声をかけるようにする。」と次への具体的な行動目標をイメージすることができたりしていた。

○不登校気味の児童への支援

- ・できたことをシールを使って評価をしていったことで、自分の頑張りが視覚化され、また「シールを貼れた」という充実感につながった。結果、出場種目数も当初の目標よりも多くなり、「できた」という自信を持つことができた。(運動会)



今後の展開『自己表現, 自己実現』

- ・ただ行事を成功させるというのではなく、それまでの過程が大切であり、失敗もしながらも次にどうすればよいのか考え、挑戦していこうとすることに価値があることを、児童そして指導者が意識しながら取組を進めていきたい。
- ・自分の思いを言葉で表すことに課題がある。自己を振り返り、自分の中の思いを出していく機会を多くしていくことで、漠然とではなく、具体的に自分の思いを表現できる力をつけていきたい。
- ・学校行事だけでなく、係活動・委員会活動などにおいても活用していくことを検討する。

他校へのアドバイス『繰り返し』

- ・児童も初めのうちは、なかなか書けないと思います。これも繰り返し続けることで、どのように振り返ればいいのか見えてくると思われます。ポイントとしては、5W1H(いつ、どこで、なにを、どのように、どうしてできなかった、どうしてできた)を意識して考えさせると良いのではないかと考えています。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立八重小学校	校長氏名	神川 義紀	生徒指導主事氏名	吉川 孝志
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『校内駅伝大会』
-------	----------

取組のねらい『キーワード 異学年交流』

本校では、毎年、12月初め、全児童による校内マラソン大会が行われる。学校行事ではあるが、児童会（6年生）を中心に事前・事後の取組を行っている。下学年にとっては「ぼくたち、わたしたちも大きくなったら、あんな風に走りたい（がんばりたい）」というあこがれの対象を具体化させ、なりたい自分をイメージさせるのに役立ち、上学年にとっては、「自分たちがチームみんなをまとめて引っ張っていくんだ。」という責任を自覚させ、取り組ませることで、自己有用感や自己肯定感の向上につなげていく。

取組の具体的内容『キーワード 学校のリーダーとして』

縦割り活動班の「やえっこ班」を活用し、12チームを作る。全15区間を、高学年区間0.9km、中学年区間0.7km、低学年区間0.6kmに分ける。校庭のトラックを使い、そこから校外に飛び出していく形でコースが設定してあり、区間によって折り返し地点などが遠くなったりしている。校庭のトラックでは、各チームの児童が自分のチームの応援をしており、学校の外では、保護者や地域の人たちがランナーに声援を送っている。各折り返し地点やコースの要所には職員を配置し、選手の誘導や安全の確保、声かけなどを行う。「やえっこ班」は毎日の掃除にも活用しており、異学年であっても、顔と名前が一致する利点がある。チームを12に分けることで、1チーム平均2.5人6年生（30名）が入ることになる。6年生のほとんどの子がキャプテン、副キャプテンの責任を負うことになる。残り6名は、特別支援学級（情緒）2名、不登校傾向児童2名、2学期からの転入生2名であり、応援などのチームサポートの役割を担っていた。欠員が出た場合は、原則同じ区間を走る学年の児童が2回走るようになっている。

- 1区（中学年）⇒2区（高学年）⇒3区（中学年）⇒4区（低学年）⇒5区（高学年）⇒
- 6区（中学年）⇒7区（低学年）⇒8区（中学年）⇒9区（低学年）⇒10区（高学年）⇒
- 11区（中学年）⇒12区（高学年）

取組の課題・創意工夫『キーワード 本音の出し合い、安心する』

駅伝大会の本番半月前くらいに、チーム結成式を行う。主には、6年生が考えてきたチームのキャッチフレーズや目標をみんなで共有することを目的とする。もう一つ、駅伝大会に向けて自分が不安に思っていること、心配なことをその場で出し合う。その不安や心配に対し、6年生を中心とする高学年が自分の経験を語りながら、解決方法や気持ちの持ち方をアドバイスする。例えば「長い距離を走るのが苦手で遅いから、あまり駅伝大会に出たくない。」という1年生の悩みに対しては、「私も1年生のとき遅くてチームのみんなに迷惑かけたように思ったけれど、走り終わったらチームのみんなが『よくやったね』『頑張ってたね』と言ってくれてすごくうれしかった。順位じゃなくて最後まで一生懸命走ることが大切なんよ。それができればいいんじゃないか。一緒に頑張ろう。」と高学年が返してくれる。自分がチームのみんなにしてもらってうれしかったことをもとに高学年は声かけをしてくれるので、説得力がある。また、個々の不安や悩みを6年生が把握することで、チームごとの練習段階からそれに配慮した声かけが可能になってくる。チーム結成式の後には、大休憩や昼休憩を使い、たすき渡しの練習や持久走などの練習を本番まで各チームで行った。

取組の成果（効果）『キーワード 絆』

駅伝当日、欠席者0名、早退者1名、遅刻者1名（通院）、骨折などによる見学者3名。6年不登校傾向児童2名完走、運動が苦手な児童も多数完走。校庭ではチームの6年生を中心に大きな声で声援を送る。コースに立っている教職員はもちろん、沿道の保護者や地域の方々からも大きな声援をもらい、子どもたちの頑張りは最高潮に。大きな拍手とともにチームメイトに迎えられ、みんないい笑顔に。その中でも、高学年特に6年生の頑張りは素晴らしい。病気やケガで走れなかったチームメイトのために、たとえ走るのが苦手であっても2区間走る姿は、下学年の児童の目に焼きつき「自分たちも大きくなったら、あんな風に走るんだ！」という絶好のモデルケースになる。また、6年生を中心とした高学年は自分たちの頑張りに対し、下学年や教職員、地域の方からももらった声援が自己有用感や自己肯定感を高め、新たな活動への自信と意欲づけになる。走り終わった後は、チーム毎に記念撮影をし、駅伝大会を通しての反省会を行った。

今後の展開『キーワード 継承』

駅伝大会後に撮影した写真は、6年生が卒業するとき、各班のメンバーが6年生に寄せ書きをする色紙の中心に貼る。日々の掃除などでの縦割り班活動にいつそうまとまりが見られるようになる。今後は、6年生というモデルを胸に、各学年がよりよい自分、集団をめざして活動をしていく。特に、3学期の「6年生を送る会」に向けて、感謝の気持ちを込めた出し物を考え、本番では各学年が今後の学校生活における決意表明をしていく。

他校へのアドバイス『キーワード 異学年交流のパワー』

異学年交流が学校の核になっていくと、素晴らしい伝統が築き上げられていく。先輩の頑張りを見て、後輩がその姿を見て頑張る。さらにその後輩が先輩の姿を見て頑張ることを繰り返していくうちに、先輩の壁も少しずつ高くなり、さらによいものをめざして取り組んでいくようになる。このプラスの連鎖が異学年交流のパワーの源であり、物事を前向きにとらえ、一生懸命に取り組む児童の育成に役立つものだとしている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長氏名	本藤 展康	生徒指導主事氏名	利田 政美
-----	------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『栗原北小学校 運動会 ～変える, 変わる, われらの学校!～』

取組のねらい『キーワード 自律性の醸成』

・昨年度, 栗原北小学校では暴力行為等が多く生じた。そんな状況を見てきた 6 年生は, 「このままではいけない。栗原北小学校を自分たちで良い学校へ変えていきたい。」という気持ちを持っている。運動会の取組を通して, 愛校心や正義感といった前向きな気持ちを高めていくことで児童の自律性を醸成し, 児童が生き生きと生活できる落ち着いた学校づくりの実現を図っていく。

取組の具体的内容『キーワード 一体感と達成感の高揚』

<目標・ふり返し>

- ・ 6 年生全員で, 「こんな運動会をつくりたい」というめざす運動会像について話し合い, 明確にする。
- ・ 児童会を中心に運動会のテーマを決め, 児童代表委員会でその思いを全校に伝える。
- ・ 全児童が, 運動会に向けて自分が頑張る目標を明確にし, 掲示する。
- ・ 運動会後には, 自分の目標に対してのふり返しを行い, 掲示する。
- ・ 他学年への評価を行い, 掲示する。

児童の感想より

○組体操の最後は全員ピラミッド。私はとてもドキドキした。絶対に成功すると信じた。全員を信じた。前を向くといつも見えるはずの影がなかった。もしかして立っていないのか・・・その時, とても温かい拍手に包まれた。立っていると確信した。一段ずつ下りてハイタッチ。自然に涙が出てきた。仲良しの子, そうではない子, そんなことは全く関係なかった。とても達成感があり, この 5 8 人だからこそできたのだと思い, 感動した。自分達が感動するから見ている人にも感動を与えることができる。点数で表すわけでもない。表彰されるわけでもない。でも, 私自身とても感動した。(6 年児童)

○5 年生のみんなへ 運動会ではみんなと協力して準備をしてきたけど, 5 年生のみんなはとてもよくがんばってくれていたよ。みんななら安心して 6 年生を任せられるよ。僕達が卒業したらみんなが栗原北小学校をうまく引っ張って行ってね。(6 年児童)

<応援合戦>

- ・ 応援合戦を演技に位置づける。
- ・ 6 年生の応援団を中心に, 児童が応援歌や振り付けを考える。
- ・ 6 年生の応援団が中心となって, 練習計画を立て, 練習をする。
- ・ 応援合戦の中で, お互いにエール交換を行う。
- ・ 運動会当日, 地域の参観者に応援合戦の得点を入れてもらい, 勝敗を決める。

児童の感想より

○私がこの応援団で得たものは支え合い, そして感謝だ。はじめの練習では, なかなか大きな声が出なくてただらしているのが目立っていた。それが, 練習を重ねるうちに, 大きな声が出るようになり, みんなの動きがそろそろようになり, だんだんと変わってきた。「いっしょにがんばろう。」という言葉が増えた。変わっているということはみんなの支えがあったから。それは友達, 先生方, 保護者の方, いろんな方に支えてもらった。たくさんの感謝だ。この運動会を通して私が成長したことは, 自信が持てるようになったことだ。この自信を活かしてこれからもがんばっていきたい。(6 年児童)



取組の課題・創意工夫『キーワード 評価の見える化』

<創意工夫>

- ・児童みんなが全力を出し、力を合わせる運動会のイメージを児童自身が考え話し合った。
- ・運動会の練習や運動会当日の具体的な目標や評価基準を児童が話し合い設定した。
- ・他学年の児童や地域の方を含めての多角的な視点からの評価を行い、評価内容を掲示する等、評価の見える化を図った。

<課題>

- ・児童に考えさせたり練習をさせたりする時間が十分に取れなかった。
- ・児童の話し合い活動における進行や具体的な意見、討論に対する教職員の指導、サポートが十分ではなかった。

取組の成果（効果）『キーワード 感謝の心と自尊感情の醸成』

- ・運動会までの練習における6年生の一生懸命な姿や当日のリーダーの真剣な姿から、他の学年の児童にも栗原北小学校を良い学校にしていこうとする愛校心が高まってきた。
- ・児童自身が行事をつくっていこうとする意識が高まり、6年生を中心として主体的な動き、自律的な姿が見られるようになった。
- ・保護者や地域の方が温かい目で見てくださいという実感を児童が抱くことができ、感謝の心や自尊感情を育むことができた。
- ・運動会での取組を学習発表会に活かすことができ、学習発表会での6年生のメッセージを全児童で受け止め、これからの自分たちの行動について考えることができた。

今後の展開『キーワード 取組の継承』

- ・今までの取組で育まれた自尊感情や一体感・愛校心を下学年に継承するために、今まで自分達がいろいろな活動を行ってきた思いや下学年への願いを伝える場を設定する。
- ・目標設定や計画作成、活動の実施、ふり返りや評価といった過程を大切にすることで、児童の主体的な活動を推進する。

他校へのアドバイス『キーワード 児童が主体となる活動の推進』

- ・児童が持っている愛校心や正義感といった前向きな気持ちがより高まるよう、学校行事等において児童が主体的に活動できる場面を設定していく。そのような取組に加え、他の学年の児童や保護者地域の方からの温かい励ましや肯定的な評価を実感させることで、児童の自律性が醸成されるものと考えている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立吉島中学校	校長氏名	高畑 伸穂	生徒指導主事氏名	後藤 貢
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『体育祭 縦割り活動』

取組のねらい 『キーワード 共感的人間関係づくり』

体育祭に縦割り活動を取り入れ、吉中ソーラン、色別の集会・練習・応援など生徒主体の活動を沢山行うことにより、学年を超えた生徒相互の人間関係を育む。

取組の具体的内容 『キーワード 上級生から下級生に継承』

3年生のリードのもと、縦割り集団で、当日までの取り組みや当日の応援を行うことで、2年生に次年度は自分たちでやるという意識をもたせる。

今年度から始めた「吉中ソーラン」を、来年度は、上級生から下級生へと展開させ、全校生徒による吉中ソーランをつくりあげたいと考えている。



【体育祭色別集会：縦割り活動開始】



【色別練習：3年生からの指示】



【応援の様子：旗を振るのは3年生】



【色別リレー】



【色別の法被を着て踊る吉中ソーラン】



【色別の得点板】



【閉会式での成績発表】



【色別集会：体育祭の縦割り活動終了】

取組の課題・創意工夫『キーワード 事前の取り組みをしかける』

生徒達がより深く共感できるよう、事前に教師がリーダーとなる学年を中心に指導を十分に行い、生徒と教師が共に取り組む事が大切である。

また、この縦割りの取り組みを体育祭だけに終わらず、文化祭の合唱発表やその他の活動にもつなげ、上級生がリーダーとなる場面を仕組む事で継続した取り組みになるようにする。



【文化祭（合唱コンクール）の縦割り練習会の様子】

取組の成果（効果）『キーワード 所属意識の高まり』

今までの学級単位の競技・競争から、異学年の集団になったことでより仲間意識が高まりそれによって、どの生徒もより一層応援や競技を頑張るようになった。

特に3年生については、色別集会の時からリーダーシップを発揮し、当日も率先して競技を盛り上げていた。また、そんな上級生の姿を見て1・2年生は来年は「自分たちがやるぞ!」と思ったようである。



【体育祭当日の朝 競技開始前の様子】

今後の展開『キーワード 本校の伝統に』

今後は生徒主体の取り組みが体育祭のみならず、様々な活動で行えるようになることで、仲間を大切に、思いやる生徒集団の育成を図りたい。そうすることが共感的な人間関係を育む事への手立てになると考えている。

他校へのアドバイス『キーワード まずは、やってみる』

今まで行って来たことに、手を加えたり、何かを変えたりするにはエネルギーが必要となるが、現状を改善していくためには、みんなの共通認識のもと、まずは一歩を踏み出すことが重要である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木中学校	校長氏名	笹田 清浩	生徒指導主事氏名	平田 琢巳
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『縦割り活動を生かした体育祭』

取組のねらい『キーワード 生徒同士の共感的な人間関係』

- ・ 縦割り活動（異学年交流）
- ・ 上級生が下級生の手本になり、下級生のことを思いやり、下級生が上級生を尊敬しながらお互いの励みとする。

取組の具体的内容『キーワード 縦割りでの協力』

- ・ 体育祭実行委員会、各係会で運営する。
- ・ 体育祭の予行準備や前日準備を部活動に割りあてる。
- ・ 学年を 3 色の色別に分けて競技し、縦割りの意識を高め合計点で総合順位を決定する。



監察係生徒の様子



入場行進



全体集合



色別の生徒席

取組の課題・創意工夫『キーワード もっと縦割り活動を』

- ・ もっと縦割り活動を工夫して上級生の活動の場を設ける。
- ・ 縦割り合同練習の時間の確保、作戦の交流、練習を仕組む。
- ・ 団長の活躍の場を設けて生徒自ら体育祭に打ち込める体験をさせる。



黄組（1組）



青組（2組）



赤組（3組）

取組の成果（効果）『キーワード 上級生のリーダーシップ』

- ・ 「去年より今年の体育祭」を特に 3 年生は意識していた。昨年度はどうかと不安な一面も見られたが、今年度当初から「私たちが、俺たちがリードする」という意気込みが感じられた。
- ・ 体育祭では、生徒会により開会式と閉会式を運営し、団長を先頭に縦割り団での入場行進を取り入れた。



縦割り入場行進



開会式（選手宣誓）



閉会式（表彰）

今後の展開『キーワード すごい福木中にしちゃおう』

- ・ 「今年の3年生に続け、追い越せ、新たな福木中学校をつくろう。すごい学校にしちゃおう。」をスローガンに1・2年生での取組の気運を高める。
- ・ 生徒会の活性化とリーダーの育成を図る。

他校へのアドバイス『キーワード 達成感が味わえる体験を大切にした学校づくり』

- ・ 学級での係活動や生徒会を中心とした学校行事を通して、生徒同士のつながりを大切にさせ、教職員が適切な声かけをして、生徒たち自身にやり切らせることで達成感が味わえる体験をさせていきたい。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午中学校	校長氏名	渡邊 俊二	生徒指導主事氏名	藤井 麻里
取組事例名		『体育祭』			
取組のねらい 『キーワード ピア・サポート』					
「ピア・サポート」とは、異年齢が関わり相互支援の体制をつくるものである。上級生がリーダーとして下級生を導き、繋がり、互いに力を合わせる取組を具体的に作り出す。					
取組の具体的内容 『キーワード 体育祭—きずな』					
<p>① 体育祭の競技種目は学年種目と縦割りの団体種目を実施している。縦割種目は、玉入れ、ボール運び、色別リレー、山超え谷超え、がある。縦割種目の練習は時間を一斉に取り、上級生が下級生に声をかけ、合同で練習し取り組んでいる。また、放課後練習も色別（縦割り学級）で実施し、体育祭実行委員が学年を超え、協力体制をつくり進めている。</p> <p>② 全員ジャンプ（長縄）、学級全員リレーは学級全員で作戦を立てクラス全員で練習をする。</p> <p>③ 体育祭実行委員会、各係会も全学年の係が運営する。</p> <p>④ 体育祭の応援を色別に行い、同級生同士の連携、縦割りの連携をする。</p>					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 年間通して』					
体育祭だけでなく、年間を通し行事に「ピアサポート」を盛り込む。（入学式、合唱祭、体育祭、卒業式など）					
<p>① 入学式→入学を祝う装飾をする。入学式後、新入生の教室に 3 年生有志が行き学級開きを行う。新入生のエンカウンターと学校紹介をする。和やかな雰囲気を入学生や保護者が感じ、お互いを知るきっかけをつくる。</p> <p>② 合唱祭→学年交流だけでなく、縦割り交流をし、高め合う。（メッセージ交換）</p> <p>③ 体育祭→縦割りで取り組む。</p> <p>④ 卒業式→卒業式装飾を縦割りクラスが受け持ち行う。「さくらメッセージ」を贈る。巣立つ思いを後輩に残し、伝統の継承を託す。</p> <p>⑤ 小中連携→オープンスクール、小学校に行つての挨拶運動もピアサポート交流。</p>					
取組の成果（効果） 『キーワード 連帯』					
<p>① 上級性の存在が頼もしい存在、また見本となる存在となり、下級生の目標となっている。</p> <p>② 体育祭を中心に、年度初めから、生徒の交流を組織的に行っている。特に体育祭での縦割り練習や応援は、上級性の意識を高め、学校の連帯を生む効果がある。また、行事を通して、集団生活のなかでの決まりを守り他者を尊重する態度や心を育てる効果がある。</p>					
今後の展開 『キーワード 日常活動』					
行事だけでなく、継続した日常の取組につなげていく。					
他校へのアドバイス 『キーワード 始まり』					
入学式のピアサポートが新入生だけでなく保護者の安心感につながっている。新入生歓迎の取組をする中で、先輩になった自覚と緊張感が生まれ、自己肯定感が高まり、新年度の良いスタートがきれている。					



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立観音中学校	校長氏名	中山 昭彦	生徒指導主事氏名	原田 利博
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育大会への取組』

取組のねらい 『キーワード つなぐ』

- ・学級・学年・縦割り学級群をつなぐ。
- ・係分担や練習などを通して団結することにより、学級集団の向上を図る。
- ・委員会を中心に、生徒の力で運営できる力を育てる。



取組の具体的内容 『キーワード つながりをつくる』

- ・朝練習・放課後練習を行う。
リーダーが練習への全員参加を呼びかける。クラス内で上手なやり方を工夫したり、声を掛け合うことで、クラス内の団結力を高める。また、縦割り学級群の中でアドバイスを与えたりもらったりしながら、縦割りのつながりを作る。



- ・縦割り交流会の実施（合同ムカデ練習、合同ダンス練習）
上級生が下級生に指導する。上級生には自覚が、下級生にはリーダーを認める雰囲気を作る。

- ・ありがとうカード作成
同じ学級群のクラスに“ありがとうカード”を送る。運動が苦手な生徒もありがとうカードをもらうことで、“頑張ってたかった”“文化祭でも頑張ろう”という気持ちが持てるようにする。



取組の課題・創意工夫 『キーワード みんなを巻き込む』

- ・3年生からメンバー決めアドバイス、応援団員募集の呼びかけ
3年生が1・2年生の教室に出向き、競技の説明や、メンバーを決める際に工夫すべき点などを説明する。また、応援団員募集の呼びかけも行う。



- ・マナー点検の実施
着ベル点検、服装点検を行う。違反があった場合は体育大会本番の得点から減点する。リーダーや委員会生徒を中心に学級内で声かけを行う。

- ・保護者席は生徒席と同じにする。
保護者は生徒と同じテントに入ってもらい、生徒の実態を知ってもらい、生徒に声かけをしてもらう。



取組の成果（効果）『キーワード 憧れを持たせる』

◎文化祭に向けて

- ・合唱祭への取組がスムーズに行く

次は文化祭に向けて頑張ろう、文化祭ではパートリーダーを中心にクラスで頑張っていこう、文化祭でも学級群みんなで頑張ろうという雰囲気が自然に出来上がる。

- ・縦割り合唱練習の実施

パートリーダーを中心にして後輩からは感想、先輩からは感想とアドバイスをもらい、合唱練習の取組に生かす。

◎学校生活において

- ・リーダーがみんなに認められる雰囲気ができる

みんなの前に立ち、みんなを引っ張って行ってくれるリーダーを認め、憧れ、リーダーになりたいという雰囲気ができてくる。

今後の展開『キーワード バトンをつなぐ』

- ・3年生にエールを送る

入試前に、1・2年生の応援団員が縦割り交流でお世話になった3年生のクラスに行き、エールを送る。3年生からは、1・2年生にありがとうカードを送るとともに、代表者がメッセージを伝えに行く。

- ・2年生が中心となって卒業式の歌練習を行う

2年生が中心になって、在校生の合唱練習、全体合唱練習を指揮していく。

- ・授業への展開

みんなのでやることが楽しい、仲間を見捨てないという気持ちが持てるようになる。3年生からの声かけを自分たちの「関わりとつながり」に。

他校へのアドバイス『キーワード みんなをつなぐ』

- ・生徒同士、保護者と生徒が声を掛け合わざるを得ない状況を作る。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀山中学校	校長氏名	松田 裕二	生徒指導主事氏名	今橋 正智
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育祭』

取組のねらい 『キーワード 集団や社会の一員としての自覚』

体育祭を通じて、規範意識や倫理観、他人への思いやりの心など、集団や社会の一員としての自覚や豊かな人間性をはぐくむ

取組の具体的内容 『キーワード 責任感』

- ・リーダーからの服装指導
- ・生徒が主体となった当日の運営
- ・生徒会執行部を中心としたオープニングダンスの取組
- ・体育祭実行委員会を中心としたブロック練習
- ・体育祭応援団を中心としたブロック応援練習
- ・集合などの素早さを求めたり、練習時間を厳守するなど、時間を大切にする観点
- ・全員で責任を持って行う当日の後片づけ

取組の課題・創意工夫 『キーワード 全員』

- ・集団行動の苦手な生徒や服装違反の生徒数名が当日参加することができなかった。
- ・準備から運営において、一部の教員に負担がかかっている。

取組の成果（効果） 『キーワード 成長』

- ・全力で取り組むこと、妥協しないで取り組むこと、協力して取り組むこと、一つのことをみんなで取り組むことの大切さやすばらしさを生徒が体験することができた。
- ・自分の役割に責任を持ってやり切ることの大切さ、大変さを学ぶことができた。
- ・感想文を書かせ、学級通信、学年通信、学校だよりでフィードバックし、自己肯定感を高めた。

今後の展開 『キーワード 学んだことをいかす』

- ・その後、文化祭、教育研修旅行、PTCと行事が続いていき、行事だけでなく日常の中で、いかに行事で学んだことをいかしていくかということを、全校集会や学年集会などで生徒に伝えていく。
- ・行事全員参加を目標に取り組んでいく。

他校へのアドバイス 『キーワード 自主性』

生徒が先頭に立って頑張れるよう、そこまでの手助けを教員がしっかりとする。当日は生徒が主体となって動き、やり切ったという達成感を得られるようにする。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立三入中学校	校長氏名	竹下 雅祥	生徒指導主事氏名	高岡 昇生
取組事例名 『体育祭における縦割り活動』					
取組のねらい『キーワード 上級生から下級生へ』					
<p>体育祭の縦割り活動を通して、上級生・下級生が目的に向かって団結する態度を育てる。 仲間づくりを進め、学年を越えた協力体制を養う。</p>					
取組の具体的内容『キーワード 縦割りブロック活動』					
<p>3年生による競技説明や応援指導、ブロック練習についての打ち合わせ等を3ブロックに分かれて行う。 ブロック競技前の作戦会議やブロックによる応援方法を決定するなど、集団での協力体制の育成を図る。 体育祭では、3年生の各競技チーフからの作戦指示（競技の戦略）やブロック応援の指示を行う。 ブロック代表生徒の呼びかけにより、体育祭終了後に各ブロック会・ブロック練習時の反省やブロック応援の反省、今後に向けて後輩たちへの助言を行う。</p>					
取組の課題・創意工夫『キーワード 不登校対策・生徒主体』					
<p>関わりを多く持つ必要があると考える生徒のうち、活動に参加できている生徒については、一定の成果があるが、不登校傾向生徒への声かけが難しく、生徒から呼びかけても参加できていない。 教職員はほとんど携わらない中、生徒主体でブロック活動を行う。 3年生の競技チーフや学級代表者が先頭に立ってブロック生徒に指示し、各学級代表がブロック活動における成果と課題、今後に向けてについて発表することにより、生徒の主体性が育まれる。</p>					
取組の成果（効果）『キーワード 規範意識の育成』					
<p>縦割り活動を行うことにより、問題を抱えている生徒に、どの生徒からも声かけすることができ、集団としての協力体制が育つとともに、日々の学校生活においても生徒からの声かけができやすくなった。（規範意識の育成ができつつある。）</p>					
今後の展開『キーワード 生徒会を交えた対策』					
<p>縦割り活動における不登校傾向生徒への対応について、生徒会を含め検討していきたい。 また、学校内で研修し今後の取組について検討したい。</p>					
他校へのアドバイス『キーワード 縦割り活動』					
<p>本校では、体育祭以外にも、文化祭や入学式、卒業式の各種行事で、縦割り活動を行うとともに、上級生からの下級生への学習支援を行っています。 縦割り活動を行うことにより生徒の協力体制が育ち、規範意識も高まります。</p>					

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立五日市南中学校	校長氏名	藤川 要造	生徒指導主事氏名	波止元 貴士
-----	-------------	------	-------	----------	--------

取組事例名 『体育祭』

取組のねらい『キーワード つながり』

5月にある体育祭の取組を通して、学級・学年の横のつながりを深めるとともに、縦割りでの取組を通して学年を越えた生徒同士のつながりを育む。

取組の具体的内容『キーワード 縦割り交流』

今年度から縦割りチームごとに入場行進をすることにし、その練習を3年生中心に行い、学年を越えた教え合いやアドバイスができる時間を確保した。また、縦割りチームごとの得点・順位も出すようにし、入場行進も得点に加えた。学年全体種目を固定化することで、種目のポイントやアドバイスを先輩から後輩に教える姿が見られた。本番では縦割りチームで行う入場行進はもちろん、他学年の競技も一生懸命応援しており、縦割りでの交流が深まった。



取組の課題・創意工夫『キーワード 3年生をリーダーとして』

体育祭実行委員会を組織し、縦割りの取組の中心として実行委員が動いた。なかでも3年生の実行委員は、チームリーダーとして入場行進の練習を計画し、どのようにすれば行進がそろうのかを考え、チームに提案しながら実践した。どのチームも完成度の高い行進ができ、3年生のリーダーも充実感を感じていた。

課題としては次年度につなげるためにも2年生実行委員の役割を明確にし、3年生とともに練習に取り組ませることができればよかった。



取組の成果（効果）『キーワード 所属感・連帯感』

年度当初から体育祭に向けて取り組むため、学級・学年の人間関係の構築につながっている。さらに縦割りでの活動を仕組むことによって、チームへの所属感や学年を越えた連帯感を深めることができた。また、年度当初から3年生がリーダー学年としての自覚を持てるようになった。その結果、文化祭での合唱の取組においても、自発的な縦割りでの交流を図られ、3年生が後輩にアドバイスする場面が見られるようになった。



今後の展開『キーワード 定着と発展』

今年度始めた体育祭の縦割りの取組が継続的に発展していけるよう、次年度に向けた計画を検討していく必要がある。また、縦割りでの活動が定着していけるよう、文化祭だけでなく、本校で取り組んでいる無言清掃などの他の取組や、小中連携の取組にも取り組んでいきたい。

「文化祭縦割り交流会」



「無言清掃」



他校へのアドバイス『キーワード 長期的な見通し』

新たな取組が長期的に継続・発展していけるよう、行事の場面だけでなく、日々の活動にも取り組んでいけるように教員の意識をそろえ、見通しを持って取り組むことが必要だと感じる。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立新市中央中学校	校長氏名	門田 剛年	生徒指導主事氏名	油谷 大輔
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育大会』

取組のねらい 『キーワード：3つの心』

「感動・感謝・思いやりの心」を体感させる取組にすること。
生徒主導型の体育大会にすること。

取組の具体的内容 『キーワード：努力 あいさつ 協力』

- ・努力を惜しまず、最後まで懸命に取り組む生徒
練習時間を提示（リーダー会で確認）し、その限られた中でリーダーが練習計画を立てて取り組む。
- ・競技・演技の前後に大きな声であいさつができる生徒
これからお互い（チームや相手）に頑張ろうという気持ちと、自分自身にやりきる気持ちを高揚させる。
- ・規律に基づいて競技・演技に参加し、協力して取り組む生徒
ルールを守り、正々堂々と競技させる。また、チームの作戦に合わせてやりきる。



取組の課題・創意工夫 『キーワード：リーダー』

- ・リーダーの育成
3年生にとっては、前例のない（モデルがない）中での縦割りチームによる体育大会になった。しかし、3年生が引っ張らないとチームは動かないことや部活動の体験を生かすこと、得意分野を引き出すことなどを話しスタートをきった。
時間内で練習をやりきらなければならない事で、リーダーは練習方法や説明の仕方、並び方などを工夫し始める。また、入りにくい生徒への声かけを意識させた。
試行錯誤をしているところへ、教員の指導を入れながらリーダーを活躍させる。1・2年生のリーダーも実働させる。



取組の成果（効果） 『キーワード：感動・感謝・思いやりの心』

- ・解団式
閉会式後、チーム毎に別れ解団式を行った。リーダーが思いを述べる時間にした。殆どのリーダーは、「力不足だったけど、ありがとうございました。」という言葉に述べていた。本心から出る言葉に、チームの誰もが感動・感謝・思いやりの心があふれ出す瞬間になる。また、保護者の参観もある中で、感謝の言葉も出てきた。
リーダーの感想には、「まとめることの難しさ」、「やり切ったという達成感」が語られていた。1・2生のリーダーは、「3年リーダーの素晴らしさ」、「先輩の役に立てなかった」、「自分たちの時には先輩を超えたい」などの思いが多かった。リーダー以外の感想では、「楽しい体育大会だった。」、「来年は後輩たちを引っ張っていきたい」などが多かった。



感想

赤組実行委員

色別の応援合戦の練習で、リーダー同士の意見が違ったり、後輩が指示を聞いてくれないなどの苦労もありました。でも、本番ではいままでの練習とは違ってすごくいいものが出来ました。これらの体験を生かしていきたいです。



青組団長

僕は去年の組体操リーダーみたいになりたいと思って、軽い気持ちで団長になりました。予想をはるかに超える大変さでした。どうしたら上手く言えるか、上手く指示を出せるかが大変で、正直やめようと思いました。

でも、短時間でダンスを多くの方が覚えてくれてとても嬉しくなりました。その時始めて、頑張っで教えてきてよかったなと思いました。

まだまだやることが多くあり、不安はぬぐいきれませんでした。リハーサルで上手く出来たとき、不安が吹っ飛びました。それからは、自信がつきみんなの行動も早くなりました。これも嬉しかったところです。

本番では優勝することが出来て、達成感と言うより、びっくりしすぎて気が抜けてしまいました。チームみんなのおかげです。ありがとう。

今後の展開『キーワード：生徒会執行部』

・縦割りチームの活用

縦割りでの体育大会は、異学年の交流があり仲間意識が高まった。しかし、縦割りを活用することが出来ていない。新執行部員と来年度の縦割りの活用方法を考えていきたい。



他校へのアドバイス『キーワード：生徒の力』

・生徒の活躍

昨年度は、落ち着かない生徒の様子から、リーダーがなかなか思い通り動けなかった。今年度は、昨年度よりリーダーの数を増やした。それぞれの活躍の場が増えたことや3年生としての自覚が、リーダー性を発揮できた要因だと考える。



やりたい気持ちの強い生徒に任せるだけでは上手くいかないなので、必ず教師の指導を入れ活躍させることが大切だと考える。

今年度の3年生は、昨年落ち着きがなく出来ないかもしれないと思っていたが、予想以上の出来にやりきってくれた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立松永中学校	校長氏名	宇根 一成	生徒指導主事氏名	土橋 一美
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育大会』

取組のねらい 『キーワード：輝け、この瞬間』

・体育大会は集団での活動を通して、望ましい人間関係をつくり、自主的・自発的な活動を実践する態度を育てるなど、大きな教育的意義をもっている。その取組を通して集団への所属感を高めていくことをねらいとする。また、生徒も体育大会に掛ける意気込みは強く、その達成感やその瞬間はだれの記憶にも残り、感動を共有できるものとする。

取組の具体的内容 『キーワード：リーダーシップ』

・学級の団結力を示す集団演技（行進）

一年生にとっては、5月に行われる体育大会は、入学してすぐの行事ということもあり、特に、学校に適應できるようにしていく必要がある時期である。学校への帰属意識や連帯感を高めるためにも、体育大会を通してこの学校に入ってよかったという気持ちを味あわせる感動的な体験としていきたい。そのため、学級の中での人間関係づくりの活動と関連付けながら、行進についての話し合い活動をしていく。生徒の中には、なぜ行進が必要なのか、楽しくないなどの消極的な意見が必ずでてくる。そこで、学級リーダーが3年生の行進を見学することで、その団結力と意気込みを感じ、その後の行進練習に対する姿勢が変わってくる。



・縦割りでの練習

各色別チームの3年生からリーダーを置き、リーダーを中心に行進の練習計画、指導計画を立て進めていく。また、部活動の行進・リレーを取り入れ、キャプテンを中心とした練習計画を立て、後輩の指導に当たる。ユニフォームを着用し、部活の特色を出してもよい行進になるので、様々なパフォーマンスは、毎年工夫がみられる。この行進は保護者や地域の方々には好評で、日ごろの成果を発揮できる場となり、楽しみにされている。



その後、部活動対抗リレーをすることで、部活動の団結力は育まれる。

・3年生によるソーラン節

リーダー学年として引っ張ってきた体育大会の最大の山場である。自主的に練習を重ね、その結果の発表の場であり、下級生に対しても「リーダーとしてのありよう」を示すものになる。



・太鼓部による演舞

今年度太鼓部を設立し、演舞をした。この発表は、敬老会や学区文化祭等の地域活動にボランティア参加するきっかけをつくることができた。



取組の課題・創意工夫『キーワード：全員参加』

- ・一人ひとりが活躍できる場として、運動の苦手な子に対してテークオーバーゾーンをどのように活用していくのかということ、話し合い活動の中で解決させる。リレー種目だけでなく、学年種目でも全員参加のための話し合いにつながった。
- ・教職員も行進することで、生徒に先生も一丸になって体育大会に臨んでいるという姿勢を見せる。

取組の成果（効果）『キーワード：完全燃焼』

- ・自分の役割を自覚し、やりきることによって一人ひとりが達成感を味わった。
- ・3年生のリーダーシップにより、よいムードのなか取り組めた。
- ・クラスで工夫して練習することによって競技は上達すると同時に団結力も高まり、競争心も生まれた。

今後の展開『キーワード：縦割り集団』

- ・次年度、各学年が同じクラス数なら縦割りにしていく方向で進める。
- ・全員で応援できる体制づくりを考える。
- ・事後指導として、中学校生活のリーダーシップとは何かを考えさせ、日常の場面や学習発表会の取組へと継続したものにする。

他校へのアドバイス『キーワード：共同体』

- ・教師、生徒が同じ思いで体育大会に取り組む姿勢が大切である。
- ・行事を通しての成長を学校生活へ生かす取組が必要である。
- ・リーダーの育成がポイントである。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立誠之中学校	校長氏名	海野 隆博	生徒指導主事氏名	友野 禎之
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育大会 縦割りチームでの取組み』

取組のねらい 『過程を大切にする自治集団の育成』

- ・望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ・生徒（学級・学年・生徒会・部活動）の自主的、創造的な活動を育てる。
- ・縦割り集団や学級での活動を通して、集団の団結を深め、過程を大切にする自治的集団を育てる。



取組の具体的内容 『創る』

- ・縦割りの6チーム（赤・青・黄・緑・紫・オレンジ）の色別対抗とする。この縦割りは文化祭における全校合唱指導でも同じチームとなる。
- ・各チームに3年生からリーダー、副リーダーを置き、リーダーを中心に発表の内容や練習計画、実施中の指導やチーム課題の改善を行う。リーダーは、体育大会と文化祭の両方を兼ねても良い。また1年生、2年生から応援団としてクラス5～7人を選出し、1～3年生の応援団として指導をすすめる。
- ・中学生としての力強さ、素直さ、一生懸命さ、真剣さをアピールするもの考える。
- ・集団の美、力強さをアピールするものを考えていく。
- ・集団で練習し、上達できるものとする。
- ・誠之中学校に誇りの持てる応援合戦を行う。
(オリジナルの応援歌・応援型・リズムダンス等)
- ・『学級旗』を各クラスで作成する（学級委員会より提案）。
そのために、学級でデザインを考える。デザインが決定したら、体育大会の準備期間に学級旗担当生徒が練習と同時並行で取り組む。1年間、他の行事にも使用するため体育大会が終わったら、クラスへ掲示し、文化祭ではメイン会場である体育館へ全クラスの旗を掲示する。
- ・練習計画の概要は担当教員が準備するが、チームごとの細かい練習計画はリーダーを中心に各チームで計画させる。
- ・毎練習後、リーダー会を行い、本日の評価と課題の交流を行う。
その場を体育大会での規律徹底の基準になるよう指導する。
- ・各チーム（縦割りクラス）の担任や副担任は、自分のクラスを中心にしっかりと指導し、学年を越えての指導も行う。



取組の課題・創意工夫『 楽しみ、競う 』

- ・リーダーと応援団になる生徒は、クラスにおいても比較的中心になっているメンバーが多く、その流れについていけない生徒が出てきやすく、練習に参加したくない、練習のある日は欠席するなど、ネガティブな行動をとる生徒が毎年見られる。
- ・体育大会が5月の上旬ということもあり、一時的にモチベーションを上げて参加する生徒が少なくなく、「リーダーとしての意識」を継続させるための、継続的な取組が不十分であることが課題と思われる。
- ・反対に「リーダーになり、体育大会に関わりたい」という気持ちは1～2年生のころから芽生えており、成長過程における重要なモチベーションとなっている。
- ・リーダー会の中で、他チームの良い取組や課題を、全体にシェアすることで、工夫と改善を繰り返し成長する姿がみられる。
- ・本年度のスタイルになり3年が経過したが、他チームを非難するような言動は見られず、場面によっては、相互に応援したり、声を掛け合ったりする姿が見られる。



取組の成果（効果）『 生かす 』

体育大会の取組をとおして、1，2年生が「3年生のようになりたい!」「3年生に感謝」「来年も応援団に入る」など取組に対して肯定的な意見が多く、3年生もそれらの評価を聞いて、自己肯定感の高まりを感じることができる。（その後の学校行事，学校生活全般，部活動等）



今後の展開『 超える 』

より生徒の自主性を尊重した取組にしていくために、全ての学校生活に根ざした学校行事になるよう、リーダーシップや自己肯定感、有用感が育つ活動にしておく必要がある。同時に、最終的に成功体験となるように指導をすすめて行く。そのために厳しい指導、規律を守った生活、他者尊重の精神を日常的に指導していく。



他校へのアドバイス『 指導し、評価する 』

担当任せの取組になってしまう内容であるが、生徒指導面でのウェイトは高く、短期間に生徒の成長が大きく期待できる場面でもある。よって、職員全体で同じ基準で指導し、課題解決は迅速対応、成果に対してはしっかりと誉め評価することが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀中学校	校長氏名	矢野 秀樹	生徒指導主事氏名	平岩 弘文
-----	----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	阿賀中学校ソーラン ～異学年交流を通じた伝統の継承～
-------	----------------------------

取組のねらい『キーワード：伝統の継承』

- 阿賀中学校区の小中一貫教育の取組として、「伝統の継承」をテーマに、様々な場面で異学年交流の場を設定する中で、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ア 中学生は上級生の練習風景の見学から合同練習等を通して、阿賀中学校の伝統を継承していく心構えを学び、成長した自分の姿を意識させる。
- イ 1年生は上級生から学んだ事を生かして、中学生として成長した姿を小学校の児童や教職員に見せると共に、小学校6年生の指導を含め、阿賀中ソーランの演技と情熱、心構えを継承していく。

取組の具体的内容『キーワード：先輩から学ぶ』

- 1 上級生の練習風景を見学
阿賀中学校の生徒としてソーラン演舞への情熱を体感させた。
- 2 体育大会での演舞

1 学年：基本演舞である「阿賀中ソーラン」
2 年生：地元阿賀の伝説に創作を加えた「お漕ぎ船伝説」
3 年生：阿賀中独自の演舞「YAMATO魂」
総踊り：各学年の表彰後に実施（部活動終了前の15分間を使い、部活動の先輩が後輩の指導）
- 3 衣装について
阿賀漁協組合から寄贈された大漁旗や法被を全生徒が着用し踊っている。
- 4 その後の発表
 - ア 小学校の運動会での発表（中学校1年生有志が中学校の体育祭で発表した阿賀中ソーランの演技を発表）
 - イ アガデミア*文化発表会で小学生と共に発表（中学校1年生が小学生に演技指導）
 - ウ 中学校文化発表会及び地域公開での演技発表（小学校6年生が来校し見学）

※「アガデミア」阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称

取組の課題・創意工夫『キーワード：異学年との交流』

- ア 演舞指導は伝統芸能部の生徒を中心とするが、ボランティアや希望者を募ることで多くの生徒が小学生の指導（演舞だけでなく、音楽係など）に関わることができるようにしている。
- イ いろいろな活動場面で異学年交流ができるように、場の設定について意識して計画を立てた。
- ウ 課題として、小学校との時間調整（授業終了から演技指導までの時間調整）や教職員の引率等の調整と共に、参加児童数と指導に参加する生徒の人数確保があげられる。

取組の成果（効果）『キーワード：達成感』

- ア 中学生は先輩として、切れのある演技を見せることで小学生に「自分もかっこよく踊れるようになりたい」という意識の高まりをもたせた。また、丁寧な演技指導により、あこがれの存在として慕われ、自己有用感が高まった。
- イ アガデミア文化発表会では地域の方も多く来られ、緊張感の中での発表となったが、実際の衣装や道具を使い演技することで、小学生も達成感を味わわせることができた。

ウ 見本となる上級生の活動を間近で感じることができ、自分たちの課題克服への意識が高まり、どの学年も一生懸命に発表することができた。

今後の展開『キーワード：先を見据えて』

ア 中学生は3学期後半に、来年度の体育祭発表に向けて、2年生の演技「お漕ぎ船伝説」、3年生の演技「YAMATO魂」の練習に取り組む。より伝統の継承者としての意識を持って取り組ませたい。

イ 新入生（現6年生）は、今回、アガデミア発表会に出演した児童を中心として、体育大会のクラス発表に向け、4月1日の入学受付（入学通知書を提出したり、入学式の心得や作法の練習等を行った）後、ソーラン講習会の案内をし、入学式までの短い時間ではあるが、ソーラン練習の核となる生徒を育成し、学年始めのクラスづくりに結びつけている。

他校へのアドバイス『キーワード：施設の活用』

ア 本校は小学校と隣接しているため、「伝統の継承」というキーワードの核となるソーランだけでなく、行事の中で、比較的小中の交流の場を設定しやすい。

イ 年度当初の学級集団づくりとして生かすことができる。

ウ 各学年3クラスという規模であれば、体育館などの施設をより有効に活用できると思います。

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立野坂中学校	校長氏名	植松 寛雄	生徒指導主事氏名	川本 宏
-----	------------	------	-------	----------	------

取組事例名 『縦割り集団を生かした体育大会の取組』

取組のねらい 『自己有用感を育む異年齢集団の関わり』

縦割り集団を生かした自発的な活動を仕組み、生徒間の交流・理解を深め、互いに認め合う集団づくりを推進する。

取組の具体的内容 『応援リーダーを中心とした生徒の自主的な活動』



○縦割り集団結団式の運営と、結団式での集団としての意識付け



○応援合戦での縦割り集団としての結束力

取組の課題・創意工夫 『達成感の味わえる縦割り種目』

○縦割り集団で力を合わせて…

○3年生がリーダーで、組み集団を引っ張る



取組の成果（効果）『リーダーの自己有用感』



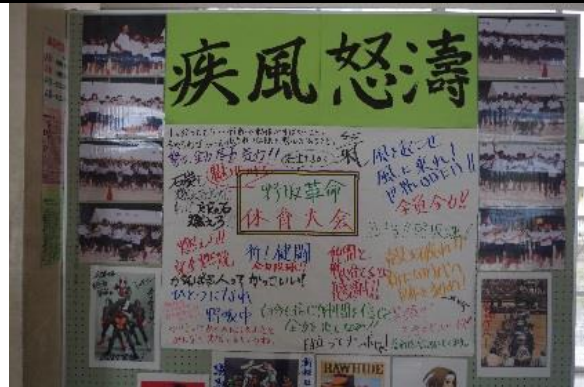
○感動的な解団式 ※特に応援団長（3年生）の自己有用感の高まり

今後の展開『その他の行事・日常生活へ』

○今後、その他の行事で、リーダーを中心とした更なる自己有用感を高めるための取組

○日常生活でも、リーダーを中心とした自発的・自治的活動を…

他校へのアドバイス『自己有用感を育てることは…』



○掲示物での肯定的評価
メッセージボードの活用

○データ（アセス、学校評価アンケート）
に基づいた、自己有用感の向上



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立廿日市中学校	校長氏名	沼本 慎二	生徒指導主事氏名	吉岡 知美
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『リーダー指導を軸にした体育祭と文化祭に向けた取組』

取組のねらい 『キーワード リーダー性の伸長』

本年度本校は耐震工事の関係で体育祭と文化祭の両方が2学期に実施となった。9月の体育祭から10月末の文化祭といった短い期間での開催となったが、反対にこの条件を生かすことを考え、体育祭でリーダーとしての動きを理解させ、文化祭で自主的に考え行動していく力をつけることをねらいとした。

取組の具体的内容 『キーワード リーダーシップとフォロアーシップ』

今年度は体育祭で、昨年度まで全学年縦割り練習をしてきたソーランをあえてクラスでの取組に変更し、各クラスのリーダーの動きを前面に押し出させる方向で指導に入った。従って前年度まで組集団の演技であったものを各クラスでの発表という形に変更した。

まずは各クラスで4～5名のソーランリーダーを立候補で選出し、夏休み中に5クラス全体のリーダー会を実施し、全体リーダー会でリーダー長を選出した後、学年練習・クラス練習・リーダー練習・全校練習といった形で計画的に取り組ませた。学年やクラスで講師を迎えて、基本の踊り方の指導を受け、一人ひとりがしっかり踊りの形を覚えきるまで何回も練習を繰り返させた。各クラスのリーダーは事前にリーダーだけのソーラン練習会を持つことで、全体の前で踊れる力量を身につけ、クラスの一人ひとりがきちんと踊れるように助言し指導する立場でクラス練習にのぞませた。

基本の形を学年やクラス練習で覚えたのち各クラスで考えた隊形練習に入り完成後、学年内での交流・全校での交流をする流れで練習させ、体育祭での演技発表につなげていった。

この取組で、リーダーとしての動きを学び、次の文化祭の合唱コンクールでのパートリーダーを体育祭のときより高い位置づけのリーダーとしての意識と動きを持ってのぞませた。ソーラン指導でリーダー的な役割をした生徒がさらに向上心を持ち、合唱のパートリーダーになることもあったが、リーダー的な動きをした生徒たちをフォローする力を高めるような場の設定を仕組むことで生徒の主体性を育てる動きを作ることができた。



取組の課題・創意工夫『キーワード ねうちづけし、効果的に伝える 』

取組の過程では、取組内容に一生懸命にがんばりきる生徒もいれば、あまり参加する意欲が無く、リーダーの指示に従わず文句を言ったりする生徒も出てくる。リーダーとして、どのような言い方で声かけをしたり、全体や個に対する評価をしていくべきなのかを教師側が指導したり気づかせたりすることが課題となってくる。思ったように周囲の生徒が動いてくれない時が生徒の成長の大きなチャンスだと捉え、彼らを支えていくことは当然として、リーダーとして周囲の生徒に訴えたいことや伝えたいことをどのように表現させたらよいかを考えさせることが重要となる。(リーダー研修会の実施) 以上のような活動で得たことを基にして、効果的な練習途中の言葉かけや、終了後の評価などで全体の士気を高めたり、細かい点を観察させ、成長が見られる部分を評価し、生徒自身の言葉で全体に伝えさせる場を確保しながら、教師による小さな成長を見逃さない評価を、リーダー・全体生徒に対して行っていくことが大切である。

取組の成果（効果）『キーワード 共感とわかちあい 』

ソーラン・合唱コンクールの取組の過程で、リーダーが頑張るという意識以上に、リーダーの中から「クラスのみんなで一緒にがんばりたい」といった言葉が出てくるようになった。リーダー同士もクラスを超えていい意味での刺激になったことはもちろん、しんどい部分を分かち合えたり、リーダーとしてどのように行動すべきか、お互いの良き相談相手になった。体育祭で学んだことが、次の文化祭での合唱コンクールへの取組意欲の喚起にもつながり、前のリーダーが現リーダーを支える雰囲気が出来たり、平素の掃除や当番活動においても協力し合っていこうとする姿が増えていった。

今後の展開『キーワード 日々の生活の中に拡げる 』

今回の取組は、クラス集団をベースとして、人前に立ってリーダー性を発揮するための場をできるだけ多くの生徒に提供することをねらいとして取り組んだが、今後は生徒会メンバーを中心に学年のリーダーとして取組むだけでなく、来年度の廿日市中学校を担っていくため全校生徒を巻き込んだ取組を企画運営していく力をつけさせなければならない。あいさつをもっと活発にさせることと無言そうじの完全実施に向けて、具体的な取組を展開していきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 子どもたちをしっかりと見つめ、いっしょに動く 』

我々は、日々、問題行動を繰り返す生徒指導に追われ、前向きにさまざまな取組に尽力してくれる生徒たちと高い目標に向かってじっくり取り組むことが困難となる状況があるかと思います。本校も以上のような状況ではありますが、苦しいときこそ、教員がベクトルをそろえて前進していくことはもちろん、生徒の力を信じて高い目標に向かって一緒に進んで行きたいものです。

生徒は教師が関わる以上に、他の生徒からの真剣な関わりがあれば、更により良い方向へ変容していくはずです。課題を抱えた生徒たちも周囲の生徒たちから認められることによって、自己有用感を高めていき、自分の本来進むべき道に向かっていけると考えます。我々はまず生徒同士が一生懸命に活動し、そして語り合える場を提供し、教員はその活動をよく観察し支援しながら、生徒一人ひとりの行動や言動を価値化し伝えていかなければと思っています。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原中学校	校長氏名	宮里 浩寧	生徒指導主事氏名	川井 和郎
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『行事における主体的な取組の場の設定』

取組のねらい 『キーワード 主体的な取組』

生徒が主体的に取り組む場を設定することにより、3年生のリーダーシップを育て、自己肯定感を高めるとともに、栗原中学校の新たな伝統を創造する。

取組の具体的内容 『キーワード 3年生のリーダーシップ』

- ・ 体育大会の縦割りチームの取組において、それぞれのチームのアピールの時間（応援合戦）を設定した。内容については各チームの3年生が中心となって考え、1・2年生に指導した。
- ・ 文化祭において、3年生が自分のクラスのアピールをする時間を新たに設定した。
- ・ オリジナルマスコットキャラクターを作成した。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 条件の設定（教員の指導）』

- 課題
- ・ 取組に向けての時間の確保
- 創意工夫
- ・ 体育大会の応援合戦の取組においては、各チームのリーダーが集合する時間を毎日設定し、担当教員とともに進捗状況を確認し合い、時間・練習・内容についての条件を統一した。
 - ・ 文化祭のアピールタイムについては、あらかじめ時間や内容についての条件を設定し、その中で各学級の担任・生徒が考え、取組を進めた。

取組の成果（効果） 『キーワード 達成感』

- ・ 体育大会の応援合戦の取組を通して、3年生が1・2年生を引っ張っていかこうとする姿が見られた。また、体育大会後の1・2年生の感想には、3年生への感謝の言葉、賞賛の言葉、自分たちが3年生になった時の見通しが書かれていた。



- ・ 文化祭でのアピールタイムでは各学級の創意工夫が見られた。これまでの学級の取組を振り返ったり、担任・クラスメート・保護者などへの感謝の気持ちを表したり、それぞれの学級のカラーを活かして表現していた。また、それらの発表を1・2年生が真剣に見ていた。



今後の展開『キーワード 生徒会のさらなる活性化』

- ・今年度の体育大会と文化祭の取組のきっかけは、生徒会執行部の強い要望であった。これらの取組を通して、生徒会執行部をはじめとする3年生はリーダーとして大きな達成感を得ることができた。これらの取組を見てきた新生徒会執行部では、行事だけでなく、日頃の生活の場面においても、主体的な取組の場を設定していく。

他校へのアドバイス『キーワード 教職員の関わり』

- ・生徒の好きなようにさせるのではなく、条件を設定して、その中で考えさせることにより、生徒自身の創意工夫が生まれると考える。
- ・生徒任せにして、教員はノータッチではなく、側面的支援（見守り、アドバイス）をし、ともに頭を悩ますことにより、信頼関係が生まれると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中中学校	校長氏名	池田 哲哉	生徒指導主事氏名	伊藤 弘
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『第1回 府中中学校運動会』

取組のねらい 『キーワード 活躍の場で、自信と誇り』

- ・生徒に活躍の場を持たせ、達成に向けて取組ませることで、やればできるという自信をつけさせる。
- ・生徒・教師・保護者が協力して取組むことで、学校への所属感や一体感を持たせる。

取組の具体的内容 『キーワード 中学生らしさ』

- ・今までのふれあい重視の小中合同運動会から、中学生らしい力強さ、規律、主体性等を重視した中学校単独の運動会に変更した。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 生徒たちが考える』

生徒実態

- ・指示待ちが多く、生徒が主体的に動くことができていない。(今まで教師主導の取組が多かった)
- ・生徒に自信がなく、正しいとわかっても周囲に流される。
- ・特定の生徒の自分勝手な行動があり、問題行動をくり返す。(3年生が2年生時に)

生徒の活動

- ・3年生の応援リーダーを中心に、練習を企画、運営していく。(応援練習、行進練習等)
- ・縦割り練習では、3年生を中心に練習を行う。
- ・学年種目では、練習する際に、クラス内のかかわりや協力を必要とする種目を設定する。
(30人31脚、全員リレー、大縄とび)
- ・係は部活ごとに分担し、キャプテンを中心に担当を考え、責任を持って取り組ませる。
- ・課題のある生徒にも役割を与え、支援をしながら取り組ませる。(応援リーダー、係の仕事など)



応援リーダーの練習



全員参加の応援合戦



練習後の応援リーダーの話

取組の成果(効果) 『キーワード 次につながる』

①生徒の達成感、学校としての一体感を実感

特に3年生は、「自分たちの代から始まった」という誇りを持つことができ、その後の活動でもリーダーシップを持って取組む姿勢を見せることができた。(部活動、文化祭など)

- ・最後のリレーの応援では、今まで出たことがない大きな声で応援している自分がいた。周りの子も同じように声を出していた。府中中が1つになっていた。(3年)
- ・応援のあとみんなで泣いて、本気でやってきてよかったと思った。(3年応援リーダー感想)
- ・リーダーの人たちは「ついてきてくれてありがとう」と言ってくれたけど、リーダーの人が本気になって教えてくれたから、自分も本気になる事ができた。だからリーダーの人への感謝の気持ちでいっぱいです。(3年)

<文化祭後の3年の感想>

- ・最高の発表ができた。後輩たちには自分たちを超えるよいものをつくってほしい。

② 1・2年生の3年生への憧れと、次年度への意欲

- ・僕たちが楽しめたのは、休憩時間を減らして一生懸命やってくれた先輩方のおかげです。
来年は自分たちが今年よりいい運動会にしたいです。（2年生徒）

③取組を通して形成された生徒と教師の良い人間関係

④生徒のがんばりの地域・保護者への発信で、学校への理解・協力体制が確立

- ・府中学園最高！！生徒全員から、盛り上げていこうという気持ちが伝わってきたので感動した。（保護者感想）

※年度初めに①～④のことができたので、その後の様々な取組がしやすくなった。

今後の展開『キーワード 生徒が考える』

①生徒が考え、生徒が作り上げる場面をさらに充実させる。

- ・応援合戦の中身の充実（コピーからオリジナルへ）
- ・生徒が種目を考える。

②小中連携

- ・小学生の参加，見学
- ・小学校の運動会への中学生の参加

他校へのアドバイス『キーワード 生徒にまかせてみる』

- ・生徒に役割を持たせ、その頑張りを評価することの積み重ねで、生徒は主体的に動き、教師の予測を大きく上回る結果をあげることができた。
教師が指導したい気持ちを抑えて、生徒にまかせ、生徒の活動をしっかりと支援する体制づくりが必要である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立沼南高等学校	校長氏名	山垣内 俊行	生徒指導主事氏名	櫻田 隆紀
-----	------------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『平成 27 年度 沼南祭・体育祭』

取組のねらい『キーワード 自己肯定感の醸成・挨拶の徹底』

「沼南生」としての自覚を持ち、集団の中でのルールを守り、規律ある集団行動や他者を尊重する態度を育てる。さわやかに挨拶できる沼南高校生となる。

取組の具体的内容『キーワード 自己存在感を確認する』

「とり戻せ！！プライド」

6月の沼南祭（文化祭）では、家政科は、3年間の集大成としてファッションショーを実施した。ファッションショーは家政科の下級生が憧れる。そして、目標とプライドが引き継がれていく。園芸デザイン科3年生は4つの研究班がそれぞれステージ発表を行った。普通科は、1年生が「桃太郎」の劇を英語で発表した。普通科3年生がとても羨ましく見ていた。小・中学校の時に経験させてもらえなかった事にチャレンジさせ、鍛え、達成感を味わわせ、力と自信をつけさせる指導を行った。



10月の体育祭は、昨年までは、生徒会行事であったものを、今年度から学校行事として位置づけ、教職員ともども学校全体で取り組んできた。生徒の日々の成長した姿、そして一生懸命がんばる姿を、保護者や地域の皆さんの是非見ていただきたいという思いで取り組んできた。そうした取り組みのなか、生徒は各競技で一生懸命体を動かし、持てる力を十分に発揮した。入場行進やソーラン節は、昨年度からの行事であるが、今年はさらに進化して充実したものになった。これから本校の体育祭の伝統となっていくものと確信している。



取組の課題・創意工夫『キーワード 声を出して自己アピールする，他者を承認する』

最初に「集合・整列」「行進」「挨拶」で声を出す。
各集会や授業の始まりで，心を一つにした挨拶を行っていく。

取組の成果（効果）『キーワード 自己の所属の確認と他者の承認』

体育祭で印象に残る場面があった。午前の競技が終わり，全校生徒がグラウンドに整列し，諸注意を聞いた後，全体での最後の号令があった。今年から，授業の開始と終わり，そして全校集会等で，「1，2，3，4，5」のタイミングで深く挨拶を行うことを徹底してきた。この場面でも，生徒は，いつものように号令の合図で，深々と整った挨拶を行うことができた。そのとき，保護者席から自然発生的に大きな拍手がわき上がった。保護者や地域の方々から，生徒のみならず教職員も大きな達成感をいただくことができた。



今後の展開『キーワード 学習規律（授業の号令）の定着』

授業での号令を各学年で取り組み，全学年で徹底していく。
授業はもちろん，教育活動のあらゆる場面でしっかりした号令・挨拶をさらに定着させていく。

他校へのアドバイス『キーワード 自己達成感，成功体験の積み重ね』

生徒自らが表現する場を意図的につくっていくことで成功体験を積み重ね，自己肯定感を高めていく。
これは「学びの変革」の取組が目指すところと同じである。
ただ，個人ではなく，学校組織としてこれらの取組を進めていくためには，教職員が一つのチームとならなければその効果が望めない。生徒指導主事のリーダーシップのもと教職員間でしっかり議論して，指導に関するフロントをそろえていくことが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立府中東高等学校	校長氏名	八幡 茂見	生徒指導主事氏名	曾我 和宏
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『体育大会の実施』

取組のねらい『キーワード 生徒の自己肯定感・帰属意識を育てる』

本校の生徒の中には、学校に対する帰属意識や自己肯定感が乏しく、充実した学校生活を送れない生徒がいる。そのため体育大会の実施を通して「府中東高校の生徒でよかった」と言える生徒や「やればできる」という感情を持った生徒を育てていきたい。

取組の具体的内容『キーワード 計画的に生徒に活躍の場を与える』

- 全校集会を計画的に行い、「府中東の再生の第一歩」という体育大会の意義を、生徒に繰り返し訴えた。
- 実施種目をアンケートで選択させ、生徒の意見を取り入れて決定した。
- 集団行動に参加する生徒を募り、意欲のある生徒に活躍の場を与えた。
- 生徒会執行部の生徒には準備係を、都市システム科の生徒には測量技術を利用したトラックの作成を、インテリア科の生徒には入退場門や得点掲示板の作成を、そして運動部の生徒には審判や招集係を依頼するなど、多くの生徒に活躍の場を与えた。
- 学年対抗、クラス対抗の種目をつくり、各応援団を募集した。
- 個人の運動能力で勝敗のつく徒競走などの種目よりも、大縄跳びやムカデ競争など、集団での種目や、リレーなどを多く取り入れた。
- 体育の授業の中で、繰り返し指導を行い、予行演習は二日に分けて実施した。



取組の課題・創意工夫『キーワード 意欲を高める』

- 集団行動の生徒の頑張りに目を向けさせ、「頑張っている姿が美しい」と生徒に思わせる。
- 「クラス鉢巻を作りたい」とか「クラス旗を作りたい」という生徒から出てきた積極的な意見は、どんどん取り入れ、やる気を引き出させた。



取組の成果（効果）『キーワード 感動した体育大会』

○ 集団行動が行われている時、全生徒が、教員からの指示を受けることなく自発的にクラステントに入り、真剣に見入り、自然に拍手が生まれていた。

○ 普段見ることのできない生徒の頑張る姿や、明るく元気な姿、爽やかな笑顔を見ることができた。

○ 実施後の生徒アンケートでは、約85%の生徒が「感動した」と答え、94%の生徒が「体育大会を実施してよかった」と答え、充実してよかったと評価している。また、「来年以降も実施したい」とか「新たな種目を考え、取り入れていきたい」という積極的な意見が多く出た。



今後の展開『キーワード つなげていくこと』

本校の生徒は、行事に対して盛り上げて楽しいものにしていくという意識を持っている生徒は多いが、行事の盛り上がりや、翌日以降の学校生活につなげたり、自己肯定感を持ち続けたりすることにつなげられない生徒がいる。何もないところから始めた本校の第一回体育大会の成功体験を、生徒だけでなく教職員も肯定的にとらえながら次の一歩につなげていくことが大切である。

他校へのアドバイス『キーワード 生徒の力を持つ力を信じる』

2年前の生徒会執行部から「体育大会を実施したい」という声は上がっていた。しかし本校の生徒状況から当面はその声を受け入れることができないと考える教職員が多かった。今年度も不安はあったが、実際に行ってみればほとんどは杞憂であった。生徒を信じて行事を計画的に行えば、生徒は持っている力と可能性を発揮してくれることを改めて認識した。生徒とともに教職員集団が組織として行事を創りあげれば、必ず生徒の輝く姿が見られると思う。

学校行事

旅行・集团宿泊の行事

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立己斐小学校	校長氏名	竹川 智子	生徒指導主事氏名	石井 徹
取組事例名		『野外活動』			
取組のねらい 『キーワード「責任」「協力」「奉仕』』					
<p>○集団生活を通して、互いに思いやったり、協力し助け合ったりするなどの、よりよい人間関係を築く。</p> <p>○集団生活を通して、自主的自治的な態度を養う。</p>					
取組の具体的内容 『キーワード チャレンジ』					
<p>○野外活動実行委員を設け、準備の段階から自主的に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スローガンの作成 ・しおりの作成 ・班長会の企画・運営 ・式の司会進行、あいさつ <p>○一人一人に役割を与え、責任をもって取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長（班をまとめる、点呼、健康管理、連絡の伝達） ・生活（持ち物の管理、掃除や風呂の点検、布団やシーツの管理） ・食事（食堂の準備・片付け、水筒の管理） 					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 適切な支援』					
<p>○子どもに任せるところを基本にしたが、それでも教師が主導になるところが多かった。</p> <p>→全てではないが、プログラムの企画段階から運営を子どもに任せ、子どもたち自身に創意工夫させながら、教師の支援が必要な折りに、支援に回ることも考えられた。</p>					
取組の成果（効果） 『キーワード 自己肯定感』					
<p>○子どもたちが自主的に意欲をもって活動することができた。</p> <p>○子どもたちが自信をつけ、野外活動に限らず様々な場面で委員や責任者に積極的に立候補するようになった。</p> <p>○学年や学級全体に、自主的に取り組もうとする雰囲気ができてきた。</p>					
今後の展開 『キーワード 自主・自立』					
<p>○様々な行事やイベントで、企画・運営にチャレンジさせ、達成感を味わわせることを通して、子どもの自己肯定感を養う。</p> <p>○全員で協力できたことを認め、お互いを助け合っていく風土を育てる。</p> <p>○最高学年としての自覚をもたせる。</p>					
他校へのアドバイス 『キーワード 自主性を育てる』					
<p>○実行委員会などを取り入れて、企画・運営に関わらせることで、「自分たちがやった」という思いをもたせ、自信をつけさせる。</p> <p>○何も仕事がない児童がいないよう、一人一人が役割をもつようにする。</p>					



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀山小学校	校長氏名	宮本 眞弥子	生徒指導主事氏名	矢村 千尋
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名	3年生『仲良し遠足を、成功させよう!』				
取組のねらい『キーワード 助け合い』	3年生は、発達段階として、集団を意識するようになる。この段階の年度初めで、クラス替えして関係づくりができていない状況の中、友達同士の関わりを持たせることをねらいとした。具体的には、友達の力になることができたり、もっと仲良くなることができたりする姿を目指す。				
取組の具体的内容『キーワード 助け合い』	<p>遠足で、もっと友達と仲良くできることを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが仲良く遠足に行くために大切なこと ・もっとみんなが仲良くなるために、自分ができること <p>について、お弁当の食べ方や遊び方、歩き方などを具体的に考え、話し合う。例えば、お弁当の食べ方について、最初は仲良し同士で食べるという意見が出たが、それでは仲良くならないので、クラスの全員で大きな二重の円を作り、男女混合で座るという方法を考え実行した。</p>				
取組の課題・創意工夫『キーワード 問題解決』	遊ぶ時間の最初は、助け合うことを意識して活動できていたが、時間が経つと自分たちだけでは助け合うことが難しくなり教員がサポートする場面もあった。助け合わずに自分本位で行動する場面が出てくるなど様々な場面を想定し、そのような場合にどう対応するかまで考えておく必要がある。助け合う力を育てるとともに問題解決能力を育てることも同時に行っていかなければならない。				
取組の成果（効果）『キーワード 意識・意欲UP』	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで関わったことのなかった児童と積極的に仲良くなろうとする意識が見られたり、男女関係なく関わりを持とうとする姿が見られたりした。 ・これから1年間行う1年生との関わり活動の意欲づけになった。 				
今後の展開『キーワード 助け合いを広げよう』	<p>1・3年生の大毛寺公園・両延神社の季節ごとの探検のサポート活動へとつなげる。1年生のことを思いながら活動できるようにする。</p>				
他校へのアドバイス『キーワード ピア・サポート』	ピア・サポートで、「誰かのために何かできれば」という視点で活動することにより、助け合う力を育てることができる。さらに、このことが自己肯定感や自己有用感を高めることにもつながる。				



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中中央小学校	校長氏名	埴田 武浩	生徒指導主事氏名	小川 博正
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『「山・海・島」体験活動』

取組のねらい 『高学年としての自覚の育成』

- 自然の中で生活することにより、情操を養い、自然を味わい、自然を愛する心を育てる。
- 自分達で考え、計画・実践する活動を通して、自主的な態度を育てる。
- 寝食を共にする生活を通して、思いやりの大切さや望ましい集団行動の在り方を学ばせ、児童相互、児童と教師の人間的なふれあいを深める。

取組の具体的内容 『努力・見通し・切りかえ』

- 学級活動
班活動や当番活動などで仕事を分担させ、リーダーを決めて各自責任をもたせた。
- 道徳「心のレシーブ」2-(3)信頼友情，男女の協力
やる気のない友達の態度に接した時の主人公の気持ちやその後の友達のがんばりに気付き，心をひとつにしてまとまっていく様子を考えた。
- ローボート
役割分担し，乗船—出発—漕艇—下船の段取りについて細かく打ち合わせて練習を繰り返した。
- 朝の集い，班長会，食事等 5 分前集合を徹底させた。

取組の工夫 『自立心と主体性』

- 学級活動
実行委員会を立ち上げ，実行委員を中心に活動を進めた。
- 道徳
協力して活動するためには，どんな心がけが必要かについて自分の考えをワークシートに書かせ，グループトークで交流した。
- ローボート
1 回目の経験が生かせるよう，2 回目の活動を入れた。

取組の成果（効果） 『協力と感謝』

- 相手の気持ちになって考えられるようになり，協力してやり遂げることのよさを学ぶことができた。
- 試行錯誤しながら成功体験を重ねることで自己肯定感が持てるようになってきた。
- 支えてくれている家族の存在に感謝の気持ちを持ち，自ら進んで身の回りのことが出来るようになった。

今後の展開 『学びを生かす』

- 体験活動での経験がその場だけのものになってしまうことがあり，学校生活にうまく生かせないことがあった（日にちがたつにつれ，時間に対してルーズな面が見られるなど）。そのため，体験活動を通して成長した面と課題の面を明らかにし，それらをもとに体験活動の見直しを図る。その際「課題発見・解決学習」をイメージした内容を設定する。

他校へのアドバイス 『実態把握』

- 生活体験が乏しい児童が多く，児童の実態把握をした上で体験活動を設定する。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長氏名	藤田 覚治	生徒指導主事氏名	林谷 哲幸
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『ファンファーレ合宿』

取組のねらい 『キーワード：連帯感・主体性・社会性』

家を離れての3泊4日の宿泊体験活動を通して、生活全般にわたって自立する力を育むことをねらいとした。

また、様々な体験活動において個々の役割を明確にし、事前準備をすることを通して、責任感を育てることもねらいとした。

さらに、宿泊先の方や指導に来てくださる方々と積極的にふれ合える場を設定することにより、コミュニケーション能力を向上させ、社会生活を営む上での人と関わる力を育てることもねらいとした。



取組の具体的内容 『キーワード：役割・責任』

5・6年生全員がファンファーレ・バンドの宿泊体験活動を行った。パートごとに6つの班に分け、大学生ボランティアの方々に教わり、パートリーダーを中心としたグループ活動のよさを取り入れながらパート練習をしたり、全体練習をしたりした。飯盒炊爨では、協力してカレーライスやサラダ作りをした。水生生物調査や川遊び等を計画の中に組み込み、様々な体験活動を行った。また、利用させていただいた施設を清掃する活動等を通して感謝の気持ちをもたせた。さらに、自己存在感をもたせる為、一人一人に役割や責任をもたせ、振り返る活動も取り入れた。



取組の課題・創意工夫 『キーワード：明確化』

○練習を重ねることで自分たちの伸びを実感させる為、評価を細かく行った。また、最終日にコンサートを開き、保護者、地域の方へ演奏を披露するというゴールを明確にすることで意欲の向上を図った。

○しおりを工夫し、自分の役割を明確にさせるとともに、全体像を明らかにすることで主体的な行動へとつなげていった。

○自己決定する場を主体的に組み込むとともに、お互い演奏について助言し合うことを取り入れ、共感的な人間関係をより深めるようにした。



取組の成果（効果）『キーワード共感的人間関係の育成』

3泊4日の宿泊体験活動を通して、活動予定表を自分たちで確認しながら、次の行動は何をするのかを考えて5分前行動をすることができた。

一人一人に役割を与え、自分の役割を果たすために準備をし、責任をもって最後までやり切らせる活動をさせた。そのことを小グループや全体の場で認めていくことで、自信をもって活動することができた。



大学生ボランティアの方との交流を深めていく中で、自分や相手を大切にしたい行動や自己表現ができるようになってきた。

最後に演奏会を行うという明確なゴールに向けて、一人一人が目標をもって取り組んだ。細かく評価をしていくことで、自分たちの成長を感じることができ、自己有用感につながっていた。

友達と寝食を共にする中で、お互いのよさに気づくことができた。また、お互いに声をかけ合い、助け合いながら活動していく中で、共に活動する

楽しさや成就感を味わわせることができた。

児童の日記には、「合宿を通して、一人でできるようになったことが増えたことに気づくことができた。」「合宿で協力してできたので、他の活動でも生かしていきたい。」「5年生と6年生の絆が深まった。」など、肯定的にとらえることができていた。

今後の展開『キーワード：褒める』

学級活動や日々の授業の中でも、自ら考え、主体的に行動する力を育てる。また、そういった場面が見られた際には、適切な評価を行う。



他校へのアドバイス『キーワード：保護者の理解』

保護者の理解や協力がないと宿泊体験活動を行うことは、とても難しい。保護者からは、自分のためだけでなく、自分も含めたみんなのために頑張る・協力する・努力する・時には我慢するということが身につけてきている・責任感が身についた等の肯定的な評価が多く見られた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高須小学校	校長氏名	上野 克典	生徒指導主事氏名	正本 武士
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『「山・海・島」体験活動』
-------	---------------

取組のねらい『キーワード ～自立と自律～』

- 広島県立福山少年自然の家での野外生活を行う中で自然に親しむとともに、様々な体験を通して、主体性や計画性を身に付ける。
- 共同生活を通して、集団の規律・協力の大切さを知り、仲間意識を高める。
- 様々な体験をすることによって、小学校生活の楽しい思い出づくりをする。

取組の具体的内容『キーワード ～夢キラ7（セブン）～』

★個人として

- 1 自分で考え、判断し、行動できる主体性を身に付けよう！
- 2 見通しを持って行動できる計画性を身に付けよう！
- 3 最後までやり切る忍耐力や行動力を身に付けよう！

★集団の一人として

- 4 集団活動でのルールを守る力を身に付けよう！
- 5 集団で活動する協力する力を身に付けよう！
- 6 友達の良さを見つける力を身に付けよう！
- 7 あらゆる「人・もの・こと」に感謝する心を身に付けよう！そして、感謝の気持ちを表現できる力を身に付けよう！

取組の課題・創意工夫『キーワード ～主体性と協調性、そして感謝する心～』

- ・個人及び集団の目標を児童と共に話し合い、夢キラ7（セブン）として設定した。
- ・「リーダー、サブリーダー、食事、広報・衛生、アクティビティ」の5つの係を設定し、どの係に属するのかを自分たちで選択させ、児童の意欲を高めた。また、選択した係ごとに分かれての事前指導を行った。（自分の係以外の仕事が他の人には分からない状態にし、自分の係に責任を持つように仕向けた）その後、班編制を行うことで、各自の役割が明確となり、自覚と責任を持って活動できるように仕組んだ。
- ・星空観察の時間を設け、普段は味わえないシチュエーションの中で仲間と活動をする取組を行った。
- ・SAF（サーフ）プログラムを取り入れ、①自ら考え、物事に進んで取り組む力、②自分の考えを伝え、他者の意見を受け止めながら意思疎通を図る力、③困難だと思ふ課題に対して果敢に挑戦する力、④自他の考え方の違いを認め、仲間と力を合わせ取り組む力の育成を図った。
- ・事前に家族の方に内緒で手紙を書いて頂き、それを読む場を設けた。離れているからこそ分かる家族のありがたさに気付かせ、手紙を返す活動を取り入れた。

取組の成果（効果）『キーワード ～振り返りで成長に気付かせる～』

- 野外炊さんを2回実施したことで、児童は見通しを持つことができ、児童の主体性や計画性、協調性など、多くの力が養えた。児童間の絆が深まったと思われる。振り返りの時にも児童は2回目の野外炊さんでは主体的に動くことができたという記述が多かった。
- 星空観察の時間を設け、普段は味わえないシチュエーションの中で活動をしたことで、仲間同士のつながりができ、自然の素晴らしさを共有することができた。
- 「家族からの手紙」を読ませたことで、改めて家族の大切さ、尊さに気付くことができた。また、今ある自分は当たり前前に生きているのではなく、多くの人に支えられて生きていることにも気付くことができ、あらゆることに対して感謝の気持ちを表す児童が増えた。
- 振り返りの時間を充実させたことにより、翌日にめあてを持って意欲的に活動に取り組むことができた。また、自分自身の成長も振り返ることができた。

今後の展開『キーワード ～見通しと準備～』

- 児童を主体的に動かすには、児童がしっかりと見通しを持つことができなくてはならない。そのためには教師側の準備を早くし、児童への事前指導をしっかりと行っておかなくてはならない。スケジュール表を元に、なるべく児童が考えて行動し、教師は口をはさまなくて良いようにしていく必要がある。

他校へのアドバイス『キーワード ～打ち合わせを入念に～』

- 学校側の思いと施設の方の思いが違う場面があり、少し困惑したことがあった。入念に打ち合わせを行い、つけたい力を明確にした上で学校側の思いを伝え、話し合っていく必要がある。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立八次小学校	校長氏名	名越 達朗	生徒指導主事氏名	末丸 千早
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『野外活動』

取組のねらい『キーワード 自主・協力・感謝』

- ・集団行動を通して、集団の一員としての自主・協力の態度を育てる。
- ・寝食を共にすることにより、お互いの心のつながりを深め、助け合いを通して感謝の感情を育む。

取組の具体的内容『キーワード 生徒指導の三機能』

- グループ活動
- ・オリエンテーション (自己決定)
 - ・沢登り (自己存在感) (共感的人間関係)
 - ・夕食準備 夕食 片付け (自己存在感) (共感的人間関係)
 - ・キャンプファイヤー (自己存在感) (共感的人間関係)
 - ・カヌー体験 (自己存在感) (共感的人間関係)



沢登りのスタート



急な岩場も登ります。



滝壺がゴール



作業分担して夕食づくり



カレーとサラダの完成



キャンプファイヤーのスタンツ



カヌーに乗る前の準備・練習が大切



ドキドキのチャレンジ



あっという間に上達

取組の課題・創意工夫『キーワード 体験活動による自己指導能力の育成』

- 事前指導…グループの目標を設定し、一人一人が目標を自覚しながら、自ら働きかける意欲づくり
道徳の時間「遠足の子ども達 1-③」
学級会 「グループ・ワーク・トレーニング」
学級会 目標設定・役割分担・スタンプ準備
- 自主的・自発的な体験活動（夕食作り・キャンプファイヤースタンプ）
児童自らが計画を立てて役割分担をし、お互いを尊重し合う中で信頼関係を高め、人間関係を深めることができる活動内容を仕組む。
- アドベンチャー体験活動（沢登り・カヌー）
冒険的要素を備えた活動を取り入れ、挑戦の意欲や連帯感の中での達成感を高める。

取組の成果（効果）『キーワード 豊かな人間関係と自己指導能力』

- 事前指導
野外活動の間、常に目標を意識させ、自己評価・グループでの評価をしながら取り組ませることができた。自分たちで決めた目標を達成させることによって（自己決定）、目標達成の喜びを味わわせることができた。
- 自主的・自発的な体験活動
 - ・一人一人が役割を分担し協力して取り組むことによって、「自己存在感」を感じることができた。
 - ・協力しながら目標を達成していく活動を繰り返すことにより、集団の一員として活動する楽しさを味わい、児童相互の「共感的人間関係」が育った。
- アドベンチャー体験活動
 - ・冒険的な活動を取り入れ、協力して目標を成し遂げることによって、他者を認める思いやりの心を持つことができた。

今後の展開『キーワード つながり、広がり、校風へ』

- 総合的な学習の時間「保育所交流」・・・グループでの保育所での活動の企画・実践へつなげていく。
- 「鼓笛」・・・本校の伝統となっている鼓笛を継ぎ、5年生の協力でメロディーを作り上げることによって、伝統を受け継いでいく。



運動会の鼓笛



交通安全パレード

他校へのアドバイス『キーワード 待つ姿勢』

- 児童の自己指導能力を育成するためには、指導者の「待つ」という姿勢が重要

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立温品中学校	校長氏名	内田 智久	生徒指導主事氏名	土師 正伸
-----	-----------	------	-------	----------	-------

取組事例名 『生徒指導の三機能を生かした修学旅行の取組』

取組のねらい 『キーワード 「自律心と社会性」』

自然とのふれあいや集団活動を通して、集団の一員としての自覚を持ち、仲間と協力し、責任ある行動ができるよう、規律やマナー・礼儀の基本を学び、人間形成の場のひとつとして実施する。

取組の具体的内容 『キーワード 「自主性と集団行動」』

<事前>

- 1 保護者説明会で、夏季休業中に家庭での仕事や躰等のお願いとしてリストを配付し、保護者と連携してマナーの向上に取り組む。
- 2 実行委員会で、必要な取組の内容を考え、自ら立案し、各集会活動や各点検活動、各クラスでの取組を実行委員が運営する。
- 3 自分の現在の課題を考え、どう取り組んでいくかを各クラスで交流する。
- 4 自己診断カードで、夏休み中の取組の評価をし、これからの課題は何かを考える。
- 5 実行委員会で、できていることと課題を持ち寄り、今後の取組を検討する。
- 6 実行委員が、集会で成果と課題を発表し、今後の課題克服のための取組を呼びかける。
- 7 実行委員会で、修学旅行前1週間の取組について、各民泊グループで評価する。



<事後>

- 1 民泊体験でできたこと、できなかったことを考え、グループで交流する。
 - ・ 成功体験を元に、自己肯定感、自己決定力を高めるとともに、反省点を考えさせることによって、課題発見の力をもつけさせる。
- 2 民泊家庭へのお礼の手紙とパンフレットを作成する。
 - ・ 自分の言葉で感謝の気持ちを伝えられるよう、グループで意見交流させ、共感的人間関係の育成を図る。



取組の課題・創意工夫 『キーワード 「自立と協働」 』

- 1 できるだけ実行委員に任せ、取組前に教員は口を出さないようにする。
- 2 実行委員から出てきた案を、教員と共に検討する。
- 3 実行委員が取組の企画・運営をすることで、生徒自らが行事を進めていくという自主性と協働意識を持たせる。
- 4 自己評価で「できたこと」を評価し、グループで課題を見つけさせ、新たな取組を考えさせる。

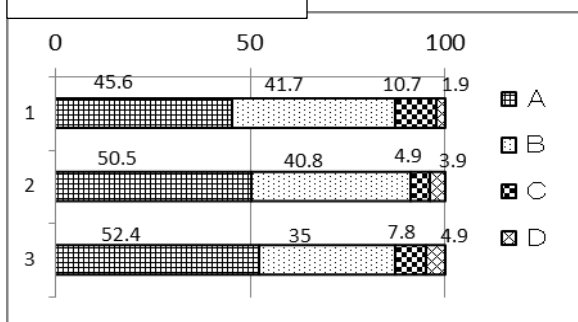
取組の成果（効果）『キーワード 「自己肯定感の向上」』

- ・ 民泊家庭での生活で、コミュニケーションの大切さを学び、積極的に仕事に関わり褒められたことで、自己肯定感や自己決定力を高める生徒が出てきており、そのような生徒が学年のリーダー的な存在となりつつある。
- ・ 自ら仕事をしたことが、各民泊家庭で評価されたことにより、「向上心」を持つようになった生徒が多くなった。
- ・ 授業をしっかりと受けよう、学校生活をしっかりと送ろうという意識が見られ、生徒同士の声かけや集団行動時の自制心や規律を守ろうという姿勢が見られるようになった。

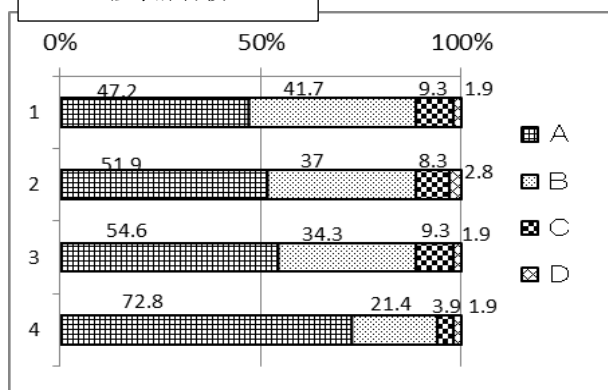
質問1 ルールを意識して活動できた
 質問2 グループでは積極的に活動できた
 質問3 自分の役割を自覚して活動できた
 質問4 修学旅行を通して（取組も含む）、自分は成長できたと思う

A：とてもあてはまる
 B：だいたいあてはまる
 C：あまりあてはまらない
 D：ぜんぜんあてはまらない

<修学旅行1週間前>



<修学旅行後>



今後の展開『キーワード 「協同学習」』

- ・ 修学旅行の取組を生かし、生徒自らが学習に取り組む姿勢を養う。
- ・ コミュニケーション能力と積極的な学習への姿勢を育成するために、各教科で協同学習を取り入れる。

他校へのアドバイス『キーワード 「教員-生徒の協働」』

- ・ 生徒に立案、運営をさせるには時間がかかることですが、1年時から「将来のリーダー育成」を考え、様々な行事で発案させる習慣をつけさせておくことが大切です。「1年生だからまだできない」ではなく、子どもの自由な発想を促し、その中でルール等の規範意識を身につけさせることが大切です。
- ・ 生徒が何かの取組をする際には、初めからルールのことを細々と話したり、強く制約をかけないこと。生徒は、やっていいのかわからないまま、教員に聞きに来ますが、このとき、「これはダメ、あれはダメ」と禁止するのではなく、まずは「企画させてみて、一緒に考える」という手順をとると、生徒は自然とルールを覚えていきます。
- ・ 生徒が考えて持ってきたものを、生徒と一緒に考え、「できること」と「できないこと」をしっかりと教えていきます。そうすることによって、様々なルールの中で生徒が自ら考え、計画していく力がつきます。
- ・ 生徒の自由な発想の中から、それが一つでも認められれば、生徒に「やる気」が生まれ、その後も自ら考えようという習慣がついていきます。
- ・ 要は、「認めること」「認められること」が自己存在感、自己肯定感に繋がっていき、将来のリーダーとしての資質を身につけるようになります。

学校名	広島市立己斐中学校	校長氏名	藤岡 博幸	生徒指導主事氏名	上田 岳
-----	-----------	------	-------	----------	------

取組事例名 『野外活動（1年生）』

取組のねらい 『キーワード 集団・自然との関わり』

- ・野外活動での関わり合いのある体験を通して、生徒相互の友情や信頼感を育てるとともに、集団意識を高め、探求活動に主体的・創造的に取り組む力を育てる。
- ・野外での生活を通して、自然とふれあい、自然の恵みや自然との関わりを学び、主体的な行動力や自主性を養う。

取組の具体的内容 『キーワード ルール・責任・協力』

【カッター研修】



【野外炊飯】



【キャンプファイヤー】



- ・他に、カプラ研修やウォークラリー、学級レクなど、集団での活動を通して生徒の主体性や自治を育む取組を実施している。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 生徒主体の活動』

【課題】

- ・取組の日程調整等、もう少しゆとりがあればなお良かった。

【創意工夫】

- ・事前の取組から、代議員を中心とした生徒主体の活動を行うとともに、係活動や仕事分担を明確にすることで、全員が責任を果たせるような活動になるように心がけた。
- ・代議員や係活動の代表からの意見やメッセージ、事前事後の取組等を学年通信を活用して、学年全体で共有できるようにした。また、学年通信を通じて保護者にも取組の様子等が伝わるようにした。

【結団式の様子】



【解団式の様子（表彰）】



【代議員から】～事前の決意・意気込み～（学年通信掲載）

私は、野外活動という3日間がとても大変で忙しい日々になると思いますが、それ以上に自分、一人一人の成長を感じることでできる3日間にできたらなと思います。そして、野外活動という行事を機会に、新しい仲間との交流を深め、いつも以上にお互いを知り、また、みんなとの協力・団結を通して、前の自分と向き合って新しい自分を見つけることでできる3日間にもしていきたいです。だから私は自分もみんなも、いつか野外活動を思い出した時に”成長したな”と思えるように、自分のできることは自分から進んでやり、困っている人にはアドバイスをし、自分の役割を最後までやりとげます。

取組の成果（効果） 『キーワード プラスの声かけ・前向きな姿勢』

- ・代議員や班長を中心にして、授業等でもよい声かけができるようになった。
- ・普段の学校生活でも、ルールを守ることや仲間と協力することの大切さを意識して生活していると感じられることが多くなった。

【生徒感想文】～野外活動を終えて～

野外活動で学んだ協力を、これからの生活に生かしていきたいと思いました。野外活動が終わったから終わるのでなく、それを生かしていくことが必要だと思います。自分のことだけではなく、周りの人のことも考えられるようになっていこうと思いました。学校生活でも時間を守ることが大切だし、普段の生活でもルールを守っていくことが大切だと思います。自分が次に何をするのかを考えて行動し、友達と協力していくことが大切だと思います。班行動などの時には一緒にやることが必要だと思います。友達とやれば最後まで出来ると思うからです。責任では、自分に与えられた仕事を最後までやることが責任を果たすことになると思うので、あきらめず最後までやってみようという心を持ちとうと思いました。カプラ研修の時には、みんなで一つのものを作ろうと思う気持ちが感じられました。失敗しても「がんばろう」と思ってみんなとやっていけば何でも出来るんだなと思いました。

今後の展開 『キーワード 伝統の継承』

- ・生徒自身が自ら考え、判断し、行動できるような、生徒の主体的な取り組みを推進する。
- ・教職員の共通理解を深め、保護者や地域との連携を図り、ルールの徹底や仲間との協力・団結を普段の学校生活や行事でも活用できるような指導を心がける。

他校へのアドバイス 『キーワード 継続』

- ・野外活動のみの指導に留まらず、普段の学校生活と関連して事前の指導及び、事後の継続指導をすることが生徒指導の充実に有効な手立てであると思います。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立松永高等学校	校長氏名	夜船 正充	生徒指導主事氏名	石田 達生
取組事例名		『平成 27 年度 修学旅行』			
取組のねらい『集団行動と異文化交流』					
平成 27 年度 10 月 14 日より 10 月 17 日までの 4 日間、本校 2 年次生は台湾への修学旅行を実施した。この特別活動を通して、学校外における集団行動と異文化交流に取り組み、社会的マナー及びモラルの定着、並びに自己肯定感・他者尊重の態度の養成を図った。					
取組の具体的内容『姉妹校との学校交流、班別自主研修』					
修学旅行では、2 日目に本校と姉妹校提携を結んでいる新北市立石碇高級中学との学校交流を、3 日目に現地の大学生によるボランティアガイドとともに台北市内をめぐる班別自主研修を設定した。 学校交流では 4 つのグループ（スポーツ交流、現代文化交流、伝統文化交流、伝統遊び交流）に分かれ、それぞれが準備してきた歌・ダンス等を披露・鑑賞したり、けん玉・中国ゴマの技を教えあった。 班別自主研修では、ガイドの力を借りながら事前学習で計画したルートをめぐり、初めて見る文化や歴史に触れる充実した体験活動を行った。					
取組の課題・創意工夫『丁寧な事前学習』					
本取組における工夫の一つは、事前学習に力を注いだことである。多くの生徒がこれまで訪れた経験がない台湾について、出発直前の授業まで丁寧に調べ学習に取り組んだ。インターネットや図書を活用して台湾の文化・歴史・風土について学び、実際に台湾を訪れた時にどのような自主研修を行うかを計画した。また、空港（国際線）の利用や台湾の公共交通機関利用時のルール、集団行動時に一般の方と同席した際のマナーやモラルについても丁寧に指導した。さらに学校交流での出し物についてグループ毎に計画・練習し、お互いに協力して一つの目的を達成しようとする意識を養った。					
取組の成果（効果）『自己肯定感・自律』					
学校交流は 4 つのグループいずれもが事前学習のかいあって非常に充実したものとなった。 文化交流のグループでは J - POP に合わせてダンスを披露し、台湾の生徒たちから大変な好評を得た。日本で普段生活する中では気付けない日本文化の価値について気付くとともに自分たちが他者に認められるという感覚は、自己肯定感を育む大きなきっかけとなった。 班別自主研修では自分の生活圏とは異なる空間において、社会的マナーやモラルを守ることで他者に迷惑をかけることなく、共存していくことの重要性に気付くようになった。学校という比較的狭い空間から社会生活、特に台湾という国際的な都市の中で行動することは生徒にとって重要な機会となった。					
今後の展開『丁寧な振り返り』					
今後は 1 月末に行われる総合学科学習成果発表会に向けて、修学旅行で学んだことを整理し、まとめる学習活動を進めていく。現地での自他の活動や発見を丁寧に振り返ることでさらなる成長へとつなげていく。また、今年度は 12 月に石碇高級中学からの訪問があり、その歓迎準備や歓迎式典で「おもてなし」の心を学ぶ機会も得ることができた。					
他校へのアドバイス『緊張感のある出会いと経験』					
普段の生活では出会うことができない人・モノに触れることが本校の生徒たちの成長に大きな影響を与えた。新しい出会いや経験がよい緊張感を生み、他者への配慮や行動の自己管理といった社会的資質を高めることができた。日常の活動の中でも同じような取組ができれば良いのではないだろうか。					



学校交流の様子 (左上：あやとりを教える松高生と石碇高級中の生徒)
 (右上：友好の証としてメッセージを書いたけん玉)
 (左下：両校の生徒が混合でチームを作り、対戦したバレーボールの試合)
 (右下：学校交流を通して育んだ絆・友情を記念写真に)



班別自主研修の様子 (左：台北市内を事前学習で計画したルートでめぐる自主研修)
 (右：自主研修をサポートしてくれる台湾の学生ボランティアガイドの方に自己紹介)

学校行事

勤劳生産・奉仕の行事

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立可部南小学校	校長氏名	加藤 繁	生徒指導主事氏名	勘場 啓史
-----	------------	------	------	----------	-------

取組事例名 『地域清掃』

取組のねらい 『キーワード 地域貢献』

- ・自分たちが日常利用している公園や校外学習で学習活動の場となる河川敷などの清掃活動を通して、地域社会へ貢献していこうとする態度の育成をめざす。
- ・学年，または異学年との交流による活動を通して，力を合わせて活動する喜びや楽しさを経験する。

取組の具体的内容 『キーワード つながり・協力』

- ・学年ごとに年間 2 回の地域清掃を実施する。（1 年生は 6 年生と一緒に清掃活動を行う）
- ・日頃自分たちが利用している公園や生活科や理科などの学習の中で使う河川敷など，生活や学習との繋がりのある場所の清掃活動を行う。
- ・分別収集を心がけ，どんなゴミが多いか，どんな場所に捨てられているのか，どうすればゴミを減少させることができるのかを考えさせる。

月	学年	場所	月	学年	場所
5	4 年	可部南第 2 公園	11	4 年	可部南第 1 公園・友広神社
6	3 年	根の谷川河川敷	12	2 年	可部南第 2 公園
7	2・5 年	可部南第 1 公園	2	1 年	可部南第 2 公園
9	1・6 年	可部南第 2 公園	2	5 年	可部南第 2 公園
10	3 年	根の谷川河川敷	3	6 年	可部南第 1 公園・友広神社

取組の課題・創意工夫 『キーワード 生活・学習とのつながり』 ○創意工夫 ▲課題

- 1，2 年生については，1 回目の地域清掃を 6，5 年生と一緒に実施することで，清掃の仕方を学ぶことができる。また，異学年交流の場としても活用できる。
- 日常生活と結びついた場所であったり，学習で利用する場所であったりすることで，児童の関心や意欲を高めることができる。
- ▲ 地域の方が日頃から清掃されているため，ごみの量が比較的少ない。
- ▲ 清掃に適した場所が限られているため，どの学年も同じ場所の清掃になっている。

取組の成果（効果） 『キーワード 今後の活動につなげる』

- ・ごみの量の多さやごみの種類を知ること，ポイ捨ての問題点や公共施設を利用する時のマナーについて，学級全体で考え，学習を深めることができた。
- ・多くの児童が清掃活動によって，自分達の住む町のより良い環境づくりに貢献していることを実感することができた。
- ・2 年生と 5 年生，1 年生と 6 年生と一緒に清掃活動をすることで，より親密な関係をつくったり，清掃の仕方や手順を学んだりすることができた。

〈思ったこと・考えたこと〉 6年女子

ペットボトルや缶は、近くに自動販売機のごみ箱があるので、そこに捨てればいいのになあと思いました。かくして捨てるぐらいなら持って帰って捨てる方がいいと思います。ごみ箱を公園に設置すればいいと考えました。ごみ箱を設置すれば、ポイ捨てる人も少しはへると思うからです。それとみんな公園にある注意書きを読んでいないんだと思います。注意書きの看板をもっと見えやすい所に置いたらいいんじゃないかと思いました。



〈思ったこと・考えたこと〉 6年男子

たばこやガラスの破片が思っていたよりもたくさんありました。そして、ぱっと見るとごみはそこまで見つからないけれど、かくれたところにたくさん小さいごみがありました。一番びっくりしたのが、大きいごみも遠慮なく捨ててあることです。いろいろな人が持って帰らなかったり、ごみ箱に捨ててなかったりしていることが分かりました。ポスターなどを作ればいいと思いました。



今後の展開『キーワード 仲間，地域とつながる』

- ・縦割り班を活用して，地域清掃を実施する。
- ・地域の団体や保護者との連携も視野に入れた取組を考える。
- ・清掃場所をもっと増やして，町全体の美化を考えていく。

他校へのアドバイス『キーワード みんながつながる』

児童・生徒の教育や指導に可能な限り地域の教育力を繋げていくこと。地域の教育力を活用することが大切です。ただし、それが児童・生徒や教職員の過度な負担となっては逆効果になってしまうので、バランス感覚を持って行うことが重要です。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立江波小学校	校長氏名	保手濱 和益	生徒指導主事氏名	田村 康雄
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『小中合同地域ボランティア清掃』

取組のねらい 『地域貢献・小中合同』

- ・ 地域のために貢献し、社会の一員としての自己有用感を味わう。
- ・ 中学生と合同で活動することで、中学校進学に向けての希望を持たせる。

取組の具体的内容 『地域清掃』

12月4日（金）1・2校時、江波中学校2年生と6年生（計 152名）、地域の方々や6年生の保護者（約 50名）が一緒になって、江波山公園の清掃を行った。小学生・中学生と地域・保護者が6グループに分かれ作業した。大量の落ち葉と空き缶や空き瓶等の資源ごみで用意していたゴミ袋（701）が200袋を超えた。



取組の課題・創意工夫 『教科との関連づけ』

11月、6年生の国語科「ふるさとの良さをしょうかいしよう」では、改めて江波の良さを確認し、それをリーフレットにまとめ、親戚に手紙を送る学習活動を行った。

調べる段階で、地域の人や祖父母などに取材を行ったりインターネットや本などで確認したりした。江波山気象館やエバヤマザクラなどのそれぞれのグループの発表の際、「ふるさとを大切にしたい」、「江波の歴史を守りたい」などの感想が児童から出てきた。

その感想を広げて、江波山での小中合同の地域ボランティア清掃への取組に繋げた。

取組の成果（効果） 『郷土愛』

中学生が中心となり、江波山の枯れ葉やごみなどの収集を行った。児童は、中学生や地域の方々と交流し清掃を行う中、ごみの多さにびっくりしたり、たくさんの方々により地域が守られていることに気づいたりした。児童の感想には、「自分たちにできることから始めたい」とあった。6年生の道徳の単元「小さい子からもらった幸せ」の導入で、地域ボランティア清掃での活動を振り返り、意欲付けを行った。自分たちの体験活動を導入部分で活用したので、積極的に発表することができ、これまでの自分を振り返り、今後の自分の行動を改めようとする発表や感想があった。



今後の展開『中1ギャップの解消』

11月、6年生はすでに小中部活交流に参加した。部活を教えてくれた中学校2年生は、6年生が中学校に進学した際に3年生の生徒である。2月には、中学校の先生方による授業体験が計画されている。



他校へのアドバイス『系統性』

中学生と小学校6年生の交流は、どの学校でも行われている。他教科との関連性を持たせることを意図することによって、より効果が上がると考える。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立尾長小学校	校長氏名	福馬 亮	生徒指導主事氏名	堤 信之
-----	-----------	------	------	----------	------

取組事例名 『クリーンマイタウン二葉』

取組のねらい 『地域を大切にしようとする心を育む・小・中学校のつながりを強化する』

本取組のねらいは、「地域を大切にしようとする心を育むとともに、小・中学校のつながりを強化し、小学校から中学校への学校生活が、より円滑に移行できること」を目指したものである。
 (平成 27 年度 まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト事業)

取組の具体的内容 『共同清掃作業』

中学校区の小学校 6 年生と中学校 2・3 年生で構成する小グループごとに清掃場所（(例) 地域の公園，集会所，神社，陸橋，区役所，保育園，小学校，中学校，道路など）を割り当て，児童・生徒が協力しながら保護者や地域の方々と一緒に清掃活動を行う。



打ち合わせをしている様子



作業の様子



作業の様子

取組の課題・創意工夫 『自主性』

自分達が日々生活している地域の清掃活動をすることで，地域を大切にしたいという思いを持てるような活動にしていかなければならない。また，保護者や地域の方と一緒に活動することで，自分達が地域の方々に支えられて日々生活していることに気づかせたい。保護者や地域の方から声をかけられることで，「つながり」を形成していくようにする。小学生は中学生に比べ，活動への当事者意識が低い。当事者意識をもたせるための事前指導の充実（内容、時間確保）が課題である。

取組の成果（効果） 『つながりの形成』

清掃活動をしていく中で，中学生が小学生に教える場面が見られる。「つながり」ができることで，安心して地元の中学校に進学することができる。また，地域の保護者の方からの評価によって，子どもの自尊感情が高まり，様々な活動に積極的に取り組もうという意欲につながる。共に活動することで，「安心感」と「つながり」が生まれてきている。

今後の展開『共通理解』

中学校区の学校，地域，保護者で活動をするために，事前に綿密な打ち合わせを行う必要がある。確かな共通理解の上で活動を行えば，より効果的な活動ができると考えられる。また，子どもたちへの事前指導を具体的，丁寧に行えば，活動の意義や意図を理解した上でより積極的な活動ができると考えられる。

他校へのアドバイス『連携は人』

「連携は人」である。担当者との「つながり」（関係づくり）が，組織連携の効果を左右する。担当者との「つながり」を築くためには，何度も足を運ぶことが大切である。繰り返し，繰り返し足を運ぶことで，少しずつ関係ができてくる。何度も顔を合わせ，語り合うことで，学校の思いや考えを少しずつ理解してもらえるようになる。同時にこちらも関係機関の思いや考えを理解する努力をすることが大切である。一方的に依頼するのは，連携ではない。組織相互の思いを理解し，共有し，尊重することが真の連携につながっていくと考えている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立阿品台西小学校	校長氏名	市川 洋	生徒指導主事氏名	上田 肇
-----	--------------	------	------	----------	------

取組事例名	『阿品台クリーン活動』
-------	-------------

取組のねらい『キーワード 人間関係作りと自己有用感』

- ・数年後の中学校生活を踏まえ、他校種の児童生徒との人間関係づくりを図る。
- ・奉仕の心や自己有用感を育てる。
- ・自分たちが生活している地域に愛着を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード 地域に愛着を』

事前指導

- ・小学生は地域清掃のねらいと活動について知り、どのような気持ちで臨むかを考え、活動の準備をする。小学生の代表はあいさつの内容を考える。
- ・中学生は開会式・閉会式の進行、グループ活動の進行の仕方を学び、小学生とどのように活動していくかを考える。

クリーン活動

- ・小学校に集合し同じグループで顔合わせをする。簡単なオリエンテーションをしてお互いの顔と名前を覚える。
- ・それぞれの掃除場所へ移動して、中学生のリーダーシップのもとに清掃活動をする。

事後指導

- ・3つのねらいをもとに活動の振り返りをして、お互いの感想文や手紙などで交流する。

取組の課題・創意工夫『キーワード 中学生が主体となって』

創意工夫

- ・会の運営は中学生が主体的に行う。開・閉会式の司会進行は中学生がする。グループ活動では、中学生のリーダー、副リーダーがグループをまとめ、オリエンテーションをしたり清掃活動の指示をしたりする。オリエンテーションでは、どのように自己紹介するとお互いのことが分かり合えるかを考えた。清掃も中学生と小学生がペアになったり、グループを作ったりと工夫した。
- ・クリーン活動は1学期に1回、2学期に1回あるが、最初は中学2年生と小学6年生が行い、2回目は中学1年生と小学5年生が行う。このペアは来年、再来年に中学1年生と3年生として同じ中学で生活することになる。



取組の課題

- ・3校の学校が集まる機会を年に何度も設定するのが難しい。1回の活動も阿品台西小学校が少し離れているため、移動時間がかかりかかるため活動時間を1時間くらいしか取ることができない。

取組の成果（効果）『キーワード 自己有用感』

・中学生が出身小学校に来て、後輩に掃除を教えたりリーダーシップを発揮することで、自分の成長を感じ、自己有用感を高めている。活動後に後輩からありがとうのメッセージや手紙を受け取り、さらに自己有用感を高め、自信をつけている。

・小学生と一緒に活動する中で、入学後の部活勧誘の話をする中学生もいる。誘われた小学生も中学校での知り合いが一人増えて、入学後の安心感にもつながっている。小学生からも中学校の疑問なども聞くことができている。



今後の展開『キーワード 活動の広がり』

・中学生が主体となって、小学生と一緒にできる活動を工夫して、さらに広げていきたいと考えている。今年度は、9月に中学3年生が出身小学校に出向き、掃除を一緒にして掃除の仕方を教えてくれる出前掃除を実施した。オープンスクールでは、小学6年生に中学生が部活の体験をさせてくれている。2月の入学説明会では生徒会が中学校生活について話をしてくれる予定になっている。以前は授業の交流も実施したことがある。

他校へのアドバイス『キーワード 定例の活動にする』

・今年度行った活動は阿品台3校が不登校対策指定校になってからずっと続けられている。10年間の積み重ねは大きく、毎年必ず行う行事として定着している。児童・生徒も行うことが当然と思っている。ここ数年は地域の方や保護者も参加し、活動の幅が広がっている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷小学校	校長氏名	西田 千加子	生徒指導主事氏名	溝上 孝弘
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『本郷小クリーン大作戦』

取組のねらい 『キーワード 自己肯定感を高める』

- 家庭や地域と一体になった体験活動を行う中で、児童の自己有用感を高め、社会参加の意欲や態度など豊かな心を育てることにより、生徒指導上の諸問題の未然防止を図る。
- 縦割り班による異学年集団で活動することにより、役割を明確にし、自己効力感を高めていく。

取組の具体的内容 『キーワード 役割の明確化と達成感』

事前

- 児童会による行動提起（代表委員会）
- 道徳の時間での全校同時期・同価値項目の授業（勤労 奉仕）で価値の温めを図る。
- 6年生の事前準備（リーダーとしての役割 当日の役割分担 動きの確認）
- 縦割り班による打ち合わせの会（6年生が全員にねらいと役割、方法を説明）

当日

- 開会式
- 縦割り班ごとの清掃（保護者 地域の方と共に）
- 各班ごとの振り返り

事後

- 異学年間のがんばりを評価するカード交換
- 地域の声を掲示、生徒指導だよりで紹介する。



J R 本郷駅ではじめの式

取組の課題・創意工夫 『キーワード 役割取得』

- 事前に全学級で「勤労 奉仕」の価値項目で道徳の授業を行った。その際、展開後段で間近にせまったクリーン大作戦に対しての思いを書き、交流する中で「実践意欲」を確かめあうことができた。
- 昨年度まで清掃区域は学年ごとで行っていたが、リーダーを中心にした役割意識を明確にしていくために縦割り班活動で行った。
- 当日も地域・保護者の方の協力を依頼し、温かい声掛けやアドバイスをいただけるようにした。

取組の成果（効果） 『キーワード 自己有用感』

- 道徳の時間に温めた思いを「生徒指導だより」で家庭・地域に発信し、児童のクリーン大作戦に対する意気込みを事前に家庭・地域に伝えることが出来た。(①)
- 6年生の事前準備を綿密に行うことで、リーダーとして動ききろうという意識を高めていくことができた。その結果、当日も積極的な声掛けや率先して働こうとする姿を多く見ることができた。また、縦割り班にしたことで、特に低学年に対する優しい声掛けやアドバイスが多くあり、低学年にとってもモデルとなる姿を見ることができた。(②)
- 地域の方、地域の施設（JR職員）の方の励ましの声や、清掃後の感謝の言葉をいただくことで地域に貢献できた喜びを実感することが出来た。(③)
- 事後、縦割り班ごとに振り返りを行い、お互いのがんばりを認め合うことができた。また、異学年同士でがんばったところをカードで交換し自己有用感を高めていくことができた。(④)

生徒指導だより 心つないで 10月30日 本校小クリーン大作戦

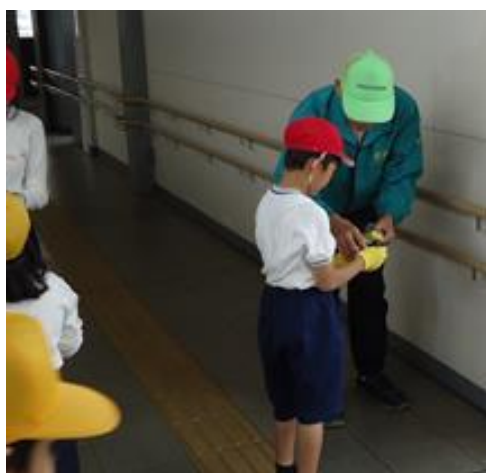
日時 10月30日 13:30-14:45
場所 本校校舎2階
会場 本校校舎 (1) 1号教室、事務室、学校裏の庭、学校事務室

10月30日、本校小クリーン大作戦を行いました。本校児童会が中心となり、全校児童が参加して「心つないで」の活動を行いました。当日は、全校児童が清掃活動を行いました。清掃活動を通じて、学校をきれいに保つていく大切さを学びました。また、清掃活動を通じて、地域の方々と交流しました。清掃活動を通じて、地域の方々と交流しました。清掃活動を通じて、地域の方々と交流しました。

①生徒指導だよりで家庭・地域へ発信



②6年生から低学年へのアドバイス



③地域・保護者の方の温かい声掛け

本校小クリーン大作戦！ 作戦カード

(2)班 班長 ()

掃除場所 本郷駅 ミ、3売り場

めあて 責任をもってがんばる！

準備するもの ほうずり(2本) モップ(1本) コミぶくろ、ほうき、タオル(5人)、ゴミ箱、黒手袋、特、くるみ

学年	名前	役割	学年	名前	役割
4年	くくん	ほうずり	4年	くくん	ほうずり
4年	あさん	ほうずり	4年	あさん	「たわし」
1年	あさん	ほうずり	5年	あさん	「たわし」
2年	あさん	たわし	5年	あさん	ほうずり
2年	あさん	ほうずり	6年	あさん	ほうずり
2年	あさん	たわし	6年	あさん	ほうずり
3年	あさん	ほうずり			
3年	あさん	ほうずり			
3年	あさん	ほうずり			

振り返り 班のみんな、自分の役割に責任をもててきたのでよかったです！みんな仲良く協力してできました！！

④6年生が計画し、振り返りをする。

今後の展開『キーワード 学んだ価値を温める』

- 事後、6年生の道徳の時間で本郷小学校の伝統について話し合っていく中、縦割り班で行う「クリーン大作戦」を伝統としてこれからも続けてほしいという声が多く出た。この声を直接5年生に伝えていく。
- 学校掲示、生徒指導だより等で児童の声、地域の声を伝え、学んだ価値を温めていく。
- 児童会の動きを継続して支えていく。

他校へのアドバイス『キーワード 複数体制』

- 児童会を中心として、児童が主体的に動ける支援が重要になる。複数体制で、6年担任と細かく連携をとりながら、時間を確保し進めていく。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立落合中学校	校長氏名	原之園 和弘	生徒指導主事氏名	渡邊 陽一
-----	-----------	------	--------	----------	-------

取組事例名 『スーパーキラキラ大作戦』

取組のねらい『自己有用感の向上』

- ・ 小中学生と一緒に活動し、ふれあいと心の交流を深める。
- ・ 中学生が小学生をリードすることで、生徒の自己有用感を高める。

取組の具体的内容『異年齢集団でコミュニケーション能力を育成』

- ・ 中学校 3 年生と学区の 2 つの小学校の 3・4 年生が 5 名前後でグループを組み、地域を掃除する。
- ・ 中学生がそれぞれのグループのリーダーとなり、事前に地図を見ながら清掃のルートを考えてるとともに、小学生と一緒に行動するにあたってのコミュニケーションスキル（あいさつ・身なり・言葉・態度）を学ぶ。
- ・ 当日は、グループごとにゴミ袋と火ばさみ等を持ち、一時間程度地域を回ってゴミを拾う。
- ・ ゴミを拾った後に、各小学校に戻り、ゴミを分別する。



- ・ 事後に振り返りをそれぞれ行うとともに、お互いに手紙を書いて交換する。
- ※ この取組は、9 年前に学区の小学校が地域清掃をする際に、中学生にも協力してほしいという願いを受け、スタートした。現在まで継続して取り組んでいる行事である。

取組の課題・創意工夫 『事前・事後の指導』

- ・ 事前に小学生の代表数名が中学校を訪ね、中学生に協力を依頼する。中学生にとっては「頼りにされている」という気持ちを持って行事に取り組んでいる。
- ・ 事後に振り返りをさせるとともに、お互いに手紙を書いて交流を深めた。
- ・ 9 年間継続した取組であり、一つの伝統的な行事となっているが、形骸化が見られる。

取組の成果（効果）『地域を知る 行事の継承』

- ・ 課題のある生徒も小学生との会話を楽しみ、手を繋いで歩くなど、非常によい表情で小学生とともに活動することができた。
- ・ 小学生に頼られることで中学生が自己有用感を高めることができた。
- ・ 小学生の時に「スーパーキラキラ大作戦」を経験した生徒は、立場が変わって、中学生として参加することで、責任等を再確認できた。
- ・ 地域を一緒にまわることで地域の様子を知ることができた。
- ・ 小学生にとって「頼れるお兄さん、お姉さん」といった理想の『中学生（上級生）像』を描くことができた。
- ・ 異年齢の集団との関わり方、コミュニケーションのスキルを身につけることができた。

【生徒の感想より】

- ・ 4年生とは、自分が小6の時に遊ぶなどして仲がよかったから、みんな知っていたし、覚えてくれていたのでうれしかったです。
- ・ 小学生が勝手に行動したり、言うことを聞いてくれなかったり、ちょっと大変だった。でも小学生と仲良くなれて良かった。
- ・ 自分もこんなだったのかなと思うこともあった。小学生の元気にふりまわされたりもしたけど、良い経験になったし、楽しかった。

【この行事でわかったこと・成長できたこと（生徒アンケートより）】

- ・ 小さな子への接し方が分かった
- ・ 相手に合わせることの大切さに気付いた
- ・ あいづちの大切に気付いた
- ・ ちゃんと向き合えば応えてくれることに気付いた

今 後 の 展 開『地域行事との連動』

- ・ 12月にふれあい活動推進協議会主催で地域清掃を行っている。中学生は部活単位でボランティアとして参加しているが、この「スーパーキラキラ大作戦」での交流をきっかけに小学生も誘いながら参加できるような状況となれば理想的である。

他校へのアドバイス『他の行事との連動』

- ・ 自己有用感の低い生徒が多いため、小中連携の中で、中学生としての誇りを持たせることを特に意識した。
- ・ 小中連携が単発の行事で終わらないように、夏休みに小学校の補習の手伝いをする「サマースタディサポート」や合唱祭前に小学校に合唱を披露する「出前合唱」など一連の行事として取組を進めた。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校特別活動の取組事例」

学校名	広島市立江波中学校	校長氏名	大本 司	生徒指導主事氏名	望月 慶輔
-----	-----------	------	------	----------	-------

取組事例名 『小中合同地域清掃』

取組のねらい『キーワード：地域の中学生として』

- ・ 地域のために貢献し、社会の一員としての自己有用感を味わう。
- ・ 小学生と合同で活動することで、協調性やリーダーシップを育てる。

取組の具体的内容『キーワード：地域と共に』

- ・ 地域の方、保護者、小学生と共に、自分の出身の地区の公園、道路などを清掃する。



- ・ 最初の対面式、最後の反省会などの司会、進行を中学生が行う。



- ・ 事後の取組として、小学校へのメッセージカードを作成する。



取組の創意工夫『キーワード：みんなを巻き込んで』

- ・ 小学生だけでなく、地域の方、保護者の方と事前に連携し、各公園での清掃活動に参加してもらう。

取組の成果（効果）『キーワード：つながり』

- ・ 小学生には、中学生の様子を知ってもらうことで、安心して入学してもらえる。
- ・ 中学生には、先輩としての自覚ある行動、リーダーシップを発揮する場となり、自己有用感を高める機会となる。
- ・ 地域の方に、中学生の姿をみてもらうことで、地域でも声をかけやすくなる。
- ・ 保護者の方に、中学生と一緒に掃除をしてもらい、会話のきっかけにしてもらう。

<中学生から小学生へのメッセージ>

「地域清掃と一緒にできてとても良かったです。6年生のみなさんと交流できました。」

「葉っぱもたくさんあったのに、掃除しているうちにきれいになりました。」

「本当にありがとうございました。」

「寒い中、お疲れ様でした。小6のみなさんが手伝ってくれたので、すごく公園がきれいになりました。みんな協力してできたので、とても楽しかったです。一緒に掃除してくれて、ありがとうございました。来年、入学してくるのを、楽しみにしています。」

「今日はお疲れ様でした。今日の交流で、みんなが協力してくれたので、とても早く掃除が終わりました。みんなで協力して掃除をすることで、6年生のみんなのことを知ることができてよかったです。掃除は大切なことなので、これからも続けてくださいね。」

今後の展開『キーワード：さらにつながる』

- ・ 小学校へのメッセージカードを作成することで、さらに小学生に安心感、有用感をもってもらいたい。
- ・ 地域、保護者が中学生を見かけたときに、声をかけるきっかけづくりと捉え、今後も地域の行事等への積極的な参加を仕組む。（例：地域での祭りのボランティア参加等）

他校へのアドバイス『キーワード：段取り』

- ・ 小学校との連携はもちろん、各地区の町内会との打ち合わせ、PTA、保護者との打ち合わせ、必要物品の準備、ゴミの処理の連携など、非常に多くの段取りが必要となるが、その過程も含めて、地域との連携を深めることにつながっている。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中町立府中緑ヶ丘中学校	校長氏名	坂元 弘	生徒指導主事氏名	河本 春彦
-----	--------------	------	------	----------	-------

取組事例名	『府中町生徒指導推進事業に於けるクリーンキャンペーン』
取組のねらい 『キーワード ボランティア活動』	<ul style="list-style-type: none"> ・府中町内の小、中学校及び高等学校、家庭、地域、関係機関及び教職員が一体となった体験活動を行う中で、児童生徒の自尊感情を高め、社会参加の意欲や態度などの豊かな心の育成を図る。
取組の具体的内容 『キーワード 生徒主体の活動』	<ul style="list-style-type: none"> ・府中町内全小中学校、安芸府中高等学校、保護者、地域の方、関係機関の方と一緒に町内の清掃活動に取り組む。 ・清掃活動においては、府中中学区と府中緑ヶ丘学区に分かれ町内一斉清掃を実施する。 ・基本的には、部活動単位で呼びかけをし、ボランティア参加を募る。 ・基本的な取組内容をもとに、児童、生徒の執行部（生徒会）を中心に小中連携を実施、児童、生徒会議を持たせて取組を進める。実際に清掃活動の場所の決定、確認や地図の作成と説明、準備するものなどを児童、生徒の会議を通して進めていく。
取組の課題・創意工夫 『キーワード 共感的な人間関係』	<ul style="list-style-type: none"> ・この取組は町内一斉清掃におけるボランティア活動であるが、今後児童、生徒が主催する異年齢交流活動などの取組を通して、上級生が下級生のことを思いやり、下級生が上級生を尊重しながら行事や活動などを性別や学年などの違いを超えて、互いに協力できるような取組を工夫していく。
取組の成果（効果） 『キーワード 小中連携』	<ul style="list-style-type: none"> ・府中町生徒指導推進事業の活動計画において、ボランティア活動（町内一斉清掃）を児童、生徒を中心に組みこむことで、児童生徒の自尊感情を高めることができた。また地域を巻き込むことで地域との関わりを持つきっかけもでき、いろいろな意味で府中町内の学校を町ぐるみで捉えてもらえる事になったと思える。
今後の展開 『キーワード 生徒指導三機能を生かした取組』	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の特別活動での取組において、一人一人の自発的な思いや願いを大切にすることや互いの協力や助け合い互いの良さを認め合うこと、また、自己の生活改善や進路などに関し、自己実現の喜びを味わわせるなど「自己存在感」や「共感的人間関係」、「自己決定」を本質においた取組にしていく。
他校へのアドバイス 『キーワード 児童・生徒の実態の把握』	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の児童、生徒の実態をあらためて把握することにより、生徒指導の三機能を生かした取組を特別活動にどう生かして行くかを校内で検討し、児童、生徒の自発的な活動をどう仕組ませるのが重要なポイントになると思われる。学校の行事等が児童、生徒の主体的なものになるよう取組を実践していくことが大切である。

平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	安芸高田市立吉田中学校	校長氏名	友繁 孝実	生徒指導主事氏名	三宅 伸之
-----	-------------	------	-------	----------	-------

取組事例名	『レッツ・クリーン吉田』
取組のねらい	『小中連携』
<p>生徒会活動の一貫として、児童と生徒が地域の清掃活動を通じて、仲間づくりの意識を高め、小中のつながりをさらに深める。</p>	
取組の具体的内容	『ボランティア清掃活動』
<p>8月6日（木）の6時30分に3つの小学校にそれぞれの出身小学校の生徒・児童が自主的に集って、清掃活動を行った。生徒会のメンバーが、リーダーシップを取ってメンバー決めやコース設定をして、地域清掃を行う社会奉仕活動である。</p>	
取組の課題・創意工夫	『同一日三小学校同時開催』
<p>昨年までは3つの小学校の開催を別日で実施してきたが、本年度は各小学校出身の生徒会メンバーがそれぞれ自覚を持って、この活動を主体的に運営した。また、生徒・児童みんなが心を一つにして同じ地域をきれいにするために、同一日同時開催で実施とした。生徒会メンバーの人数が限られているため、運営が自分たちだけでできるか心配されたが、少人数でもお互いに協力し合って運営を行い、地域社会への奉仕活動をアピールすることができた。</p>	
取組の成果（効果）	『集団づくりのきっかけ』
<p>同じ出身小学校の生徒たちが地域を清掃することで、集団づくりのきっかけができたことが大きな成果だった。3年生は、主体的に2年生や1年生の動きを常に見て、指示を出したり行動したりと、学校の最上級生として自覚を深めて、責任を果たすべく行動するようになった。さらに、この上級生が下級生にモデルとして手本を示す動きが広がって、2大行事である体育祭や文化祭においても運営をスムーズに進める原動力になった。</p>	
今後の展開	『3小学校との合同挨拶運動』
<p>3小学校のうち吉田小学校とはともに、生徒指導集中対策指定校であることから、この清掃活動に加えて、児童会・生徒会主体の挨拶運動をこれまでに実施してきた。この取組は、中学校だけの活動ではなくて、小学校との小中連携の活動の大きな柱の1つとなっている。今後は、可愛小学校や郷野小学校にも活動を広げて挨拶運動を年間で複数回実施していく予定である。</p>	
他校へのアドバイス	『ピア・サポート効果』
<p>生徒は、清掃や挨拶という同じ目的の活動を年下の児童と一緒にすることで、年上としての自覚に目覚める。これらの取組は、児童・生徒同士の相談相手や相談相手まではいかなくても支えたり、励ましたりする仲間（ピア・サポーター）を児童・生徒の中で作る効果がある。</p>	

取組事例名	『生徒指導オリエンテーション』
取組のねらい 『 規則の意識統一 』	
<p>吉田中学校では、毎年年度はじめに学校行事として生徒指導オリエンテーションを行っている。これは4月に全生徒がそろった日の1時間目に学校生活で最低限必要な規則の確認を生徒と職員でともに行い、意識統一をして清新な気持ちでスタートすることを目的としている。</p>	
取組の具体的内容 『 学校生活の規則の徹底 』	
<p>生徒指導主事をはじめとする生徒指導部の職員が、生徒指導方針に沿って、生徒指導規程を生徒と職員全員に配布して、学校生活で最低限必要な規則の確認をする。</p>	
取組の課題・創意工夫 『 ポイントの絞り込み 』	
<p>学校生活で最低限必要な規則と一言で言っても、かなりの内容の話をしなければならないので、各担当者が持ち時間内で重要なポイントに絞り込んで話をする。</p>	
<p>さらに、基本的な集団行動のパターン、日常生活の規則や学習規律など、それぞれの担当者が視覚教材を活用したり、パフォーマンスを交えて、工夫を凝らして説明を行っていく。</p>	
取組の成果（効果） 『 緊張感のあるスタート 』	
<p>全校集会において生徒指導オリエンテーションは行うので、1年生は2、3年生の緊張感のある姿から引き締まったスタートが切れる。上級生の2、3年生も、以前に同じ話を聞いていても、毎年この時間に学校の規則を再認識することで、緊張感を持って一年のはじめを迎える。</p>	
今後の展開 『 生徒の主体的な力 』	
<p>これまで生徒指導オリエンテーションにおいては、職員の話による取組が大きな割合を占めていた現状がある。これからは、生徒会執行部の生徒を正しい服装のモデルとしたDVDを作成して活用したり、あるいは生徒会執行部のメンバーによるアピール活動を取り入れるなど、生徒に主体的に取り組ませる内容を仕組んでいく。</p>	
他校へのアドバイス 『 轍は熱い内に打て！ 』	
<p>本校の特徴として、一番良いタイミングで生徒に指導を入れることがある。生徒指導オリエンテーションもその指導の1つである。4月にスタートを切って2日目の1時間目は、まさに生徒に指導を入れる最高のタイミングである。</p>	

平成27年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立本郷中学校	校長氏名	原 克幸	生徒指導主事氏名	片山 新
取組事例名 『本郷中校区クリーン活動』					
取組のねらい 『キーワード 地域に出る』					
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が住んでいる地域の人に気持ちのよい挨拶をし、ゴミ拾いや掃除をすることで、地域の一員であることを再確認する。 ・ゴミ拾いや掃除をすることで、環境を守ろうとする気持ちや、「できることをしよう」というボランティアの気持ちへの理解を深める。 					
取組の具体的内容 『キーワード 小グループで生徒主体』					
<ul style="list-style-type: none"> ・本郷中学校校区，各地域の公園等の施設に拠点を置き，公園等の施設およびその周辺を清掃する。 ・生徒の住所をもとに全校生徒を12の縦割り班にし，リーダーと担当教員を決める。 ・リーダー会を行い，それぞれの班の中で小グループをリーダーが決め，清掃ルートを決めた。 ・前日に各地域で事前ミーティングをし，清掃グループのメンバー・清掃ルートの確認を行った。 ・当日はリーダーの司会で運営を行い，その場で出来るだけ分別をした。 ・ゴミは教員が学校に持ち帰った。 					
取組の課題・創意工夫 『キーワード 早期計画早期提案』					
<ul style="list-style-type: none"> ・計画を早くから立てて教職員への周知を早くすればよかった。 ・掃除道具(ひばさみ)を生徒全員分用意した。(購入と他校からの借用で) ・班の中で小グループや清掃ルートをリーダーに決めさせた。 					
取組の成果(効果) 『キーワード 一人一本で積極的』					
<ul style="list-style-type: none"> ・一人一本ひばさみを持って清掃したことで，積極的にゴミを拾うことができた。 ・地域貢献の意識が高まった。 ・地域の方とコミュニケーションがとれた所もあった。 ・地域の方から，お礼のことばを頂いた場所もあった。 					
今後の展開 『キーワード 保護者を巻き込む』					
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はまだ1回しかできていないので，活動回数を増やす。 ・参観日等の行事と合わせて，保護者と一緒に活動ができるように計画をする。 					
他校へのアドバイス 『キーワード 外へアピール』					
<ul style="list-style-type: none"> ・校外で生徒が頑張っている様子を見てもらうことで，地域の方からの信頼を得る。 					

三年男子

今回のクリーン活動は、多くの場所でゴミがたくさんあり、寒い中とても大変でした。

しかし、ゴミの少ない所もあり、地域の人にきれいに使ってもらっているなあと感じ、そして自分たちもきれいに使って大切にしていけないと思いました。

また、落ち葉が多い所もあり、ひばさみの他に竹ぼうきなども必要だったかなあと思ったので、次にこのような機会がある場合は、新しい生徒会で準備等を考えてほしいと思いました。



三年女子

私は、今回クリーン活動でサブリーダーを務めさせていただきました。最初は、ちゃんと務めることができるだろうかと思ったけれど、みんながすぐに指示を聞いてくれたので、スムーズに楽しく行うことができました。

また、私が担当した地区はゴミが少なかったもので、ゴミをポイ捨てる人が少ないことがわかったので、うれしかったです。この調子でどんどん本郷のゴミを減らしていけたらなあと思いました。



三年男子

今年から初めてこのクリーン活動を始めましたが、僕たちの地域はたくさんゴミがあっぴびっくりしました。特に、公園などではなく、車がよく通る道路沿いにたくさん落ちていました。だから来年は、道路沿いを中心にそうじをした方がいいなあと思いました。

今回の活動で、地域の人たちも話しかけてくれて地域の人たちとの関わりも深くなったと思いました。また、道路沿いで僕たちがそうじをすることで、車に乗っている人もたばこなどを捨てなくなるのではないかと思います。今回、活動をしてよかったです。



平成 27 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山商業高等学校	校長氏名	中原 朗	生徒指導主事氏名	高橋 利宜
-----	--------------	------	------	----------	-------

取組事例名 『校外清掃』

取組のねらい 『地域貢献』

LHR を利用し、学年単位で学校周辺の清掃活動を行うことで地域貢献をするとともに、挨拶等をとおして地域との交流を図る。

取組の具体的内容 『全員参加』

- ・ 地域の方々の学校に対する思いや、寄せられた苦情等について SHR 等で紹介し、福山商業生が地域からどのように捉えられているのかを理解させ、自らの取るべき行動について考えさせる。
- ・ 学校周辺をいくつかの区画に分け、クラスごとに清掃する。
- ・ 実施直前に、学年主任が校外清掃の趣旨等について再度説明を行う。
- ・ 担任と副担任が引率し、清掃に真剣に取り組ませる。

取組の課題・創意工夫 『交流』

- ・ 清掃とともに、挨拶を積極的に行うことで地域との交流を深める。
- ・ 生徒との対話をとおして、教師と生徒の人的ふれあいを深める。
- ・ 各学年が各学期 1 回ずつ、年間計 3 回実施する。
- ・ クラスごとで行うため、担任と副担任による引率では目が行き届かない部分がある。
- ・ 地域や家庭へ積極的にアピールし、保護者や地域と協力して清掃活動を行うなど、活動の幅をさらに充実させる必要がある。

取組の成果（効果） 『地域目』

- ・ 地域住民の方との交流を深めることができ、さらに地域における学校への評価をダイレクトに知ることができる。
- ・ 学校周辺での登下校マナーが改善し、ゴミの散らかしや喫煙等に関する苦情が大幅に減少している。数年前は毎日のように苦情が寄せられていたが、今年度は月 1 件程度で推移している。
- ・ 清掃に取り組む生徒が増加し、机上や個人ロッカーなどでの散らかしやジュースの空き缶等のポイ捨てなどが減少し、教室環境が整うなど、校内環境に改善が見られる。
- ・ 校外の環境美化への貢献をとおして、校内の環境美化に積極的に取り組む生徒も増加している。各学期末の終業式では、半数以上のクラスが清掃活動に 80% 以上参加したことで表彰されている。



- ・ PTA 主催の校内清掃に部活動の生徒を中心に約 30 名が参加した。



今後の展開 『 ボランティア活動 』

- ・生徒の有志を募り、定期的にボランティア清掃を行う。
- ・PTA や地域の方々との連携を深め、清掃活動を行う。
- ・地域の行事等に参加し、清掃等のボランティア活動を行う。

他校へのアドバイス 『 率先垂範 』

- ・教師が常日頃から教室環境整備等に率先垂範して取り組むことで、生徒の行動変容を促し、校外清掃に真剣に取り組む生徒も増加している。